

乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群

大野城市文化財調査報告書 第188集

2021

大野城市教育委員会

乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群

大野城市文化財調査報告書 第188集

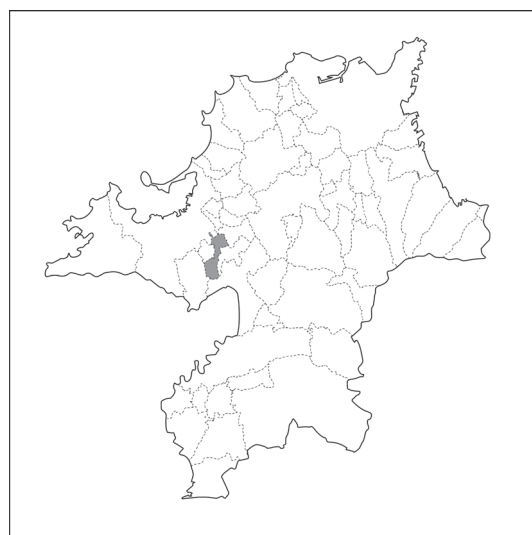
大野城市教育委員会



おとがなかまあと ひがしうらかまあとぐん おおたにかまあとぐん

乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群

大野城市文化財調査報告書 第188集



2021

大野城市教育委員会

序

福岡県大野城市は福岡平野南部に位置し、西暦 665 年に築かれた日本最古の朝鮮式山城「大野城跡」にその名を由来する、古い歴史と豊かな自然に恵まれた街です。市域は南北に長い形をしており、大野城跡・水城跡・牛頸須恵器窯跡の国指定史跡をはじめ、多くの歴史遺産があります。

本書で報告する「乙金窯跡」・「東浦窯跡群」・「大谷窯跡群」は、昭和 43（1968）年から昭和 44（1969）年にかけて、国士舘大学・大川清教授により発掘調査が行われたものです。本市における最初期の発掘調査という意味でも大変意義深いものがあります。これらの資料については、大野町が発行した「大野町の文化財 1」および「大野町の文化財 2」でその概要が報告されていましたが、正式な報告書は未刊行のままでした。この度、関係各位のご助力により報告書が刊行された次第です。3つの窯跡群の整理作業を通じて、様々な知見を得ることができましたが、中でも大谷窯跡群では国内最初期の瓦や硯を生産していたことが明らかになり、牛頸窯跡群の特質を語る上で非常に重要な資料となります。

遺跡は土地に刻まれた歴史であり、我々に多くのことを教えてくれます。こうした遺跡を記録し、報告書というかたちで広く一般に公開するとともに、後世へと伝えていけるよう努めています。本書が文化財の理解と認識を深める一助となるとともに、学術研究や教育の面で広く活用していただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査ならびに報告書作成にあたり多大なるご理解、ご協力いただきました関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

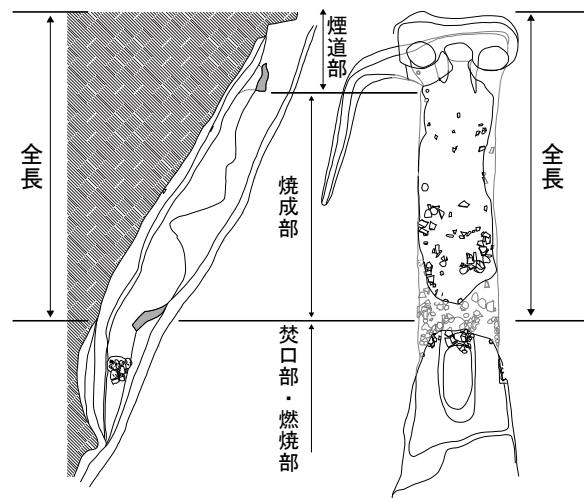
令和 3 年 3 月 31 日

大野城市教育委員会
教育長 吉富 修

例 言

1. 本書は、宅地開発に伴い国土館大学（代表：大川清教授）が発掘調査を実施した「乙金窯跡」・「東浦窯跡群」・「大谷窯跡群」の報告書である。
2. 整理作業・報告書作成は、大野城市教育委員会が実施した。
3. 遺構写真は、国土館大学調査参加者が担当した。
4. 遺構実測は、国土館大学調査参加者が実施した。なお、地形測量図のコンタは1 m間隔で、絶対高が不明であるため相対的な比高差で示す。
5. 遺構実測図中の方位は磁北である。
6. 遺物実測・拓本・製図、遺構図の製図は(株)島田組に委託し、遺物実測の一部は上田龍児が実施した。なお、実測図・製図の点検は澤田康夫・上田が行った。
7. 遺物写真撮影は、牛嶋茂（写測エンジニアリング(株)）が担当した。
8. 遺物観察表は、(株)島田組が作成し、上田が点検した。
9. 本書に掲載した遺跡分布図は、大野城市が発行した『牛頸窯跡群—総括報告書Ⅰ—』を一部改変（原図は国土地理院発行の1／50,000地形図『福岡南部』・『太宰府』）して使用した。
10. 遺物の名称のうち、須恵器蓋杯については平城京分類による呼称を用いる。
11. 窯跡の各部位の名称や法量は、凡例のとおりである。
12. 本書に掲載した資料は、すべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
13. 本書に使用する遺物の土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省技術会議事務局監修を使用している。
14. 本書の執筆は、Ⅰ章・Ⅱ章・Ⅵ章1・2・3を上田が担当し、Ⅲ章・Ⅳ章・Ⅴ章・Ⅵ章4を園井正隆（(株)島田組）が執筆したものを上田が点検、加筆・修正した。編集は上田監修のもと、(株)島田組が行った。

15. 報告書作成に関しては、次の方々のご協力を得た。（敬省略・五十音順）
牛嶋茂・小川泰樹・小田和利
小田富士雄・小田裕樹・亀田修一
白井克也・松尾奈緒子・森隆
森井千賀子・吉田佳広



【凡例】窯跡の各部位の名称と法量

※被熱の範囲などが不明であるため、床面の傾斜変換点から煙道部上端までを全長と表現する。

本文目次

I. はじめに	
1. 報告書刊行に至る経緯	1
2. 発掘調査の期間と契機	1
3. 調査体制	2
II. 位置と環境	
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	3
III. 乙金窯跡	
1. 調査の概要	9
2. 1号窯跡	13
3. 2号窯跡	17
4. 出土地点不明遺物	24
IV. 東浦窯跡群	
1. 調査の概要	25
2. 1号窯跡	25
3. 2号窯跡	36
4. 3号窯跡	42
5. 出土地点不明遺物	47
V. 大谷窯跡群	
1. 調査の概要	49
2. 1号窯跡	51
3. 2号窯跡	71
4. 3号窯跡	98
5. 4号窯跡	104
6. トレンチ、その他の出土遺物	111
VI. 総括	
1. 各窯跡の構造と操業時期	131
2. 大谷窯跡群出土の獣脚硯	133
3. 牛頸窯跡群の朝鮮半島系資料について	137
4. ヘラ記号について	143

插图目次

第1图	遺跡分布図(1 / 62,500)	5 ~ 6
第2图	乙金窯跡調査地点位置図(1 / 7,500)	9
第3图	乙金窯跡遺構配置図(1 / 400)	10
第4图	乙金窯跡1号窯跡実測図(1 / 60)	11 ~ 12
第5图	1号窯跡出土遺物実測図①(1 / 3)	14
第6图	1号窯跡出土遺物実測図②(1 / 3)	15
第7图	1号窯跡出土遺物実測図③(1 / 3)	16
第8图	2号窯跡出土遺物実測図①(1 / 3)	18
第9图	乙金窯跡2号窯跡実測図(1 / 60)	19 ~ 20
第10图	2号窯跡出土遺物実測図②(1 / 3)	21
第11图	2号窯跡出土遺物実測図③(1 / 3)	22
第12图	2号窯跡出土遺物実測図④(1 / 3)	23
第13图	乙金窯跡出土地点不明遺物実測図(1 / 3)	24
第14图	東浦窯跡群調査地点位置図(1 / 7,500)	25
第15图	東浦窯跡群遺構配置図(1 / 500)	26
第16图	東浦窯跡群1号窯跡実測図(1 / 60)	27 ~ 28
第17图	1号窯跡出土遺物実測図①(1 / 3)	30
第18图	1号窯跡出土遺物実測図②(1 / 3)	31
第19图	1号窯跡出土遺物実測図③(1 / 3・1 / 4)	32
第20图	1号窯跡出土遺物実測図④(1 / 3)	33
第21图	1号窯跡出土遺物実測図⑤(1 / 3)	34
第22图	1号窯跡出土遺物実測図⑥(1 / 3)	35
第23图	東浦窯跡群2号窯跡実測図(1 / 80)	37 ~ 38
第24图	2号窯跡出土遺物実測図①(1 / 3)	39
第25图	2号窯跡出土遺物実測図②(1 / 3)	40
第26图	2号窯跡出土遺物実測図③(1 / 3・1 / 6)	41
第27图	東浦窯跡群3号窯跡実測図(1 / 60)	43 ~ 44
第28图	3号窯跡出土遺物実測図①(1 / 3)	45
第29图	3号窯跡出土遺物実測図②(1 / 3)	46
第30图	東浦窯跡群出土地点不明遺物実測図①(1 / 3)	47
第31图	東浦窯跡群出土地点不明遺物実測図②(1 / 3・1 / 4)	48
第32图	大谷窯跡群調査地点位置図(1 / 7,500)	49
第33图	大谷窯跡群遺構配置図(1 / 400)	50

第 34 図	大谷窯跡群 1 号窯跡実測図① (1 / 60)	53 ~ 54
第 35 図	大谷窯跡群 1 号窯跡実測図② (1 / 60)	55 ~ 56
第 36 図	1 号窯跡出土遺物実測図① (1 / 3)	57
第 37 図	1 号窯跡出土遺物実測図② (1 / 3)	58
第 38 図	1 号窯跡出土遺物実測図③ (1 / 4)	59
第 39 図	1 号窯跡出土遺物実測図④ (1 / 4)	60
第 40 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑤ (1 / 4)	61
第 41 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑥ (1 / 3)	62
第 42 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑦ (1 / 3)	63
第 43 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑧ (1 / 4)	64
第 44 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑨ (1 / 4)	65
第 45 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑩ (1 / 3・1 / 4)	66
第 46 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑪ (1 / 3)	67
第 47 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑫ (1 / 3)	68
第 48 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑬ (1 / 4)	69
第 49 図	1 号窯跡出土遺物実測図⑭ (1 / 4)	70
第 50 図	大谷窯跡群 2 号窯跡灰原土層実測図 (1 / 60)	71
第 51 図	2 号窯跡出土遺物実測図① (1 / 3)	72
第 52 図	2 号窯跡出土遺物実測図② (1 / 3)	73
第 53 図	2 号窯跡出土遺物実測図③ (1 / 3)	74
第 54 図	2 号窯跡出土遺物実測図④ (1 / 3)	75
第 55 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑤ (1 / 3)	76
第 56 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑥ (1 / 3)	77
第 57 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑦ (1 / 3)	78
第 58 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑧ (1 / 3)	79
第 59 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑨ (1 / 4)	80
第 60 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑩ (1 / 3)	81
第 61 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑪ (1 / 3)	82
第 62 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑫ (1 / 3)	83
第 63 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑬ (1 / 3)	84
第 64 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑭ (1 / 3)	85
第 65 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑮ (1 / 3)	86
第 66 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑯ (1 / 3)	87
第 67 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑰ (1 / 3)	88
第 68 図	2 号窯跡出土遺物実測図⑱ (1 / 3・1 / 4)	89

第 69 図	2号窯跡出土遺物実測図⑱ (1 / 3)	90
第 70 図	2号窯跡出土遺物実測図⑳ (1 / 4)	91
第 71 図	2号窯跡出土遺物実測図㉑ (1 / 4)	92
第 72 図	2号窯跡出土遺物実測図㉒ (1 / 4)	93
第 73 図	2号窯跡出土遺物実測図㉓ (1 / 3)	94
第 74 図	2号窯跡出土遺物実測図㉔ (1 / 3)	95
第 75 図	2号窯跡出土遺物実測図㉕ (1 / 3・1 / 4)	96
第 76 図	2号窯跡出土遺物実測図㉖ (1 / 3・1 / 4)	97
第 77 図	大谷窯跡群 3号窯跡実測図 (1 / 60)	99 ~ 100
第 78 図	3号窯跡出土遺物実測図① (1 / 3)	101
第 79 図	3号窯跡出土遺物実測図② (1 / 3)	102
第 80 図	3号窯跡出土遺物実測図③ (1 / 3)	103
第 81 図	大谷窯跡群 4号窯跡実測図 (1 / 60)	104
第 82 図	4号窯跡出土遺物実測図① (1 / 3)	105
第 83 図	4号窯跡出土遺物実測図② (1 / 3)	106
第 84 図	4号窯跡出土遺物実測図③ (1 / 3)	107
第 85 図	4号窯跡出土遺物実測図④ (1 / 3・1 / 4)	108
第 86 図	4号窯跡出土遺物実測図⑤ (1 / 3・1 / 4)	109
第 87 図	0・1・2トレンチ出土遺物実測図 (1 / 3)	112
第 88 図	3・4トレンチ出土遺物実測図 (1 / 3)	113
第 89 図	5トレンチ出土遺物実測図 (1 / 3)	114
第 90 図	3区1・2号灰原出土遺物実測図 (1 / 3)	115
第 91 図	3区灰原出土遺物実測図① (1 / 3)	116
第 92 図	3区灰原出土遺物実測図② (1 / 3)	117
第 93 図	3区灰原出土遺物実測図③ (1 / 3)	118
第 94 図	3区灰原出土遺物実測図④ (1 / 3)	119
第 95 図	3区道路断面灰原・3区出土遺物実測図 (1 / 3)	120
第 96 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図① (1 / 3)	121
第 97 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図② (1 / 3)	122
第 98 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図③ (1 / 3)	123
第 99 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図④ (1 / 3・1 / 4)	124
第 100 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑤ (1 / 3)	125
第 101 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑥ (1 / 3)	126
第 102 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑦ (1 / 4)	127
第 103 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑧ (1 / 4)	128

第 104 図	大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑨・ 月ノ浦窯跡出土遺物実測図 (1 / 3・1 / 4) ……	129
第 105 図	北部九州出土の獣脚硯 (1 / 3) ……	135
第 106 図	牛頸窯跡群の朝鮮半島系資料 (1 / 6・1 / 8・1 / 10・1 / 12) ……	141

表 目 次

表 1	へら記号を有する須恵器蓋杯の出土数一覧表……………	143
表 2	乙金窯跡、東浦窯跡群、大谷窯跡群におけるへら記号一覧表……………	144
表 3	乙金窯跡、東浦窯跡群、大谷窯跡群のへら記号使用時期一覧表……………	146
表 4	Ⅲ期操業窯のへら記号を有する蓋杯の出土数一覧表……………	147
表 5	へら記号のデザイン変遷表……………	147
表 6	へら記号の画数における使用比率一覧表……………	148
表 7	乙金窯跡出土遺物観察表……………	149
表 8	東浦窯跡群出土遺物観察表……………	151
表 9	大谷窯跡群出土遺物観察表……………	155

図 版 目 次

図版 1	(1) 乙金窯跡遠景① (3) 乙金窯跡調査風景 (南から)	(2) 乙金窯跡遠景②
図版 2	(1) 乙金窯跡 1・2 号窯跡全景① (南西から) (2) 乙金窯跡 1・2 号窯跡全景② (南西から) (3) 乙金窯跡 1・2 号窯跡全景③ (西から)	
図版 3	(1) 乙金窯跡 1 号窯跡全景① (西から) (3) 乙金窯跡 1 号窯跡全景③ (北東から) (4) 乙金窯跡 1 号窯跡天井部検出状況 (西から)	(2) 乙金窯跡 1 号窯跡全景② (南西から)
図版 4	(1) 乙金窯跡 2 号窯跡全景① (南から) (3) 乙金窯跡 2 号窯跡全景③ (北東から)	(2) 乙金窯跡 2 号窯跡全景② (南西から) (4) 乙金窯跡 2 号窯跡煙道部 (北東から)
図版 5	(1) 東浦窯跡群遠景① (3) 東浦窯跡群 1 号窯跡遠景 (南西から)	(2) 東浦窯跡群遠景②
図版 6	(1) 東浦窯跡群 1 号窯跡全景 (南西から) (2) 東浦窯跡群 1 号窯跡燃焼部付近天井部遺存状況① (東から) (3) 東浦窯跡群 1 号窯跡燃焼部付近天井部遺存状況② (南から)	

- 図版 7 (1) 東浦窯跡群 1 号窯跡煙道部①(北から)
(2) 東浦窯跡群 1 号窯跡煙道部②(南から)
(3) 東浦窯跡群 1 号窯跡煙道部③(北から)
- 図版 8 (1) 東浦窯跡群 1 号窯跡焚口部遺物出土状況
(2) 東浦窯跡群 1 号窯跡焼台と遺物出土状況①
(3) 東浦窯跡群 1 号窯跡焼台と遺物出土状況②
- 図版 9 (1) 東浦窯跡群 2 号窯跡全景①(南から) (2) 東浦窯跡群 2 号窯跡全景②(南から)
(3) 東浦窯跡群 2 号窯跡燃焼部付近天井部残存状況(南から)
- 図版 10 (1) 東浦窯跡群 2 号窯跡右側壁(北西から)
(2) 東浦窯跡群 2 号窯跡左側壁(南西から)
(3) 東浦窯跡群 2 号窯跡全景①(南西から) (4) 東浦窯跡群 2 号窯跡全景②(北東から)
- 図版 11 (1) 東浦窯跡群 2 号窯跡焼成部遺物出土状況(西から)
(2) 東浦窯跡群 2 号窯跡煙道部①(南西から) (3) 東浦窯跡群 2 号窯跡煙道部②(南から)
- 図版 12 (1) 東浦窯跡群 2 号窯跡煙道部③(南から) (2) 東浦窯跡群 2 号窯跡煙道部④(北から)
(3) 東浦窯跡群 2 号窯跡煙道部⑤(北東から)
- 図版 13 (1) 東浦窯跡群 2 号窯跡右側壁石組(北から)
(2) 東浦窯跡群 2 号窯跡右側壁指頭痕(北から)
(3) 東浦窯跡群 2 号窯跡焼成部遺物出土状況①(南から)
- 図版 14 (1) 東浦窯跡群 2 号窯跡焼成部遺物出土状況②(南から)
(2) 東浦窯跡群 2 号窯跡焼成部遺物出土状況③(南西から)
(3) 東浦窯跡群 2 号窯跡鉄鏟出土状況(西から)
- 図版 15 (1) 東浦窯跡群 3 号窯跡全景①(南から) (2) 東浦窯跡群 3 号窯跡全景②(南西から)
(3) 東浦窯跡群 3 号窯跡燃焼部付近遺物出土状況(南西から)
- 図版 16 (1) 東浦窯跡群 3 号窯跡左側壁付近支柱検出状況①
(2) 東浦窯跡群 3 号窯跡左側壁付近支柱検出状況②
(3) 東浦窯跡群 3 号窯跡左側壁付近支柱検出状況③(南西から)
- 図版 17 (1) 東浦窯跡群 3 号窯跡右側壁付近支柱検出状況①(西から)
(2) 東浦窯跡群 3 号窯跡右側壁付近支柱検出状況②(南西から)
(3) 東浦窯跡群 3 号窯跡右側壁付近支柱検出状況③(東から)
- 図版 18 (1) 東浦窯跡群 3 号窯跡焼成部遺物出土状況①(南西から)
(2) 東浦窯跡群 3 号窯跡焼成部遺物出土状況②
(3) 東浦窯跡群 3 号窯跡焼成部遺物出土状況③
- 図版 19 (1) 東浦窯跡群 3 号窯跡焼成部遺物出土状況④
(2) 東浦窯跡群 3 号窯跡燃焼部付近横断土層(南西から)
(3) 東浦窯跡群 3 号窯跡燃焼部付近縦断土層

- 図版 20 (1) 東浦窯跡群調査風景 (1 号窯跡煙道部) (2) 大野町役場町長来訪時の様子
(3) 九州大学 (当時) 小田富士雄氏・石山勲氏来訪時の記念写真
- 図版 21 (1) 大谷窯跡群遠景① (2) 大谷窯跡群遠景②
(3) 大谷窯跡群遠景③
- 図版 22 (1) 大谷窯跡群調査風景① (北西から) (2) 大谷窯跡群調査風景② (北西から)
(3) 大谷窯跡群 1・2 号窯跡遠景 (西から)
- 図版 23 (1) 大谷窯跡群 1 号窯跡全景① (北西から) (2) 大谷窯跡群 1 号窯跡全景② (北西から)
(3) 大谷窯跡群 1 号窯跡窯尻部 (北西から)
- 図版 24 (1) 大谷窯跡群 1 号窯跡煙道部 (北西から)
(2) 大谷窯跡群 1 号窯跡天井部残存状況① (北西から)
(3) 大谷窯跡群 1 号窯跡天井部残存状況② (北西から)
- 図版 25 (1) 大谷窯跡群 1 号窯跡焼成部遺物出土状況 (北西から)
(2) 大谷窯跡群 1 号窯跡煙道部 (南西から) (3) 大谷窯跡群 1 号窯跡溝 (西から)
- 図版 26 (1) 大谷窯跡群 2 号窯跡全景① (北西から) (2) 大谷窯跡群 2 号窯跡全景② (北西から)
(3) 大谷窯跡群 2 号窯跡焼成部遺物出土状況 (北西から)
- 図版 27 (1) 大谷窯跡群 2 号窯跡窯尻部① (北西から)
(2) 大谷窯跡群 2 号窯跡窯尻部② (北西から)
(3) 大谷窯跡群 2 号窯跡溝 (南から)
- 図版 28 (1) 大谷窯跡群 2 号窯跡窯尻部遺物出土状況 (東から)
(2) 大谷窯跡群 2 号窯跡焼成部遺物出土状況① (西から)
(3) 大谷窯跡群 2 号窯跡焼成部遺物出土状況② (西から)
- 図版 29 (1) 大谷窯跡群 3 号・4 号窯跡遠景① (西から)
(2) 大谷窯跡群 3 号・4 号窯跡遠景② (北西から)
(3) 大谷窯跡群 3 号窯跡焚口部・燃焼部 (北西から)
- 図版 30 (1) 大谷窯跡群 3 号窯跡焚口部・燃焼部石組① (北から)
(2) 大谷窯跡群 3 号窯跡焚口部・燃焼部石組② (北から)
(3) 大谷窯跡群 3 号窯跡焚口部・燃焼部石組③ (北西から)
- 図版 31 (1) 大谷窯跡群 3 号窯跡煙道部① (東から)
(2) 大谷窯跡群 3 号窯跡煙道部② (東から)
(3) 大谷窯跡群 3 号窯跡煙道部③ (北西から)
- 図版 32 (1) 大谷窯跡群 4 号窯跡全景① (北西から)
(2) 大谷窯跡群 4 号窯跡全景② (北西から)
(3) 大谷窯跡群発掘調査参加者集合写真
- 図版 33 (1) 乙金窯跡 2 号窯跡出土遺物集合 (2) 東浦窯跡群 1 号窯跡出土遺物集合
- 図版 34 (1) 東浦窯跡群 2 号窯跡出土遺物集合 (2) 東浦窯跡群 3 号窯跡出土遺物集合

- 図版 35 (1) 大谷窯跡群 1 号窯跡出土遺物集合 (2) 大谷窯跡群 1 号窯跡出土瓦集合
- 図版 36 (1) 大谷窯跡群 1 号窯跡被熱変形蓋杯集合 (2) 大谷窯跡群 2 号窯跡出土遺物集合
- 図版 37 (1) 大谷窯跡群 2 号窯跡出土窯道具集合
(2) 大谷窯跡群 2 号窯跡出土ヘラ記号記載蓋杯集合
- 図版 38 乙金窯跡出土遺物①
- 図版 39 (1) 乙金窯跡出土遺物② (2) 東浦窯跡群出土遺物①
- 図版 40 東浦窯跡群出土遺物②
- 図版 41 東浦窯跡群出土遺物③
- 図版 42 (1) 東浦窯跡群出土遺物④ (2) 大谷窯跡群出土遺物①
- 図版 43 大谷窯跡群出土遺物②
- 図版 44 大谷窯跡群出土遺物③
- 図版 45 大谷窯跡群出土遺物④
- 図版 46 大谷窯跡群出土遺物⑤
- 図版 47 大谷窯跡群出土遺物⑥
- 図版 48 大谷窯跡群出土遺物⑦
- 図版 49 大谷窯跡群出土遺物⑧
- 図版 50 大谷窯跡群出土遺物⑨
- 図版 51 大谷窯跡群出土遺物⑩
- 図版 52 大谷窯跡群出土遺物⑪
- 図版 53 大谷窯跡群出土遺物⑫
- 図版 54 大谷窯跡群出土遺物⑬
- 図版 55 大谷窯跡群出土遺物⑭
- 図版 56 大谷窯跡群出土遺物⑮
- 図版 57 大谷窯跡群出土遺物⑯
- 図版 58 大谷窯跡群出土遺物⑰
- 図版 59 大谷窯跡群出土遺物⑱
- 図版 60 大谷窯跡群出土遺物⑲
- 図版 61 大谷窯跡群出土遺物⑳
- 図版 62 大谷窯跡群出土遺物㉑
- 図版 63 大谷窯跡群出土遺物㉒
- 図版 64 大谷窯跡群出土遺物㉓
- 図版 65 大谷窯跡群出土遺物㉔
- 図版 66 大谷窯跡群出土遺物㉕
- 図版 67 大谷窯跡群出土遺物㉖
- 図版 68 大谷窯跡群出土遺物㉗

I. はじめに

1. 報告書刊行に至る経緯

本書に収録する乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群は、昭和43～44（1968～1969）年にかけて国士舘大学大川清氏により発掘調査が行われた。その概要は、「大野町の文化財1」（1970 大野町教育委員会）、「大野町の文化財2」（1971 大野町教育委員会）に紹介されている。

その後、調査を担当された大川氏は、栃木県に日本窯業史研究所（以下、「研究所」）を設立し、出土遺物や記録類を研究所に移された。その間、国士舘大学もしくは研究所において記録類の整理や出土遺物の整理が進められていたようであるが、報告書刊行には至らなかった。

平成10（1998）年、本市において市史編さん委員会が発足し、平成17（2005）年に『大野城市史通史編（上巻）』を刊行した。当時の文化財担当者であった舟山良一は、市史編さん事業の中で大谷窯跡群の概要報告を企画した。舟山は大川氏に大谷窯跡群の概要報告の執筆を依頼すべく、研究所を訪ねたところ、快諾されたとのことである。ただ、時間の都合上、市史編さん事業の中での概要報告は実現しなかった。

平成18～19（2006～2007）年には牛頸窯跡群の国史跡指定を目指して『牛頸窯跡群—総括報告書I—』（以下、「総括報告書」）刊行事業が進められた。執筆・編集を担当した舟山は、総括報告書作成にあたり、再度、大谷窯跡群の調査成果を報告すべく、研究所と協議を進めた。その結果、大谷窯跡群をはじめ、乙金窯跡・東浦窯跡群の遺物・写真・図面などが、本市へと返還される運びとなった。しかし、資料の量が膨大であることに加え、総括報告書作成当時は市内で大規模開発に伴う発掘調査や報告書刊行事業を進めていたこともあり、総括報告書の中でも詳細な報告はかなわなかった。この間の経緯については、総括報告書「付. 大谷窯跡群について」で触れられている。

こうした経緯の中、本市では平成18（2006）年度から過年度分の発掘調査報告書の刊行を進めていたが、大規模開発が落ち着いたこともあり、令和2（2020）年度に整理作業・報告書刊行を行うこととなった。

2. 発掘調査の期間と契機

当時の記録類は現場で作成した実測図や写真などしか残っておらず、発掘調査の契機や経過を知る手がかりは少ない。以下では、当時の記録類をはじめ「大野町の文化財1・2」の概要や、関連する報告書などからそれぞれの遺跡ごとに調査の期間と契機を記すこととする。

【乙金窯跡】

調査期間：昭和44（1969）年1月

平成24年に大野城市教育委員会が実施した「善一田遺跡第1次調査」では、大川氏によって調査された窯跡が削平された状態を確認した。詳細は『乙金地区遺跡群22』（大野城市文化財調査報告書第158集）を参照されたい。

調査契機：直接の契機や事業主体は不明である。昭和44年調査時には旧地形が良く残っていたが、平成24年調査時には丘陵頂部が大きく造成され平坦面を形成し、窯の直近まで宅地が迫る状況で

あった。したがって、宅地造成に先立つ調査であったことが推察される。

【東浦窯跡群】

調査期間：昭和 43（1968）年 12 月～ 44（1969）年 1 月

調査契機：南ヶ丘団地造成の際に発見された。「野添・大浦窯跡」報告書の中では、住宅団地造成工事に伴い西日本鉄道株式会社主催により実施されたことが記されている。

【大谷窯跡群】

調査期間：昭和 43（1968）年 12 月

大谷窯跡群の実測図には、「1971 年 3 月」の注記があるが、昭和 46 年 3 月刊行の「大野町の文化財 2」には製図した全体図が掲載されていることから、「1971 年」の記述は整理作業の際の注記と解釈した。総括報告書の記述にしたがって調査期間を上記のとおりとする。

調査契機：東浦窯跡群と同様に、西日本鉄道株式会社による造成工事を契機とする。総括報告書の中には、福岡県教育委員会の依頼をうけて国土館大学大川氏により調査されたことが記されている。

3. 調査体制

【昭和 43・44 年度（発掘調査）】

発掘調査の参加者については、全容を把握しうる資料がないため、実測図や写真に記された記録に基づき参加者について列挙する。

国土館大学 教授 大川清

調査参加者 井、石川、板橋、伊藤博幸、狐塚、近藤、高橋章、戸田、福田恭子、眞下高幸、松田政基、森廣樹、山崎由美子（五十音順、整理作業参加者を含む可能性あり）

【令和 2 年度（整理作業）】

大野城市教育委員会教育長 吉富修

教育部長 日野和弘

ふるさと文化財課長 石木秀啓

啓発・整備担当係長 林潤也

発掘調査担当係長 上田龍児

主査 徳本洋一

主任主事 秋穂敏明

主事 鮫島由佳

技師 山元瞭平、齋藤明日香

会計年度任用職員 澤田康夫、木原堯、山村智子、深町美佳、西村友美、三好りさ

整理作業員 小畑貴子、古賀栄子、小嶋のり子、篠田千恵子、白井典子、

津田りえ、仲村美幸、氷室優、松本友里恵

Ⅱ．位置と環境

1．地理的環境

大野城市が位置する福岡平野は、南を背振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面している。平野中央部を那珂川・御笠川が貫流し、広大な沖積平野を形成する。大野城市は福岡平野南東の最奥部に位置し、最も平野が狭くなる地峡部にあたる。古代以来この地峡部は交通の要衝で、現在でも九州縦貫自動車道・J R鹿児島本線・西鉄天神大牟田線・国道3号など九州の南北を結ぶ幹線道が走っている。市域の東側は月隈丘陵に連なる乙金山・四王寺山、南側は牛頸山に挟まれ、その中央を御笠川が貫流する。山地は早良花崗岩からなり、風化が著しく真砂土となっており、山麓部から平地丘陵部にかけて段丘が発達する。高位段丘は開析がすすみ、中位段丘は平坦部も多く、平野部では沖積地が広がる。

2．歴史的環境

旧石器時代 市域北東部の松葉園遺跡、薬師の森遺跡、原口遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の出口遺跡、横峰遺跡、本堂遺跡など丘陵上の遺跡でナイフ形石器・細石刃が確認される。周辺では南八幡遺跡、諸岡遺跡、井尻B遺跡、門田遺跡などで後期旧石器時代の遺物が分布する。

縄文時代 市域で草創期の遺構・遺物は確認されていないが、周辺では門田遺跡で爪形文土器が出土している。早期になると遺跡の数が増加し、市域北東部の善一田遺跡、古野遺跡、薬師の森遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の本堂遺跡といった丘陵地で押型文土器や石器が出土するほか、石勺遺跡などの平野微高地上にも遺跡が分布する。前期から中期の遺跡は市域では確認されておらず、周辺でも遺跡の数が減少する。後・晩期の遺跡として牛頸塚原遺跡・日ノ浦遺跡で後期後半から晩期の住居などが確認されるほか、善一田遺跡、古野遺跡、原口遺跡、薬師の森遺跡で後・晩期の遺物が分布する。なお、薬師の森遺跡や石勺遺跡では落とし穴状遺構を確認しており、これらは縄文時代の所産である可能性が高い。

弥生時代 弥生時代には福岡平野全域で遺跡が増加し、沖積地にも遺跡が広がる。市域では北部から中央部の丘陵・平野部に遺跡が多い。

【前期】 川原遺跡や薬師の森遺跡で板付I式期にさかのぼる集落がある。墳墓は御陵前ノ椽遺跡（前期中頃）、中・寺尾遺跡（前期中頃から中期）、塚口遺跡（前期後半から末）で甕棺墓・土坑墓・木棺墓などが営まれる。南部では牛頸日ノ浦遺跡で前期後半の甕棺墓・土坑墓がある。また御陵遺跡では前期中頃から末の集落が確認されている。前期末頃には仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡など平野部で集落の数が増加し、これらの多くは中期へと続く。なお、周辺地域では板付遺跡や那珂遺跡で早・前期の環濠集落が成立し拠点集落となる。

【中期】 市域では平野部の仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡が前期末から中期を通して継続する集落である。丘陵地でも北部の中・寺尾遺跡、森園遺跡で中期前半から後半に集落が営まれ、南部でも本堂遺跡で小規模な集落がある。墳墓遺跡は前期から継続する中・寺尾遺跡や、森園遺跡で中期後半を中心にした甕棺墓群があるほか、平野部の石勺遺跡や瑞穂遺跡で甕棺墓を主体とする墳墓

がある。周辺では春日丘陵に大規模な集落・墳墓が出現し、青銅器生産も開始される。特に須玖岡本遺跡D地点甕棺は約30面の前漢鏡・ガラス璧・多数の青銅器を副葬し「王墓」と称される。

【後期】 中期以来の集落である仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡、本堂遺跡などが存続するほか、村下遺跡、榎町遺跡で新たな集落が出現する。仲島遺跡では貨布・銅鏡片や青銅器鋳型などが出土しており拠点的な集落となる。周辺地域では中期以降、春日丘陵一帯や那珂・比恵遺跡群が拠点集落として継続しており、特に春日丘陵一帯は『三国志』「魏書」東夷伝倭人条に記された「奴国」の中心的な地域と位置づけられる。

古墳時代

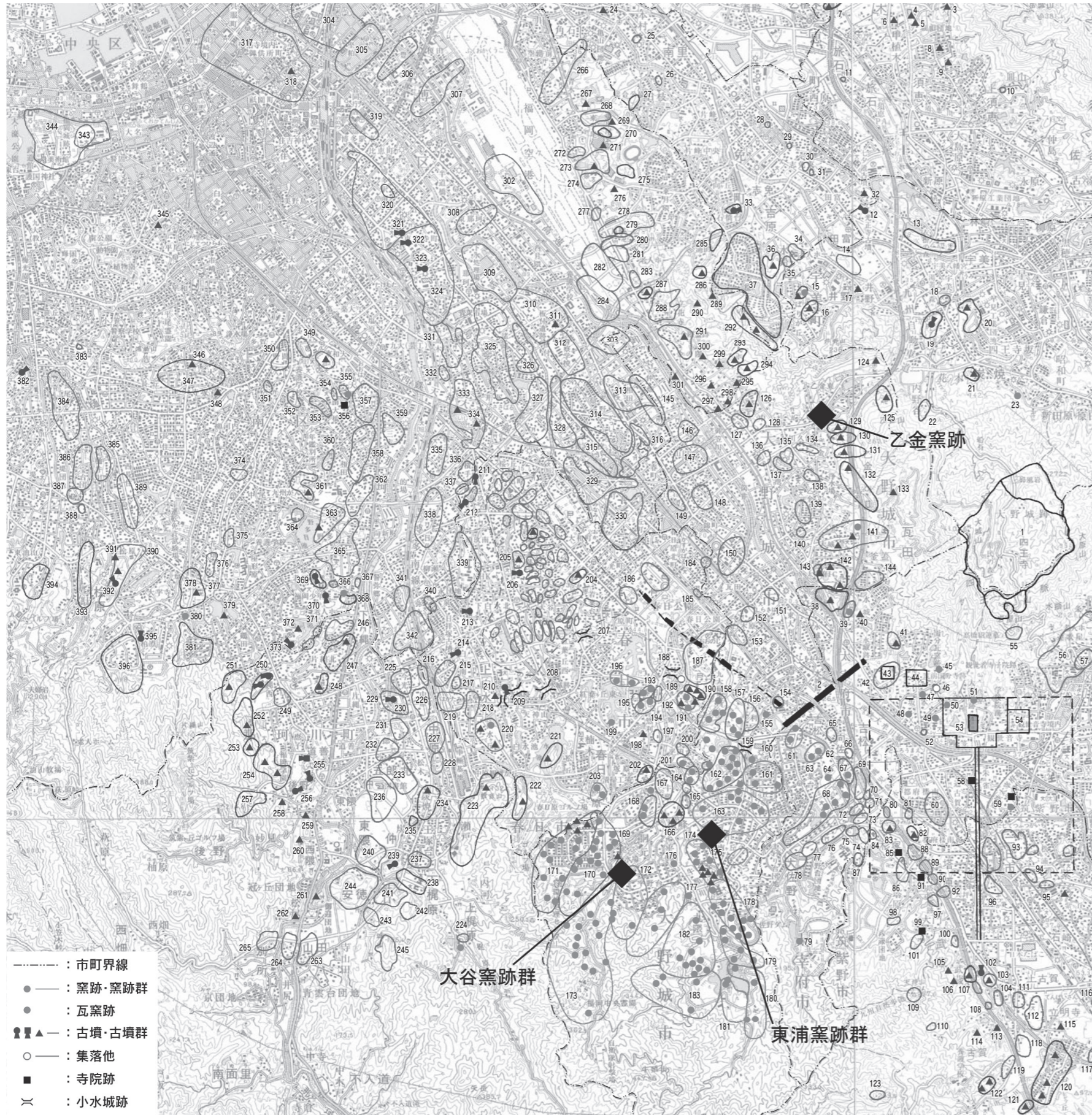
【前期】 古墳時代になると福岡平野でも前方後円墳が出現し、那珂川流域を中心に首長墓級の前方後円墳が分布する。福岡平野最古式の前方後円墳として、三角縁神獸鏡が出土した那珂八幡古墳（全長75m）がある。これに後続する盟主墳として安徳大塚古墳（全長62m）や三角縁神獸鏡が出土したとされる卯内尺古墳がある。市域において明確な前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺にはかつて前方後円墳があったという指摘があるほか、江戸時代には三角縁神獸鏡が出土しており、有力な在地勢力が存在したと考える。

集落では、福岡平野の拠点集落として博多湾沿岸の西新町遺跡、博多遺跡群や那珂・比恵遺跡群がある。市域では仲島遺跡、石勺遺跡、村下遺跡が弥生時代後期から営まれ、瑞穂遺跡、原ノ畑遺跡などでも集落が出現する。この他、森園遺跡や本堂遺跡でも再び集落の形成が認められる。

【中期】 福岡平野の盟主墳として初期横穴式石室を導入した老司古墳（全長76m）があり、博多遺跡群でも博多1号墳（全長56m）が築造される。また、剣塚北古墳、井尻B1号墳、野藤1号墳、貝徳寺古墳など中規模の前方後円墳・円墳がある。市域では5世紀前半の笹原古墳（円墳：30m）があり、隣接して5世紀後半の成屋形古墳（帆立貝式前方後円墳：32m、太宰府市）が築造され、御笠川流域の盟主墳と考えられている。5世紀後半には牛頸塚原古墳群や古野古墳群で群集墳の形成が始まる。このうち古野古墳群では、鏡・鈴・鉄剣・農工具類といった豊富な副葬品を有する古墳もあり、成屋形古墳に次ぐような有力な人物がいたことを示す。

集落遺跡は福岡平野全域で非常に希薄で、前代までの拠点集落である那珂・比恵遺跡群や西新町遺跡は消滅する。周辺では高畑遺跡、立花寺B遺跡などで滑石製品の生産を伴う集落が展開する。市域では石勺遺跡が弥生終末から続く大規模な集落で、初期のカマドや朝鮮半島系の軟質土器が出土し、滑石製品の生産も伴うことから拠点集落と位置づけられる。このほか仲島遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、金山遺跡、原田遺跡、上園遺跡などで集落が営まれる。

【後期】 福岡平野の盟主墳として6世紀中頃築造の東光寺剣塚古墳（全長75m）や日拝塚古墳（全長46m）といった前方後円墳がある。6世紀後半には大型前方後円墳は姿を消し、これに代わり6世紀後半以降、福岡平野一帯の丘陵上には直径10mほどの小円墳を主体とした群集墳が爆発的に増加する。市域では月隈丘陵から乙金山・四王寺山麓にかけて大規模な群集墳が築造され、善一田古墳群・王城山古墳群をはじめとする乙金古墳群がこれに該当する。善一田古墳群は朝鮮半島系資料や鉄器生産に関わる資料が豊富であり、王城山古墳群では7世紀を中心とした新羅土器が集中することが特徴である。このうち、善一田18号墳が最古・最大（6世紀後半築造・直径約25mの



- | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------|
| 1 大野城跡 | 102 原口古墳・古墳群 | 206 竹ヶ本古墳 | 310 板付遺跡 |
| 2 水城跡 | 103 鷺田山遺跡 | 207 小倉水城跡 | 311 板付八幡古墳 |
| 3 ヨムギ古墳 | 104 大刀町遺跡 | 208 大土居水城跡 | 312 高畑遺跡 |
| 4 大塚古墳群・横穴墓群 | 105 八隈裏山古墳 | 209 天神山水城跡 | 313 井相田C遺跡 |
| 5 尾黒南古墳群 | 106 八隈山古墳 | 210 天神山古墳 | 314 委野A遺跡 |
| 6 桜塚横穴群 | 107 細道遺跡 | 211 御陵遺跡群(古墳他) | 315 委野B遺跡 |
| 7 乙植木古墳群 | 108 山の口遺跡 | 212 野藤1号墳 | 316 委野C遺跡 |
| 8 城山古墳群 | 109 天利山城 | 213 下白水大塚古墳 | 317 博多遺跡群 |
| 9 カヤノ古墳群 | 110 飯盛城跡 | 214 日祥塚古墳 | 318 博多1号墳 |
| 10 福岡藩砲臺御用窯 | 111 若八幡神社遺跡 | 215 辻田遺跡 | 319 駅東遺跡 |
| 11 旅石遺跡 | 112 立明寺地区遺跡 | 216 相田遺跡 | 320 比恵古墳群 |
| 12 光正寺古墳 | 113 扇塚古墳群 | 217 上白水西遺跡 | 321 銅塚北古墳 |
| 13 神領・浦尻古墳群 | 114 江永浦古墳 | 218 天神の木遺跡 | 322 東光寺銅塚古墳 |
| 14 河原田・供田遺跡群 | 115 飯島神社古墳群 | 219 門田遺跡 | 323 那珂八幡古墳 |
| 15 岩長浦古墳群 | 116 谷明院跡 | 220 ウツチ遺跡群(古墳・瓦窯跡他) | 324 比恵・那珂遺跡群 |
| 16 観音浦古墳群 | 117 大牟田西遺跡 | 221 白水池古墳群 | 325 諸岡A遺跡 |
| 17 ウツギ古墳 | 118 貝元遺跡 | 222 西浦古墳群 | 326 諸岡B遺跡 |
| 18 宇美中学校遺跡 | 119 トドギ遺跡 | 223 笹原遺跡群 | 327 笹原遺跡群 |
| 19 正遺古墳群 | 120 上の山古墳群 | 224 地別当遺跡群・窯跡群 | 328 三流遺跡 |
| 20 湯湯古墳群 | 121 萩原古墳群 | 225 今光・地余遺跡群 | 329 南八幡遺跡群 |
| 21 花ノ木古墳群 | 122 古賀古墳群 | 226 中原・ヒナタ遺跡群 | 330 神前原遺跡群 |
| 22 内野谷古墳群 | 123 博多見城跡 | 227 中原・塔ノ元遺跡群 | 331 五十川遺跡群 |
| 23 寺浦窯跡 | 124 唐山古墳群 | 228 カイ子遺跡群 | 332 井尻B遺跡 |
| 24 龜山古墳 | 125 乙金北古墳 | 229 貝徳寺古墳 | 333 井尻B-1号墳 |
| 25 樹角遺跡 | 126 御陵古墳群 | 230 宗石遺跡群 | 335 横手遺跡群 |
| 26 ヒエ田遺跡 | 127 塚口遺跡 | 231 松木遺跡群 | 336 寺島遺跡 |
| 27 五郎丸古墳群 | 128 御陵前の縁遺跡 | 232 屋敷ノ内遺跡群 | 337 笠波遺跡 |
| 28 方ヶ島遺跡 | 129 善一田古墳群 | 233 前田遺跡群 | 338 日佐遺跡群 |
| 29 堺田石棺墓 | 130 王城山古墳群 | 234 エグ古墳・カクチガ浦古墳群 | 339 赤水原遺跡群 |
| 30 堺田遺跡 | 131 古野古墳群 | 235 炭焼古墳群 | 340 赤水遺跡群 |
| 31 野間尻遺跡 | 132 原口古墳群 | 236 仲遺跡群 | 341 警弥塚A遺跡 |
| 32 七ヶ池古墳 | 133 此岡古墳群 | 237 下院原前遺跡群 | 342 警弥塚B遺跡 |
| 33 豊楽古墳群 | 134 松葉園遺跡 | 238 平蔵遺跡群 | 343 湯船跡 |
| 34 松ヶ上遺跡 | 135 森園遺跡 | 239 安徳大塚古墳 | 344 福岡城跡 |
| 35 松ヶ下遺跡 | 136 ヒケシマ遺跡 | 240 安徳原田遺跡群 | 345 平尾古墳 |
| 36 松ノ尾古墳群 | 137 中ノ寺遺跡 | 241 龍頭遺跡群 | 242 穴観音古墳 |
| 37 桜ヶ丘古墳群 | 138 栗山の森遺跡 | 242 榎原ハル遺跡群 | 347 寺塚A古墳群 |
| 38 成屋形古墳群 | 139 銀山遺跡 | 243 城ノ下遺跡群 | 348 寺塚B古墳群 |
| 39 裏ノ田遺跡(窯跡他) | 140 原門遺跡 | 244 安徳古遺跡群 | 349 野間A・B遺跡 |
| 40 裏ノ田古墳 | 141 椎子ヶ尾遺跡(窯跡他) | 245 岩門城跡 | 350 中村町遺跡 |
| 41 陣の尾遺跡群(古墳群他) | 142 釜蓋原古墳群 | 246 野口遺跡群 | 351 若久A遺跡 |
| 42 国分松木遺跡 | 143 金山遺跡 | 247 観音堂遺跡群 | 352 若久B遺跡 |
| 43 筑前国分尼寺跡 | 144 釜蓋原遺跡 | 248 井河古墳群 | 353 大橋B遺跡 |
| 44 筑前国分寺跡 | 145 仲島遺跡 | 249 井河遺跡群 | 354 大橋C遺跡 |
| 45 国分瓦窯跡 | 146 川原田遺跡 | 250 小丸古墳群 | 355 大橋D遺跡・三宅瓦窯跡 |
| 46 御笠田印土地 | 147 御笠の森遺跡 | 251 浦ノ原古墳群 | 356 三宅A遺跡・三宅庵寺 |
| 47 坂本瓦窯跡 | 148 村下遺跡 | 252 丸ノ口古墳群 | 357 大橋E遺跡 |
| 48 松倉瓦窯跡 | 149 権前原遺跡 | 253 白石古墳群 | 358 三宅B遺跡 |
| 49 来木古墳群(瓦窯跡他) | 150 石ノ遺跡 | 254 荒平池古墳群 | 359 三宅C遺跡 |
| 50 来木北瓦窯跡 | 151 原ノ遺跡 | 255 妙法寺古墳群 | 360 和田A遺跡群 |
| 51 都府楼北瓦窯跡 | 152 後原遺跡 | 256 大万寺古墳 | 361 和田B遺跡群 |
| 52 遠賀田印土地 | 153 御供田遺跡 | 257 国太子古墳群 | 362 野多目A遺跡 |
| 53 大宰府政庁跡 | 154 谷川遺跡 | 258 イボリ古墳 | 363 野多目B遺跡群 |
| 54 観世音寺 | 155 山口遺跡(窯跡他) | 259 墓の前古墳 | 364 野多目C遺跡群 |
| 55 岩屋城跡 | 156 上園遺跡 | 260 熊本古墳群 | 365 野多目D遺跡群 |
| 56 原遺跡 | 157 本堂遺跡群 | 261 風早古墳 | 366 老司A遺跡 |
| 57 浦城跡 | 158 柳頭遺跡群 | 262 松尾古墳群 | 367 老司B遺跡 |
| 58 榎寺 | 159 上水利水城跡 | 263 小柳遺跡群 | 368 老松神社古墳群・老司瓦窯跡 |
| 59 般若寺(瓦窯跡他) | 160 谷壺遺跡 | 264 山田西遺跡群 | 369 卯内尺古墳・古墳群 |
| 60 市ノ上遺跡 | 161 大浦窯跡群 | 265 次郎丸遺跡群 | 370 老司古墳 |
| 61 神ノ前窯跡群 | 162 野添遺跡群 | 371 老司池A・B遺跡群 | 372 老司古墳 |
| 62 専田窯跡 | 163 平田窯跡群 | 373 中尾古墳 | 373 浦ノ田古墳群 |
| 63 藤原遺跡(窯跡群他) | 164 華無尾遺跡群 | 374 屋形原遺跡 | 374 屋形原遺跡 |
| 64 長浦遺跡 | 165 屏風田遺跡 | 375 花畑C遺跡群 | 375 花畑C遺跡群 |
| 65 原口遺跡 | 166 塚原遺跡群 | 376 花畑B遺跡群 | 376 花畑B遺跡群 |
| 66 久利遺跡 | 167 日ノ浦遺跡群 | 377 花畑A遺跡群 | 377 花畑A遺跡群 |
| 67 日焼遺跡群(窯跡群他) | 168 畑ヶ坂遺跡群(窯跡他) | 378 三田古墳 | 378 三田古墳 |
| 68 宮ノ本遺跡群(窯跡群・火葬墓他) | 169 月ノ浦1号窯跡 | 379 箱池古墳 | 379 箱池古墳 |
| 69 前田遺跡 | 170 小田浦遺跡群(窯跡群・古墳群) | 380 中島窯跡 | 380 中島窯跡 |
| 70 上川久保遺跡 | 171 後田遺跡群(窯跡群・古墳群) | 381 四十塚・大牟田古墳群 | 381 四十塚・大牟田古墳群 |
| 71 鎌川遺跡 | 172 大谷窯跡群 | 382 神松寺御陵古墳 | 382 神松寺御陵古墳 |
| 72 フケ遺跡 | 173 石坂窯跡群 | 383 小雀遺跡 | 383 小雀遺跡 |
| 73 尾崎遺跡 | 174 東浦窯跡群 | 384 長尾遺跡 | 384 長尾遺跡 |
| 74 脇田遺跡 | 175 中浦遺跡群(窯跡群・古墳群) | 385 宝台遺跡群 | 385 宝台遺跡群 |
| 75 殿城戸遺跡 | 176 城ノ山窯跡群 | 386 宝台遺跡群 | 386 宝台遺跡群 |
| 76 京ノ尾遺跡 | 177 原窯跡・原浦窯跡群 | 387 九尾台遺跡群 | 387 九尾台遺跡群 |
| 77 カヤノ遺跡 | 178 ハセムシ窯跡群 | 388 笹原遺跡 | 388 笹原遺跡 |
| 78 カヤノ遺跡 | 179 道ノ下窯跡群 | 389 稲原遺跡群 | 389 稲原遺跡群 |
| 79 野口窯跡 | 180 長者原窯跡群 | 390 稲原遺跡群 | 390 稲原遺跡群 |
| 80 井ノ尻遺跡(古墳他) | 181 佐原窯跡群 | 391 松原古墳群 | 391 松原古墳群 |
| 81 杉塚大坪遺跡 | 182 足洗川窯跡群 | 392 松原2号墳 | 392 松原2号墳 |
| 82 銅塚遺跡(古墳群・瓦窯跡他) | 183 足洗川窯跡群 | 393 東油山古墳群 | 393 東油山古墳群 |
| 83 埴安神社古墳 | 184 駿河遺跡 | 394 瀬戸口古墳群 | 394 瀬戸口古墳群 |
| 84 和久堂城跡 | 185 原ノ口遺跡 | 395 柏原古墳群1号墳 | 395 柏原古墳群1号墳 |
| 85 杉塚庵寺 | 186 立石遺跡 | 396 柏原古墳群 | 396 柏原古墳群 |
| 86 脇田遺跡 | 187 九州大学筑紫地区遺跡群 | | |
| 87 杉塚山の谷遺跡 | 188 春日水城跡 | | |
| 88 唐人塚遺跡(古墳群他) | 189 向谷北遺跡 | | |
| 89 前田遺跡 | 190 向谷古墳群 | | |
| 90 塔原遺跡 | 191 春日平田北遺跡 | | |
| 91 塔原庵寺 | 192 惣利北遺跡 | | |
| 92 桶田山遺跡 | 193 惣利遺跡 | | |
| 93 峯畑遺跡 | 194 惣利東遺跡 | | |
| 94 通ノ浦遺跡 | 195 惣利西遺跡 | | |
| 95 五穀遺跡 | 196 惣利壺遺跡群 | | |
| 96 堀池遺跡 | 197 円入遺跡 | | |
| 97 大門石橋遺跡 | 198 惣利古墳 | | |
| 98 大門遺跡 | 199 大牟田窯跡 | | |
| 99 武蔵寺跡 | 200 春日平田遺跡群 | | |
| 100 道場山遺跡 | 201 春日平田西遺跡 | | |
| 101 武蔵寺経塚群 | 202 塚原古墳群 | | |
| | 203 浦ノ原窯跡群 | | |
| | 204 須玖遺跡群 | | |
| | 205 赤井手遺跡(古墳他) | | |
| | | 206 竹ヶ本古墳 | |
| | | 207 小倉水城跡 | |
| | | 208 大土居水城跡 | |
| | | 209 天神山水城跡 | |
| | | 210 天神山古墳 | |
| | | 211 御陵遺跡群(古墳他) | |
| | | 212 野藤1号墳 | |
| | | 213 下白水大塚古墳 | |
| | | 214 日祥塚古墳 | |
| | | 215 辻田遺跡 | |
| | | 216 相田遺跡 | |
| | | 217 上白水西遺跡 | |
| | | 218 天神の木遺跡 | |
| | | 219 門田遺跡 | |
| | | 220 ウツチ遺跡群(古墳・瓦窯跡他) | |
| | | 221 白水池古墳群 | |
| | | 222 西浦古墳群 | |
| | | 223 笹原遺跡群 | |
| | | 224 地別当遺跡群・窯跡群 | |
| | | 225 今光・地余遺跡群 | |
| | | 226 中原・ヒナタ遺跡群 | |
| | | 227 中原・塔ノ元遺跡群 | |
| | | 228 カイ子遺跡群 | |
| | | 229 貝徳寺古墳 | |
| | | 230 宗石遺跡群 | |
| | | 231 松木遺跡群 | |
| | | 232 屋敷ノ内遺跡群 | |
| | | 233 前田遺跡群 | |
| | | 234 エグ古墳・カクチガ浦古墳群 | |
| | | 235 炭焼古墳群 | |
| | | 236 仲遺跡群 | |
| | | 237 下院原前遺跡群 | |
| | | 238 平蔵遺跡群 | |
| | | 239 安徳大塚古墳 | |
| | | 240 安徳原田遺跡群 | |
| | | 241 龍頭遺跡群 | |
| | | 242 榎原ハル遺跡群 | |
| | | 243 城ノ下遺跡群 | |
| | | 244 安徳古遺跡群 | |
| | | 245 岩門城跡 | |
| | | 246 野口遺跡群 | |
| | | 247 観音堂遺跡群 | |
| | | 248 井河古墳群 | |
| | | 249 井河遺跡群 | |
| | | 250 小丸古墳群 | |
| | | 251 浦ノ原古墳群 | |
| | | 252 丸ノ口古墳群 | |
| | | 253 白石古墳群 | |
| | | 254 荒平池古墳群 | |
| | | 255 妙法寺古墳群 | |
| | | 256 大万寺古墳 | |
| | | 257 国太子古墳群 | |
| | | 258 イボリ古墳 | |
| | | 259 墓の前古墳 | |
| | | 260 熊本古墳群 | |
| | | 261 風早古墳 | |
| | | 262 松尾古墳群 | |
| | | 263 小柳遺跡群 | |
| | | 264 山田西遺跡群 | |
| | | 265 次郎丸遺跡群 | |
| | | 266 席田青木遺跡群 | |
| | | 267 北ノ浦古墳 | |
| | | 268 中尾遺跡群 | |
| | | 269 東谷表古墳 | |
| | | 270 貝花尾遺跡群 | |
| | | 271 大谷古墳 | |
| | | 272 久保園遺跡 | |
| | | 273 赤穂ノ浦遺跡 | |
| | | 274 宝満尾遺跡 | |
| | | 275 宝満尾東古墳群 | |
| | | 276 上ノ池古墳 | |
| | | 277 下月隈鳥越遺跡 | |
| | | 278 下月隈天神森A遺跡 | |
| | | 279 天神森古墳群 | |
| | | 280 下月隈天神森B遺跡 | |
| | | 281 上月隈遺跡群 | |
| | | 282 下月隈C遺跡群 | |
| | | 283 上月隈B遺跡群 | |
| | | 284 立花寺古墳群 | |
| | | 285 立花寺古墳群 | |
| | | 286 熊野古墳群 | |
| | | 287 文殊谷古墳群 | |
| | | 288 立花寺遺跡群 | |
| | | 289 曲古墳群 | |
| | | 290 金剛山古墳群 | |
| | | 291 金隈遺跡群・古墳 | |
| | | 292 持田ヶ浦古墳群A群 | |
| | | 293 持田ヶ浦古墳群B群 | |
| | | 294 持田ヶ浦古墳群C群 | |
| | | 295 持田ヶ浦古墳群D群 | |
| | | 296 持田ヶ浦古墳群E群 | |
| | | 297 持田ヶ浦古墳群F群 | |
| | | 298 今里不動古墳 | |
| | | 299 堤ヶ浦古墳群 | |
| | | 300 影ヶ浦古墳群 | |
| | | 301 丸山古墳 | |
| | | 302 雀居遺跡 | |
| | | 303 井相田D遺跡群 | |
| | | 304 堅粕遺跡群 | |
| | | 305 吉塚遺跡群 | |
| | | 306 豊遺跡群 | |
| | | 307 東比恵遺跡 | |
| | | 308 東那珂遺跡 | |
| | | 309 那珂君休遺跡群 | |

第1図 遺跡分布図(1/62,500)

円墳で、豊富な副葬品を有することから当地域の盟主的な墳墓に位置づけられる。また、市域南部では須恵器工人の墓と考えられる牛頸中通・後田・小田浦古墳群や、6世紀後半の大型円墳である日ノ浦1号墳がある。また、特殊な墳墓として、梅頭窯跡では窯跡を転用した墳墓があり象嵌大刀を副葬する。これらの横穴式石室を主体部とする古墳や群集墳は6世紀後半から7世紀にかけて築造し、8世紀代まで追葬を行うものもある。

集落は6世紀中頃以降、福岡平野の各地で再び増加する。比恵遺跡群では6世紀後半に大型建物群が出現し、「那津官家」の可能性が指摘される。市域では仲島遺跡、塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡、薬師の森遺跡などで集落が営まれ、7世紀代まで存続するものが多い。仲島遺跡は集落規模が大きく、多数の掘立柱建物の存在や多量の馬骨・子持ち勾玉などの存在から、拠点的な集落と考えられる。牛頸窯跡群周辺の塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡などは須恵器工人集落と位置づけられる。また、薬師の森遺跡は一部に渡来人が居住し、鉄器生産・須恵器生産に関わる集落であることが明らかになっており、先述の乙金古墳群との対応関係が確実視できる。

なお、牛頸窯跡群の開始は6世紀中頃に求められ、乙金・四王寺山麓の乙金窯跡・雉子ヶ尾窯跡もこれに近接した時期に須恵器生産を開始する。

飛鳥時代 7世紀前半代は集落・墳墓ともに古墳時代後期の様相を踏襲する。墳墓で注目すべきは大野城市と福岡市博多区の境界に位置する今里不動古墳で、7世紀前半前後の大型円墳（直径約30m）とされ、御笠川右岸地域の盟主墳である。また、6世紀後半の比恵遺跡群に展開した大型建物群は那珂遺跡群に移動する。この時期、牛頸窯跡群の須恵器生産はひとつのピークをむかえる。また、野添窯や月ノ浦窯などでは初期瓦を生産しており、那津官家比定地の那珂遺跡に供給されたことが知られる。牛頸窯跡群周辺では集落の数や住居の数が飛躍的に増加し、牛頸塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡などは前代から続く須恵器工人集落と考えられている。

7世紀中頃から後半には、中国・朝鮮半島を含む東アジア世界が激動の時代をむかえる。日本も白村江の戦（663年）で敗戦を経験し、日本史上初の国際的な危機に直面する。これに伴い664～665年にかけて水城・大野城が相次いで築造される。国内情勢でも壬申の乱（672年）が起り、これを機に律令体制に基づく本格的な中央集権国家を形成していくことになる。また、大宰府では第I期政庁が成立する。

このような時代背景の中で、市域全体で遺構・遺物の減少が認められる。例えば、薬師の森遺跡では7世紀中頃から後半にかけて一時的に遺構・遺物が希薄となり、乙金古墳群では6世紀末から7世紀前半に古墳築造のピークをむかえ、7世紀後半にかけて順次築造数が減少していく。また、牛頸窯跡群における窯の数も減少し、一時的に須恵器生産も停滞期をむかえる。

奈良時代 奈良時代になると律令国家が成立し、九州も大宰府を中心とした支配体制が整い、各地に官衙が設置される。また、この時期には官道も整備され、井相田C遺跡、板付遺跡、那珂久平遺跡や谷川遺跡、先ノ原・春日公園内遺跡などで道路状遺構が確認されている。集落遺跡として市域では仲島遺跡や隣接する井相田C遺跡で掘立柱建物を中心とした集落が形成される。周辺の高畑遺跡は「高畑廃寺」あるいは「那珂郡衙」の可能性が指摘され、麦野遺跡・南八幡遺跡で大規模な

村落が成立し、御笠川中流域の官道沿いに官衙や村落が営まれた景観が復元できる。牛頸窯跡群では8世紀前半に窯の数が増加し、供膳具を中心に大量生産が行われる。このほか、本堂遺跡群では村落内寺院と考えられる遺構が確認されている。また、薬師の森遺跡では集落の経営を再開し、鈔帯金具・ヘラ書き須恵器・越州窯系青磁・製塩土器などの特殊遺物が出土する。鍛冶炉に加え、須恵器窯に関連する遺構もあり、古墳時代に引き続き手工業生産に関わる集落と考えられる。

なお、水城では8世紀前半に門の建て替えがあり、東西門や欠堤部周辺を中心に水城に関わる遺構・遺物が確認されている。

平安時代 平安時代前半の9～10世紀代は福岡平野全域で遺跡数が減少する。牛頸窯跡群も規模が縮小し、9世紀中頃には操業を停止する。市域の遺跡も減少し、前代に見られた仲島遺跡、井相田C遺跡や麦野遺跡の集落も9世紀代に消滅する。9～10世紀代では牛頸月ノ浦窯跡、本堂遺跡、塚口遺跡、中・寺尾遺跡で土坑墓、薬師の森遺跡で土坑墓や掘立柱建物を検出している。

なお、9世紀前半に改称した鴻臚館は対外交渉の窓口として機能し、9世紀後半以降は中国商人の滞在・交易施設となり、初期貿易陶磁器が大量に出土している。

平安時代後半になると、11世紀中頃から後半に大宰府政庁・鴻臚館が廃絶し、代わって博多遺跡群において中世都市「博多」が成立する。律令制は完全に崩壊し、各地で武士が活躍する時代をむかえる。市域においては塚口遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡で輸入陶磁器を埋納する土坑墓が確認されており、有力者の存在を示す。集落は松葉園遺跡、御笠の森遺跡、宝松遺跡、上園遺跡で確認されている。なお、水城の外濠は平安時代末頃ではほぼ埋没し、西門周辺では経塚の形成や棒状土製品など土器生産に関わる遺物が集中することから、律令制の弛緩とともに本来的な役割が終焉をむかえていくこととなる。なお、土師器・瓦器焼成に関わる棒状土製品の出土は、水城西門周辺から上園遺跡、本堂遺跡周辺にかけて濃密に分布し、牛頸窯跡群終焉以降の土器生産の再開を示す。

鎌倉時代～戦国時代 市域では御笠の森遺跡、本堂遺跡、石勺遺跡、川原遺跡、薬師の森遺跡などで当該期の遺構が確認されている。薬師の森遺跡では12世紀後半から14世紀にかけての中世墓が多数営まれ、集落を囲むと考えられる区画溝やピット群が広がっており、比較的有力な集団が存在していたと考えられる。御笠の森遺跡は11世紀後半以降継続して集落が営まれる。16世紀後半から17世紀中頃に多数の方形区画溝が展開し、有力農民層の集落跡と考えられている。また、戦国期の山城として乙金の唐山城、牛頸の不動城があるが詳細は不明である。

近世 後原遺跡、御笠の森遺跡、雑餉隈遺跡、村下遺跡、川原遺跡、屏風田遺跡などで遺構・遺物が確認されるが、当該期の遺跡の多くは現在の集落域と重複していると考えられる。このうち、市域中央部の後原遺跡は「白木原村」の本村にあたり、屋敷地や墓地が確認されており、地祇神社を中心とした集落景観が復元できる。また、市域北東部の薬師の森遺跡、原口遺跡、古野遺跡では近世から近現代にかけての墓地が造られ、乙金村の集団墓地として位置づけられる。

近代・現代 市域北東部の王城山遺跡、古野遺跡、原口遺跡で太平洋戦争時の防空壕跡を調査しており、このうち王城山遺跡のものは規模や遺物の内容から地下疎開工場と位置づけられる。また、市域中央部の野添遺跡では、本土決戦に備え野砲を設置したと考えられる洞窟壕が確認されている。

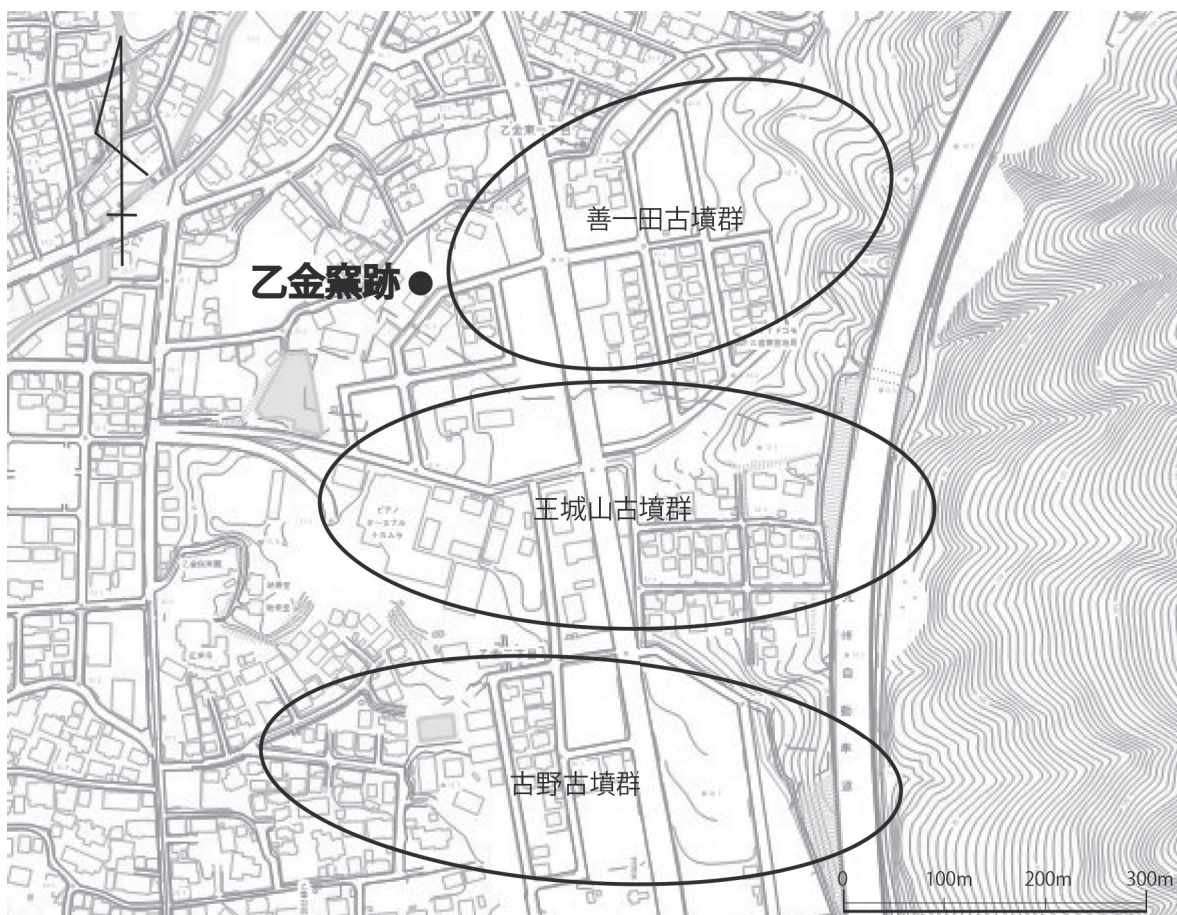
Ⅲ. 乙金窯跡

1. 調査の概要

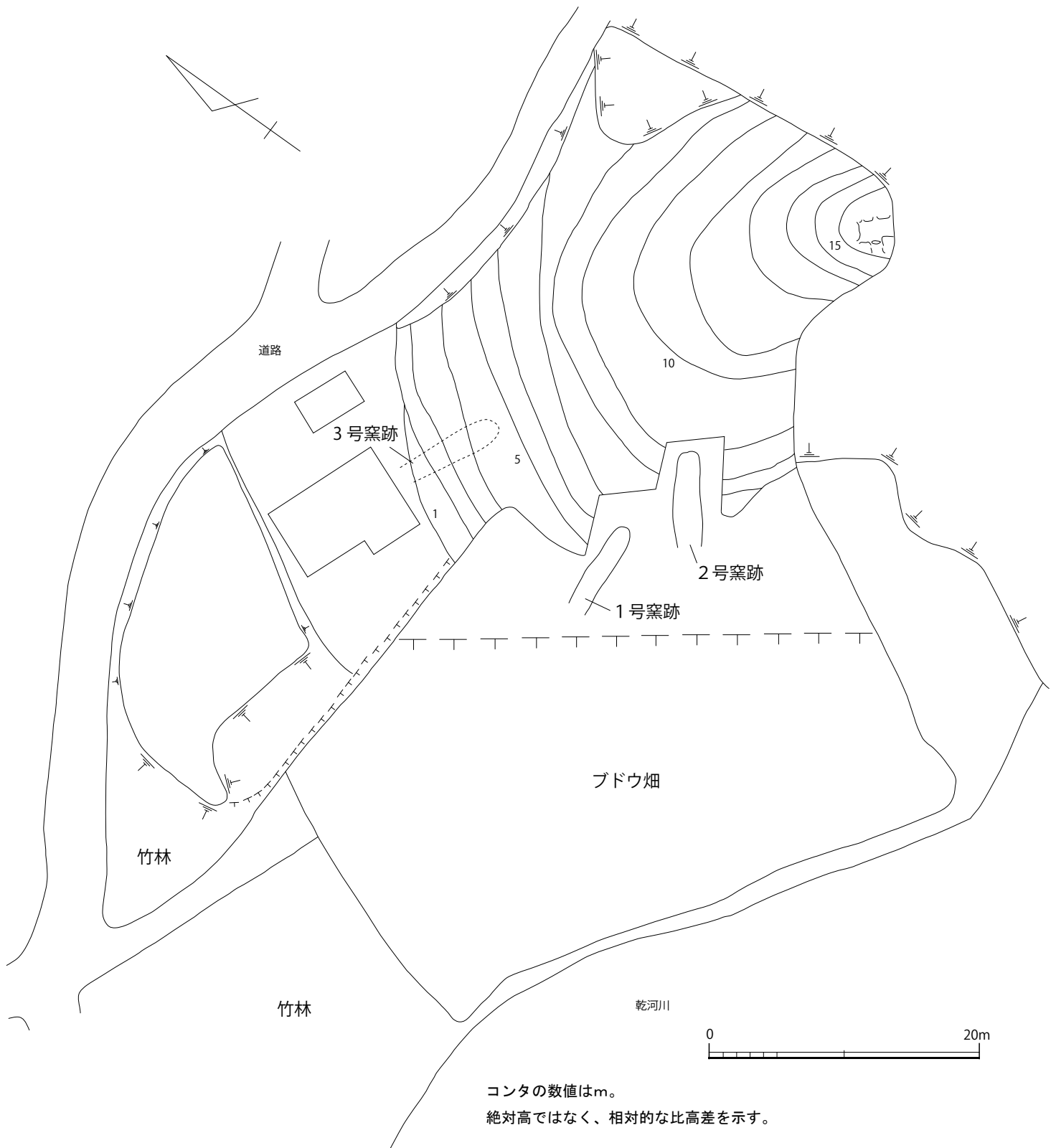
乙金窯跡は大野城市の北東部（大野城市乙金東1丁目）に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地としては善一田遺跡の範囲にあたる。乙金山（標高 263 m）の西麓に位置し、窯跡は西側に舌状にのびる丘陵の南西側斜面に構築される。昭和 44 年調査時には 3 基の窯跡が存在することが確認された。中央の窯跡を 1 号窯、東側の窯跡を 2 号窯、西側の窯跡を 3 号窯とし、このうち 3 号窯は調査を経ずに消滅した。なお、昭和 44 年時点では丘陵頂部に横穴式石室を有する古墳があったようであるが、未調査のまま消滅したため詳細は不明である。

国土舘大学による昭和 44 年の調査は、1・2 号窯を対象に実施した。調査は最終操業面のみ面的に発掘し、これ以下の操業面についてはトレンチ調査により確認を行った。出土遺物は須恵器が大半で、パンケース 7 箱分が出土した。以下では、昭和 44 年調査時の図面・写真を基に事実関係を記述するとともに、出土遺物について報告する。

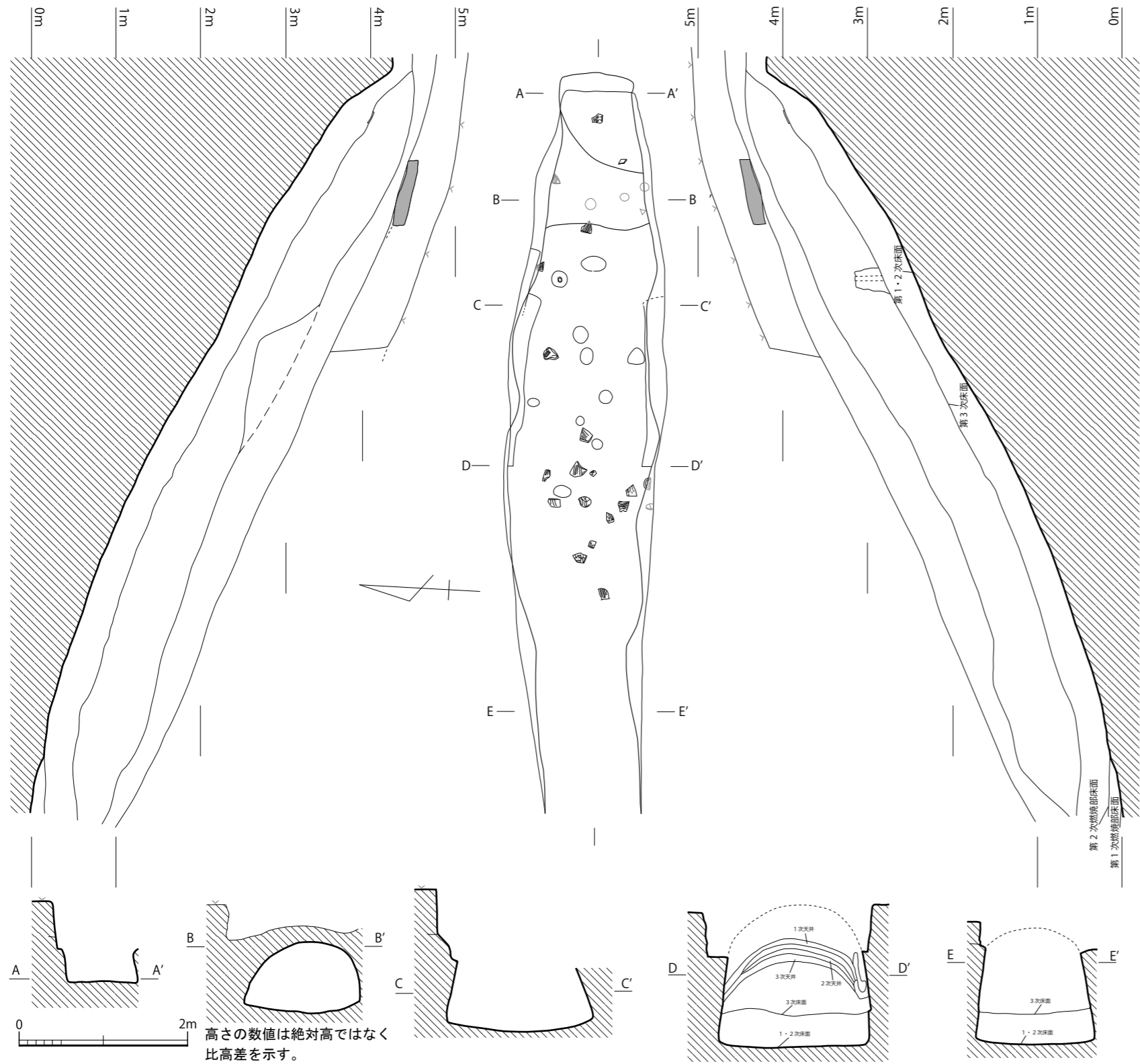
なお、平成 24 年には大野城市教育委員会が同じ地点で調査を実施し、上部が削平された状態ではあるが、昭和 44 年調査の痕跡を確認した。この際の調査は当初操業面まで面的に調査を行い、1 号窯で 4 面の操業面を確認している。以下では、基本的に昭和 44 年時の調査所見について記述し、平成 24 年度の調査所見については、大野城市文化財調査報告書第 158 集を参照いただきたい。



第 2 図 乙金窯跡調査地点位置図 (1/7, 500)



第3図 乙金窯跡遺構配置図 (1/400)



第4図 乙金窯跡1号窯跡実測図 (1/60)

2. 1 号窯跡

(1) 窯の構造 (第4図、図版1～3)

地下式窖窯である。焼成部から燃焼部にかけての8.7mを検出し、全長は7.3mである。窯尻部側は一部天井部が遺存し、焼成部奥壁は煙道に接続すると考えられる立ち上がりがある。焚口部側の幅は1.2m、焼成部最大幅は1.9m、奥壁側の幅は0.9mで、平面は胴張形を呈する。窯の主軸方位はN-82°-Eである。調査は最終操業面のみを面的に実施しており、基本的には最終操業面の所見についての記述になるが、一部トレンチ調査で土層観察により複数の操業面を確認している。

なお、昭和44年調査時には操業面が3面あると認識されていたが、平成24年調査時では土層観察により4面との所見が示された。

【焚口部・燃焼部】 焚口部の構造は明確ではないが、焚口下層出土とした遺物が1点ある。燃焼部の構造も不明確な点が多い。2次操業面の床面は検出した窯体南端部から奥壁側の0.8mほどの範囲が平坦となっており、この付近が燃焼部と想定される。床面の幅は1.2mで、当初操業面(1次)ではこの範囲が緩やかな窪みとなっている。また、最終操業面(3次)では、窯体南端部から奥壁側へ1.4mほどの範囲に緩やかな窪みがある。燃焼部で検出した遺物はない。

【焼成部】 最終操業面(3次)で長さ7.1m、最大幅は1・2次操業面で1.7m、最終操業面で1.9mである。奥壁側では一部アーチ状を呈する天井部が遺存し、最終操業面からの高さは0.8～1.0mである。床面の傾斜角度は25～28度で、床面上には直径0.1～0.2mほどの小さな窪みや甕の破片が複数検出されており、焼き台と考えられる。

遺物は焼き台に使用した須恵器甕片のほか、蓋杯・高杯などが出土した。

【煙道部】 煙道部の構造は不明であるが、奥壁側では急激な立ち上がりが認められ、煙道へと接続するものと考えられる。出土遺物はない。

【灰原】 トレンチ調査のみであり、規模・構造の把握はしていない。遺物は「捨て場」「ステバ」として取り上げており、須恵器蓋杯・高杯・甕・皿状製品などが出土した。

(2) 出土遺物

【焼成部 (第5図)】

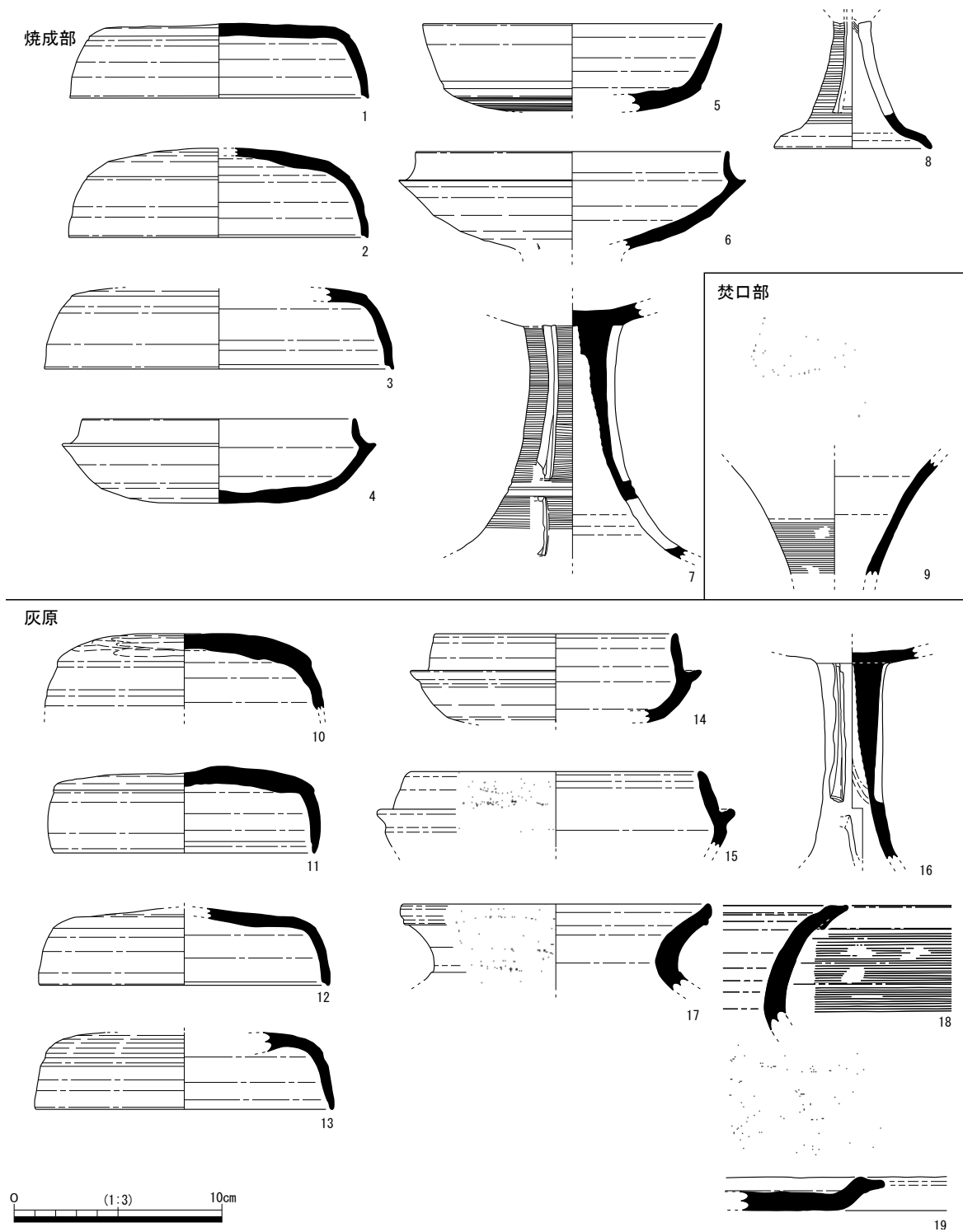
須恵器 (1～8) 1～3は杯H蓋で、口縁部と体部の境に浅い段があり、口縁端部に沈線状の段を有する。1は外面に、2は内面にワラ状の圧痕がある。4は杯H身で、口縁部は直立気味に立ち上がる。5は無蓋高杯の杯部で、外面にカキメを施す。6は有蓋高杯の杯部で、杯部付根に透かしの痕跡がある。7は長脚2段透かしの高杯で、上段は未貫通、下段は貫通する。内面にワラ状の圧痕がある。8は高杯脚部で、3方向に貫通する1段透かしを有する。7・8ともに外面にカキメを施す。

【焚口部 (第5図)】

須恵器 (9) 甕の頸部片である。上半部に櫛描波状文、下半部にカキメを施す。

【灰原 (第5図)】

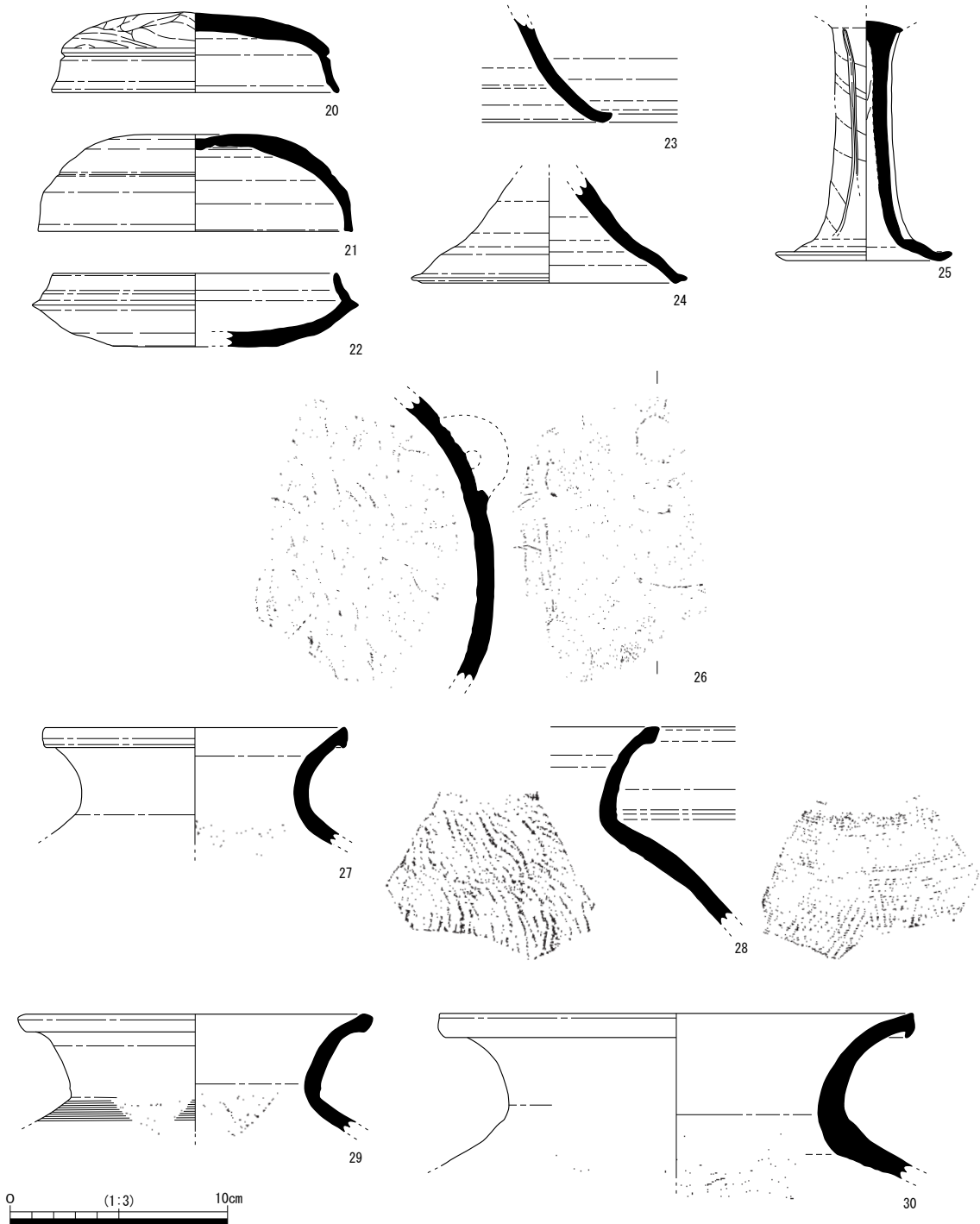
須恵器 (10～19) 10～13は杯H蓋である。いずれも天井部と口縁部の境に沈線が巡り、口縁端部に段もしくは浅い沈線を有する。天井部は10が手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリである。



第5図 1号窯跡出土遺物実測図① (1/3)

14・15は杯H身である。14は口縁部が直立、15は内傾する。14の底部は回転ヘラケズリである。16は長脚2段透かし高杯の脚部片である。透かしは3方向にあり、上段は未貫通、下段は貫通する。17・18は甕の口縁部片である。17は内外面ともに回転ナデで、外面に平行タタキの痕跡が残る。18は口縁端部外面が肥厚し、頸部外面にカキメを施す。19は皿状製品の破片である。内外面ともに指オサエの痕跡が顕著で、内面に当具痕が残る。

その他

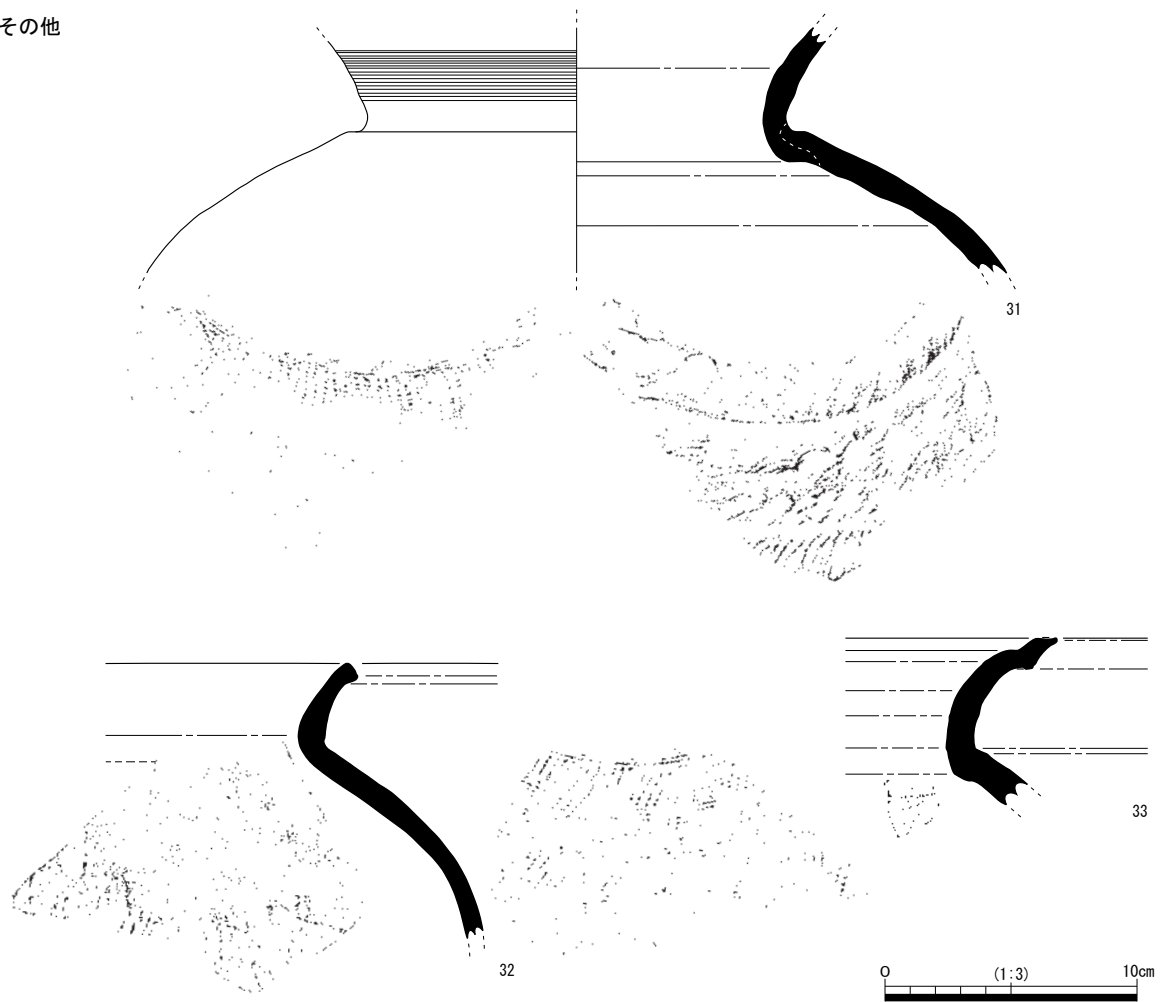


第6図 1号窯跡出土遺物実測図② (1/3)

【その他 (第6・7図)】

須恵器 (20～33) 20・21は杯H蓋である。いずれも口縁部と天井部の境に明確な沈線が巡る。20は口縁端部内面が凹面を成し、天井部は手持ちヘラケズリである。21は口縁端部が面を成し、天井部は回転ヘラケズリである。22は杯H身で、底部は回転ヘラケズリである。23～25は高杯の脚部片で、いずれも脚裾端部を外方につまみ上げる。25は3方向に未貫通の透かしを有する。26は提瓶の体部片で、肩部に環状把手を有する。タタキ成形で、内面に同心円当具痕、外面に平行タ

その他



第7図 1号窯跡出土遺物実測図③ (1/3)

タキが残り、外面を回転ヘラケズリとカキメで仕上げる。27～30は甕の口頸部片である。いずれもタタキ成形で、内面に同心円当具痕が残る。28～30は外面に平行タタキが残り、カキメで仕上げる。31～33は甕である。31・32は内面に同心円当具痕、外面に平行タタキが残り、カキメで仕上げる。33は口縁部が受口状を呈する。

(3) 小結

1号窯は全長7.3mの地下式窖窯である。平面胴張プランで、一部アーチ状を呈する天井部を確認した。操業時期は出土遺物よりⅢA～ⅢB期古段階で、最終操業面の焼成部から出土した須恵器より、ⅢB期古段階で操業を終了したものと考えられる。

3. 2号窯跡

(1) 窯の構造 (第9図、図版1・2・4)

2号窯は1号窯の南東側5mの地点に位置する。地下式窖窯で、焼成部から燃焼部にかけて8.5mを検出し、全長7.4mである。窯尻部側は一部天井部が遺存し、焼成部奥壁側の床面中央には、煙道に接続すると考えられる溝状の掘り込みおよび立ち上がりがある。焚口部側の幅は1.3m、焼成部最大幅は2.0m、奥壁側の幅は1.4mで、平面は胴張形を呈する。窯の主軸方位はN-58° 50′ -Eである。調査は最終操業面のみを面的に実施し、一部トレンチ調査で3次にわたる操業面を確認した。

【焚口部・燃焼部】 焚口部の構造は不明であるが、焚口部出土遺物として杯H身、壺蓋、甕などが取り上げられている。燃焼部の構造も不明な点が多いが、1・2・3次ともに検出した窯体南端部から奥壁側へ1.5mほどの範囲の床面が平坦もしくは緩やかに窪む部分があり、この付近が燃焼部と想定される。床面の幅は1.2～1.5mである。須恵器蓋杯・壺・甕などが出土した。

【焼成部】 長さ6.9m、中央付近の幅は1次操業面で1.7m、2・3次操業面で1.9mであり、床面幅を拡幅していることが分かる。1・2次それぞれの床面上には、窯体の崩落土（焼土混じり）があり、順次補修・嵩上げしながら操業を行ったことを示す。奥壁側ではアーチ状を呈する天井部が一部遺存し、最終操業面からの高さは0.9mほどである。床面の傾斜角度は25度ほどで、床面上には甕の破片が複数検出されており、焼き台と考えられる。また、焼成部右側の床面には幅0.2mほどの溝状の落ち込みが表現されているが、詳細は不明である。

遺物は蓋杯や焼き台に使用した須恵器甕片が出土した。また、「窯尻」出土として取り上げられた直口壺・提瓶・甕などもあるが、これらも焼成部に帰属するものであろう。

【煙道部】 奥壁に接して、床面中央に幅0.3m、深さ0.15mの溝状の落ち込みが長さ0.5mにわたりのびており、煙道へと連なるものであろう。奥壁は直立して立ち上がる。出土遺物はない。

【灰原】 トレンチ調査のみであり、規模・構造の把握はしていない。遺物は「捨て場」「ステバ」として取り上げており、須恵器蓋杯・甕などが出土した。

(2) 出土遺物

【焼成部 (第8図)】

須恵器 (34～41) 34～38は杯H蓋である。いずれも口縁部と天井部の境に沈線もしくは段が巡り、口縁端部に沈線が巡る。天井部は回転ヘラケズリで、35は内面に同心円当具痕、外面にヘラ記号を有する。39は杯H身で、外面にヘラ記号を有する。40は小型の壺で、口縁部は短く外反する。41は甕の口縁部片で、外面にカキメと櫛描波状文を施す。

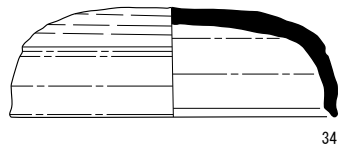
【焚口部 (第8図)】

須恵器 (42～44) 42は杯H蓋で、内面に当具痕が残る。43は杯H身である。底部は回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有する。44は甕の口縁部片で、口縁端部と口縁直下に櫛描波状文を施す。

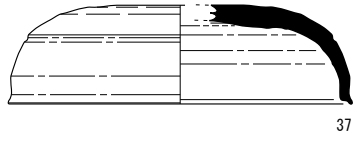
【燃焼部 (第8図)】

須恵器 (45～51) 45～49は杯H蓋である。いずれも天井部は回転ヘラケズリで、口縁端部は

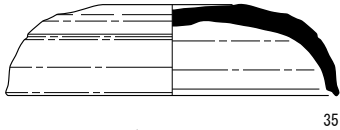
焼成部



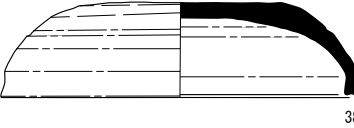
34



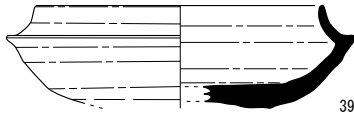
37



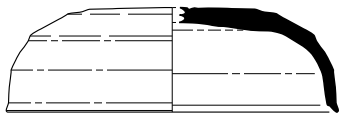
35



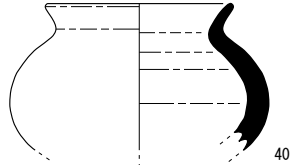
38



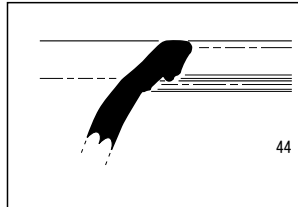
39



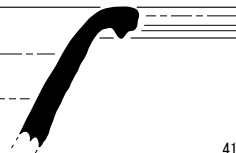
36



40

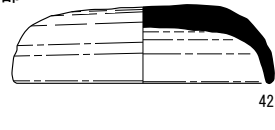


44

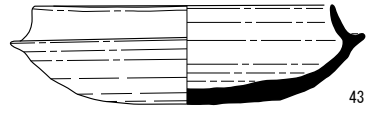


41

焚口部

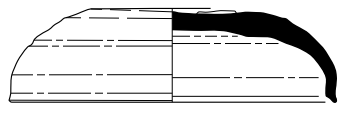


42

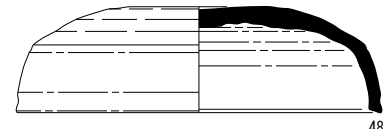


43

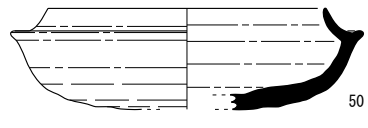
燃烧部



45



48



50



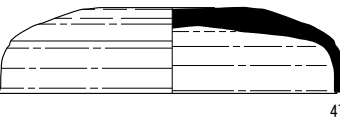
46



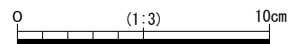
49



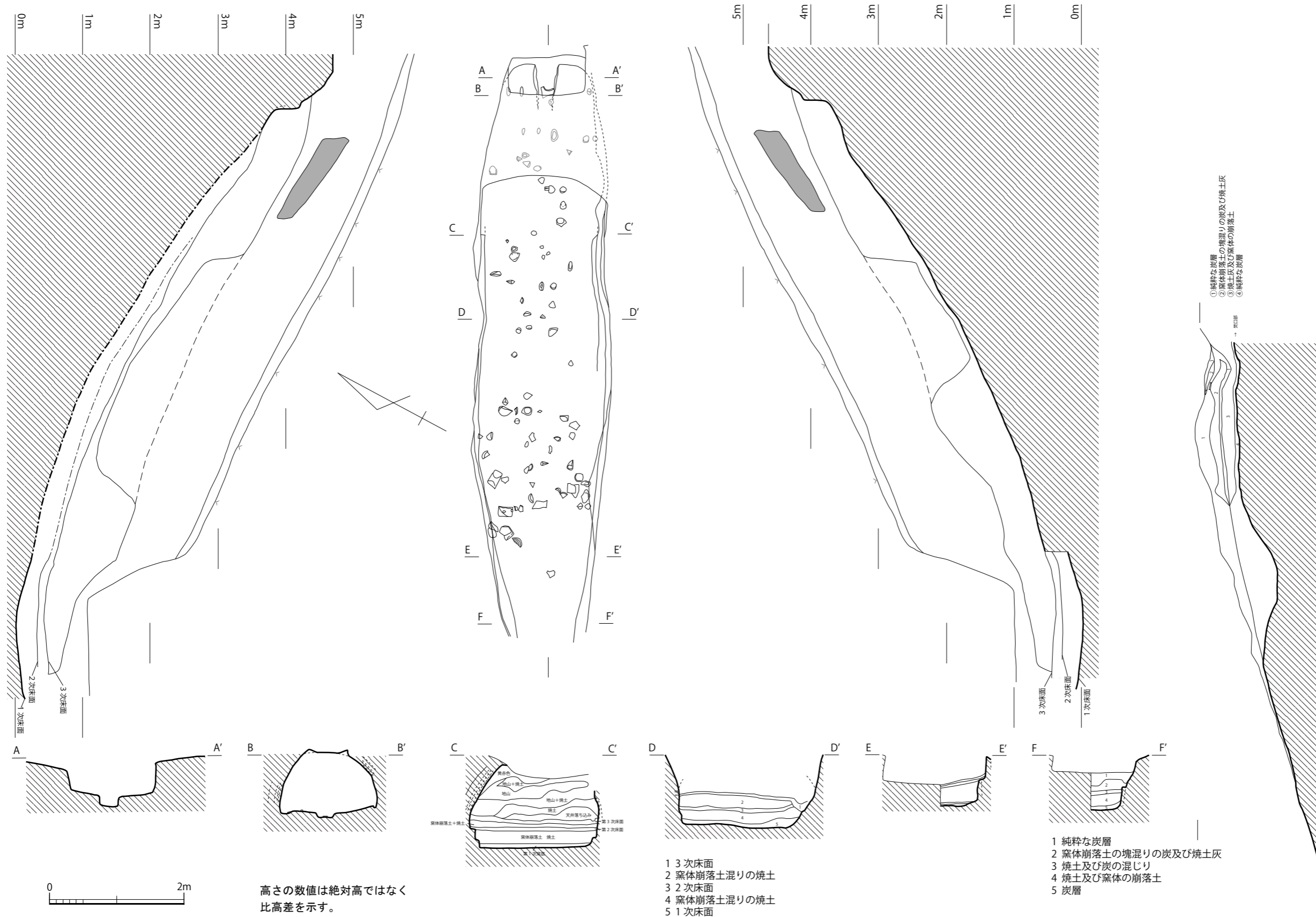
51



47

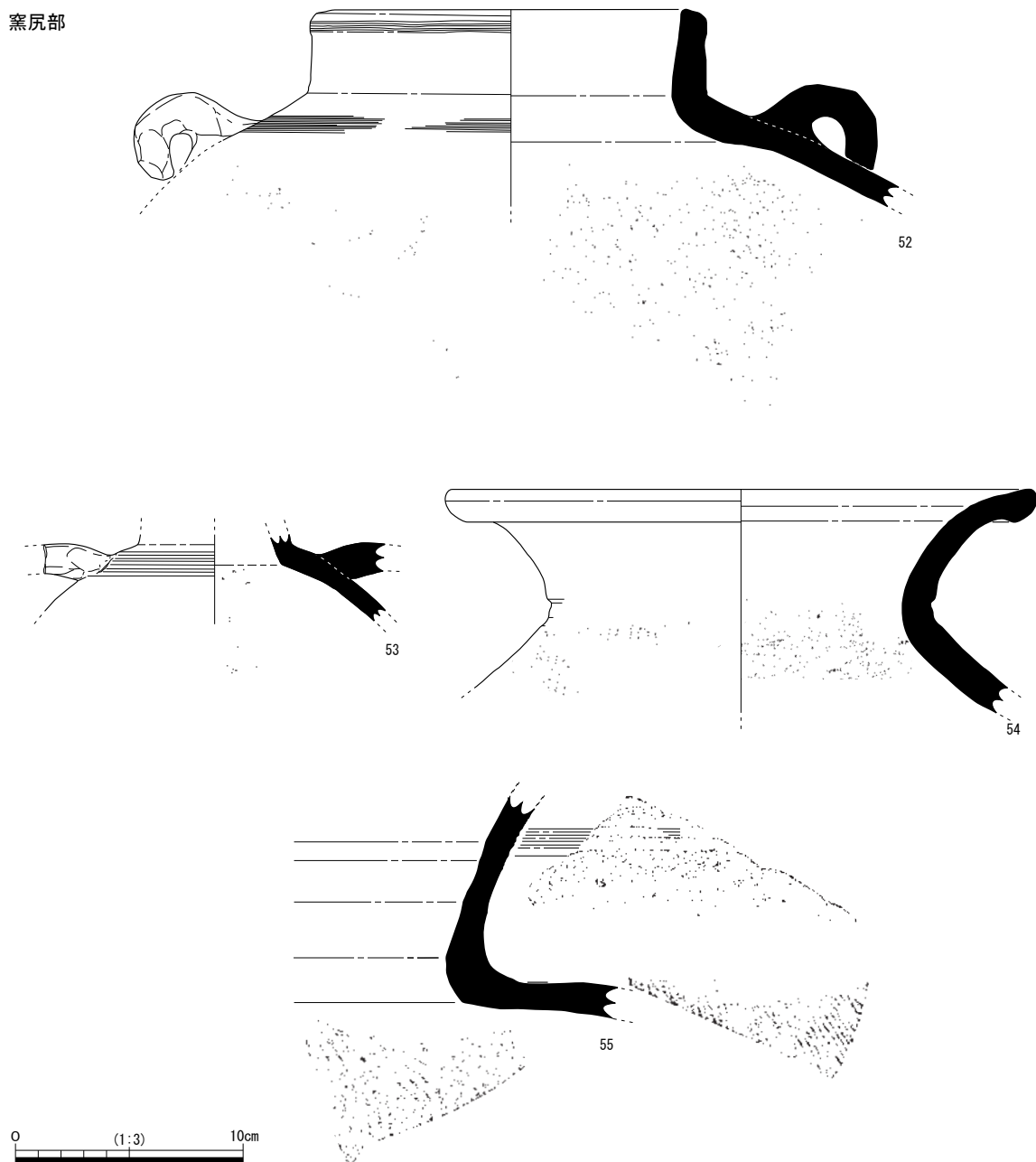


第8图 2号窯跡出土遺物実測图① (1/3)



第9図 乙金窯跡2号窯跡実測図 (1/60)

窯尻部



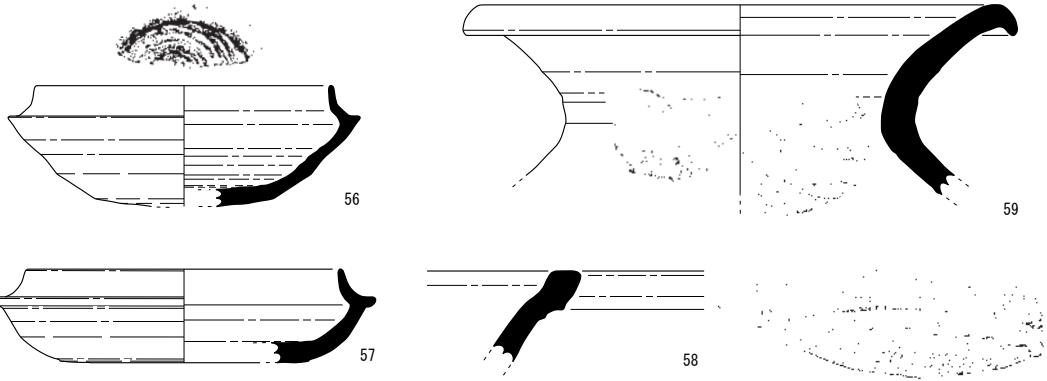
第10図 2号窯跡出土遺物実測図② (1/3)

沈線状もしくは面を成す。45・48・49は内面に同心円当具痕が残る。50・51は杯H身である。いずれも底部は回転ヘラケズリで、51は内面に同心円当具痕が残る。

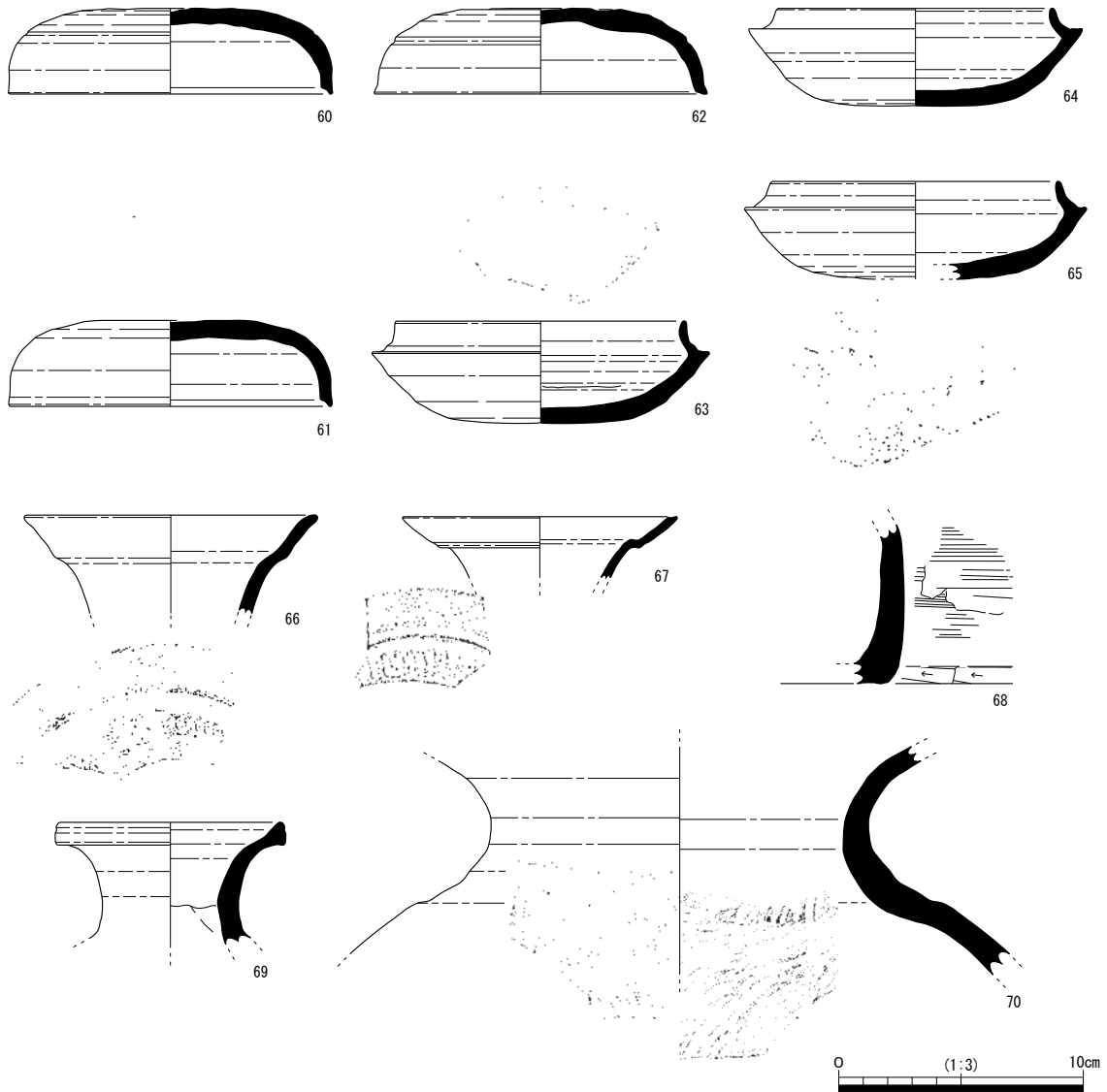
【窯尻部 (第10図)】

須恵器 (52～55) 52は両耳付の直口壺である。口縁部は直立して短く立ち上がり、口縁端部は面を成す。肩部の2ヶ所に環状把手を有し、外面は平行タタキ、内面は同心円当具痕が残る。肩部及び口縁部の一部にカキメを施す。53は提瓶の肩部片である。把手は部分的に欠損するが、環状を呈するものであろう。肩部外面にカキメを施し、内面に当具痕が残る。54・55は甕の口頸部片である。54は外面には平行タタキ、内面には当具痕が残る。55は頸部を沈線で区画し、上下に櫛描波状文を施す。

灰原



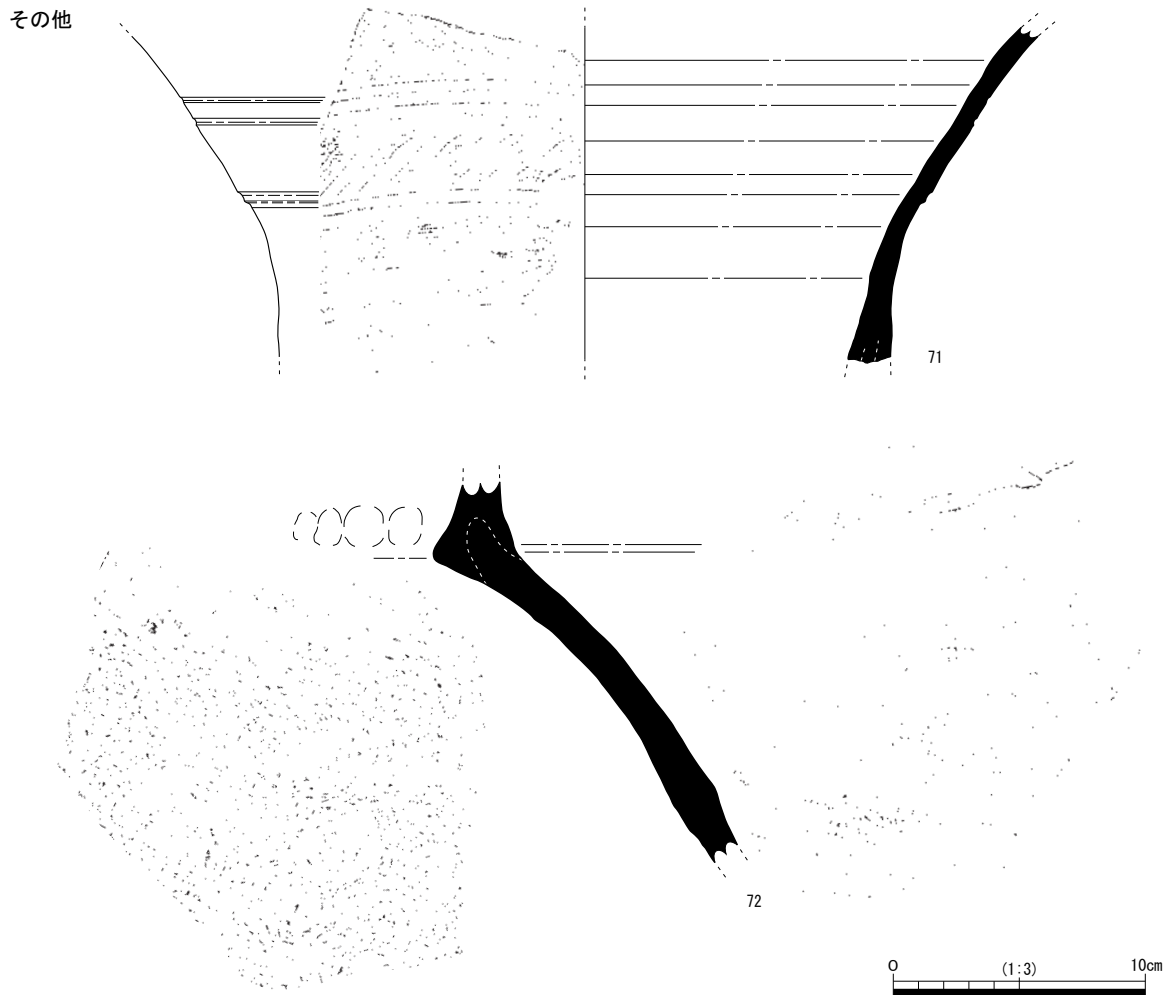
その他



第 11 図 2 号窯跡出土遺物実測図③ (1/3)

【灰原 (第 11 図)】

須恵器 (56～59) 56・57 は杯 H 身で、底部は回転ヘラケズリ、56 の内面には同心円当具痕が残る。58・59 は甕の口縁部片である。58 は口縁端部の断面が方形を呈し、楕描波状文を施す。59 は口縁端部が外傾し、外面に平行タタキ、内面に当具痕が残る。



第12図 2号窯跡出土遺物実測図④ (1/3)

【その他 (第11・12図)】

須恵器 (60～72) 60～62は杯H蓋である。いずれも口縁端部は沈線もしくは面を成し、60・62は天井部と口縁部の境に沈線が巡る。天井部は回転ヘラケズリで、60の内面には当具痕が残る。63～65は杯H身で、いずれも底部は回転ヘラケズリである。65は底部にヘラ記号を有し、63は内面に当具痕が残る。66・67は壺の口頸部片で、頸部外面に櫛描波状文を施す。67は口縁端部が面を成し、口縁部と頸部の境には水平面を有する。68は瓶類の底部片である。体部外面はカキメで、底部と体部の境にヘラケズリを施す。内面には当具痕が残る。69は口縁部片で、小型甕もしくは壺であろう。70～72は甕である。70の外面は平行タタキ後カキメ、内面には当具痕が残る。71は頸部に櫛描波状文、斜線文、カキメを施す。頸部・体部接合面は擬口縁状を呈する。72は肩部の破片で、体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円当具痕が残る。頸部内面の付け根に指オサエ痕が顕著に残る。

(3) 小結

2号窯は残存長7.4mの地下式窖窯である。平面胴張形で、一部アーチ状を呈する天井部を確認した。操業時期は出土遺物よりⅢA～ⅢB期古段階で、最終操業面の焼成部から出土した須恵器より、ⅢB期古段階で操業を終了したものと考えられる。

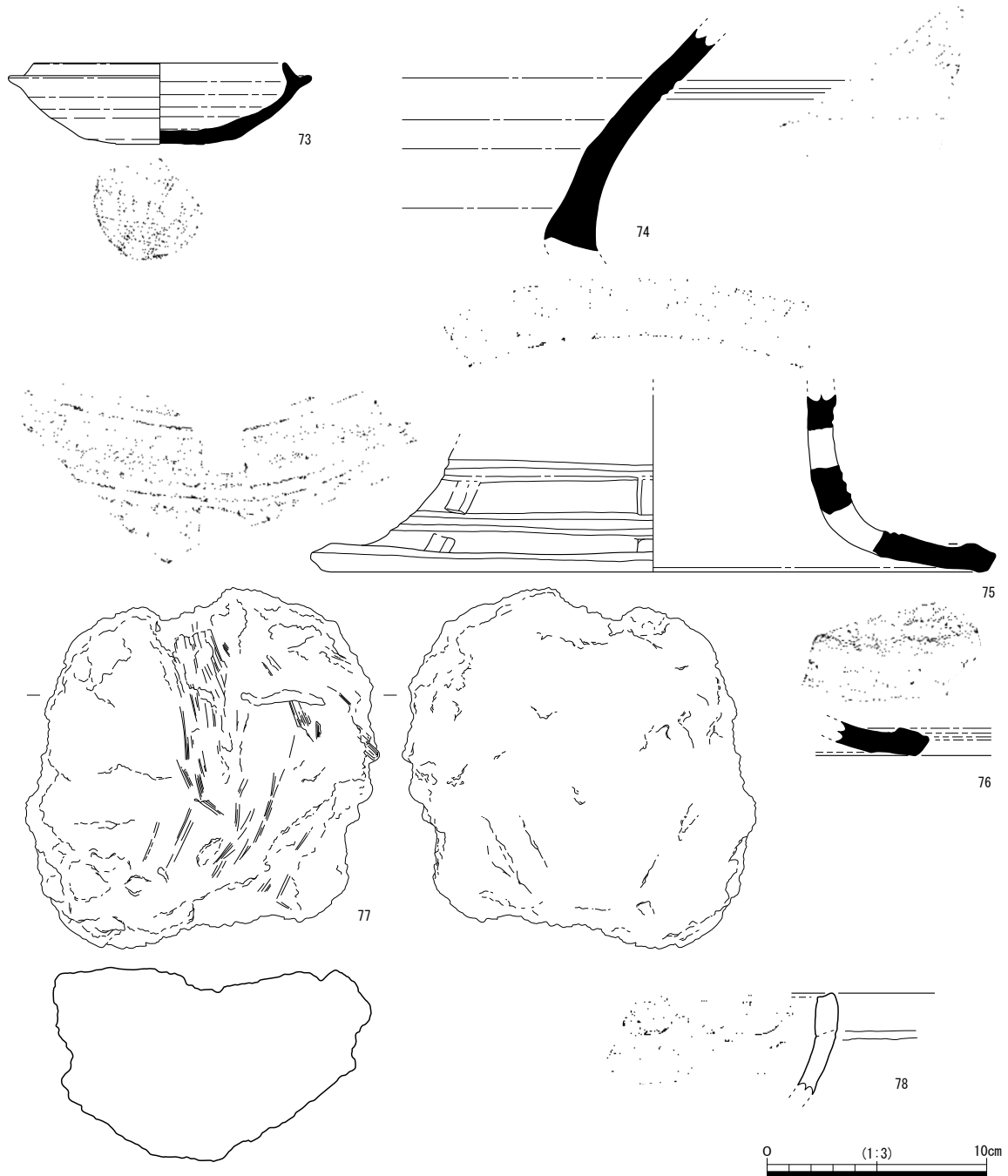
4. 出土地点不明遺物

出土遺物 (第13図)

須恵器 (73～76) 73は杯H身である。底部は回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有し、内面に当具痕が残る。74は甕の頸部片で外面に斜線文を施す。頸部・体部接合面は擬口縁状を呈し、接合のための刻目がある。75・76は器台の脚部片で、接合しないが同一個体の可能性がある。大きく歪むため、本来の傾きは不明だが、裾部は大きく広がる。裾端部は面を成し上面は肥厚する。沈線により区画した内部に楕円波状文を施し、上下に直列した長方形の透かしを有する。

土製品 (77) 焼成粘土塊で、窯壁の一部であろう。スサを混入する。

縄文土器 (78) 浅鉢で、内外面ともにナデである。



第13図 乙金窯跡出土地点不明遺物実測図 (1/3)

IV. 東浦窯跡群

1. 調査の概要

東浦窯跡群は大野城市の南部（大野城市南ヶ丘5丁目）に所在する。牛頸山（標高 447 m）の北麓に位置し、窯跡は北西側にのびる丘陵の南から西側斜面に構築される。

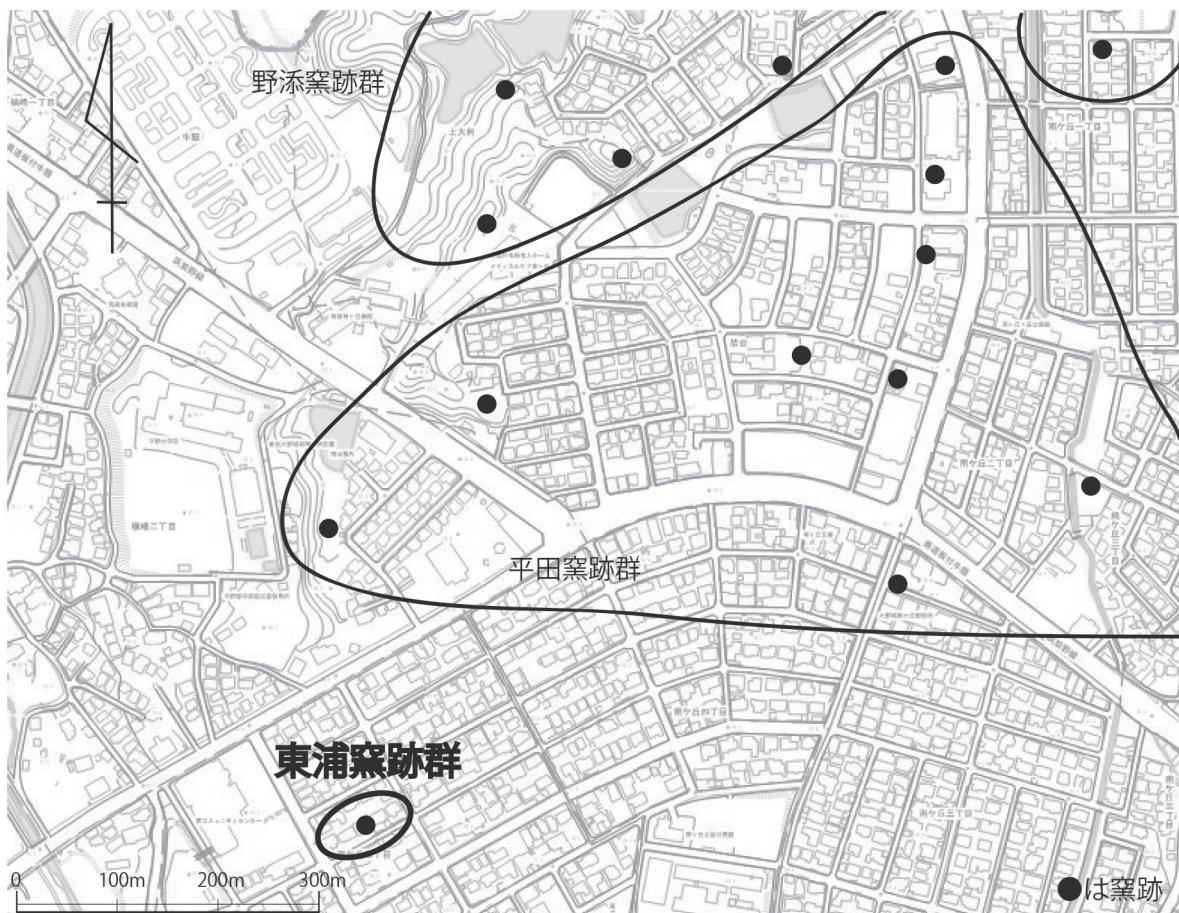
国土館大学による昭和 43 年の調査で、3 基の窯跡が確認され、それぞれ東側を 1 号窯、西側を 2 号窯、中央を 3 号窯として調査を実施した。出土遺物は須恵器が大半で、パンケース 23 箱分が出土した。

以下では、昭和 43 年調査時の図面・写真を基に事実関係を記述するとともに、出土遺物について報告する。

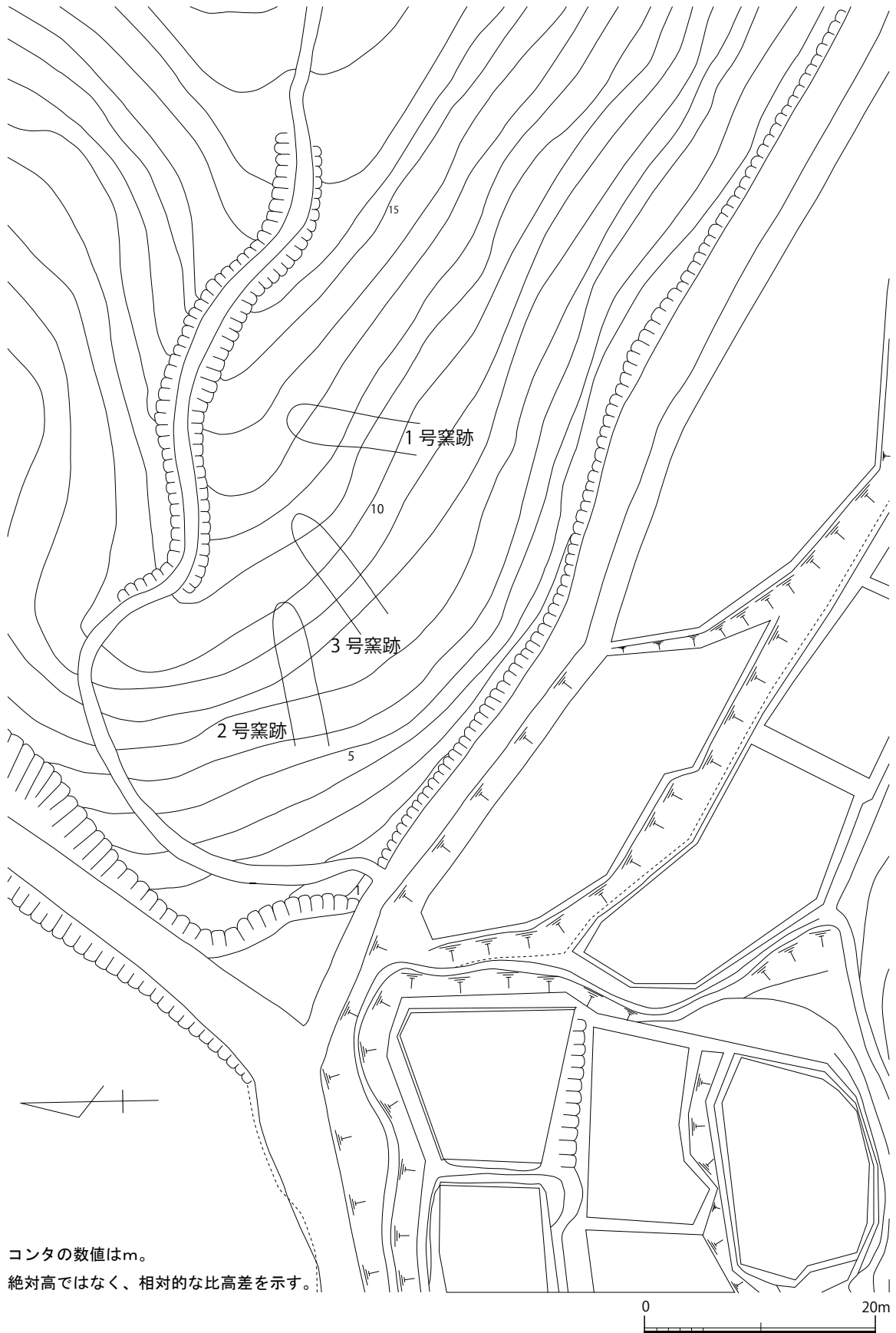
2. 1 号窯跡

(1) 窯の構造（第 16 図、図版 5～8・20）

地下式窖窯である。燃烧部から窯尻部まで 14 m を検出した。燃烧部・窯尻部の絞り込みはなく、平面寸胴形を呈し、全長 8.9 m である。燃烧部付近と煙道部は一部天井部が遺存し、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯である。窯の主軸方位は N-14° -W である。調査の結果、2 次にあたる作業面を確認した。

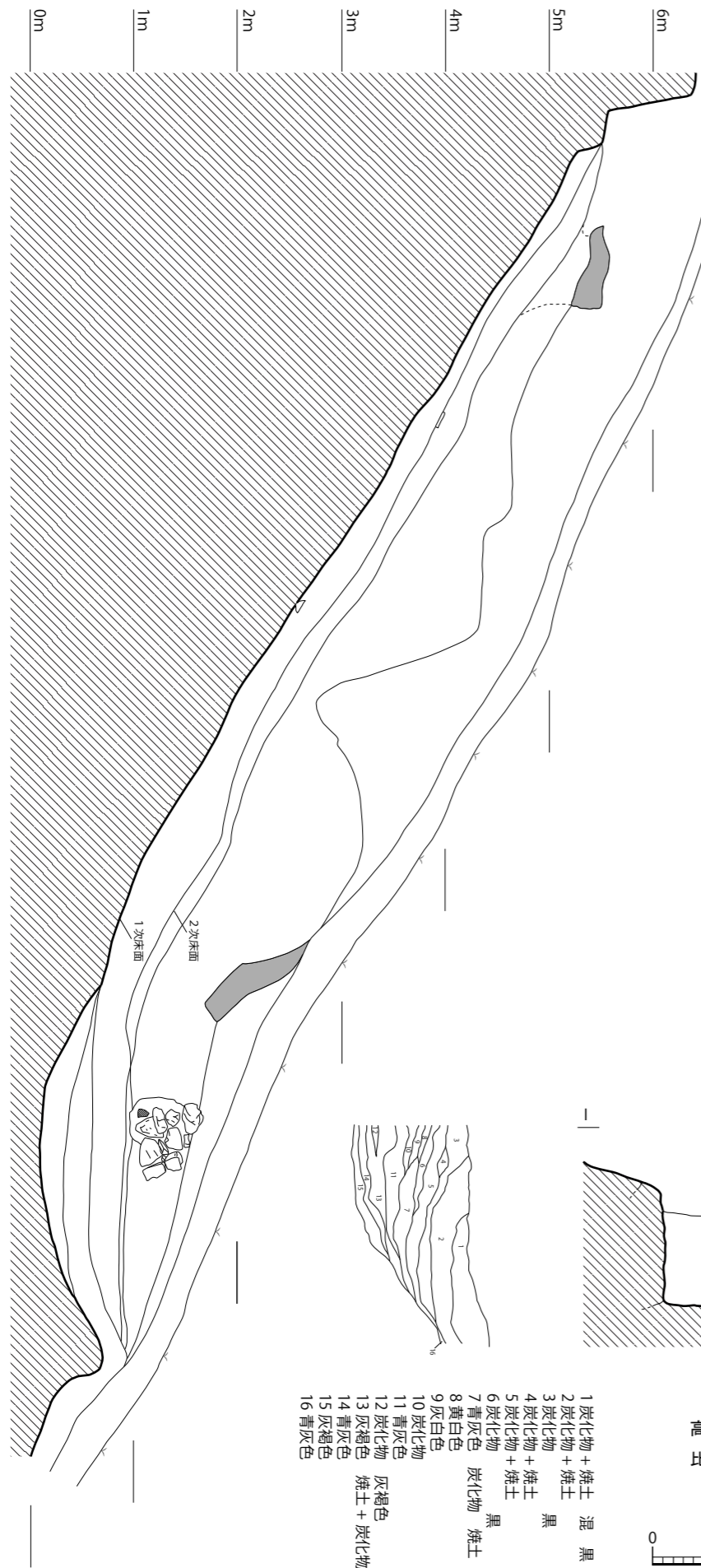


第 14 図 東浦窯跡群調査地点位置図 (1/7, 500)



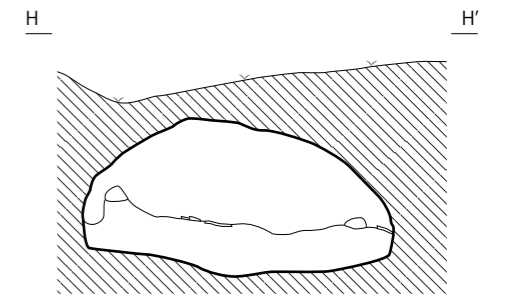
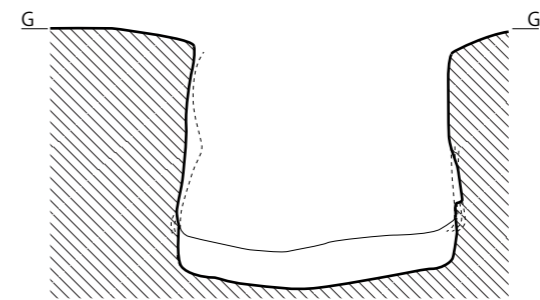
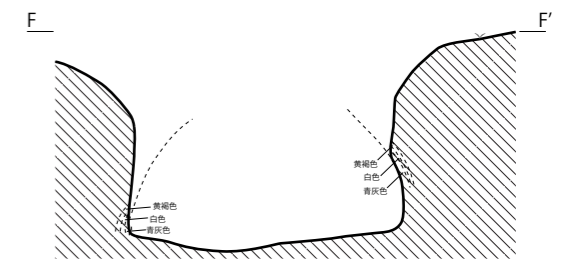
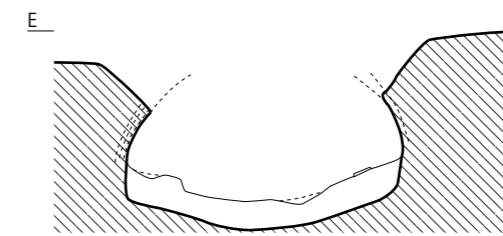
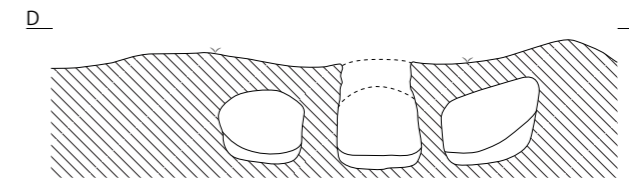
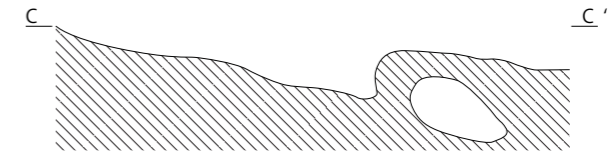
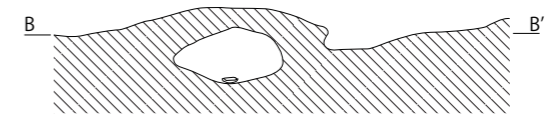
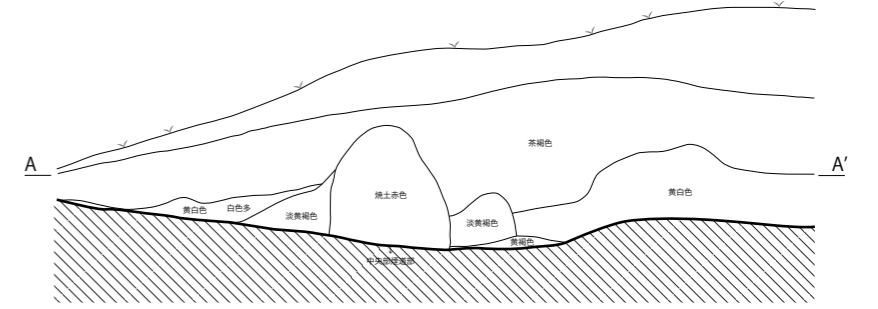
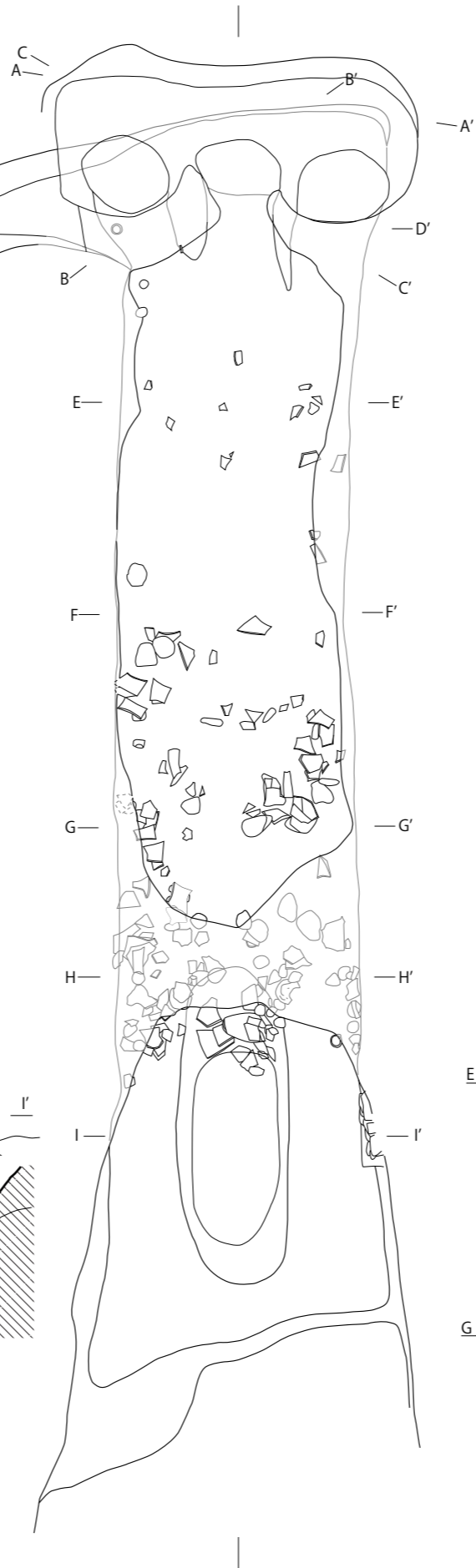
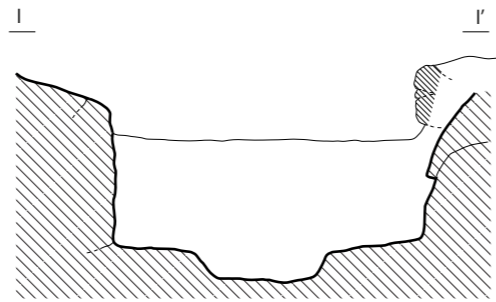
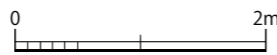
コンタの数值はm。
絶対高ではなく、相対的な比高差を示す。

第15図 東浦窯跡群遺構配置図 (1/500)



- 1 炭化物 + 焼土 黒
- 2 炭化物 + 焼土 黒
- 3 炭化物 黒
- 4 炭化物 + 焼土 黒
- 5 炭化物 + 焼土 黒
- 6 炭化物 黒
- 7 青灰色 炭化物
- 8 黄白色 炭化物
- 9 灰白色 炭化物
- 10 青灰色 炭化物
- 11 炭化物 灰褐色
- 12 炭化物 灰褐色
- 13 炭褐色 灰褐色
- 14 青灰色 灰褐色
- 15 炭褐色 灰褐色
- 16 青灰色 灰褐色

高さの数値は絶対高ではなく
比高差を示す。



第16図 東浦窯跡群1号窯跡東側図 (1/60)

【焚口部・燃焼部】 現状で長さ 3.6 m、幅は焼成部側で 2.2 m、焚口部側で 3.3 mで、やや開き気味となる。当初操業面の床面（もしくは床面下）には、長さ 3 m、幅 1.1 m、深さ 0.5 mの舟底状ピットがある。最終操業面の床面は平坦である。なお、右壁には壁体に埋め込まれるように石組がある。拳大から人頭大の礫を使用し、長さ 0.6 m、高さ 0.6 mの範囲で石組を行い、小礫や窯壁片で目詰めする。石組下端が最終操業時の床面と同一であることから、窯体の補修に伴うものと考えられる。燃焼部から焚口部にかけては縦断土層図を作成しており、16層に分層される。基本的には炭化物・焼土を含む土層で、自然堆積の状況を示す。焚口部出土として取り上げられた土器は多くあり、完形品を含む須恵器蓋杯・高杯などがある。これらの出土状況の詳細は不明であるが、平面図で燃焼部と焼成部の境に、蓋杯類と考えられる図が示されており、写真でも確認できることからこれに該当する可能性がある。本来的には最終操業面の焼成部に伴うものであろうか。

【焼成部】 長さ約 7.0 m、最大幅は 2.3 mである。燃焼部との境にはアーチ状を呈する天井部が遺存し、最終操業面からの高さは 0.7～0.9 mである。床面の傾斜角度はおおむね 30度で、中央から下部にかけての床面上には、焼き台や甕の破片が密集して検出されたほか、先述したとおり完形品に近い蓋杯類が出土した。

【煙道部】 3つの排煙口が横一列に並ぶ多孔式煙道で、一部、天井部が遺存し、奥壁までの水平長は約 1.6 mである。地山を掘り抜いたものか、粘土などで構築したものかは不明である。各排煙口の直径は 0.7～0.8 m程度である。

【溝】 煙道部の左側に溝が接続する。溝は北側に 1.6 mのびた後、西側に直角に折れ、3 mほど直線的にのびる。煙道部と接続する部分で上端幅 1.5 m、下端幅 1.0 m、深さは 0.3～0.4 mで、断面 U字形を呈する。遺物は須恵器杯 H 蓋が出土した。

【前庭部】 規模・構造は不明であるが、前庭部出土遺物として須恵器蓋杯・高杯・壺・甕などが取り上げられている。

【灰原】 詳細は不明であるが、遺物は須恵器蓋杯・高杯・平瓶・すり鉢などが出土した。

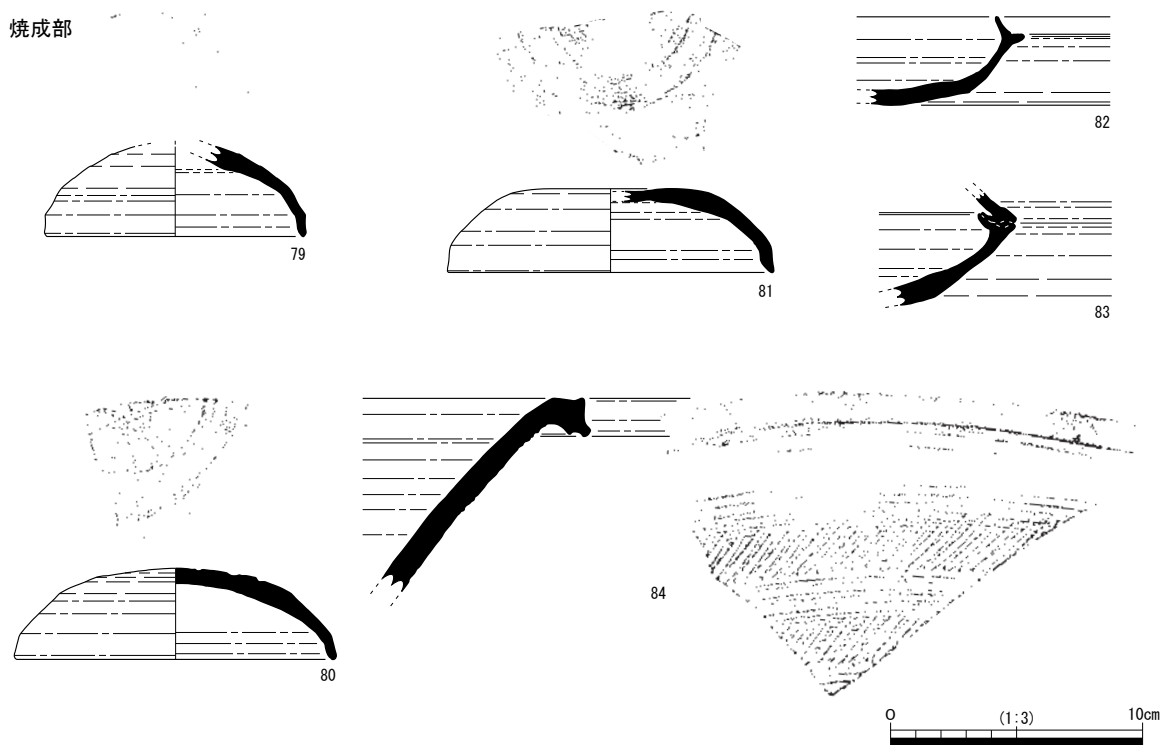
(2) 出土遺物

【焼成部 (第 17 図)】

須恵器 (79～84) 79～81 は杯 H 蓋で、天井部は回転ヘラケズリである。いずれも外面にヘラ記号を有する。82・83 は杯 H 身で、底部は回転ヘラケズリである。83 は口縁部に別個体が付着する。84 は甕の口縁部片である。外面を沈線で区画し、上下に連続斜線文を施す。

【焚口部 (第 18 図)】

須恵器 (85～113) 85～94、96～98 は杯 H 蓋である。口径はおおむね 12～13 cmである。いずれも天井部は回転ヘラケズリで、89・90・93 は外面にヘラ記号を有する。85・87・88・93・94 は天井部が丸みを帯び、内面に指頭痕が残る。これらは器高が高く、全体が丸みを帯びた形態であることが特徴で、東浦 2号窯の資料とも共通した様相である。95 は杯 B 蓋で、口縁部にカエリを有する。天井部は回転ヘラケズリである。99～111 は杯 H 身で、口径はおおむね 10～11 cmである。口縁部の立ち上がりは長短あるが、いずれも内傾する。底部は 102 が手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリである。99・102・103 は底部内面に指頭痕が残る。106・107 は外面にヘラ記号を有する。



第17図 1号窯跡出土遺物実測図①(1/3)

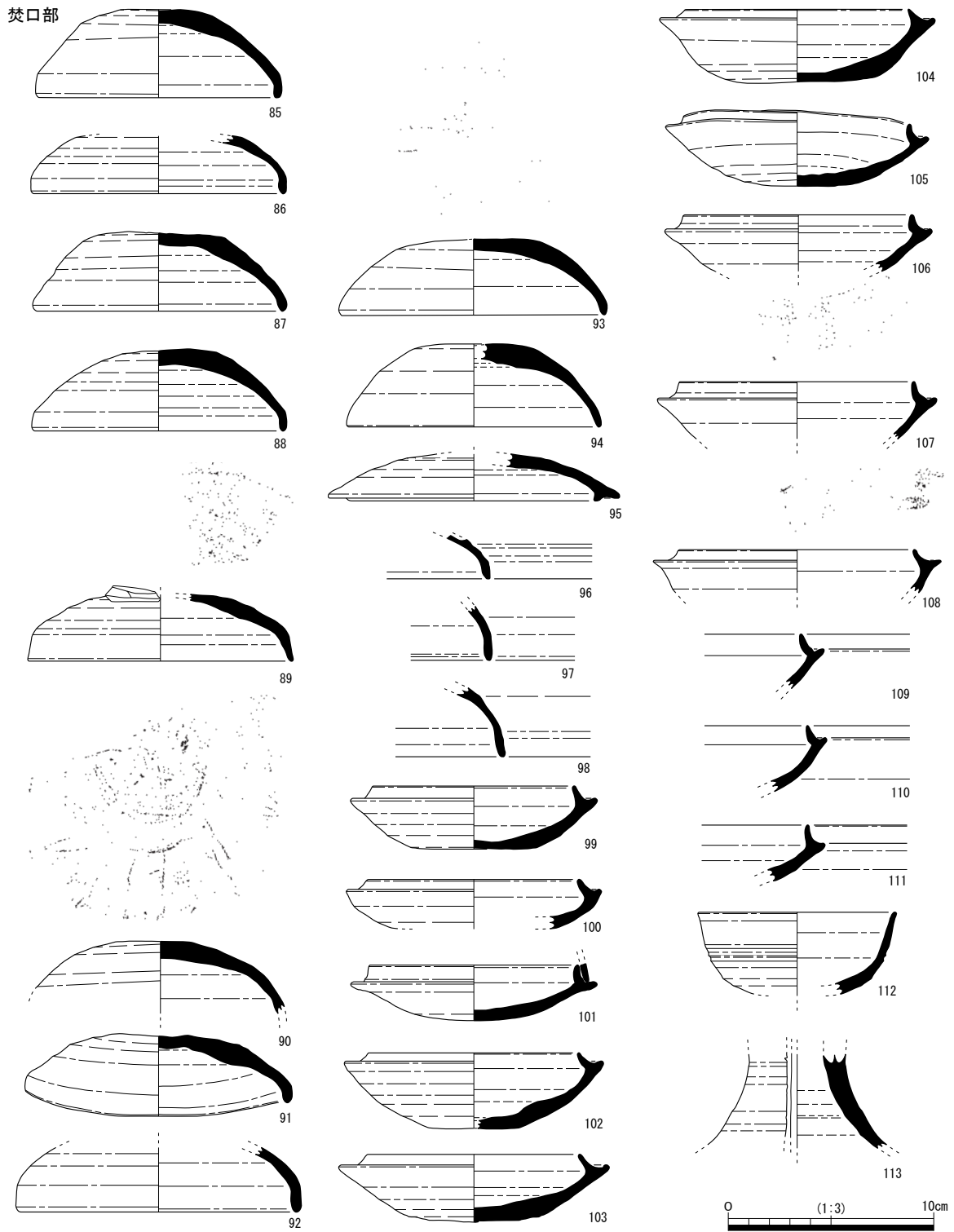
112は無蓋高杯の杯部片で、体部に2条の沈線が巡る。113は高杯の脚部片で、3ヶ所に貫通する透かしを有する。

【前庭部(第19図)】

須恵器(114～123) 114～116は杯H蓋である。口径12～13cmで、天井部はいずれも回転ヘラケズリである。114・116は天井部の内面に指頭痕が残り、天井部は丸みを帯び、外面にヘラ記号を有する。117は杯H身で、底部は回転ヘラケズリである。118・119は短脚高杯の脚部である。118は外面に沈線が巡り、119は内面にヘラ記号を有する。120・121は小型の壺である。120は口縁部が直立し、肩部にカキメを施す。121は口縁部が肥厚し、頸部は「く」字に屈曲する。体部は扁球形で、肩部に2条の沈線、最大径の位置にカキメを施す。122は壺の体部で、肩部に2条の沈線が巡る。123は大甕の口頸部片である。口縁部は肥厚し、端部を上方に跳ね上げる。外面を沈線で区画し、上下2段の波状文を施す。

【灰原(第20図)】

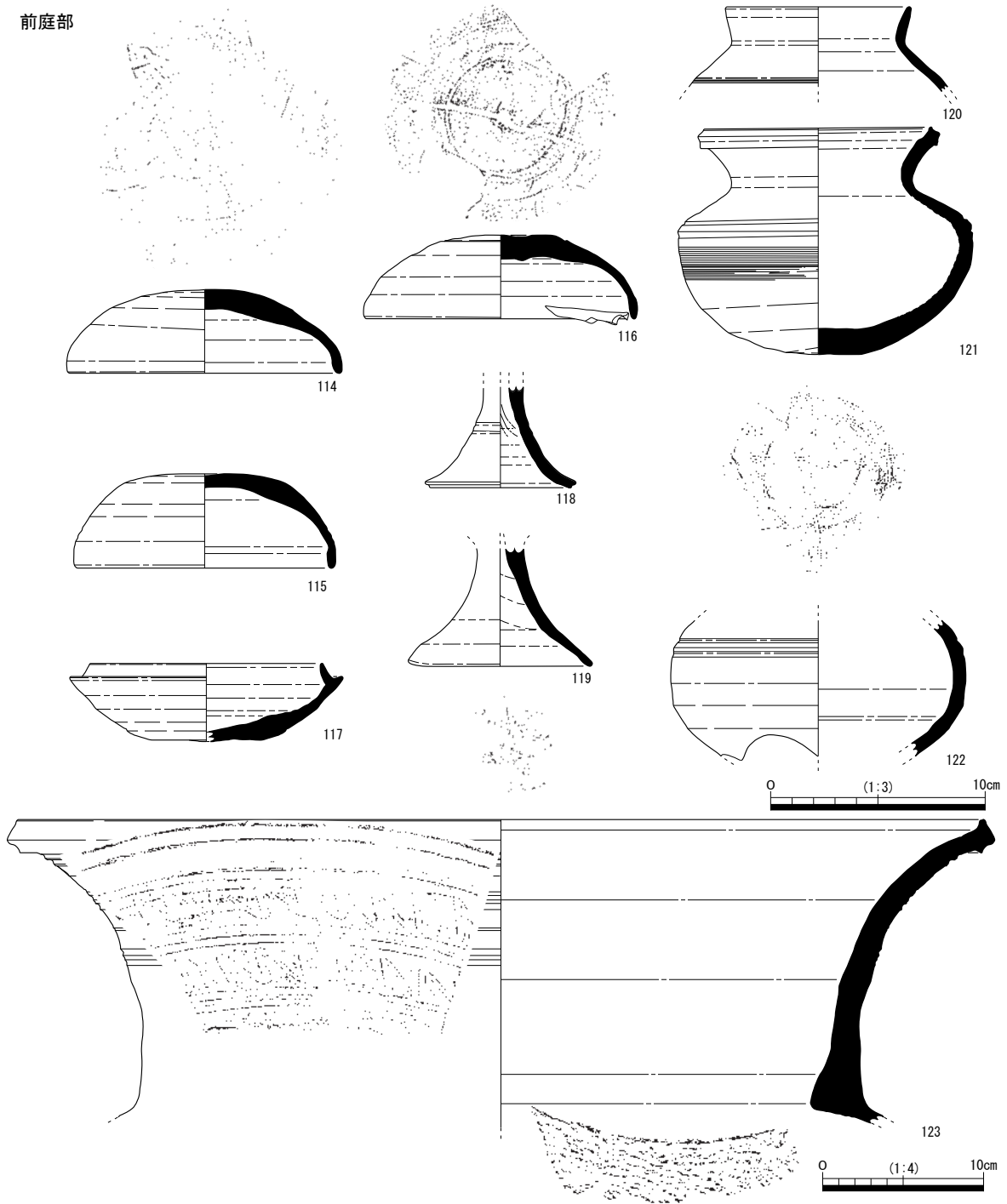
須恵器(124～133) 124・125は杯H蓋で、いずれも外面にヘラ記号を有する。天井部は124が回転ヘラケズリ、125が手持ちヘラケズリである。125は口縁端部内面に面を有し、天井部内面に指頭痕が残る。126・127は杯H身で、いずれも外面にヘラ記号を有し、底部は回転ヘラケズリである。立ち上がりは直立気味に短く立ち上がる。128・129は短脚高杯の杯部で、口縁部は外方へ直線的にのびる。128・129ともに杯部下半に沈線が巡り、129は底面にカキメを施す。130・131は椀である。130は平底の底部を手持ちヘラケズリで調整し、底部外面にヘラ記号を有する。131は口径14.0cmで、口縁部は直立して立ち上がり、下半に2条の突線が巡る。高台がつくものかもしれない。132は平瓶で、外面は底部付近のみ回転ヘラケズリ、他はカキメである。133はすり鉢(陶臼)で底部を欠く。



第18図 1号窯跡出土遺物実測図② (1/3)

体部は直線的に外方に開き、口縁端部は肥厚する。底部は外側に張り出すものであろう。外面に2条2単位の沈線が巡り、外面の全面にカキメを施す。

前庭部



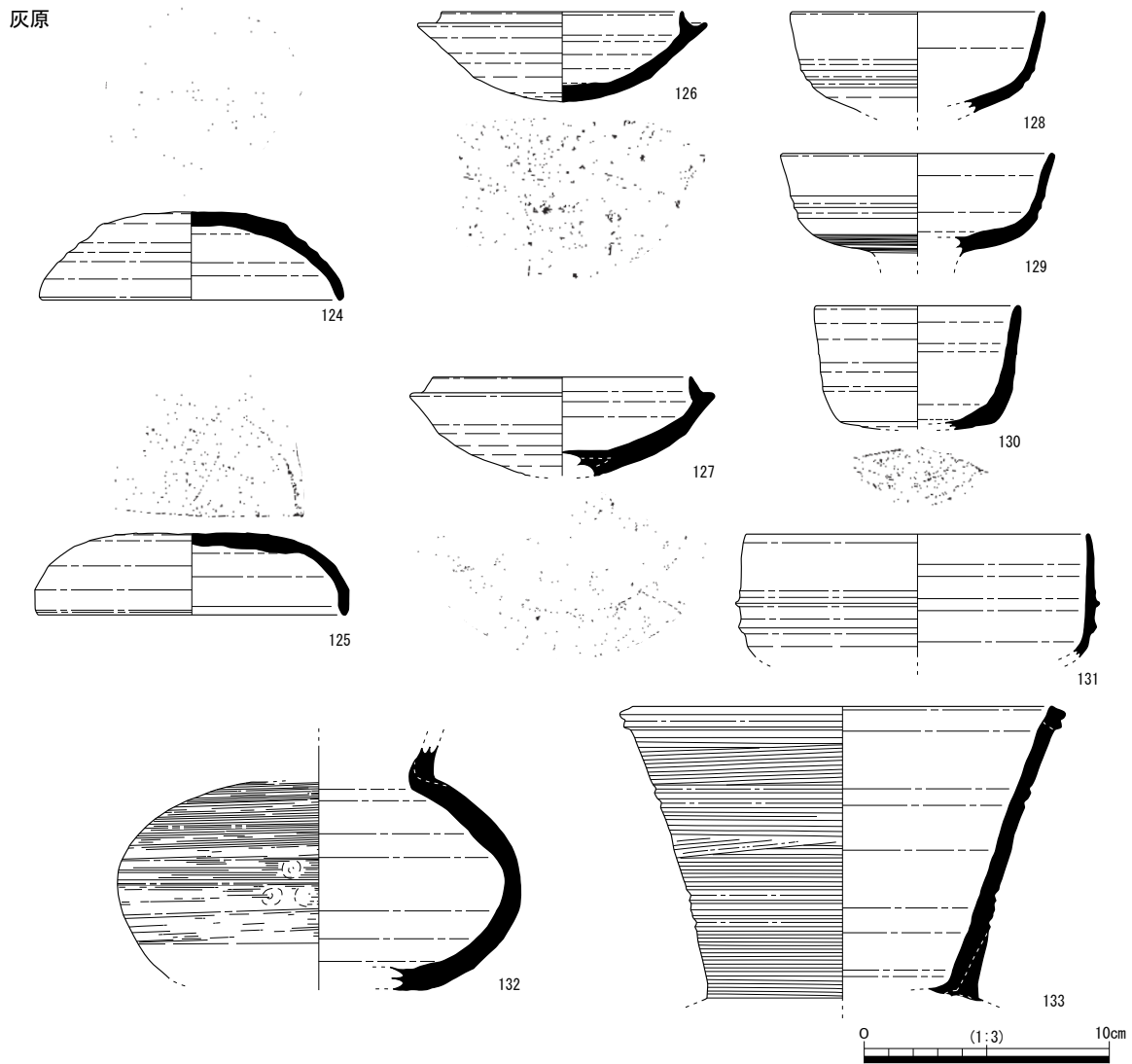
第19図 1号窯跡出土遺物実測図③ (1/3・1/4)

【溝 (第21図)】

須恵器 (134) 杯H蓋で、天井部に回転ヘラケズリを施す。

【トレンチ (第21図)】

須恵器 (135～145) 135・136は杯H蓋である。いずれも天井部は回転ヘラケズリ、外面にヘラ記号を有する。137～139は杯H身で、いずれも底部は回転ヘラケズリである。139は外面にヘラ記号を有する。140～142は高杯の脚部で、140・141は短脚、142は長脚である。140は内面にヘラ記号を有し、141は外面に2条の沈線を有する。142は外面にカキメを施す。143は平瓶で、肩部



第 20 図 1 号窯跡出土遺物実測図④ (1/3)

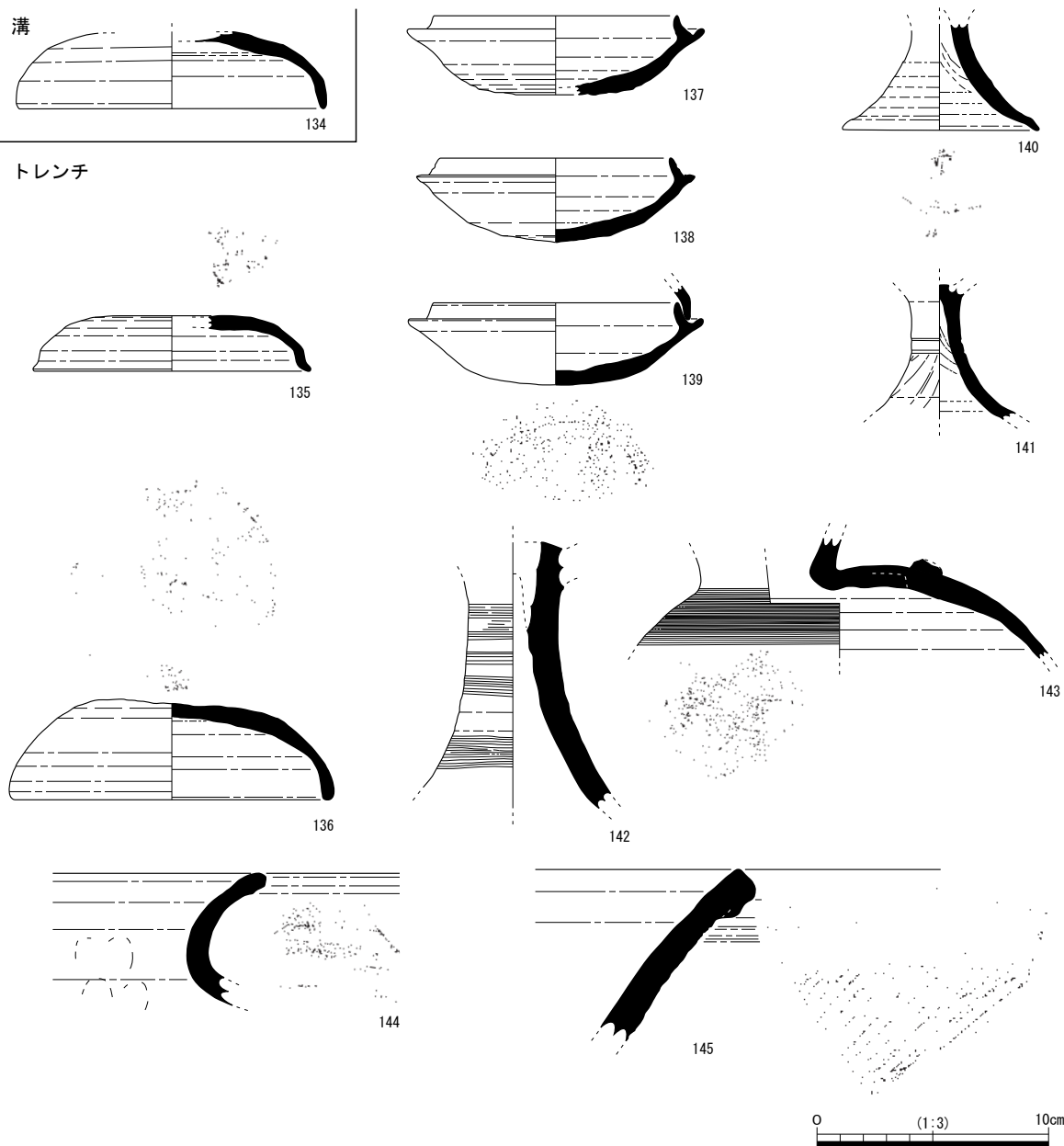
に瘤状の粘土塊を貼り付ける。外面はカキメ、ヘラ記号を有する。144・145 は甕の口頸部片である。144 は口縁部が湾曲し、外面にヘラ記号を有する。145 は口縁部が直線的に立ち上がり、口縁端部は肥厚する。外面に斜線文を施す。

【その他 (第 22 図)】

須恵器(146～150) 146 は杯H蓋で、天井部は回転ヘラケズリで丸みを帯びる。147 は器高が高く、椀とした。底部は回転ヘラケズリ、底部内面に指頭痕が残る。外面にヘラ記号を有する。148～150 は甕である。148 は口頸部が若干湾曲して立ち上がり、口縁端部は肥厚する。外面に連続斜線文を施す。149 は口縁部が直線的で、口縁端部は肥厚する。外面に連続斜線文を施す。150 は体部片で、傾きは不明である。外面に擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。

(3) 小結

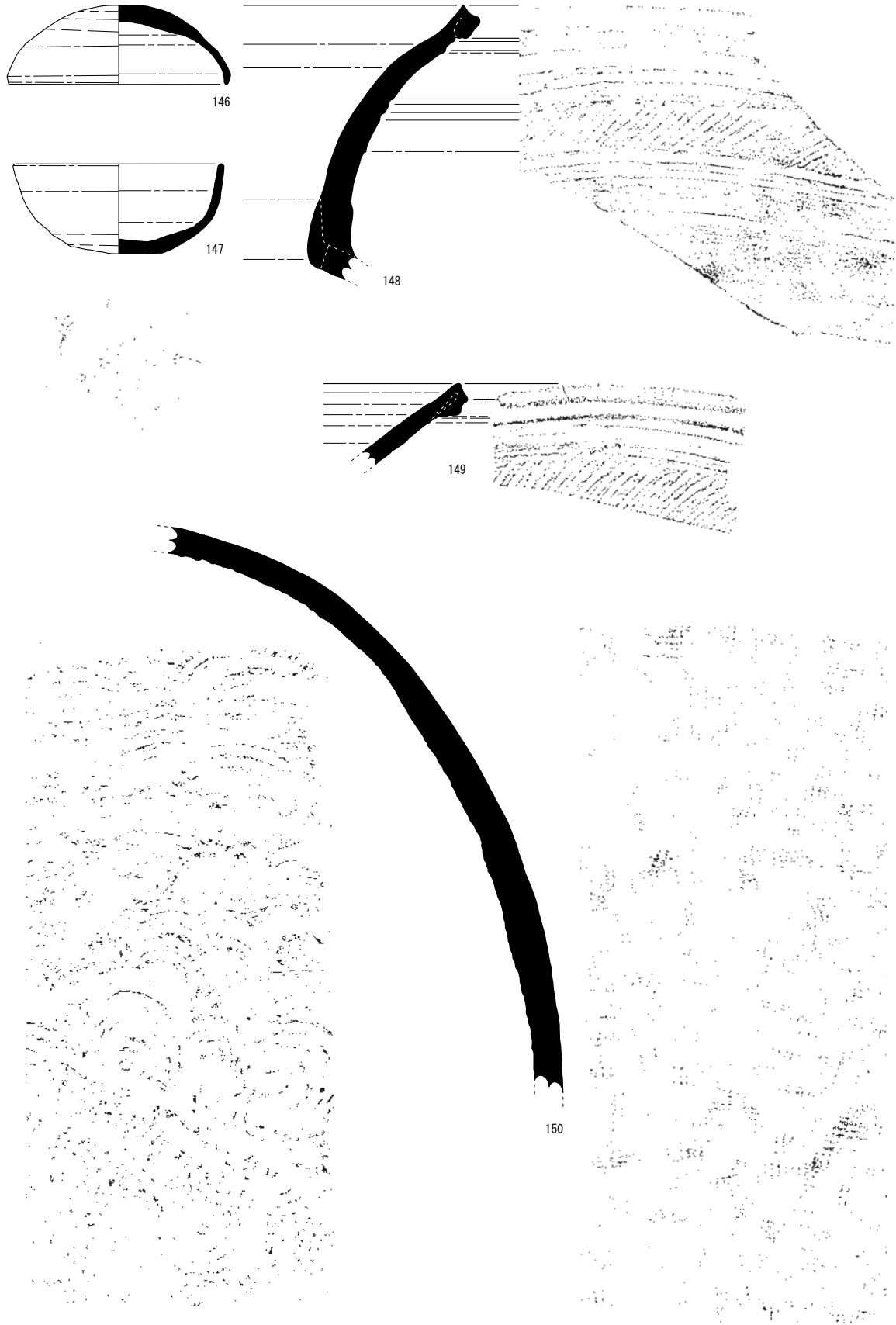
1 号窯は全長 8.9 m の地下式窖窯である。平面寸胴形で、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯である。焼成部および煙道部の一部に天井部を確認した。操業時期は出土遺物より IV A 期に位置づけられ、蓋杯類の口径が小さいことや天井部・底部に丸み強いこと、杯身の立ち上がりが低く内傾



第 21 図 1 号窯跡出土遺物実測図⑤ (1/3)

するものが主体であることや短脚高杯を含むことから、IV A 期でもIV B 期に近い段階と考えられる。蓋杯類は天井部・底部内面に指頭痕が残り丸みを帯びるものが多く、当該窯で生産した須恵器の特徴の一つである。

その他



0 (1:3) 10cm

第22図 1号窯跡出土遺物実測図⑥ (1/3)

3. 2号窯跡

(1) 窯の構造 (第23図、図版5・9～14)

地下式窖窯である。前庭部を欠くが燃焼部から窯尻部までの14mを検出した。燃焼部・窯尻部の絞り込みはなく、平面寸胴形を呈し、全長8.6mである。煙道部は一部天井部が遺存し、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯である。燃焼部付近の天井も遺存していたようであるが、明確な範囲は不明である。窯の主軸方位はN-92° -Eである。図面で判断する限り、作業面は2面あると考えられる。

【焚口部・燃焼部】 焚口部の明確な範囲は不明である。燃焼部の幅は焼成部側で2.1mほどで、前庭部側に向かってやや開き気味となる。当初作業面の床面には長さ2.5m、幅1.0m、深さ0.3mの舟底状ピットがある。さらに、前庭部側には一辺1.5m、深さ0.3mほどの隅丸方形の土坑がある。焼成部の右壁には壁体に埋め込まれるように、長さ1.5m、高さ0.5mの範囲で石組を行い、スサ入り粘土塊で石の間を充填する。石組下端が最終作業時の床面と同一であることから、窯体の補修に伴うものと考えられる。燃焼部からは須恵器の甕片などが出土した。

【焼成部】 長さ約7.0m、最大幅は2.0mである。床面の傾斜角度は、焼成部中央付近までは26度、焼成部上部から煙道部側にかけては35度となる。急傾斜になる煙道部側の床面には4段の段を有し、それぞれの段の幅は0.1～0.2mほどである。床面からは焼き台として使用した甕の破片や置き台が散在して分布する。遺物は須恵器蓋杯や甕片などが出土した。なお、図示はされていないが、写真には「2号窯鉄鏝出土状況」という注記付きで鉄鏝の出土状況が記録されている。詳細な位置は不明であるが、床面の傾斜状況から焼成部の床面で出土した可能性がある。鉄鏝そのものは行方不明であるが、整理の過程で東浦2号窯の遺物とともに小型ケースに納められた人骨を確認している。焼骨の可能性がある。

【煙道部】 3つの排煙口が横一列に並ぶ多孔式煙道で、天井部が遺存し、奥壁までの水平長さは約1.7mである。地山を掘り抜いたものか、粘土などで構築したものかは不明である。各排煙口の直径は0.7～0.8m程度である。左側の1孔は窯体上部方向へ貫通し、他の2孔は溝へと接続する。

【溝】 煙道部の右側に溝が接続し、弧状にのびる。断面逆台形を呈し、溝中央付近で上端幅1.5m、下端幅0.7mである。遺物は須恵器杯H蓋・高杯が出土した。

【灰原】 縦断土層図によると、3～4mの範囲で黒色土の灰原の広がりを確認できる。詳細は不明であるが、遺物は須恵器蓋杯・高杯・平瓶・すり鉢などが出土した。

このほか、出土地点不明遺物として、須恵器蓋杯・甕などがある。

(2) 出土遺物

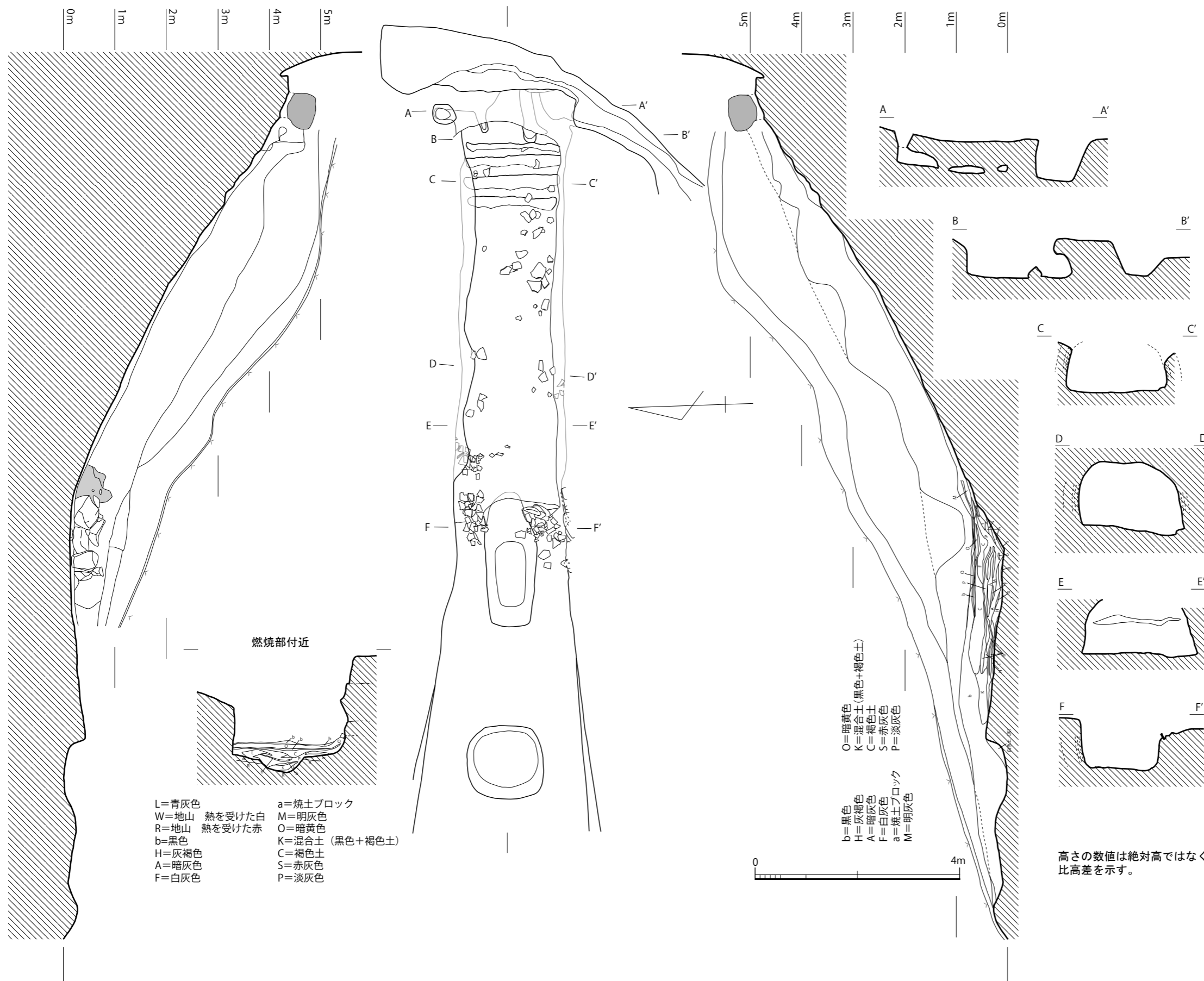
【焼成部 (第24図)】

須恵器 (151) 杯H蓋である。天井部は回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有し、内面に指頭痕が残る。

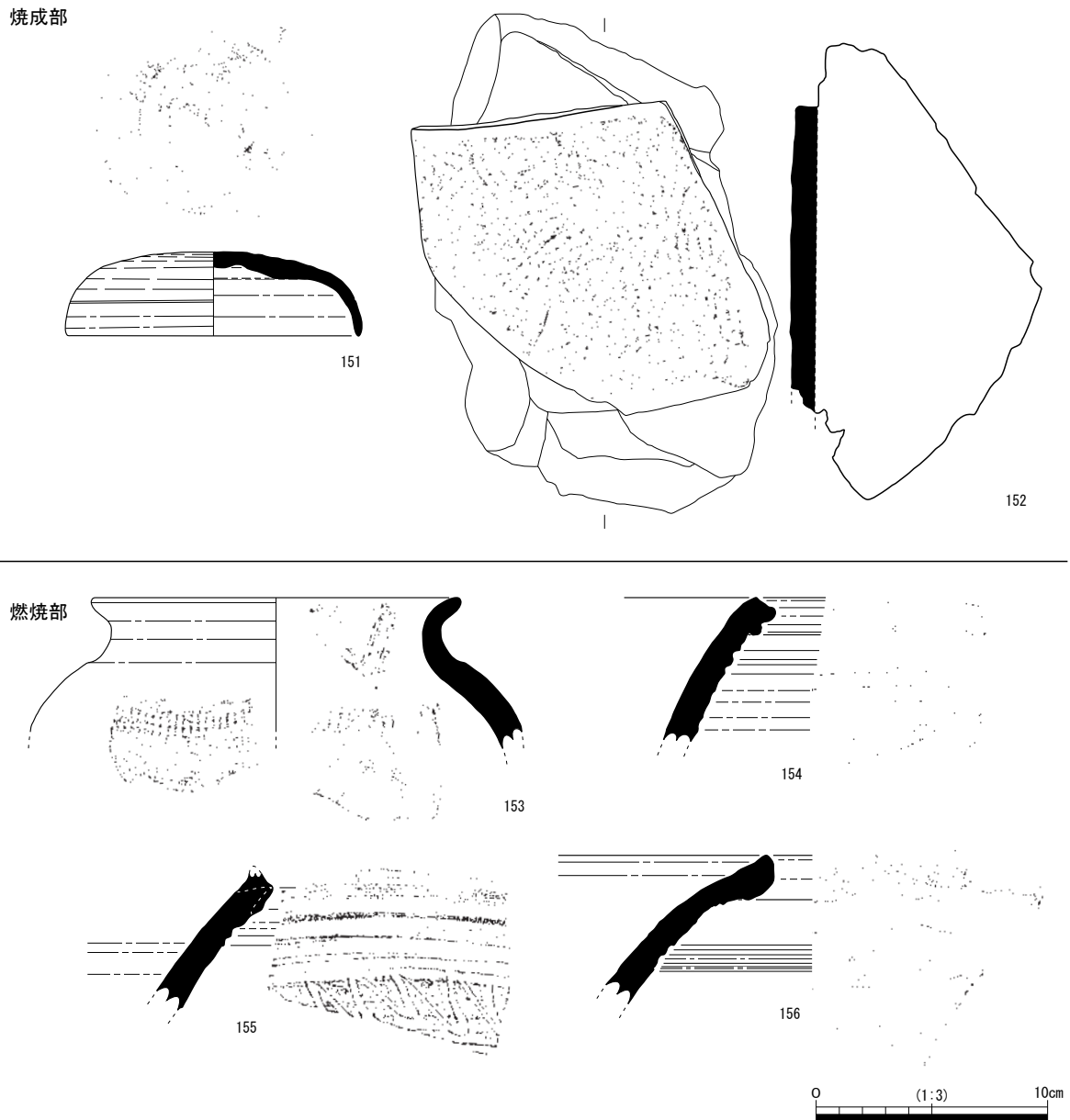
焼き台 (152) 花崗岩の礫を焼き台に使用したもので、甕の体部片が付着する。

【燃焼部 (第24図)】

須恵器 (153～156) 153は小型の甕で、外面は擬格子タタキ、内面は同心円状の当具痕が残る。



第 23 図 東浦窯跡群 2 号窯跡実測図 (1/80)



第24図 2号窯跡出土遺物実測図① (1/3)

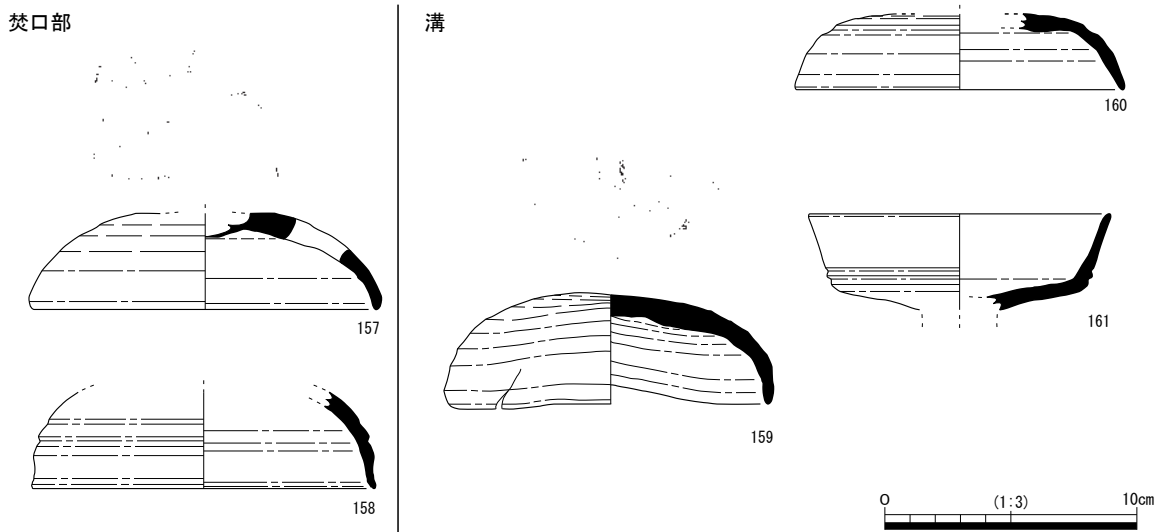
154～156は甕の口縁部片である。154は口縁端部が口唇状を呈し、外面に連続斜線文を施す。155は口縁端部が肥厚し、外面にへら描き波状文を施す。156は口縁端部が玉縁状を呈し、外面に櫛描波状文を施す。

【焚口部 (第25図)】

須恵器 (157・158) 157・158は杯H蓋である。157は外面は回転へらケズリで、へら記号を有する。天井部には焼成前穿孔がある。158は天井部と口縁部の境に沈線が巡り、口縁端部は面を成す。天井部は回転へらケズリである。

【溝 (第25図)】

須恵器 (159～161) 159・160は杯H蓋で、いずれも外面は回転へらケズリである。天井部内面に指頭痕が残る。161は無蓋高杯の杯部である。下半に2条の沈線が巡る。



第25図 2号窯跡出土遺物実測図② (1/3)

【その他 (第26図)】

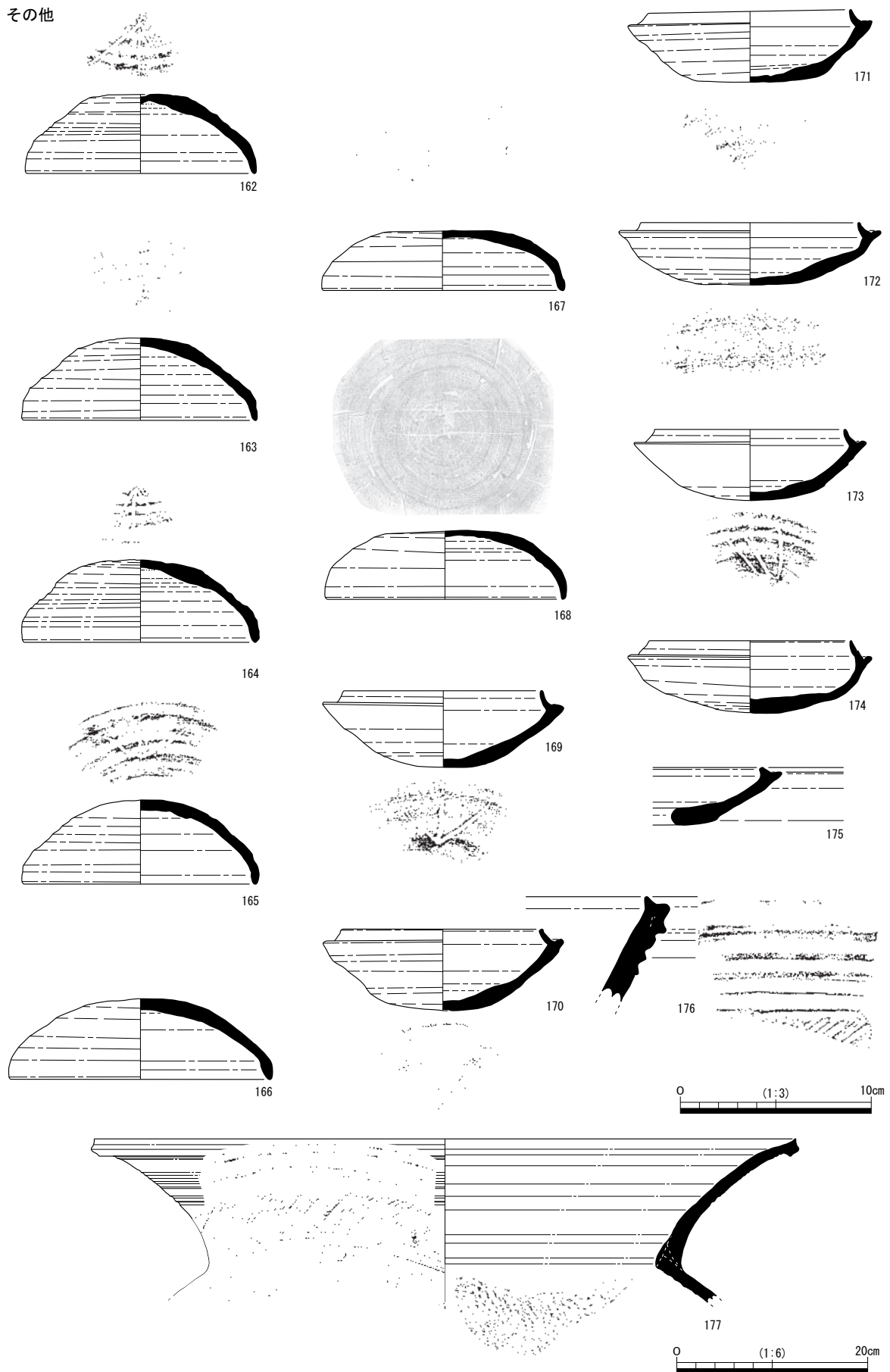
須恵器 (162～177) 162～168は杯H蓋で、166は13.8cm、他は12cm台である。いずれも天井部は回転ヘラケズリで、166以外は外面にヘラ記号を有する。いずれも指オサエにより天井部を丸く仕上げる点が共通する。特に、162～165は回転ナデの単位が細かく、外面に明瞭にロクロ目が残ることが共通し、ヘラ記号は同じ記号である。169～175は杯H身で、口径は9.9～11.2cmである。いずれも底部は回転ヘラケズリで、内面に指頭痕が残る。169～173はヘラ記号を有し、169～171は162～165と、172は167・168と同様の記号で、指オサエにより丸みを帯びた器形とする点も共通し、セット関係の可能性がある。175は底部中央に焼成前穿孔があり、窯道具の可能性もある。176・177は甕である。176は口縁部の細片で、口縁直下に沈線が巡り、その下に連続斜線文を施す。177は大甕で、外面に平行タタキ、内面には同心円当具痕が残る。口縁端部は肥厚し、断面は方形を呈する。口縁直下と頸部中位に2条1単位の沈線が巡り、その間に連続斜線文を施す。

(3) 小結

2号窯は全長8.6mの地下式窖窯である。平面寸胴形で、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯である。焼成部および煙道部の一部に天井部を確認した。操業時期は出土遺物よりIV A期に位置づけられる。一部、古い様相を持つものもあるが、2号窯に伴うものかどうかは不明である。

なお、焼成部の床面からは鉄鏟が出土しており、焼骨も確認できることから、操業停止後に墳墓として利用した可能性がある。

その他



第26図 2号窯跡出土遺物実測図③ (1/3・1/6)

4. 3号窯跡

(1) 窯の構造 (第27図、図版5・15～19)

地下式窖窯である。燃焼部から窯尻部までの13mを検出した。燃焼部・窯尻部の絞り込みはなく、平面寸胴形を呈し、全長9.5mである。煙道部は不明確な点が多いが、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯の可能性があり、煙道部から右側に溝が接続する。窯の主軸方位はN-36°-Eである。操業面の明確な数は不明であるが、焚口部付近の横断土層と考えられる図面には、「床」の注記がある面が3面もしくは4面あり、複数の操業面があった可能性がある。

【焚口部・燃焼部】 焚口部の明確な範囲は不明である。燃焼部の幅は2.5mほどで、前庭部側に向かってやや開き気味となる。燃焼部の壁際には、直径0.2mの円筒状を呈するスサ入り粘土塊が確認された。左側の粘土塊は立った状態で、粘土塊の中央に直径5cmほどの空隙がある。右側の粘土塊は図示された範囲で少なくとも1mの長さがあり、窯内部側へと倒れた状態であった。天井を支えた支柱と考えられ、棒状の有機物にスサ入り粘土を貼り付けて構築したと想定される。焚口部・燃焼部として取り上げられた遺物は、須恵器蓋杯・高杯・椀がある。

【焼成部】 長さ約9.0m、幅は燃焼部側で2.5m、煙道部側で2.0mあり、奥壁に向かってややすぼまる。床面の傾斜角度は、焼成部中央付近までは22度、焼成部上部から煙道部側は35度となる。急傾斜になる煙道部側の床面には6～7段の段を有し、それぞれの段の幅は0.1～0.2mほどである。床面からは焼き台や置き台が散在して分布する。遺物は須恵器蓋杯・高杯や甕などが出土した。なお、燃焼部付近から焼成部中央部にかけて未焼成の甕が複数個体出土した。少なくとも左壁側で3個体、右壁側で1個体あり、いずれも当初操業面と考えられる床面のレベルから0.3～0.5mほど浮いた状態である。他に未焼成の土器がないことから、窯詰め後に天井が崩落して残された可能性は低い。写真には「素地、この窯(廃窯後)を物置としたと考えられる」と解釈している。

【煙道部】 詳細は不明であるが、1・2号窯との関係や溝が接続することから、多孔式煙道であった可能性が高い。煙道部左側で底部穿孔した完形品の杯H身が出土した。

【溝】 煙道部の右側に溝が接続し、直線的にのびる。断面逆台形で、煙道部との接続部付近で上端幅0.5m、下端幅0.3mである。出土遺物はない。

(2) 出土遺物

【焼成部 (第28図)】

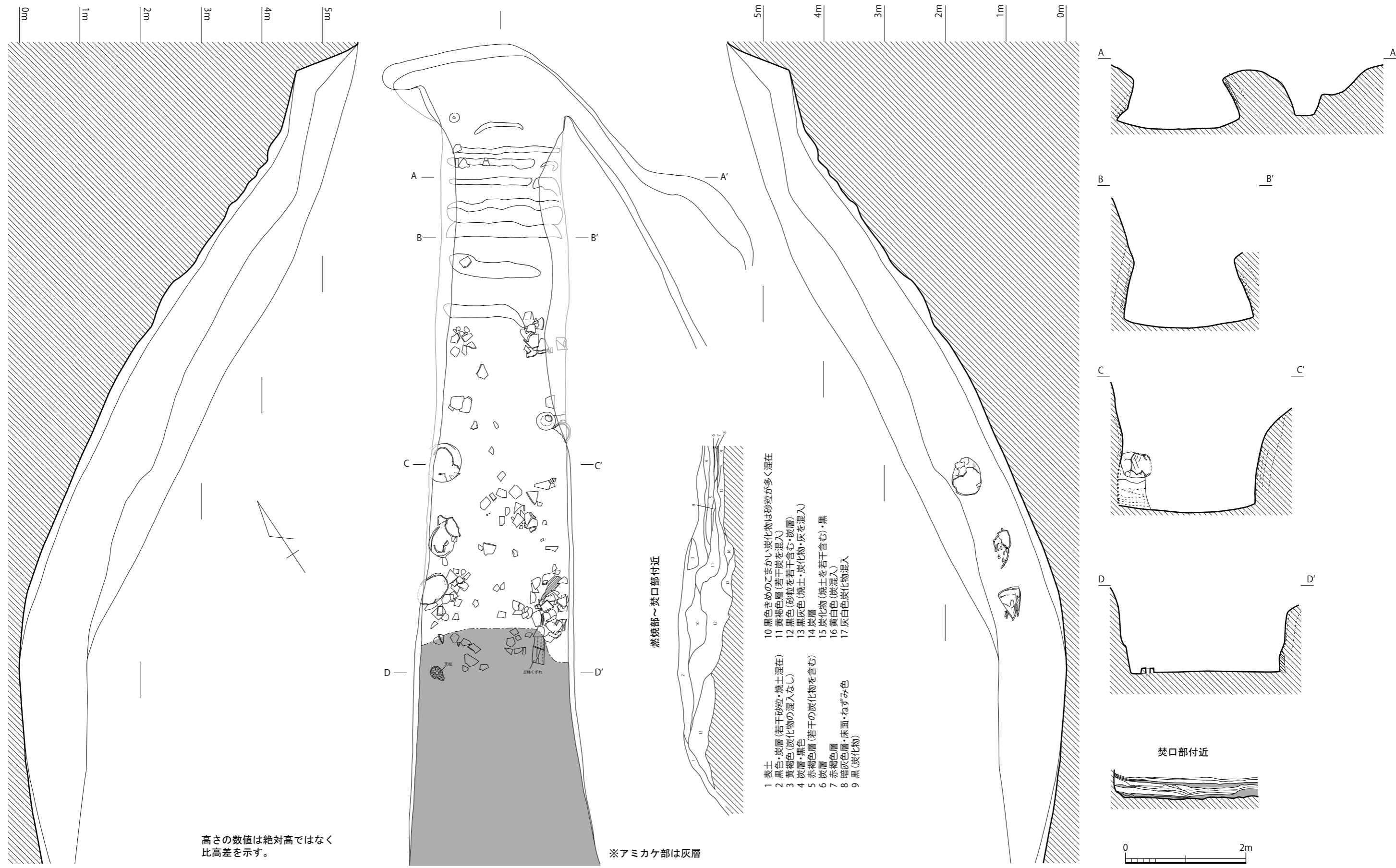
須恵器 (178～181) 178は無蓋高杯の杯部で、外面に沈線・カキメを施す。179は甕で、体部上半はカキメ、中位に楯状工具により刺突文を施し、下半はヘラケズリである。180は杯H蓋もしくは身で、焼成前穿孔を施す。181は甕で、外面は擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。

【燃焼部 (第28図)】

須恵器 (182～185) 182～184は杯H蓋である。いずれも天井部は回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有する。184は内面に指頭痕が残る。185は有蓋高杯で、脚裾部を欠く。脚中位に沈線が巡り、カキメを施す。杯部は顕著に歪み、重ね焼きにより別個体が付着する。

【焚口部 (第28図)】

須恵器 (186～193) 186～188は杯H蓋である。いずれも天井部は回転ヘラケズリで、186・



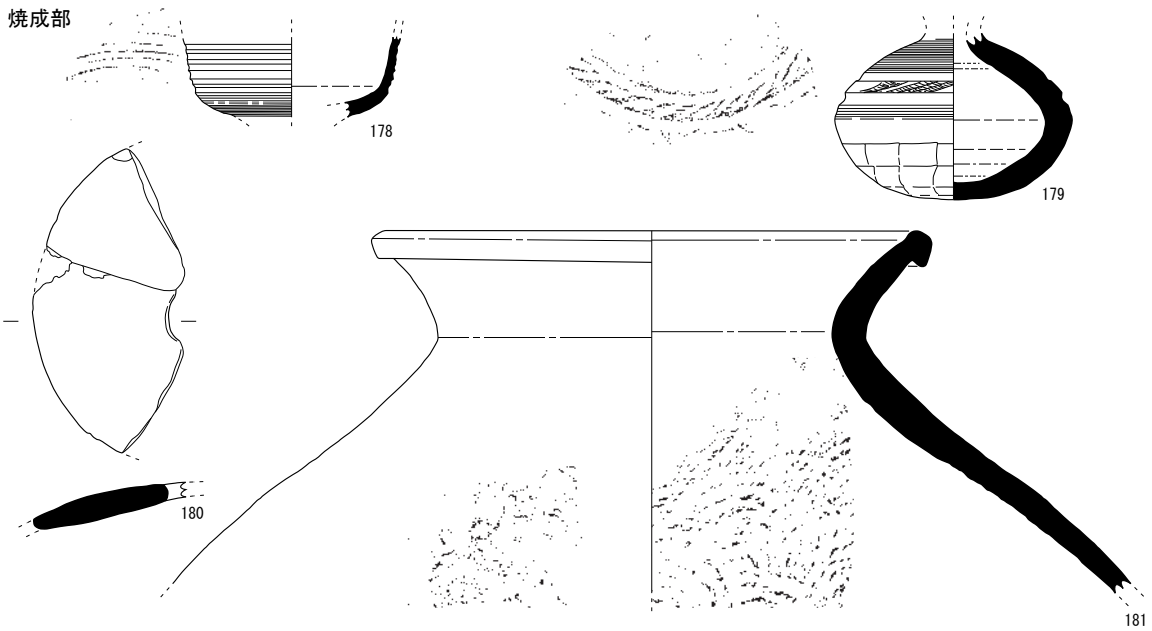
高さの数値は絶対高ではなく
比高差を示す。

※アミカケ部は灰層

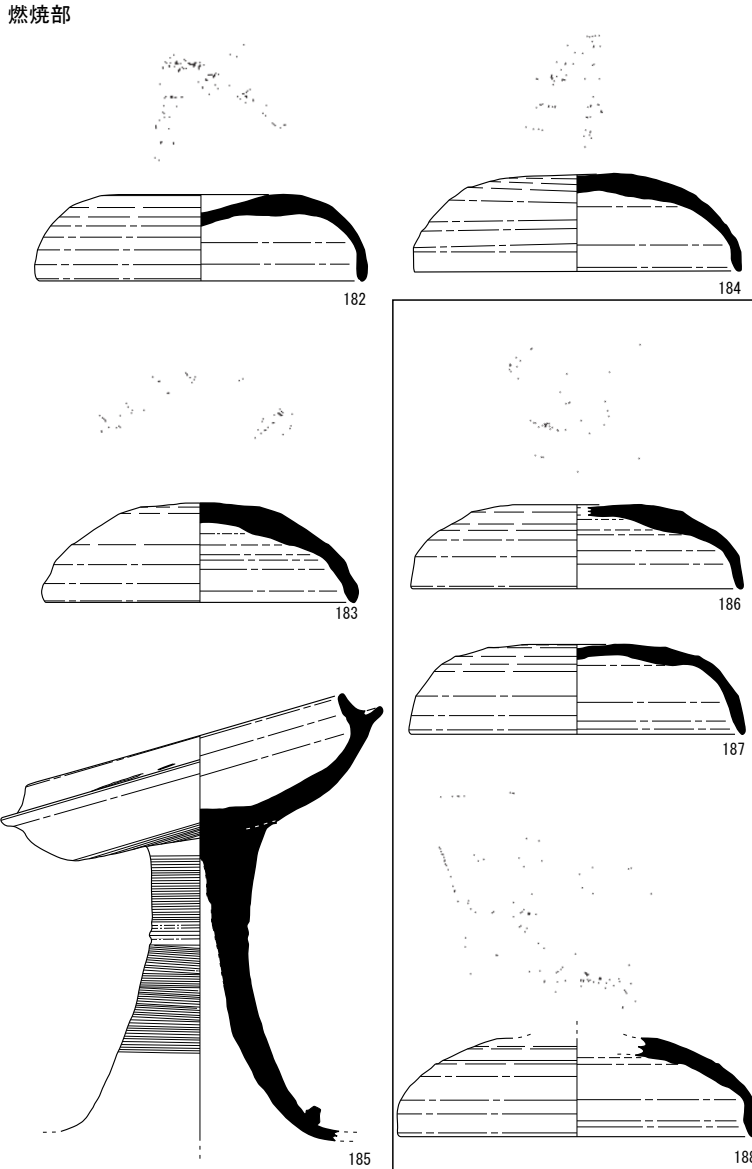
- 1 表土
- 2 黒色・炭層 (若干砂粒・焼土混在)
- 3 黄褐色 (炭化物の混入なし)
- 4 炭層・黒色
- 5 赤褐色層 (若干の炭化物を含む)
- 6 炭層
- 7 赤褐色層
- 8 暗灰色層・床面・ねずみ色
- 9 黒 (炭化物)
- 10 黒色きめのごまかい炭化物は砂粒が多く混在
- 11 黄褐色層 (若干炭を混入)
- 12 黒色 (砂粒を若干含む・炭層)
- 13 黒灰色 (焼土・炭化物・灰を混入)
- 14 炭層
- 15 炭化物 (焼土を若干含む)・黒
- 16 黄白色 (炭混入)
- 17 灰白色炭化物混入

第 27 図 東浦窯跡群 3 号窯跡実測図 (1/60)

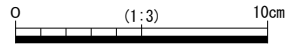
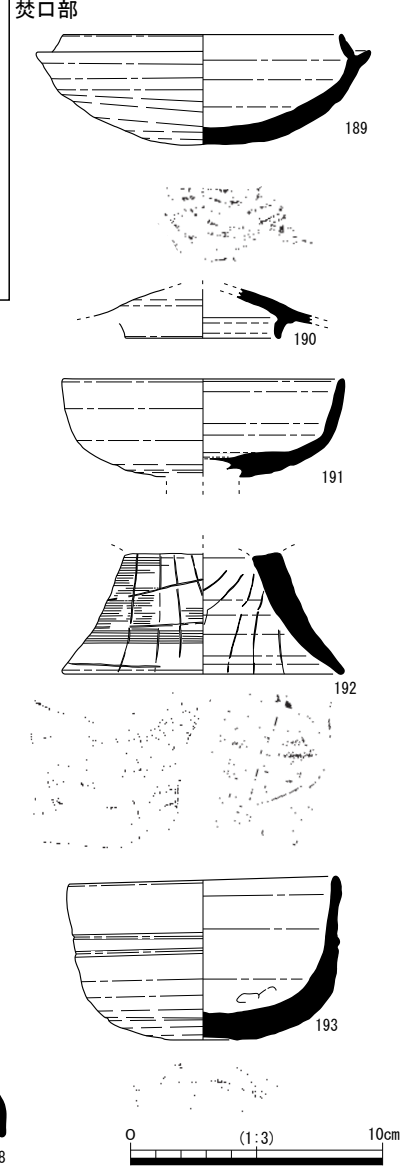
焼成部



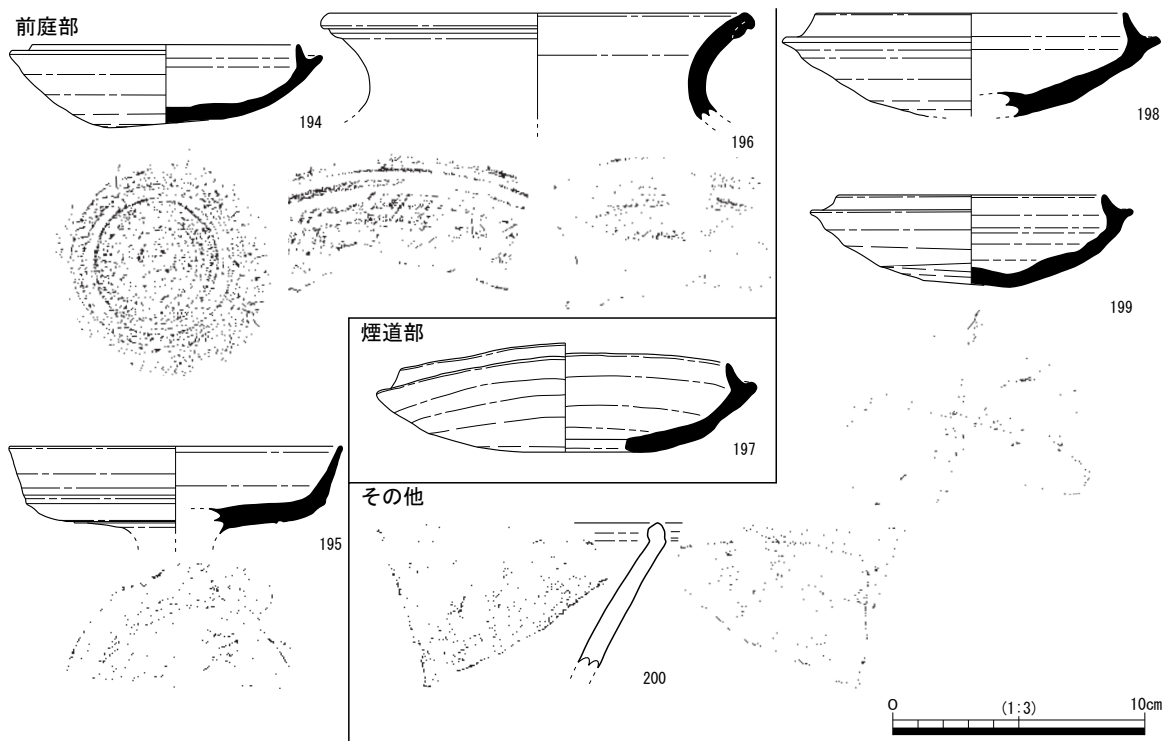
燃焼部



焚口部



第 28 图 3 号窯跡出土遺物実測图① (1/3)



第 29 図 3号窯跡出土遺物実測図② (1/3)

187 は内面に指頭痕が残る。186・188 は外面にヘラ記号を有する。189 は杯 H 身で、底部は回転ヘラケズリで内面に指頭痕が残る。190 はカエリを有する小型の蓋で、壺蓋と考える。天井部は回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有する。191 は無蓋高杯の杯部である。192 は高杯脚部の破片で、外面はカキメ、内外面に線刻もしくはヘラ記号を有する。193 は椀で上位に 2 条の沈線が巡り、底部にヘラ記号を有する。

【前庭部 (第 29 図)】

須恵器 (194～196) 194 は杯 H 身で、底部は回転ヘラケズリ、内面に指頭痕が残る。195 は無蓋高杯の杯部で、外面に刺突文を施す。196 は甕の口縁部片で、外面に平行タタキの痕跡が残る。

【煙道部 (第 29 図)】

須恵器 (197) 杯 H 身で、底部は回転ヘラケズリである。底部中央に焼成前穿孔がある。

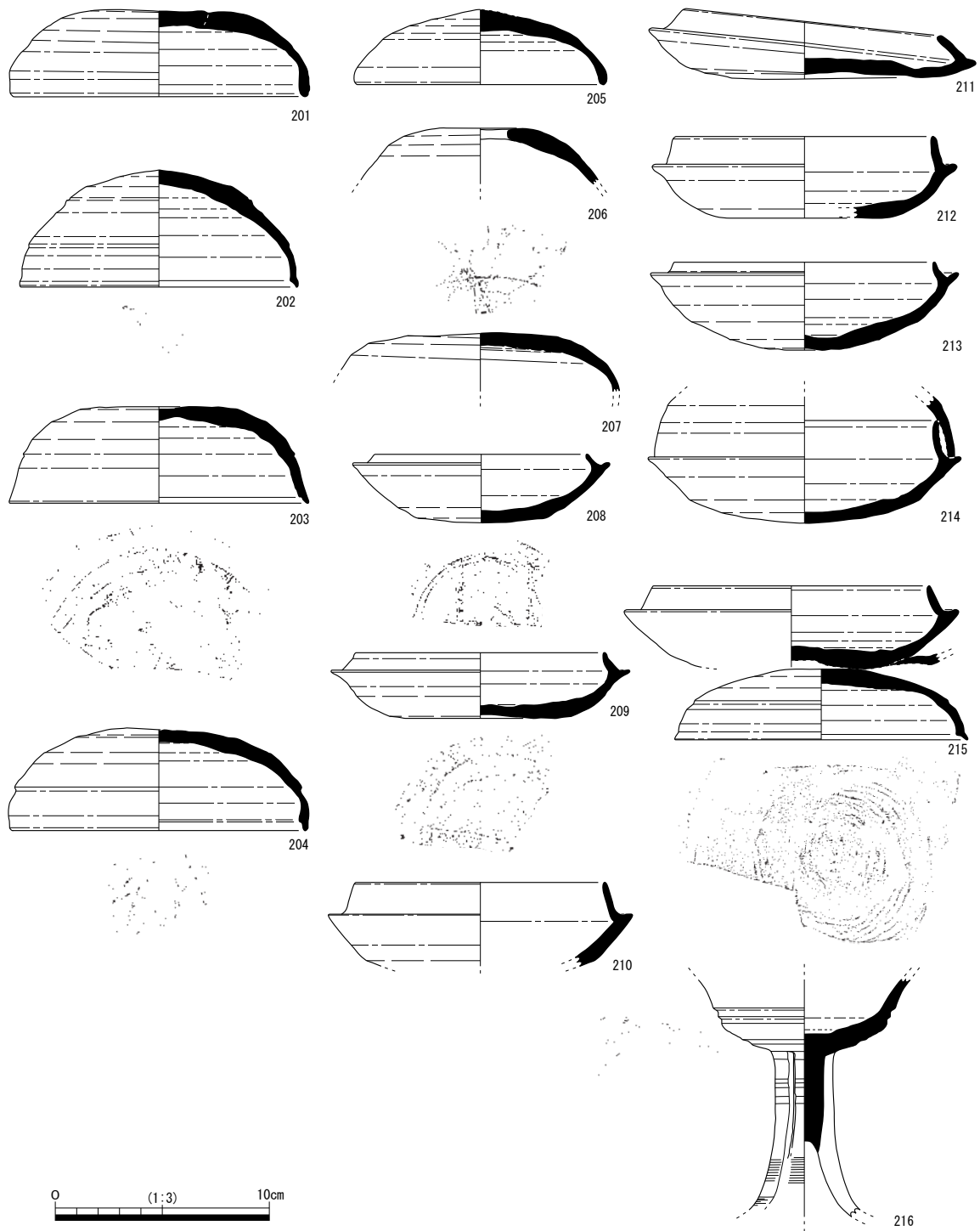
【その他 (第 29 図)】

須恵器 (198・199) 198・199 は杯 H 身である。いずれも底部は回転ヘラケズリで、199 は底部内面に指頭痕が残る。

縄文土器 (200) 浅鉢の破片で、口縁部は直立気味に立ち上がる。内外面ともにナデである。

(3) 小結

3号窯は全長 9.5 m の地下式窖窯である。平面寸胴形で、多孔式煙道窯の可能性はある。燃焼部と焼成部の境付近に天井を支えたと考えられる支柱を確認した。また、当初作業面より浮いた状態で未焼成の甕などが出土した。作業時期は出土遺物より IV A 期に位置づけられる。

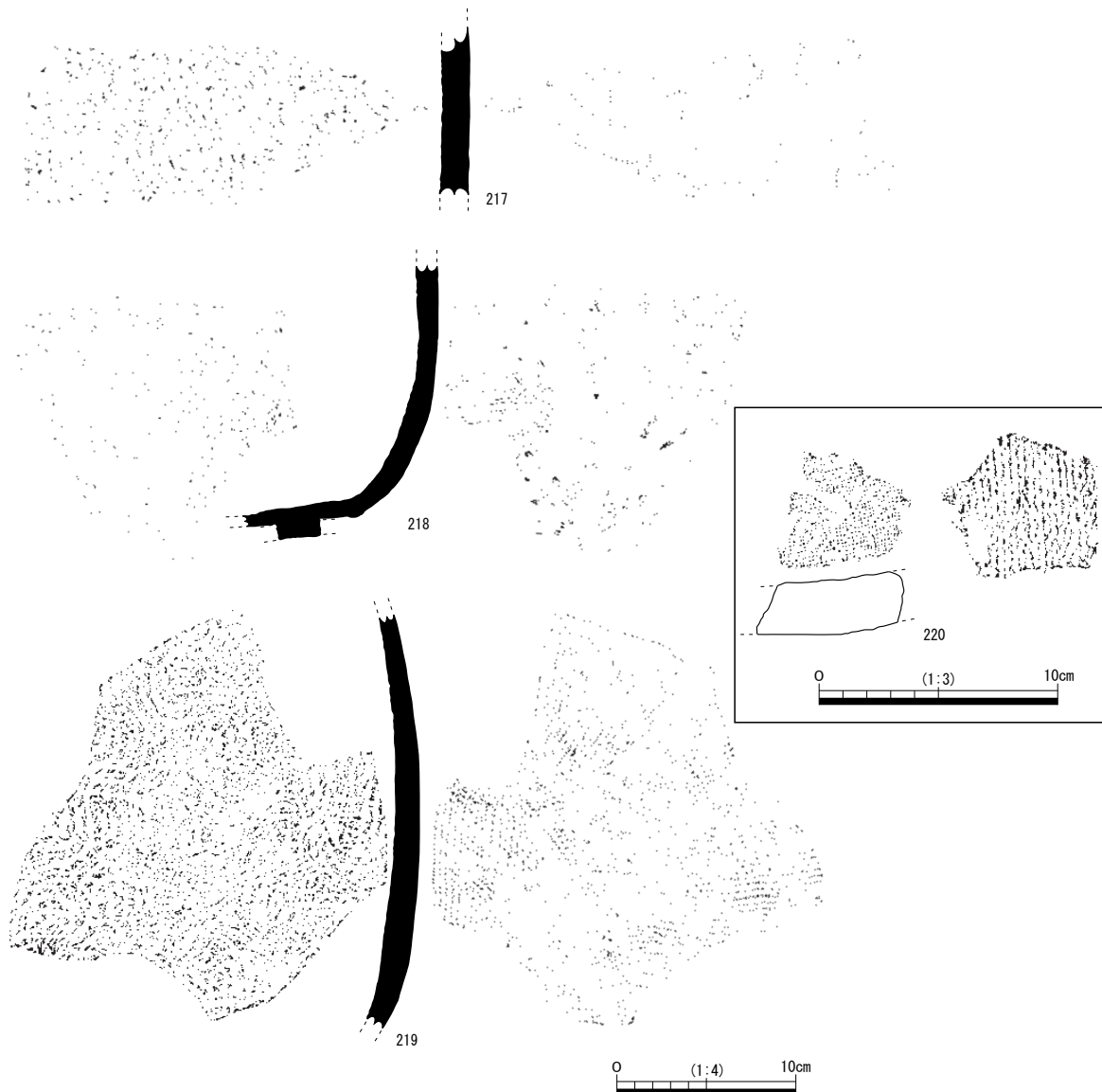


第30図 東浦窯跡群出土地点不明遺物実測図① (1/3)

5. 出土地点不明遺物

(1) 出土遺物 (第30・31図)

須恵器 (201～219) 201～207は杯H蓋である。201・207の天井部はヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。202～204は口縁部と天井部の境および口縁端部に段を有し、内面に当具痕が残る。207は外面にヘラ記号を有する。208～215は杯H身で、口径が小さく口縁部の立ち上がりが低いもの(208・209)と、口径が大きく立ち上がりが高いもの(210～215)がある。前者は外面にへ



第31図 東浦窯跡群出土地点不明遺物実測図② (1/3・1/4)

ラ記号を有し、後者は底部内面に当具痕が残る。いずれも底部は回転ヘラケズリである。215は杯H蓋・身の溶着資料で、身の底部と蓋の天井部が重なる。身は口径12.8cmで、内面に当具痕が残る。蓋は口径13.6cmで、口縁部と天井部の境に沈線が巡り、口縁端部は面を成す。216は無蓋高杯である。杯部は外反して開き、下位に沈線が巡り、連続刺突文を施す。脚部は透かしを有し、上半部は未貫通、下半部は貫通する。217～219は甕の破片で、外面に擬格子タタキ、内面に同心円当具痕が残る。

瓦(220) 平瓦の破片で、外面に縄目タタキ、内面に布目痕が残る。

(2) 小結

出土地点不明遺物の中には、1～3号窯と同時期の須恵器のほか、ⅢB期の須恵器が複数ある。溶着資料もあることから、当該期の操業も想定できる。

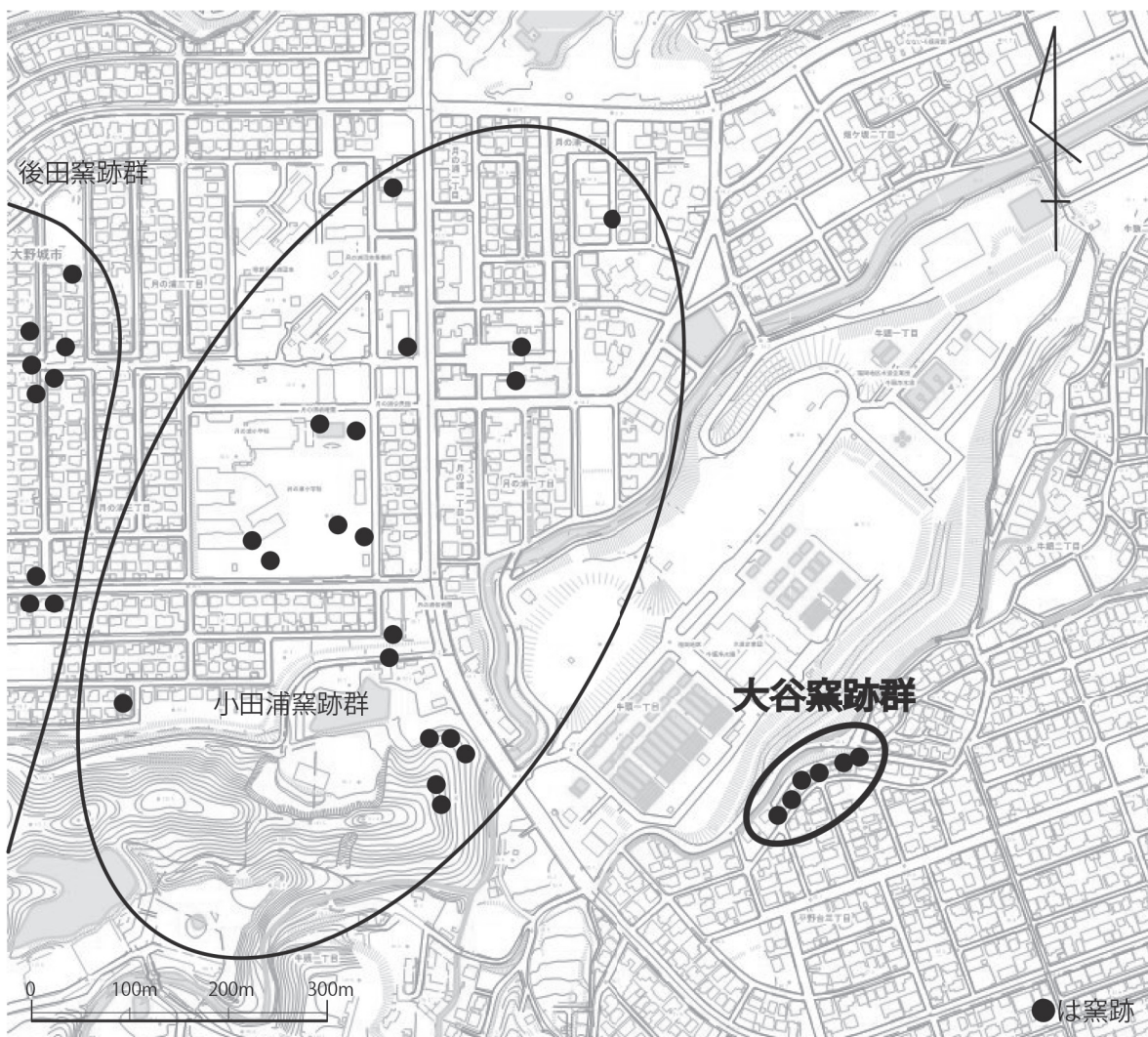
V. 大谷窯跡群

1. 調査の概要

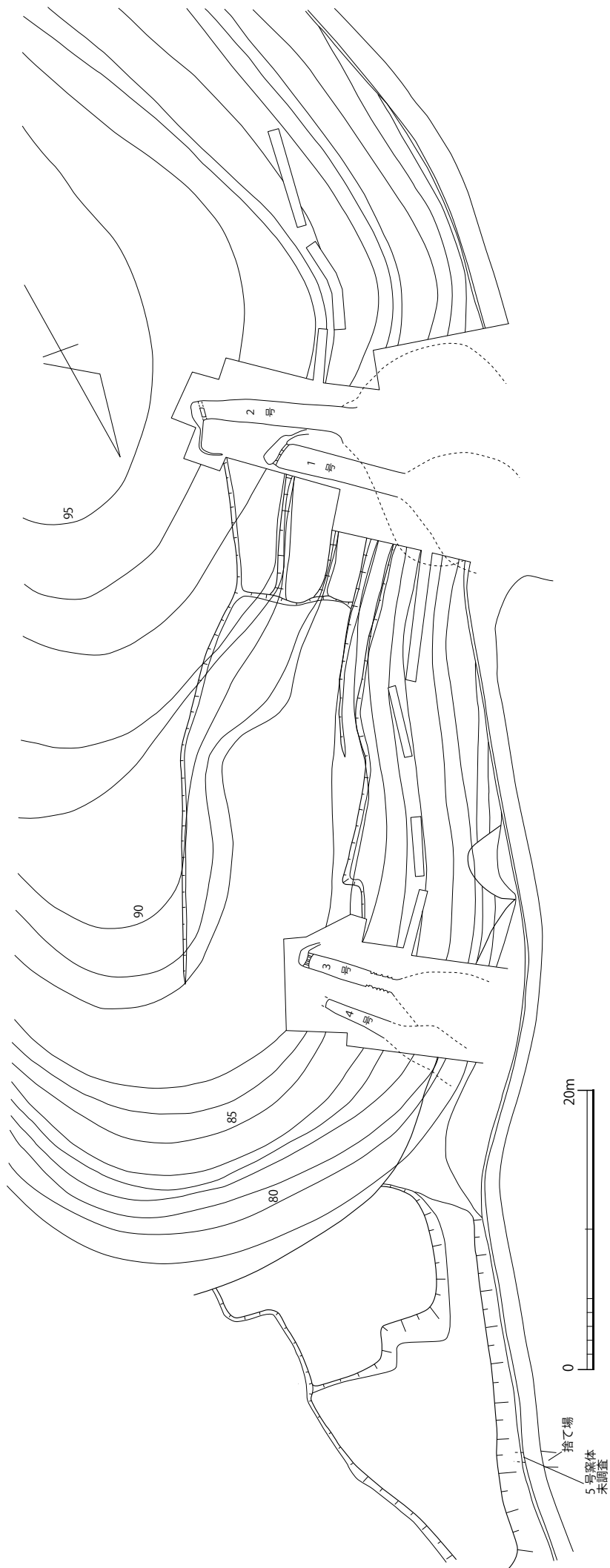
大谷窯跡群は大野城市南部（現・大野城市平野台2丁目）に所在する。牛頸山北麓の丘陵地に位置し、窯跡は北側にのびる丘陵の西側斜面に構築される。

国士舘大学による昭和43年の調査の際に6基の窯跡を確認し、南から0号窯、1号窯、2号窯、3号窯、4号窯、5号窯とされ、うち4基（1～4号窯）について発掘調査が行われた。1・2号と3・4号が近接し、1・2号と3・4号は約30m離れている。窯跡配置図には4号が3号より後出する表現になっている。1・2号の先後関係は明確ではないが、2号の灰原が1号窯体を覆う表現になっており、1号窯の後に2号窯が操業された可能性がある。

なお、それぞれの窯に帰属する遺物は各窯の項目で報告するほか、出土地点が不明なものも多く、それらは一括して「出土地点不明遺物」として報告する。このほか、「0～5トレンチ」や「3区」として取り上げている遺物があるが、それぞれがどの地点を示すのかは不明である。



第32図 大谷窯跡群調査地点位置図 (1/7,500)



第33図 大谷窯跡群遺構配置図 (1/400)

2.1 号窯跡

(1) 窯の構造 (第 34・35 図、図版 21～25)

地下式の窖窯である。灰原から煙道部まで確認し、水平長 15 m を検出した。全長 8.9 m で、窯尻部・焚口部の絞り込みはほとんどなく、平面寸胴形を呈する。煙道部には天井部が遺存し、3つの排煙口からなる多孔式煙道窯である。窯の主軸方位は S-48°-E である。調査の結果、4次にわたる操業面を確認した。

【焚口部・燃烧部】 燃烧部の横断土層より、4次にわたる操業が想定できる。当初操業面の幅は 2.05 m であるが、2次操業面以降順次拡幅しており、最終操業面の幅は 2.8 m となる。平面図には焼成部の床面に直径 1.0 m ほどの円形土坑が表現されているが、断面図ではこれよりさらに焚口部側で 1.8 m ほどの落ち込みがあり、舟底状ピットと推測される。床面の傾斜角度はおおむね水平である。

遺物は完形品の蓋杯類が複数出土したほか、比較的多くの瓦が出土した。

【焼成部】 水平長約 5.5 m、幅 2.0 m である。床面の傾斜角度は焚口部側から中央部までおおむね 25 度で、焼き台と考えられる須恵器の甕片が散在する。中央から煙道部側にかけては 40 度前後となり、この部分では約 1.8 m の範囲で床面が階段状となる。階段は 5 段あり、それぞれの奥行きは 0.2～0.3 m である。また、燃烧部側床面の壁面側には直径 0.6～0.7 m ほどの円形ピットがある。

焼成前穿孔がある須恵器蓋杯や焼き台と考えられる甕片などが出土した。

【煙道部】 3つの排煙口が横一列に並ぶ多孔式煙道で、天井部が遺存する。長さは 1 m 前後で、溝に接続する。各排煙口の直径は 0.5～0.6 m 程度である。地山を掘り抜いたものか、粘土などで構築したものかは不明である。

須恵器杯 H 蓋・身のほか、高杯が出土した。

【溝】 煙道部の右側に、溝が接続する。窯の右側を焚口部方向に 2.4 m ほどのびた後に終息する。上端の幅 0.4 m、下端の幅 0.2 m で、断面逆台形を呈する。

遺物は蓋杯類が少量出土した。

【付帯施設】 焚口部・燃烧部の両側に掘り込みが認められる。右側は長さ 3.0 m、幅 2.5 m ほどの掘り込みで、床面に長さ 2.0 m、幅 1.0 m ほどのピットがある。左側は全体が不明であるが、幅 3.0 m 以上の掘り込みである。

【灰原】 詳細は不明であるが、全体図の中で長さ 7 m、幅 6 m の範囲で図示されており、上面は 2 号窯跡の灰原に被覆されているようである。

遺物は須恵器蓋杯・高杯・平瓶・すり鉢などが出土した。

(2) 出土遺物

【燃烧部 (第 36～40 図)】

須恵器 (221～241) 221～231 は杯 H 蓋で、口径は 11～12 cm である。口縁部は短く直立するものが多く、天井部はおおむね平坦である。226・227・230 の外面は回転ナデによる凹凸が顕著である。221・227・228 は天井部はヘラ切り、他は回転ヘラケズリを施す。221 以外は外面にヘラ記号を有する。232 は杯 G 蓋で、器体が大きく歪む。天井部は手持ちヘラケズリで、外面にヘラ記号

を有する。233～240は杯H身で、口径は10cm前後である。口縁部の立ち上がりは短く内傾するものが多く、240の立ち上がりは非常に低い。底部は平底気味である。233～236・240は外面にヘラ記号を有する。いずれも底部は回転ヘラケズリである。239は体部、240は底部に焼成前穿孔を施す。241は椀である。内外面は回転ナデで、体部下半は工具ナデを施す。

瓦 (242～255) 平瓦である。いずれも破片であるが、残存状況の良好な242は残存幅16.6cm、残存長20.4cm、243は残存幅14.6cm、残存長16.2cm、247は残存幅12.6cm、残存長26.9cm、252は残存幅12.9cm、残存長24.3cmである。厚さは平均1.5cm前後で、厚いもので2.4cm、薄いもので1cm前後である。側縁部・広端部・狭端部を面取りし、側縁部は凹面もしくは凸面側まで面取りするものが多い。いずれも凹面に模骨痕・布目痕が残り、糸切り痕が残るもの(244・247・250・253)、模骨の紐の痕跡が残るもの(243・244・246～248・251～253)がある。凸面はナデ・工具ナデやケズリ状の調整で、243・245・246・247・248・249・250・251・253・254・255などは平行タタキの痕跡が残る。焼成は硬質で灰色を呈するものや軟質で黄灰色を呈するものがある。胎土には1～3mm程度の白色砂粒を含む。249は二次焼成を受けることから、焼き台として使用したと考えられる。255は凹面に線刻がある。

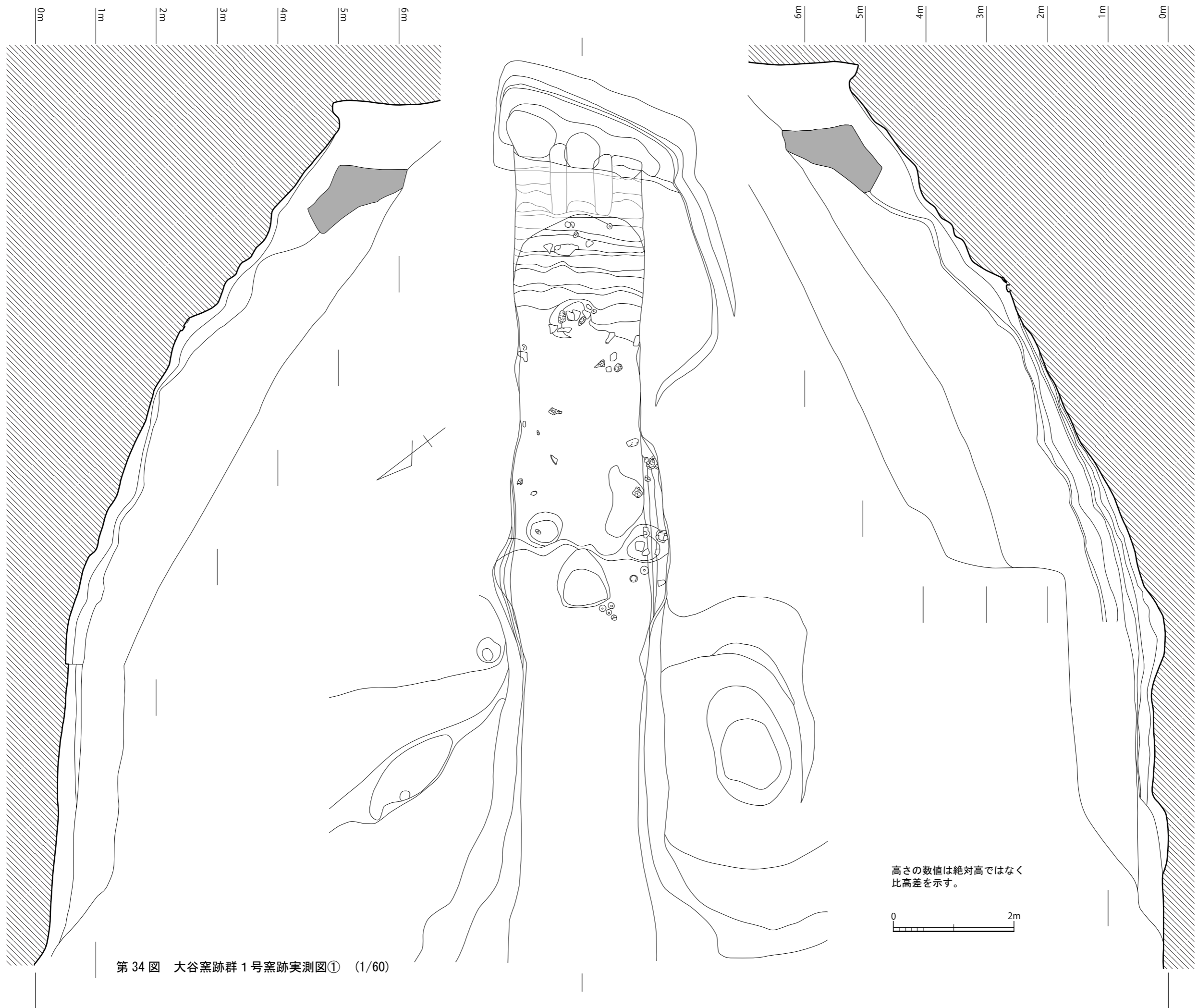
【焚口部 (第41図)】

須恵器 (256～262) 256～258は杯H蓋で、口径12cm前後である。全て口縁部は短く直立し、天井部は丸みを帯びる。257は天井部を回転ヘラケズリ、他は手持ちヘラケズリである。いずれも外面にヘラ記号を有する。258は歪みが顕著である。259は杯H身で、底部にヘラ記号を有する。降灰により底部の調整は不明である。口縁部に蓋が溶着する。260は甕の口頸部である。261は椀の破片で、底部は回転ヘラケズリ、外面に沈線が巡る。262は甕で、体部は外面に平行タタキ、内面には同心円当具痕が残る。

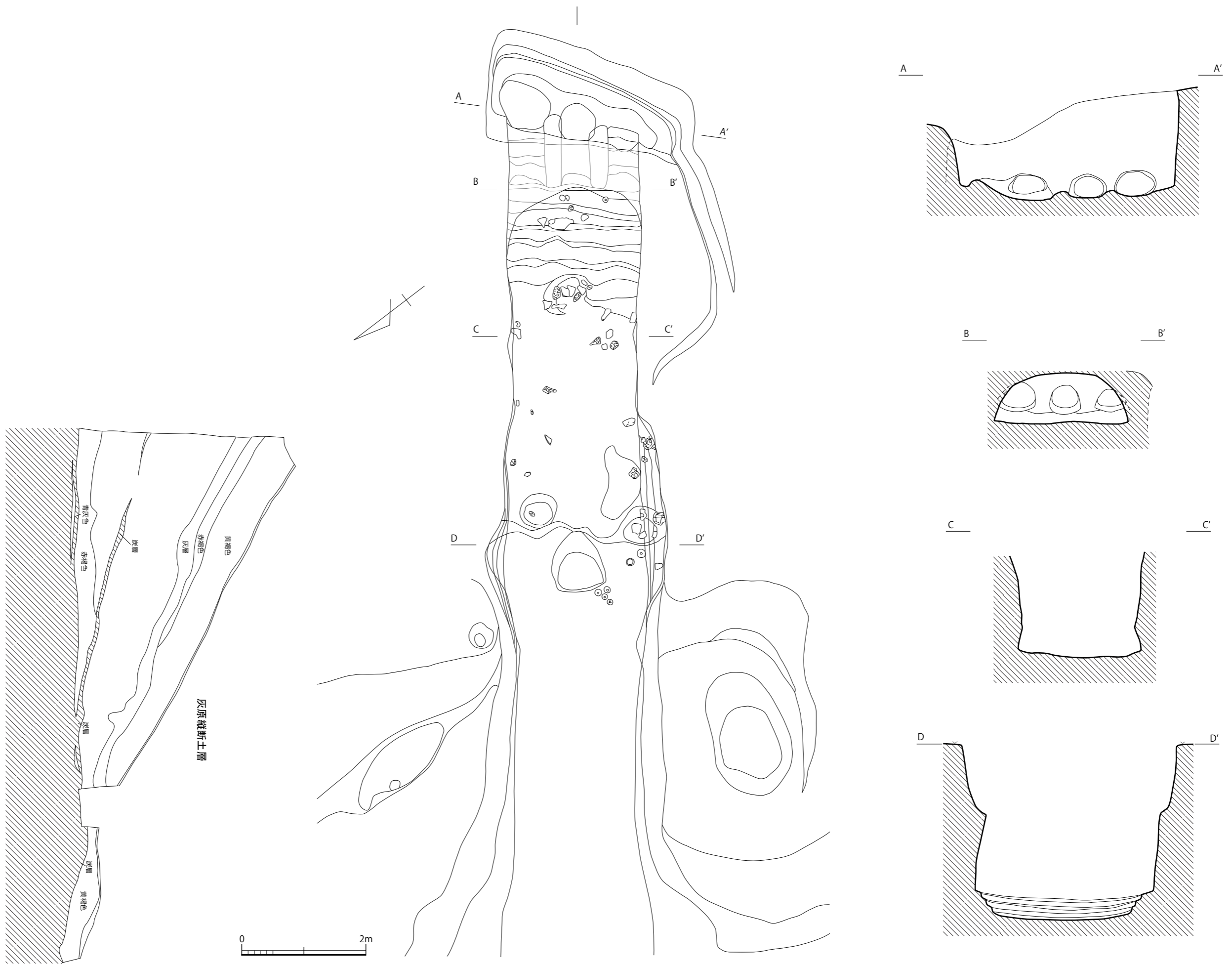
【焼成部 (第42～44図)】

須恵器 (263～275) 263・264は杯H蓋で、263は口縁部が直立気味に立ち上がり、264は天井部が丸みを帯びる。両者とも天井部はヘラ切りで、264は外面に竹管文を施す。265は杯G蓋で、天井部に回転ヘラケズリを施し、外面にヘラ記号を有する。266は杯B蓋で、天井部は回転ヘラケズリである。267・268は杯H身である。267は降灰のため調整は不明瞭である。268は底部回転ヘラケズリで、歪みが顕著である。269は杯B身で、高台端部は外側へ張り出す。270は高杯杯部で、外面の一部にカキメを施す。271・272は高杯脚部である。271は上半部にカキメを施し、他は回転ナデ、272の内外面は回転ナデである。いずれも脚部内面にヘラ記号を有する。273は椀で、外面の底部付近は手持ちヘラケズリ、他はカキメを施す。274はすり鉢(陶臼)で、内外面ともに回転ナデ、底部は工具ナデを施す。275はツマミの破片で蓋であろう。杯B蓋のツマミと比べ大型であり、壺などに伴う可能性がある。

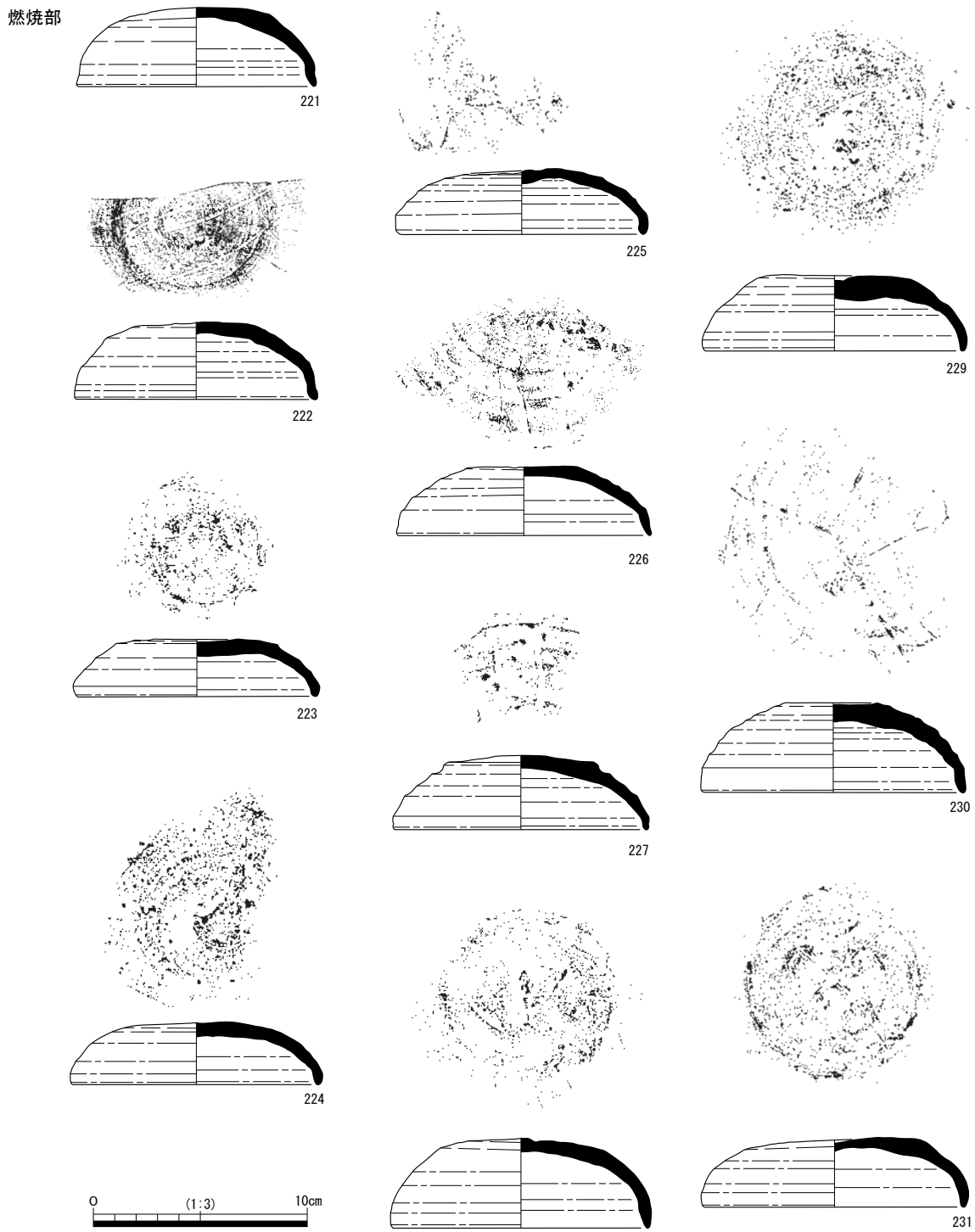
瓦 (286～295) 286～293は平瓦である。いずれも破片であるが、残存状況が良好な293は残存幅11.6cm、残存長16.4cmである。厚さは平均1.5cmほどで、厚いもので2.2cm、薄いもので1.1cmである。側縁部・広端部・狭端部を面取りする。側縁部の面取りは2つの単位があるものや、凹面



第 34 図 大谷窯跡群 1 号窯跡実測図① (1/60)



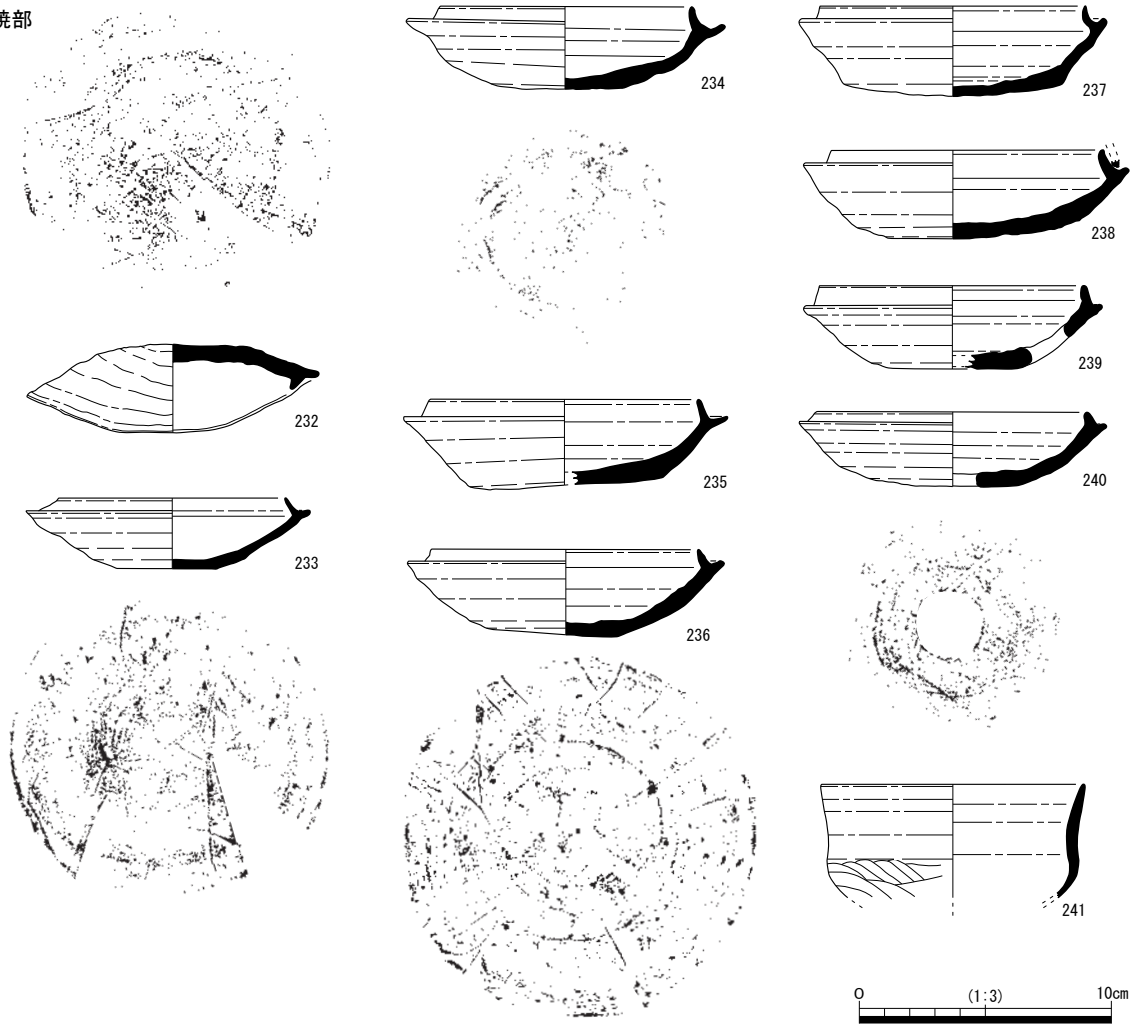
第 35 图 大谷窯跡群 1 号窯跡実測图② (1/60)



第36図 1号窯跡出土遺物実測図① (1/3)

側まで調整するものもある。いずれも凹面に模骨痕・布目痕が残り、糸切り痕が残るもの(289・292)や、模骨の紐の痕跡が残るもの(286～288・290～293)がある。凸面はナデ・工具ナデやケズリ状の調整で、286～289・291・293などは平行タタキの痕跡が残る。焼成は軟質のものが多く、黄灰色から赤灰色を呈する。胎土には1～5mm程度の白色砂粒を含む。294は丸瓦で、残存幅12.4cm、残存長19.0cm、厚さ1.6cmである。凹面に模骨痕・布目痕・模骨の紐の痕跡が残る。側縁部は丁寧に面取りし、一部凹面側まで及ぶ。凸面はタタキ後ナデである。焼成はやや軟質で褐灰色を呈し、胎

燃焼部



第 37 図 1 号窯跡出土遺物実測図② (1/3)

土中に 1～3mm の白色砂粒を含む。295 は側縁部が「く」字状に屈曲する部分があり、通常の平瓦とは異なることから道具瓦とした。ほぼ平坦であるが、わずかに湾曲する。残存幅 16.6cm、残存長 17.9cm、厚さ 1.7cm である。凹面は模骨痕・布目痕、凸面は平行タタキをナゲ消す。側縁部は面取りし、一部凹面側まで及ぶ。屈曲部分は削り出しによるものである。

【煙道部 (第 42 図)】

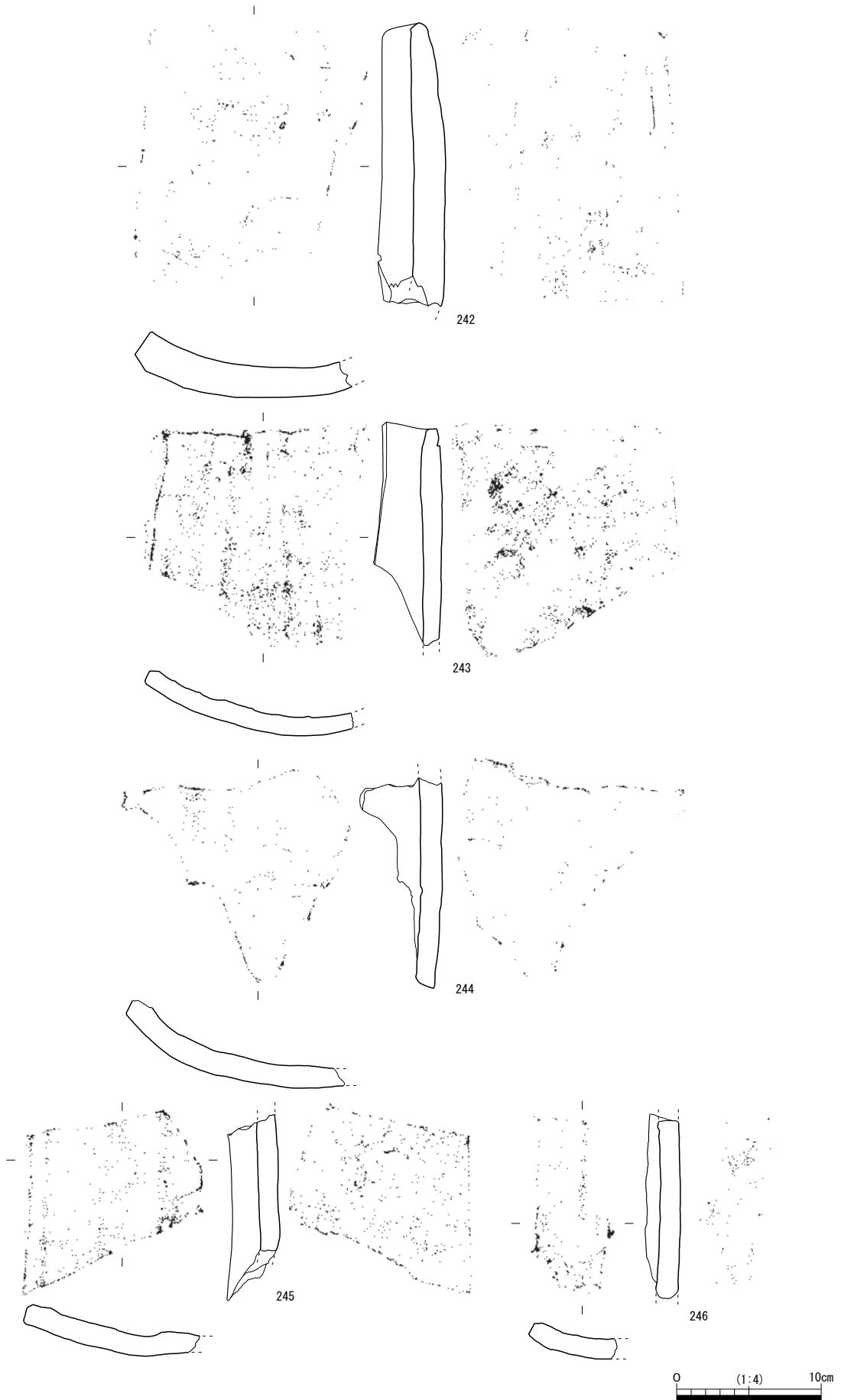
須恵器 (276～285) 276～280 は杯 H 蓋で、276・277 は口径 10cm、他は 12cm 前後である。いずれも口縁部は短く直立気味に立ち上がる。天井部は 278 がやや平坦、他は丸みを帯びる。276 以外は外面にヘラ記号を有する。天井部は 278 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。276 は天井部を穿孔し、280 は外面に別個体の杯 H 身が付着する。281～284 は杯 H 身で、口径 10～11cm である。口縁部は全て短く内傾し、底部は 284 が平底気味、他は丸みを帯びる。283・284 は外面にヘラ記号を有する。281・282 は降灰のため調整は不明である。283 は底部をヘラ切り、284 は回転ヘラケズリである。285 は高杯脚部である。外面中位に沈線が巡り、他は回転ナゲである。

【溝 (第 45 図)】

須恵器 (296・297) 296 は杯 H 蓋で、口縁部は短く立ち上がり、天井部は平坦である。天井部は

燃烧部

大谷窯跡群



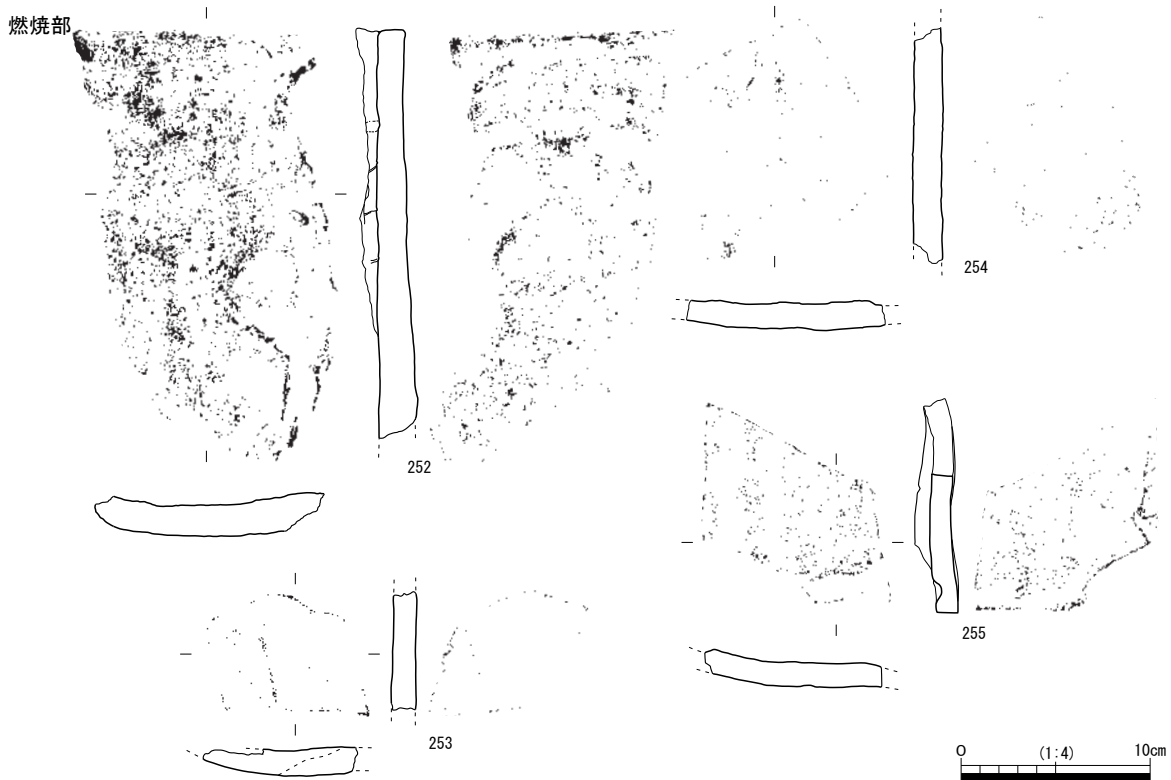
第 38 图 1 号窯跡出土遺物実測図③ (1/4)

燃烧部

大谷窯跡群



第 39 図 1 号窯跡出土遺物実測図④ (1/4)



第40図 1号窯跡出土遺物実測図⑤ (1/4)

ヘラ切りで、外面にヘラ記号を有する。297は杯H身で、歪みが顕著である。口縁部の立ち上がりはやや高い。底部は回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有する。

【灰原（第45図）】

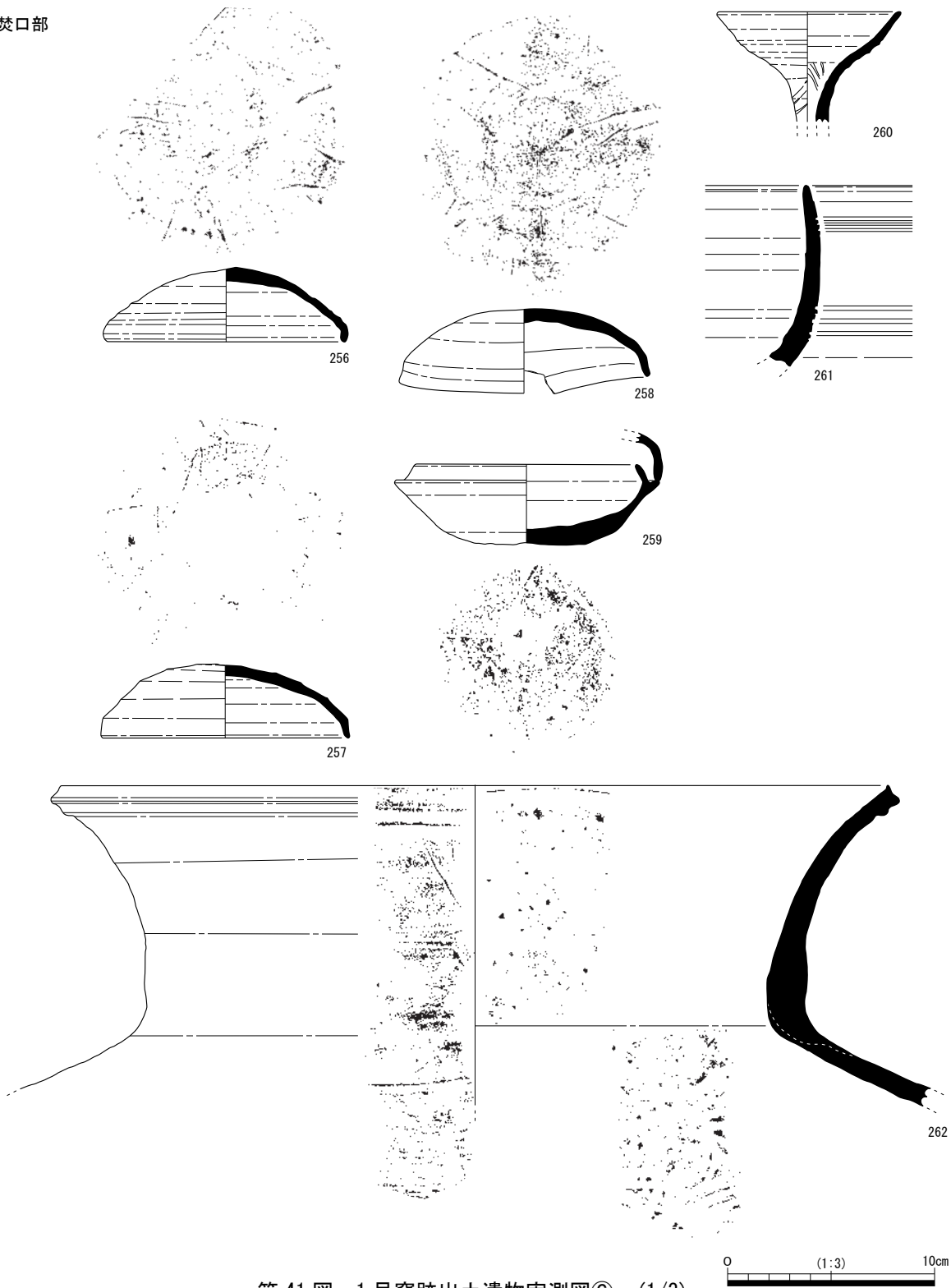
須恵器（298～306） 298・299は杯H蓋で、両者とも天井部は丸みを帯びる。天井部は回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有する。300～303は杯H身で、いずれも底部は平底気味である。301は器高が低く、杯G蓋の可能性もある。底部は301がヘラ切り後手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリである。全ての外面にヘラ記号を有する。304は高杯杯部である。杯部下半は回転ヘラケズリ、他は回転ナデを施す。305は高杯脚部で、シボリ痕が顕著である。内外面は回転ナデで、脚部内面にヘラ記号を有する。306は長頸壺であろう。胴部は扁球形で、肩部が張る。外面の調整は降灰のため不明であり、内面は回転ナデである。

瓦（307・308） 307の内外面は摩滅するが、凹面は模骨痕・布目痕・糸切り痕・模骨の紐の痕跡が残り、凸面はタタキ後ナデであろう。焼成は軟質で黄褐色から黄橙色を呈する。308は全体的に薄いつくりで、厚さ0.6～1.2cmほどである。凹面に模骨痕・布目痕が残り、凸面はタタキ後ナデである。焼成は良好で灰色を呈する。凹面には溶着物がある。

【その他（第46～49図）】

須恵器（309～328） 309～313は杯H蓋で、309は天井部が平坦で、他は丸みを帯びる。天井部は309がヘラ切り、310～312は回転ヘラケズリ、313は手持ちヘラケズリである。いずれも外面にヘラ記号を有する。314～316は杯H身で、315・316は外面にヘラ記号を有する。底部は314・315がヘラ切り、316は回転ヘラケズリである。317・318は短脚高杯の杯部で、317は外面にヘラ

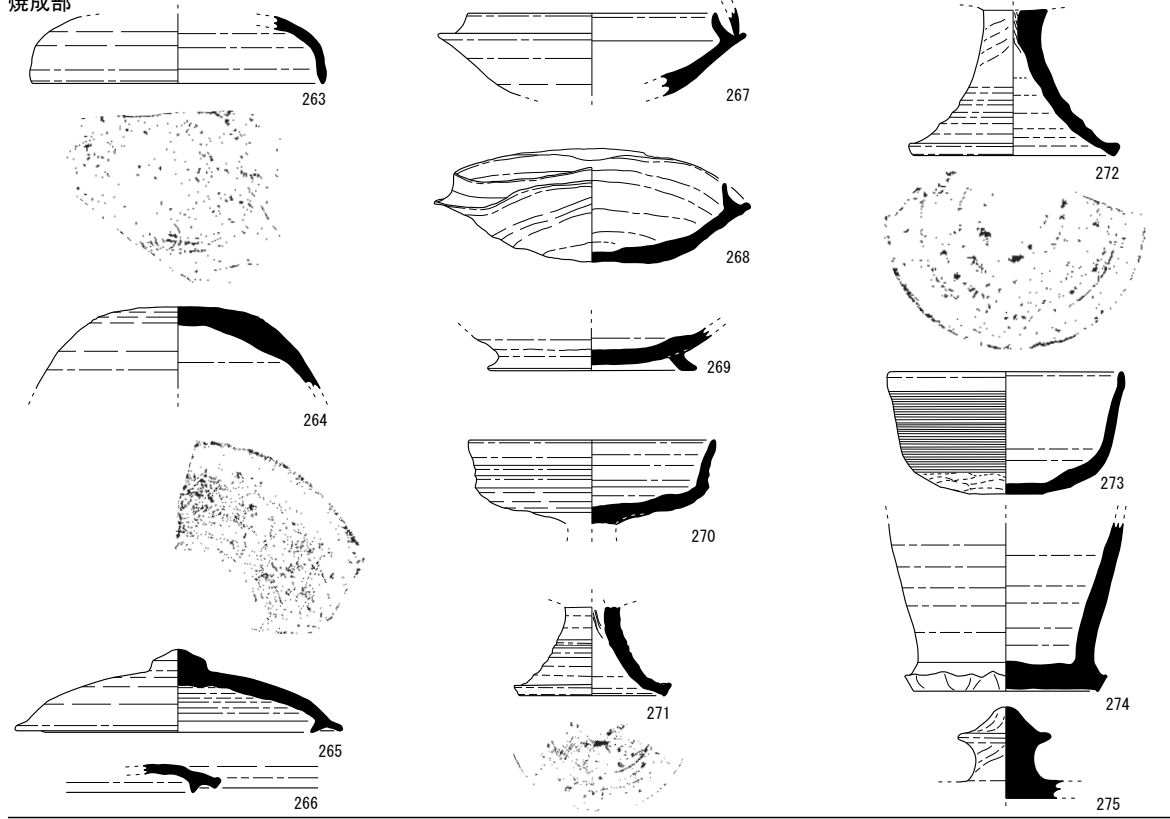
焚口部



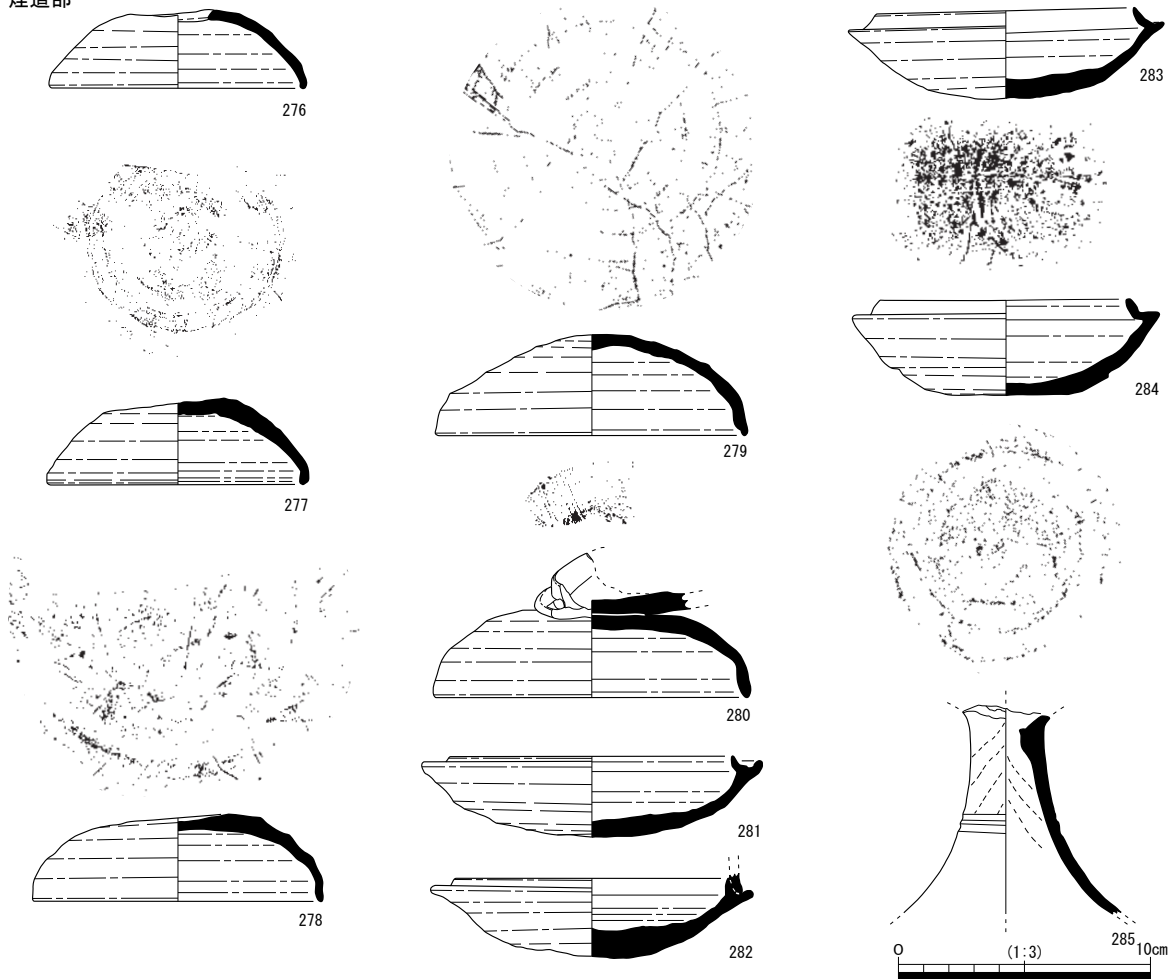
第41図 1号窯跡出土遺物実測図⑥ (1/3)

記号を有する。317は回転ナデで、体部中位に沈線が巡る。318の内外面は回転ナデである。319～321は蓋と身が溶着した資料である。319は天地逆の可能性もある。天井部・底部ともに丸みを帯びる。蓋・身ともに外面にヘラ記号を有し、天井部・底部は回転ヘラケズリである。320は降灰のため調整は不明であるが、蓋の体部に別個体の杯身片が付着する。321は杯H蓋と身のセットで、

焼成部

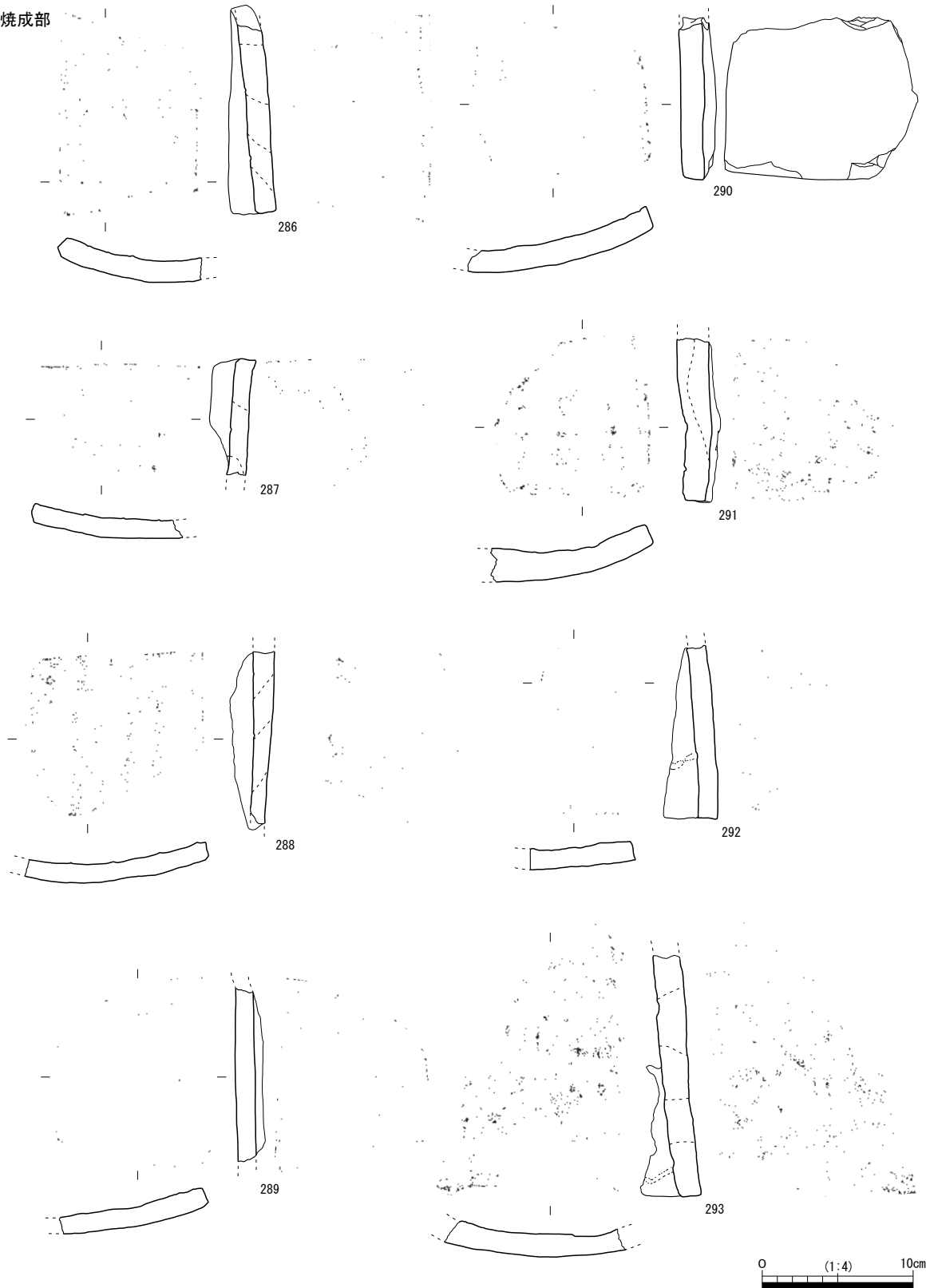


煙道部



第42图 1号窯跡出土遺物実測图⑦ (1/3)

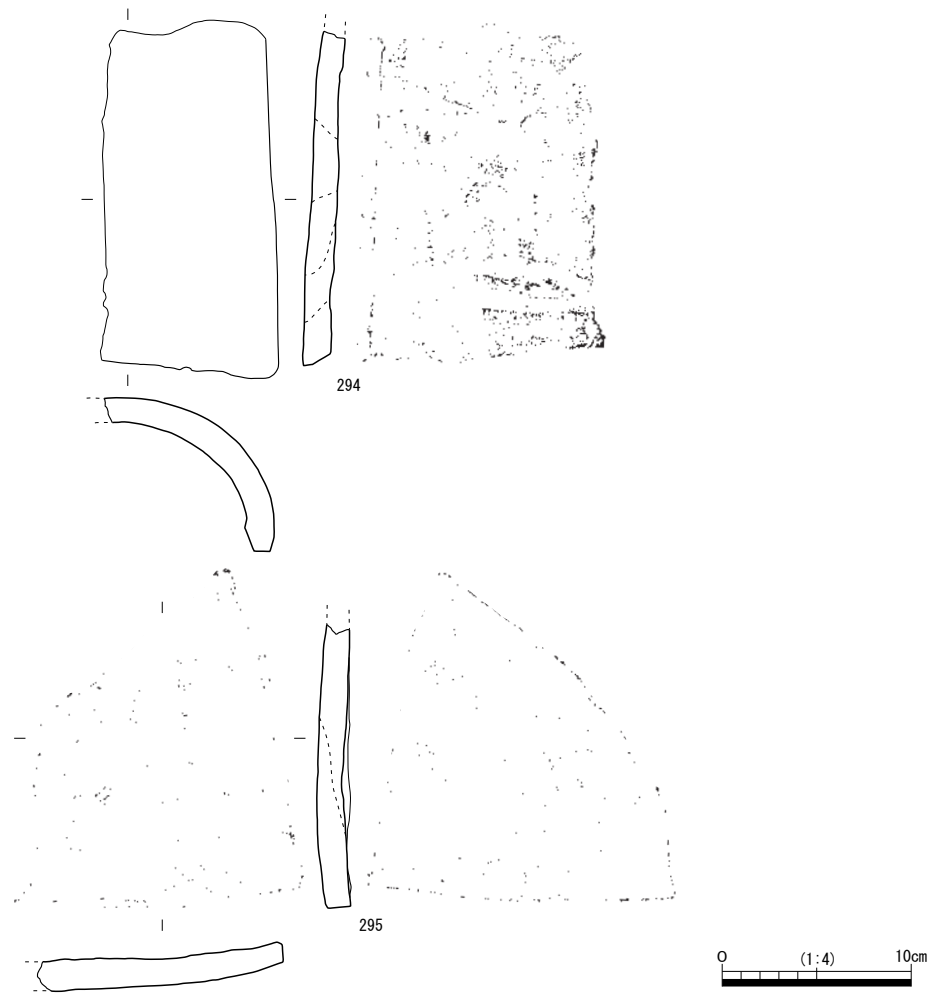
焼成部



第 43 図 1 号窯跡出土遺物実測図⑧ (1/4)

身の体部には別個体の杯H身が付着する。これらは降灰のため調整が不明であるが、蓋の外面にはヘラ記号を有する。322 は有蓋高杯である。杯部下半はヘラケズリを施す。323・324 は高杯の脚部片で、323 は外面にカキメ、内面にヘラ記号を有する。324 の内外面は回転ナデである。325 は小型

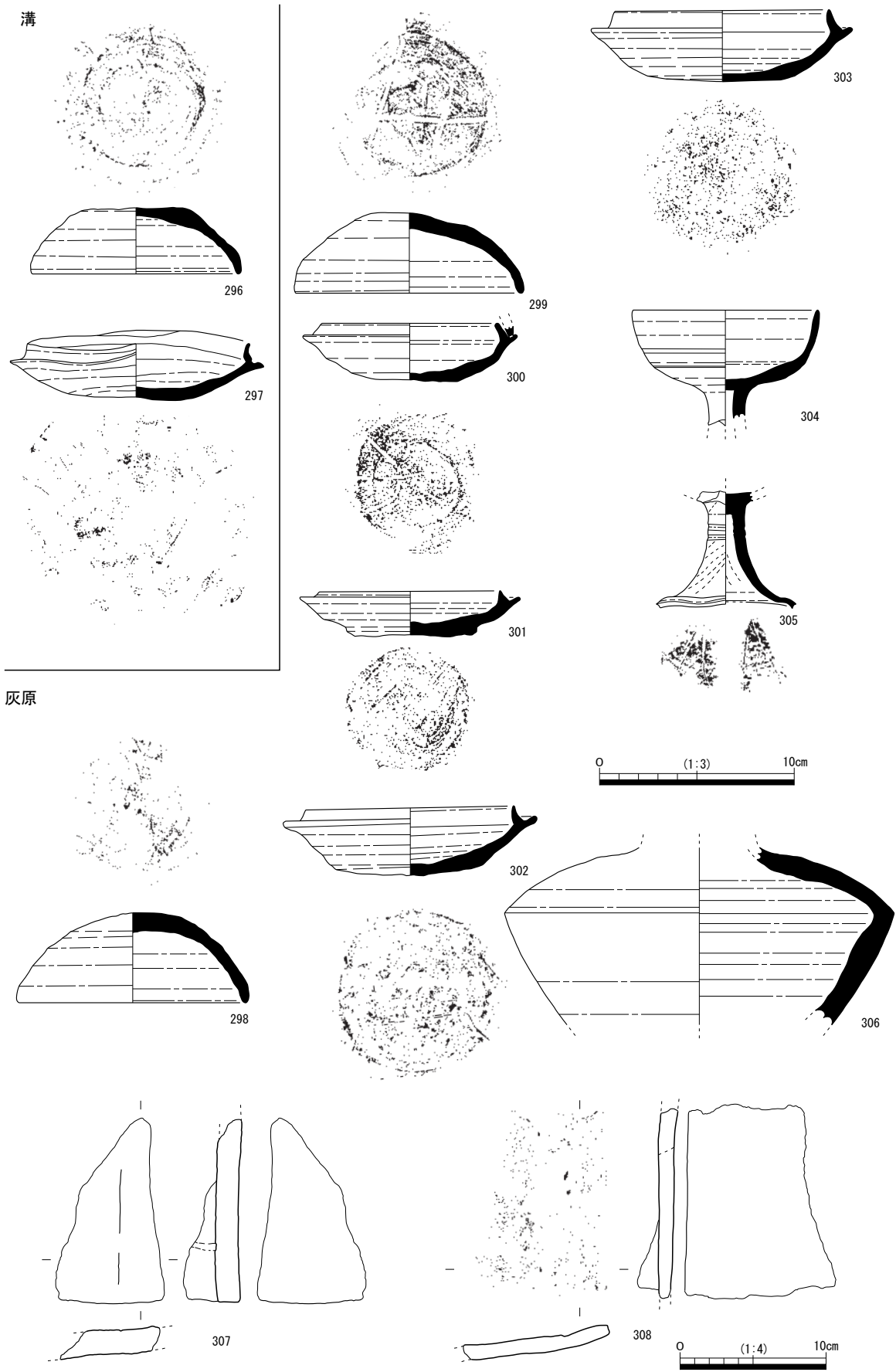
焼成部



第44図 1号窯跡出土遺物実測図⑨ (1/4)

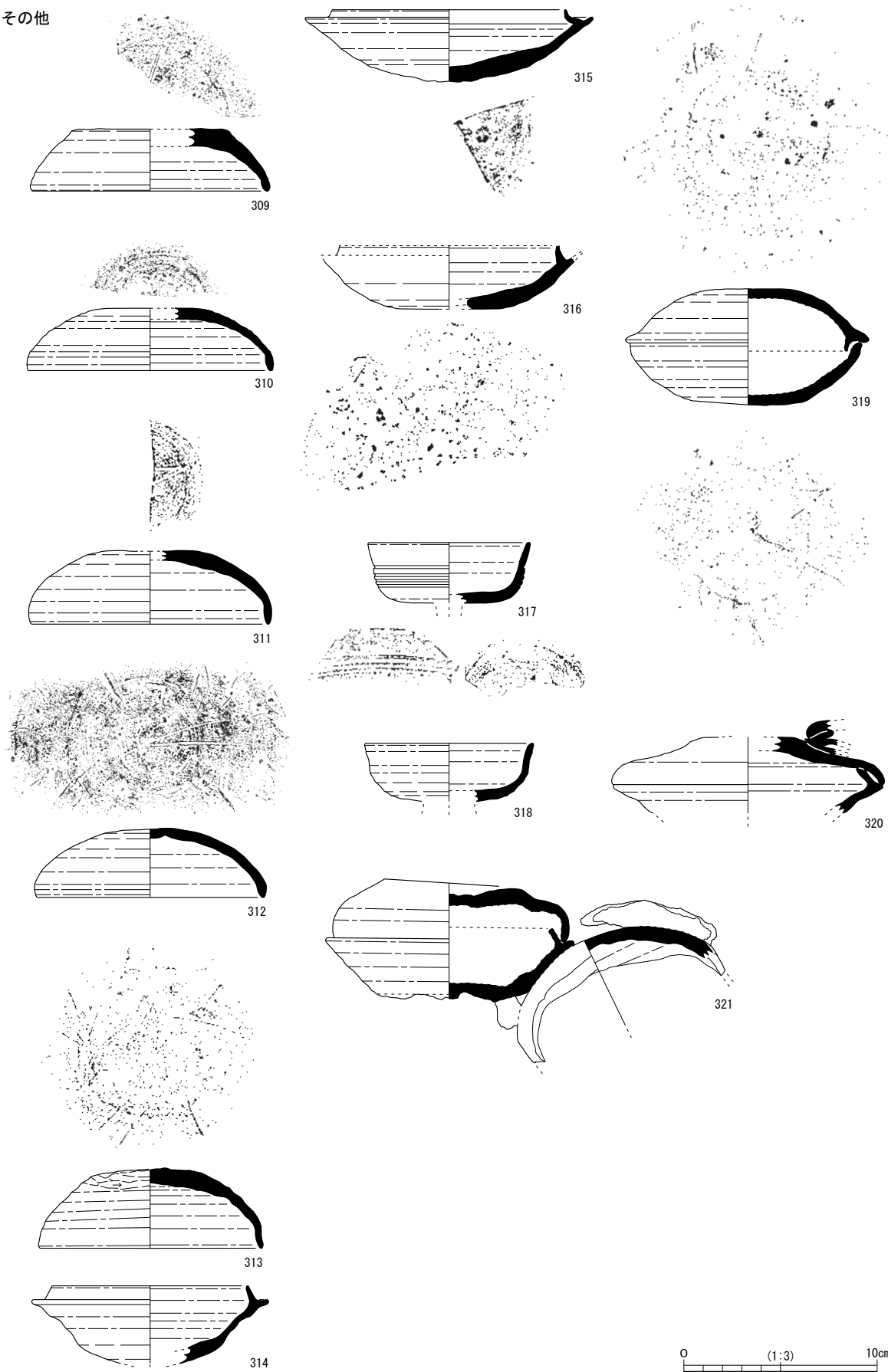
の壺で、口縁部は短く外反する。内外面は回転ナデで、底部は回転ヘラケズリである。326は甕の口頸部片で、頸部は沈線により上下2段に区画する。外面にカキメを施した後、下段に斜線文、上段に山形の線刻を施す。327・328は甕の体部片で焼成前穿孔を施す。いずれも外面に擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。

瓦 (329～349) いずれも平瓦である。破片であるが、残存状況が良好な329は残存幅11.2cm、残存長19.8cmである。厚さは平均で1.5cm前後、厚いものは2.1cm、薄いものは0.6cmである。側縁部と端部は面取りを施し、2つの単位があるものや、凹面もしくは凸面まで及ぶものもある。焼成は硬質で灰色を呈するものもあるが、軟質で黄灰色を呈するものが多い。胎土は1～3mmほどの白色砂粒を含む。いずれも凹面に模骨痕・布目痕が残り、模骨の紐の痕跡があるもの(329・331・337・340・342・345)や糸切り痕があるもの(332・333・341・344・345・347)がある。330・331・332・333・334・336・337・341・344・345・346・347・349は凸面に平行タタキが残り、タタキ後ナデを施す。330は凹面に甕の体部片が付着しており、置き台として使用した可能性がある。



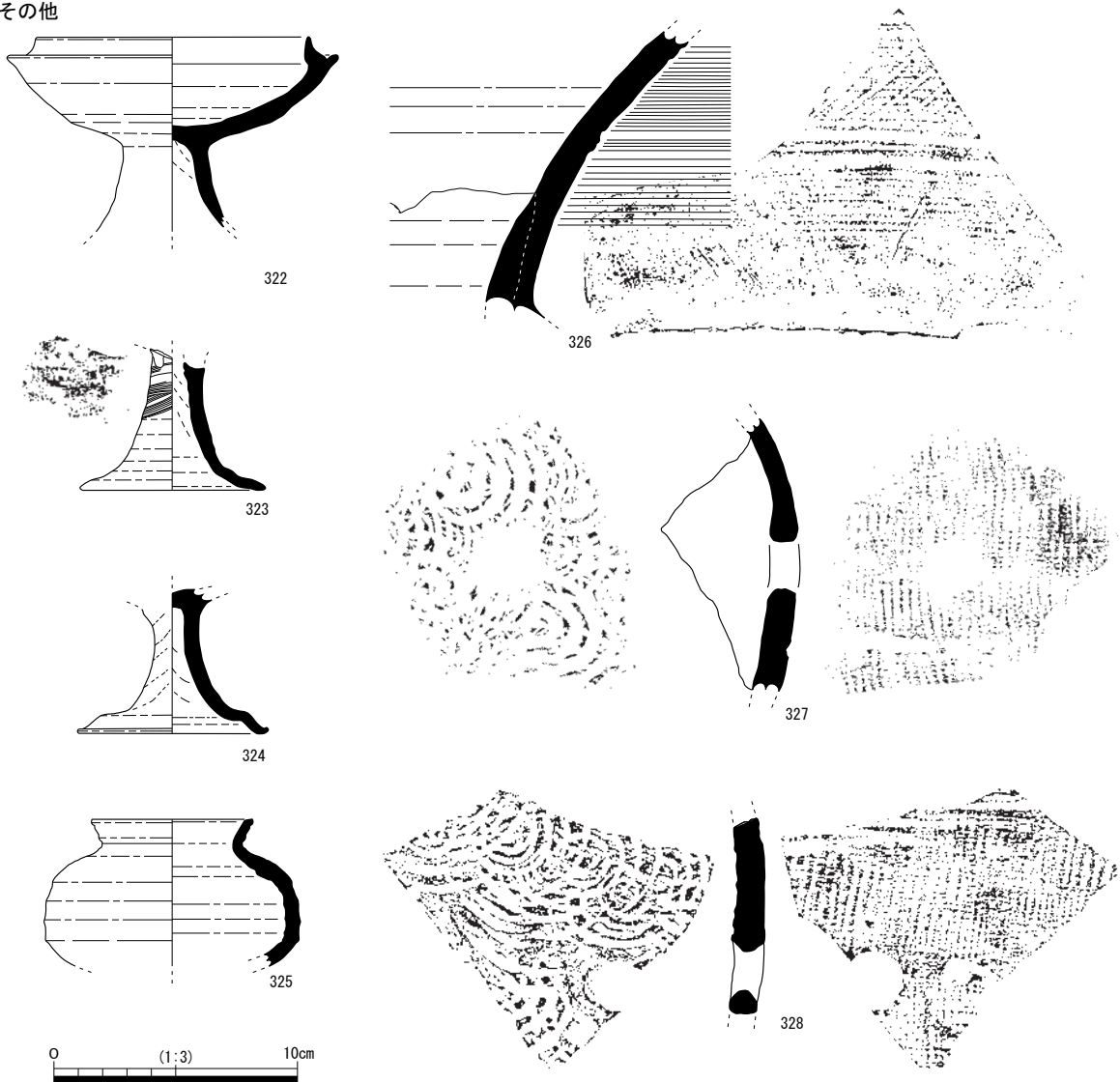
第 45 图 1 号窯跡出土遺物実測図⑩ (1/3・1/4)

その他



第46図 1号窯跡出土遺物実測図① (1/3)

その他

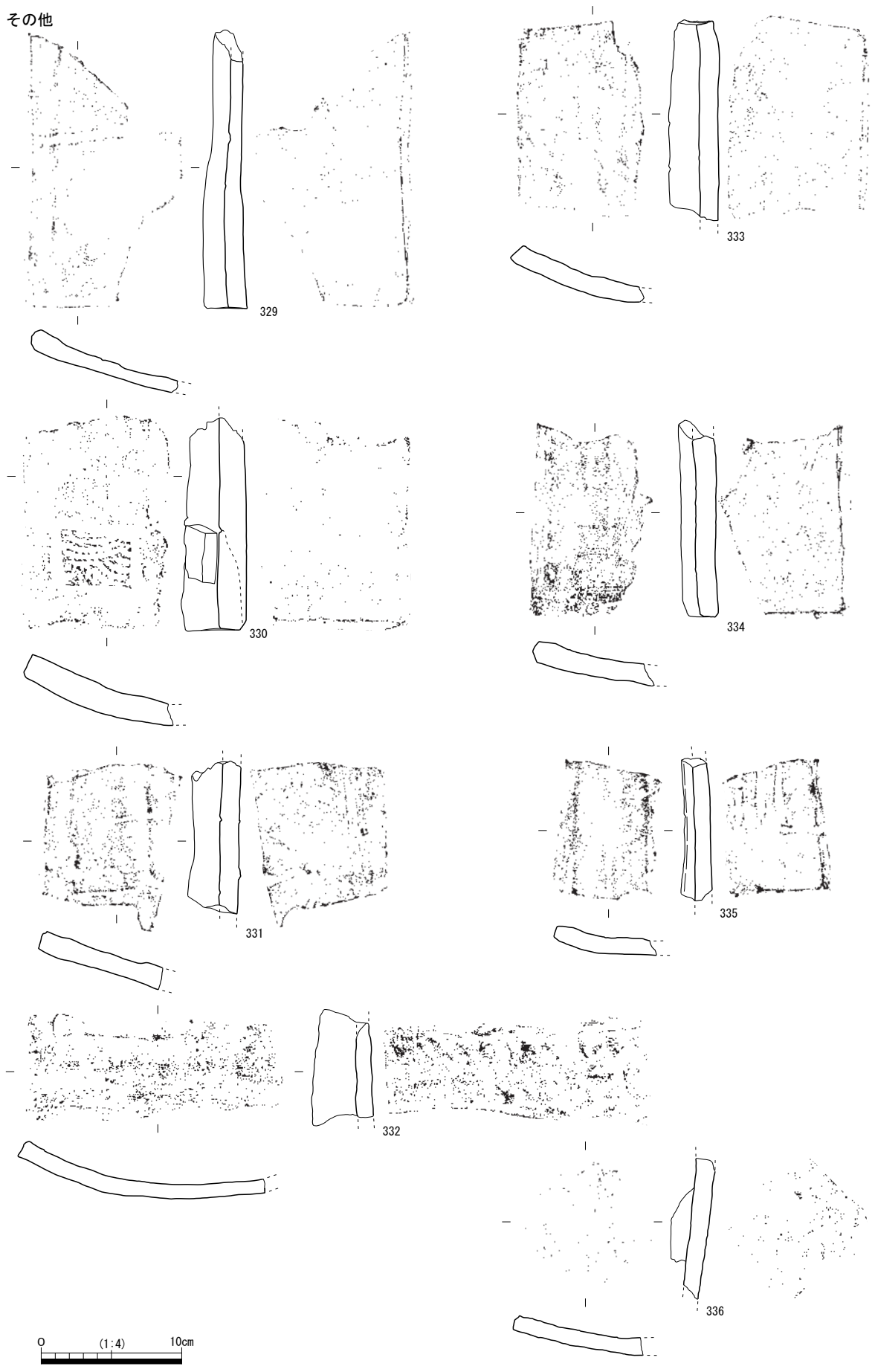


第47図 1号窯跡出土遺物実測図⑫ (1/3)

(3) 小結

1号窯は全長8.9mの地下式窖窯である。平面寸胴形で、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯である。焼成部および煙道部の一部に天井部を確認している。

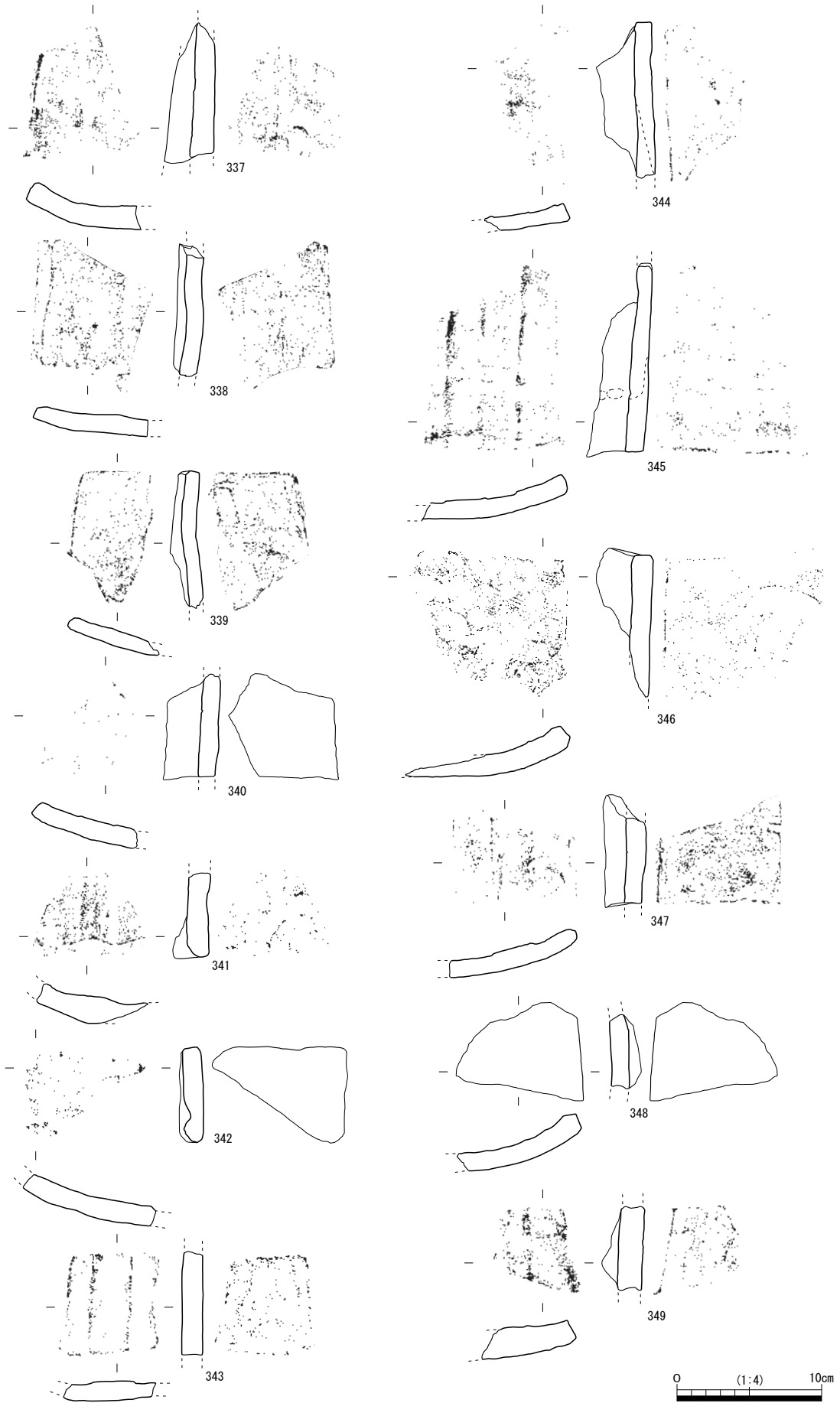
窯体内から出土した須恵器は、杯Hが主体を占め、蓋の口径12cm前後、身の口径10cm前後で、一部ヘラケズリを施さないものも確認した。また、丸瓦1点と多数の平瓦および道具瓦などの初期瓦が出土している。これらは、二次焼成を受けたものや溶着資料もあることから、一部は焼き台として使用したことが伺われる。1号窯は瓦陶兼業窯として使用され、蓋杯の様相や短脚高杯の存在からその操業時期はIV B期に位置付けられる。



第 48 図 1 号窯跡出土遺物実測図⑬ (1/4)

その他

大谷窯跡群



第 49 図 1 号窯跡出土遺物実測図⑭ (1/4)

3. 2号窯跡

(1) 窯の構造 (第50図、図版21・22・26～28)

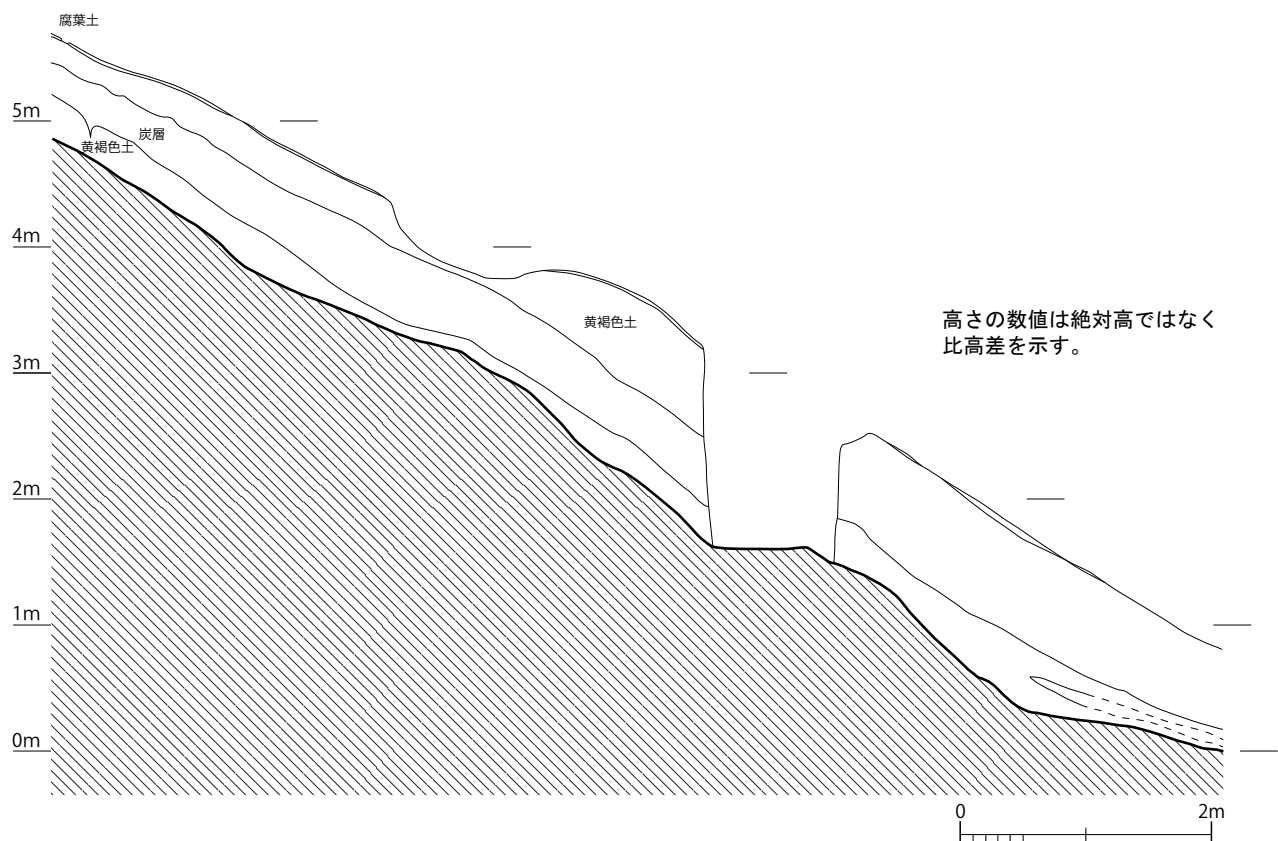
1号窯の南に接するように構築する。窯跡配置図・灰原土層図以外に図面がないため、詳細は不明な点が多い。地下式の窖窯である。灰原から煙道部まで確認し、水平長約12m以上を検出した。全体の規模・構造は1号窯と良く似る。窯尻部・焚口部ではほとんど絞り込みはなく、平面寸胴プランを呈する。煙道部の一部には天井部が遺存し、3つの排煙口からなる多孔式煙道窯である。窯の主軸方位はS-59°-Eである。写真のメモでは「1次窯底」「2次窯底」とあることから、複数の作業面があった可能性がある。1号窯との切り合い関係は明確ではないが、写真では1号窯の煙道部から続く溝を埋め戻して構築しているように見え、全体図でも2号窯の灰原が1号窯を覆うように表現してあることから、2号窯が後出する可能性がある。

【焚口部・燃烧部】 写真で見る限り、床面の傾斜角度はおおむね水平である。焚口部の絞り込みはない。遺物は須恵器杯H、杯Bなどが出土した。

【焼成部】 燃烧部と同様の幅で焼成部へと続き、30度程度の傾斜角度が想定される。床面には焼き台と考えられる須恵器の甕片が散在するほか、煙道部付近では焼成前穿孔を施した須恵器蓋杯が外面を上にした状態で複数出土した。1号窯と異なり、階段状の施設は明確ではない。

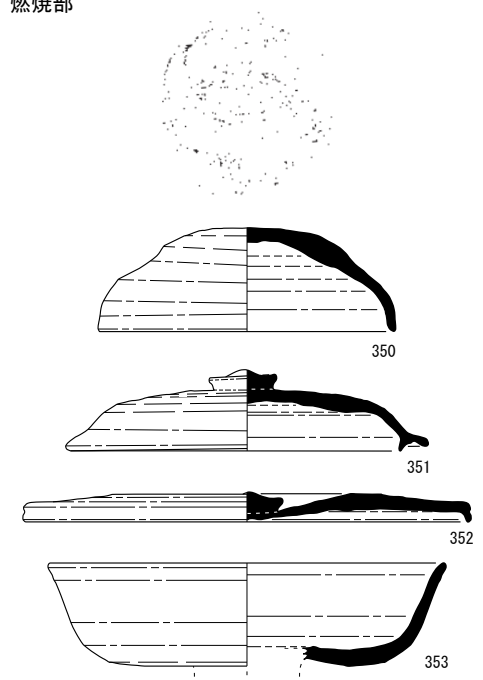
【煙道部】 3つの排煙口が横一列に並ぶ多孔式煙道で、一部に天井部が遺存する。

【溝】 煙道部の左側に、溝が接続する。左側に1.3mほどのびた後直角に曲がり、1号窯方向に1m

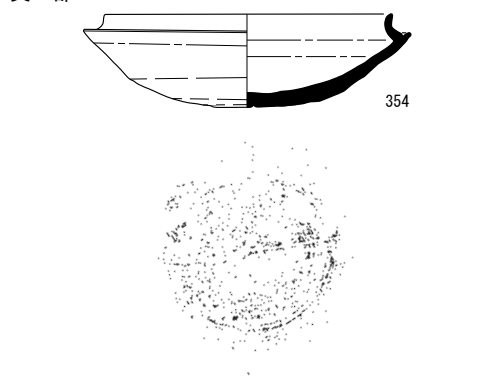


第50図 大谷窯跡群2号窯跡灰原土層実測図 (1/60)

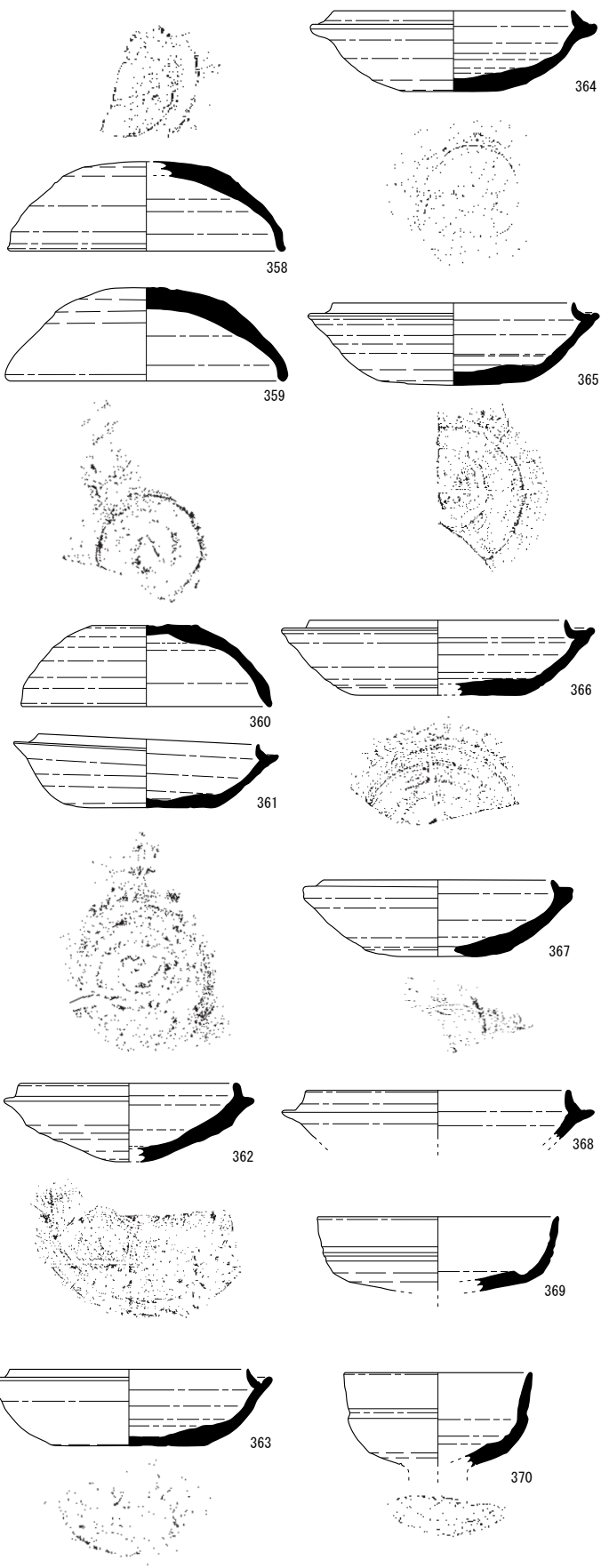
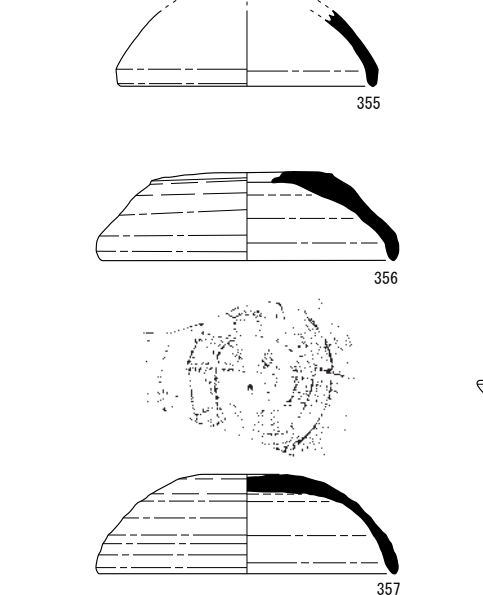
燃烧部



焚口部

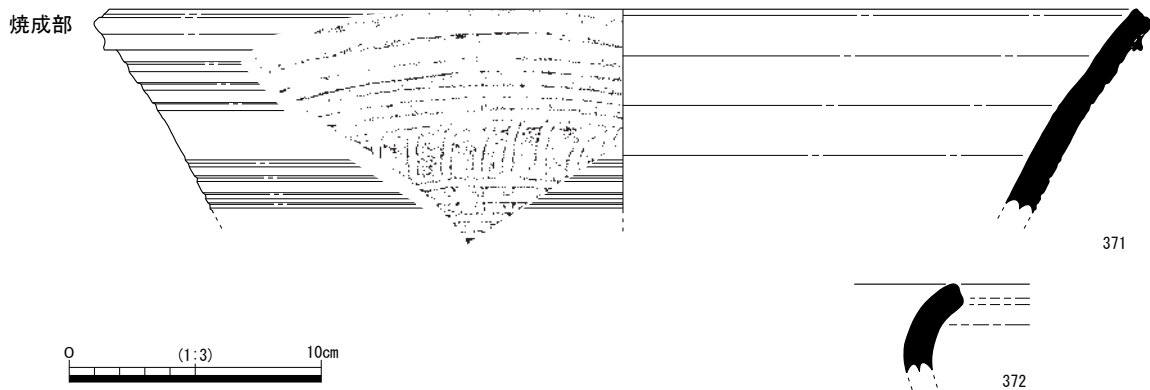


烧成部



0 (1:3) 10cm

第 51 图 2 号窯跡出土遺物実測图① (1/3)



第 52 図 2 号窯跡出土遺物実測図② (1/3)

ほどのびた後に終息する。

【灰原】 長さ 9 m、幅 11 m の範囲に広がる。須恵器蓋杯・高杯・平瓶・すり鉢などが出土した。

(2) 出土遺物

【焼成部 (第 51 図)】

須恵器 (350 ~ 353) 350 は杯 H 蓋で、外面にヘラ記号を有し、天井部に手持ちヘラケズリを施す。351・352 は杯 B 蓋で、351 は口縁部にカエリを有し、352 は口縁部が直立する。両者とも天井部に回転ヘラケズリを施し、ボタン状ツマミを有する。353 は高杯杯部で底部は回転ヘラケズリである。

【焚口部 (第 51 図)】

須恵器 (354) 杯 H 身で、外面にヘラ記号を有し、底部は回転ヘラケズリである。

【焼成部 (第 51・52 図)】

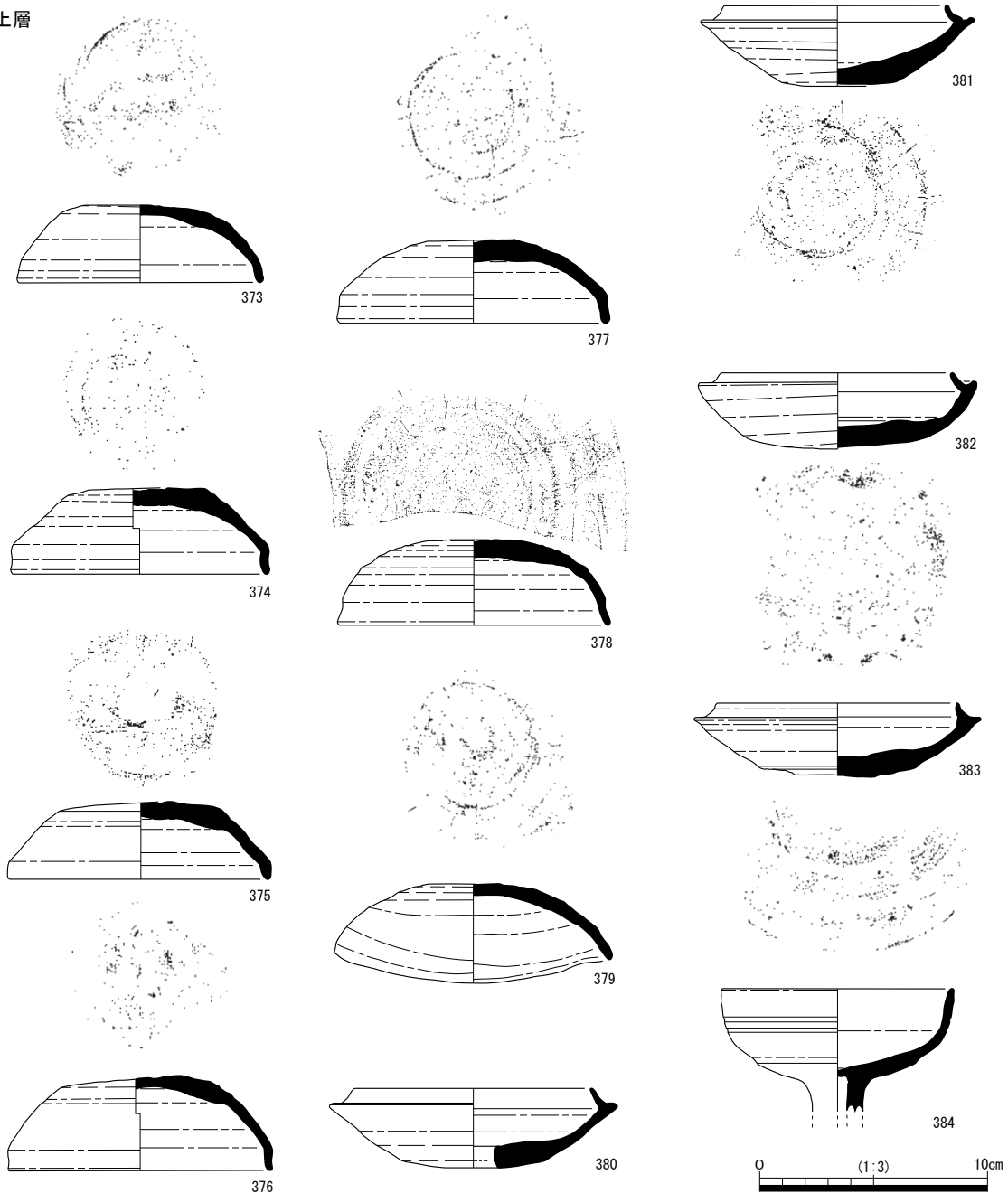
須恵器 (355 ~ 372) 355 ~ 360 は杯 H 蓋で、357・358・360 は外面にヘラ記号を有する。天井部は 356・360 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。361 ~ 368 は杯 H 身で、368 を除き外面にヘラ記号を有する。底部は 361 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。367 は底部に焼成後穿孔がある。369 は高杯杯部で、外面に沈線が巡る。370 は短脚高杯の杯部で外面にヘラ記号を有する。371・372 は甕で、371 は外面に斜線文を施す。

【灰原上層 (第 53 図)】

須恵器 (373 ~ 384) 373 ~ 379 は杯 H 蓋で、全ての外面にヘラ記号を有する。天井部は 374・376 がヘラ切り、378 が手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリである。380 ~ 383 は杯 H 身で、380 は底部に焼成前穿孔、他は外面にヘラ記号を有する。いずれも底部は回転ヘラケズリである。384 は高杯杯部で、杯部にカキメを施す。

【灰原下層 (第 54 ~ 59 図)】

須恵器 (385 ~ 449) 385 ~ 400 は杯 H 蓋で、393・398・399 を除き外面にヘラ記号を有し、395 は内面にもヘラ記号状の条線がある。外面は 386・389・397・399 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。394 ~ 400 は天井部に焼成前穿孔を施す。401 ~ 406 は杯 G 蓋である。401・404 はツマミがなく、他はツマミを有する。いずれも天井部は回転ヘラケズリである。407 は天井部にカキメを施す蓋で、高杯に伴うものであろうか。408 は杯 B 蓋で、ボタン状のツマミを有する。409 ~ 423 は杯 H 身で、

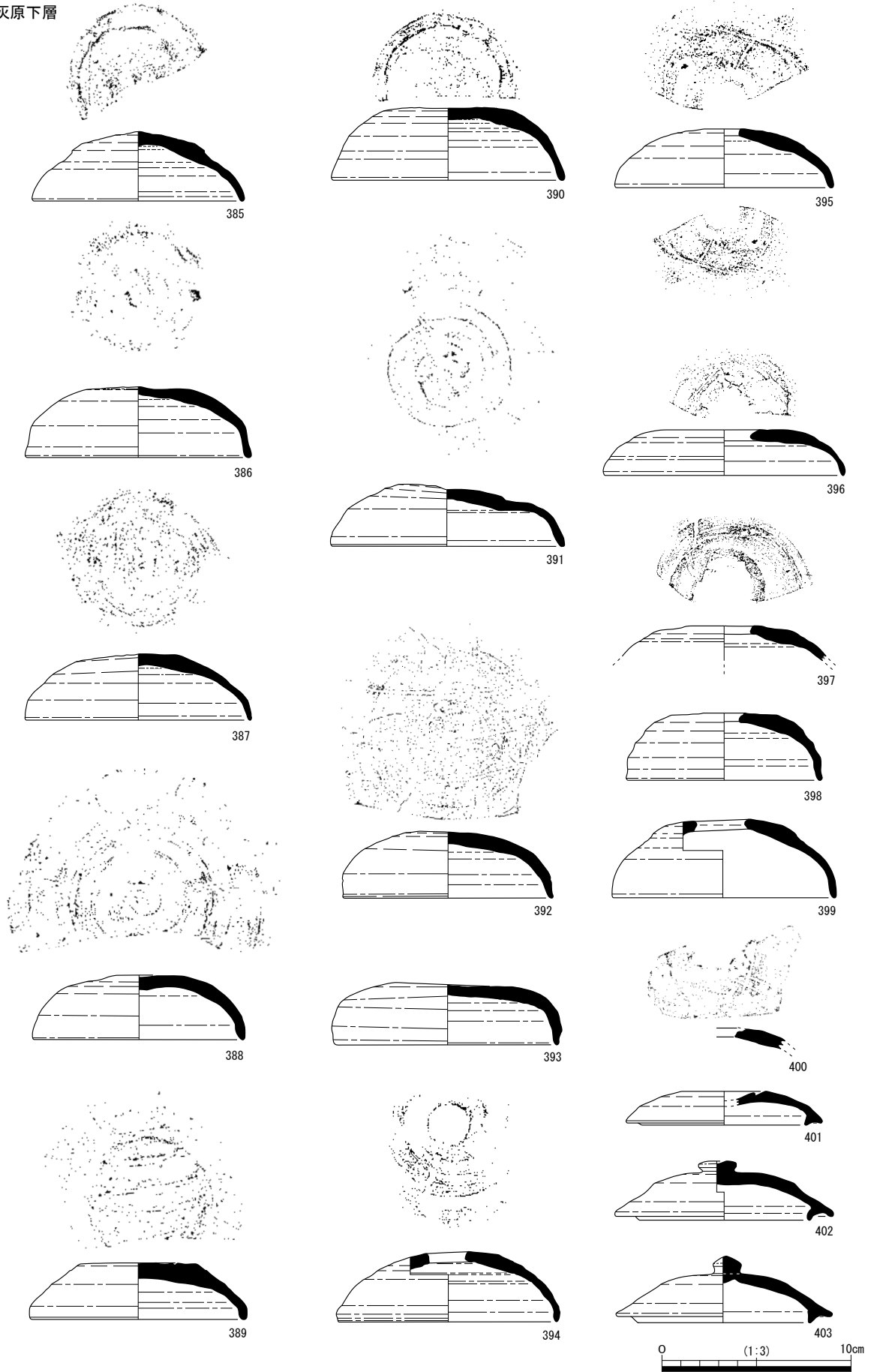


第 53 図 2 号窯跡出土遺物実測図③ (1/3)

423 以外は外面にヘラ記号を有する。底部は 409・420～422 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。415～418 は内面に指頭痕が残り、底部は丸みを帯びる。422 は底部に焼成前穿孔を施す。423 は体部に別個体が付着する。424～427 は杯 G 身で、424 は外面にヘラ記号を有する。底部は 424 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。428～431 は椀である。底部は 428 が手持ちヘラケズリ、429 が回転ヘラケズリ、431 がヘラ切りである。430 は体部に 2 条の凸帯が巡り、体部下半はカキメを施す。432 は鉢で、体部下半にカキメを施す。433 は杯で、外面にヘラ記号を有し、底部は回転ヘラケズリである。434 は高杯脚部で、杯部にカキメを施す。435・436 は壺蓋で、外面にヘラ記号を有する。437 は小型の壺で、底部はヘラ切り、底部側面に回転ヘラケズリを施す。438・439・441 は平瓶で、体部上半にカキメを施す。439・441 は外面にヘラ記号を有する。440・442 は瓶類も

灰原下層

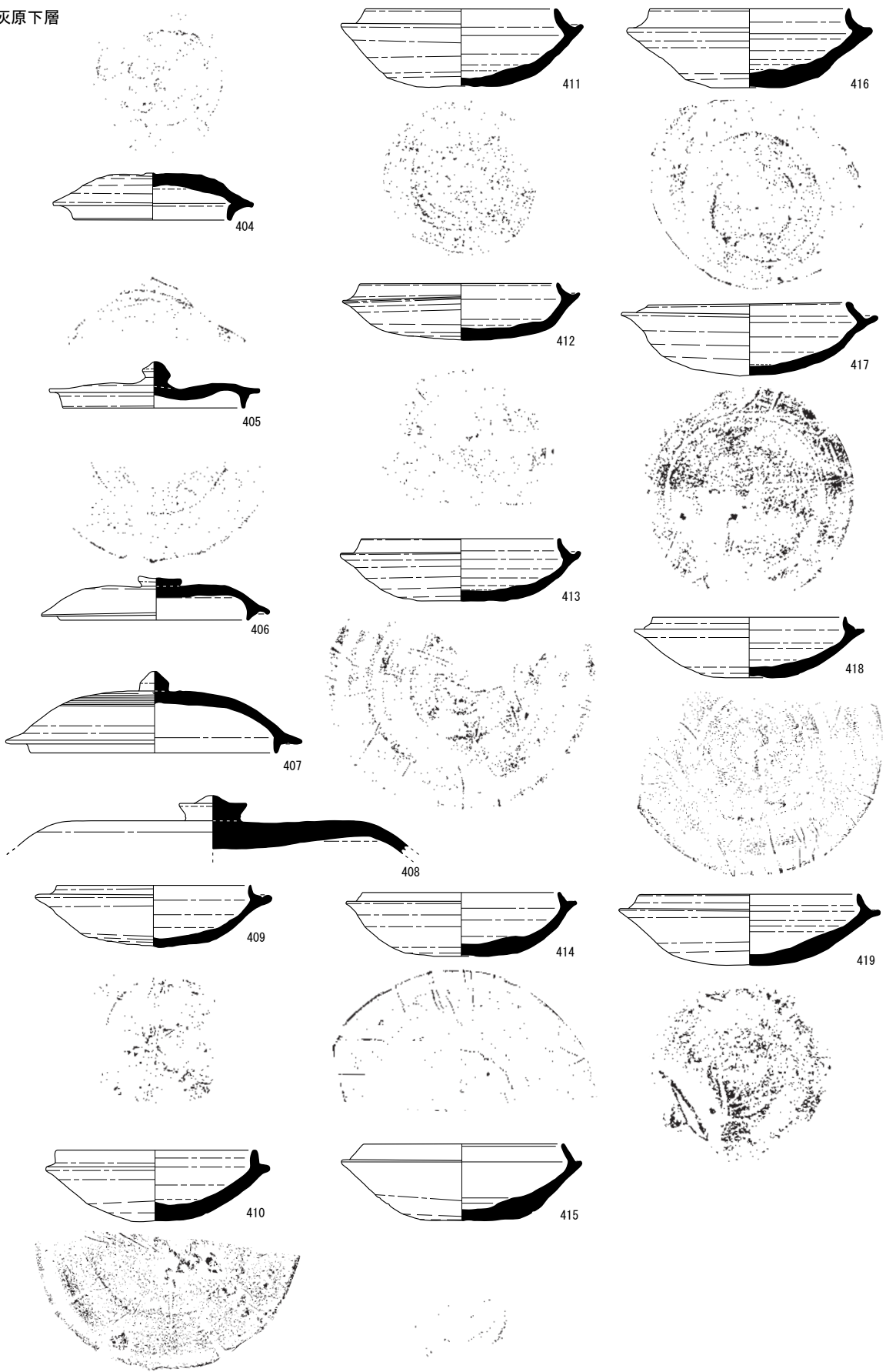
大谷窯跡群



第 54 図 2 号窯跡出土遺物実測図④ (1/3)

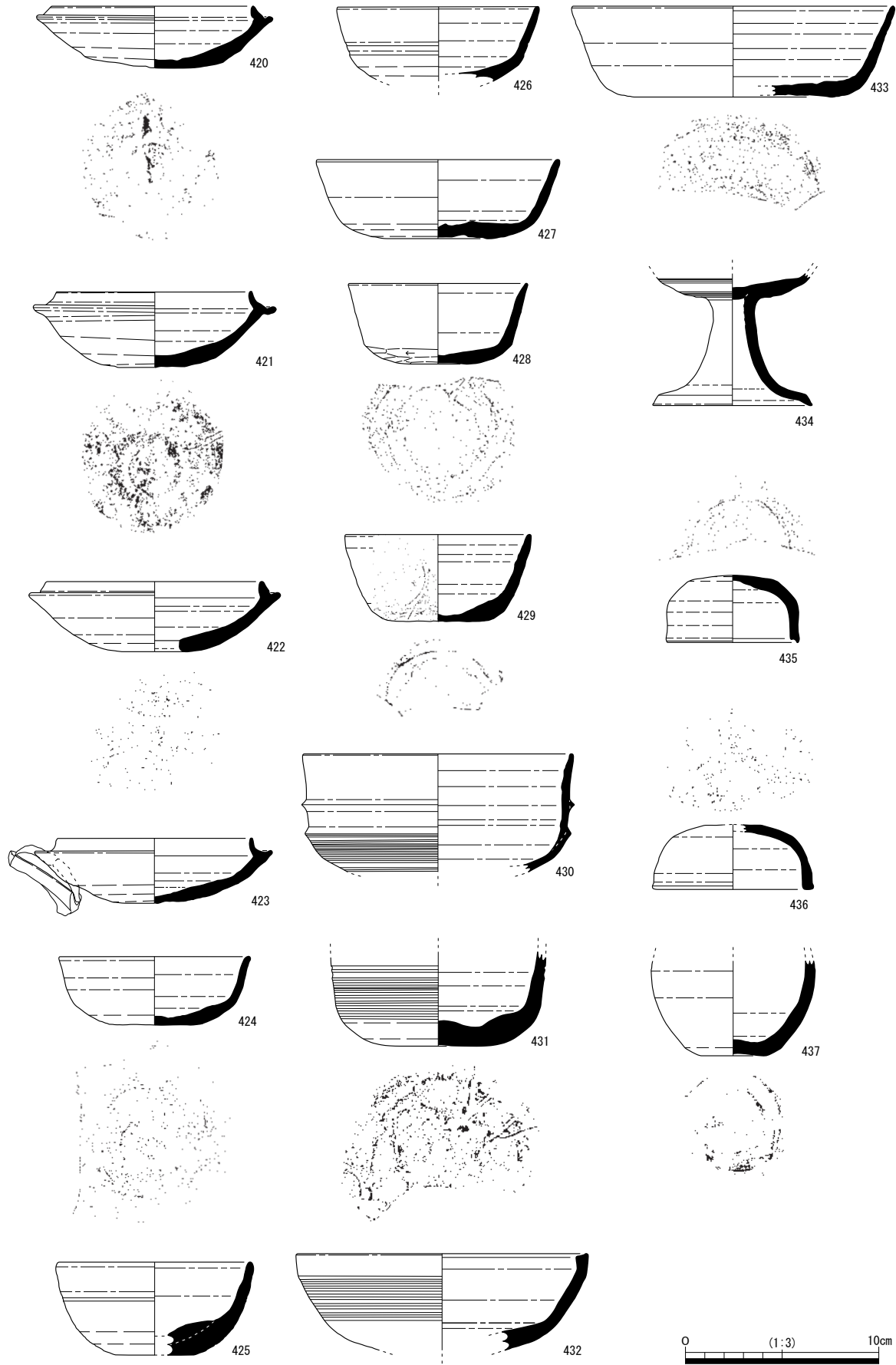
灰原下層

大谷窯跡群



第 55 図 2 号窯跡出土遺物実測図⑤ (1/3)

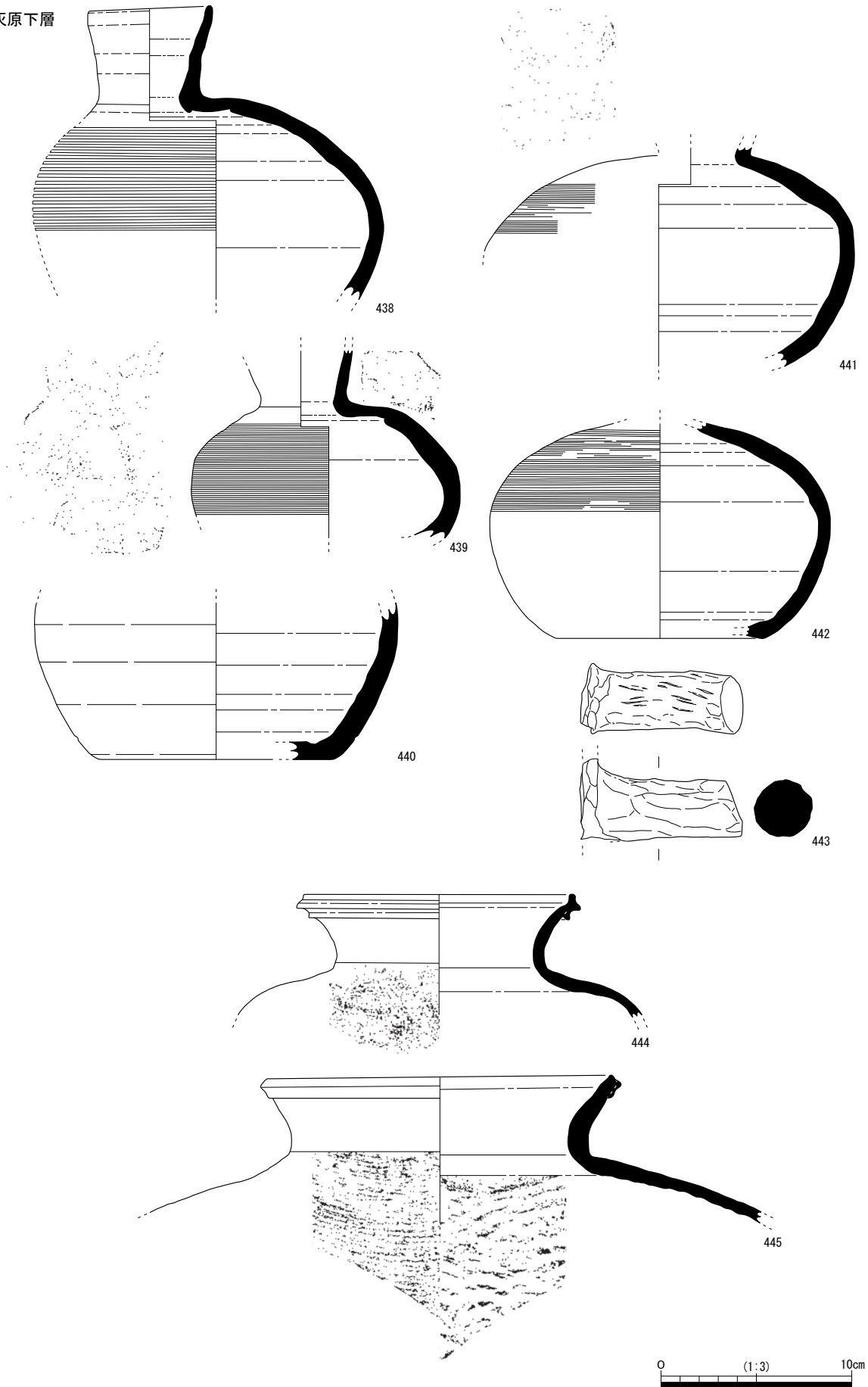
灰原下層



第56图 2号窯跡出土遺物実測图⑥ (1/3)

灰原下層

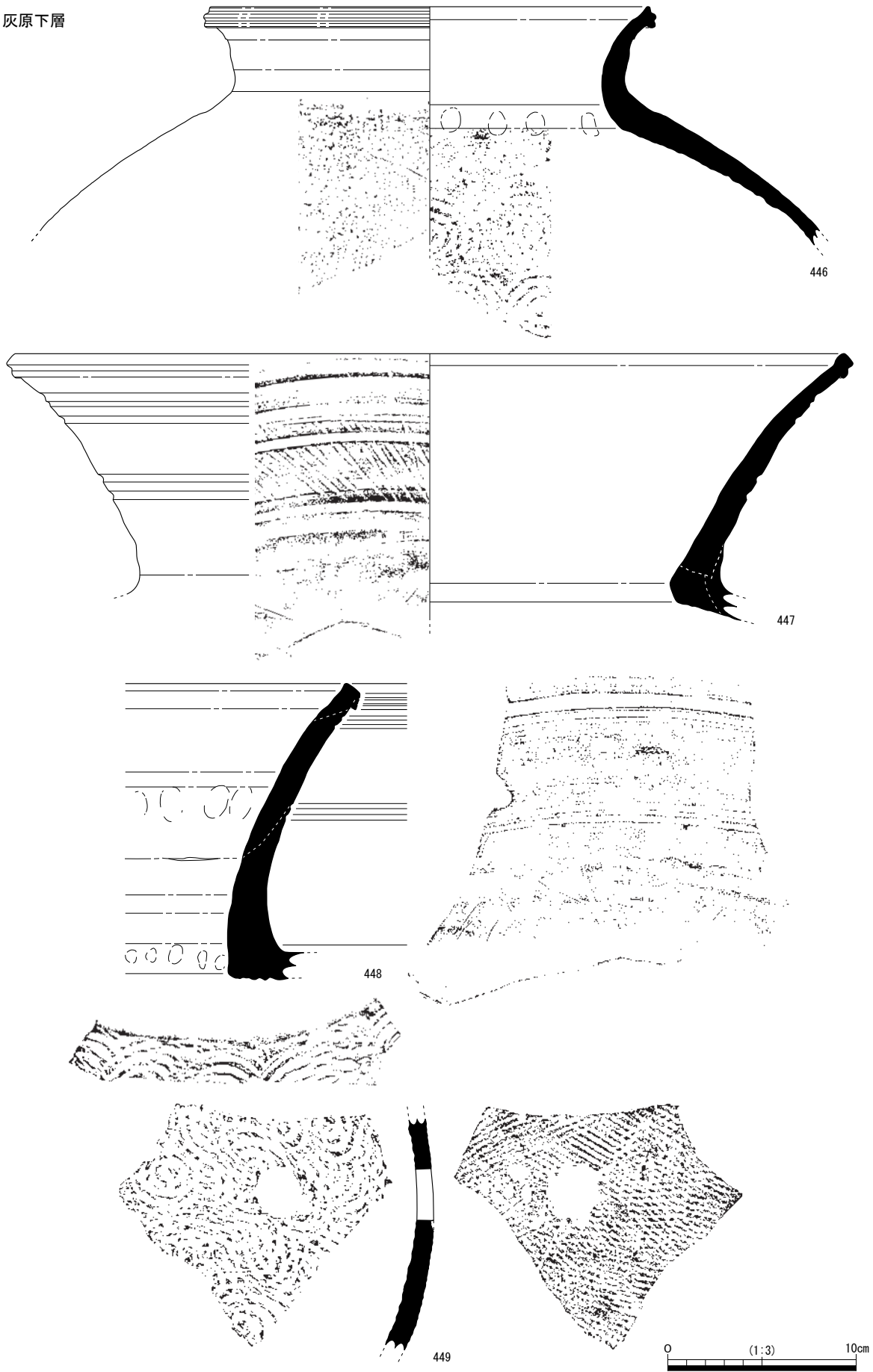
大谷窯跡群



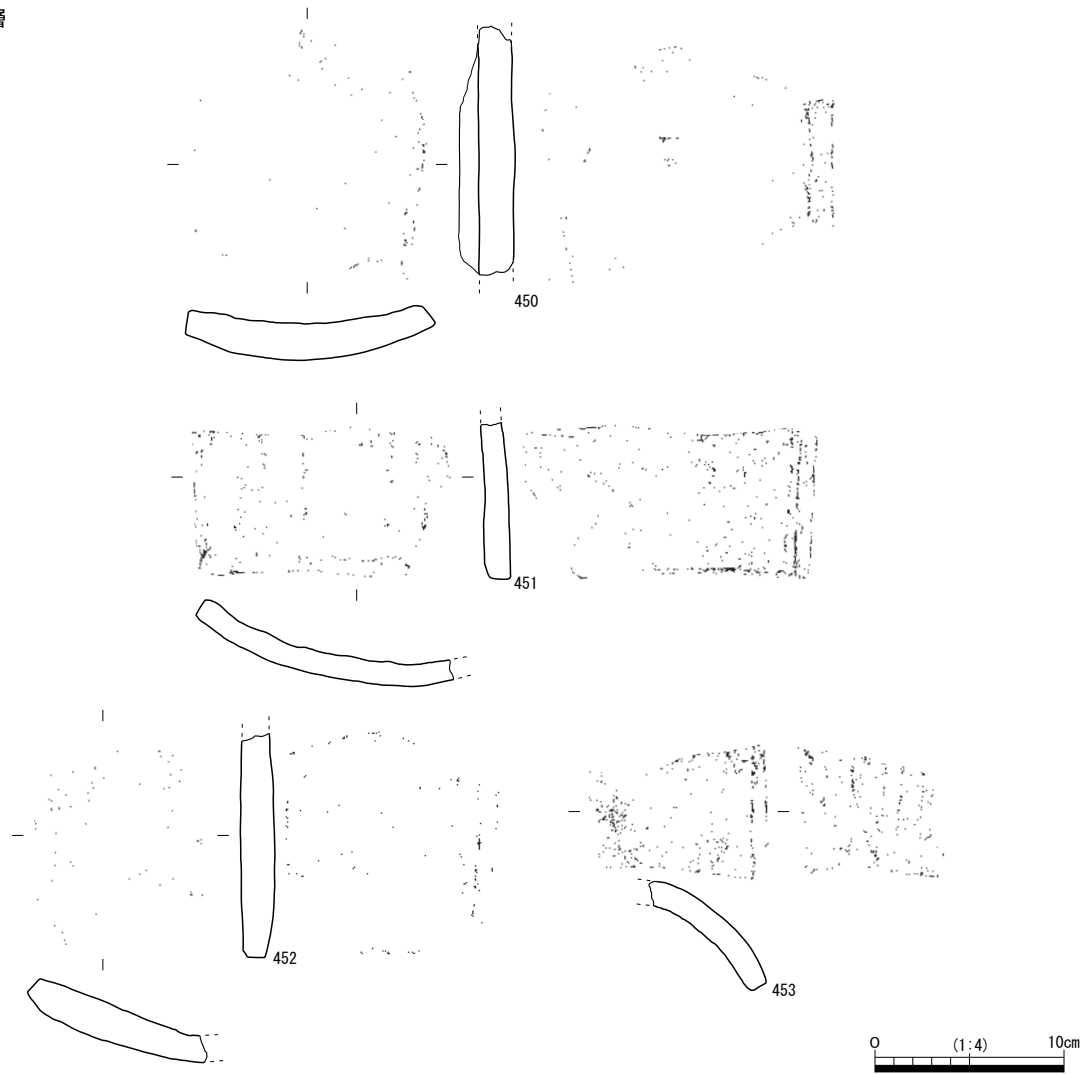
第 57 図 2 号窯跡出土遺物実測図⑦ (1/3)

灰原下層

大谷窯跡群



第58图 2号窯跡出土遺物実測図⑧ (1/3)



第 59 図 2 号窯跡出土遺物実測図⑨ (1/4)

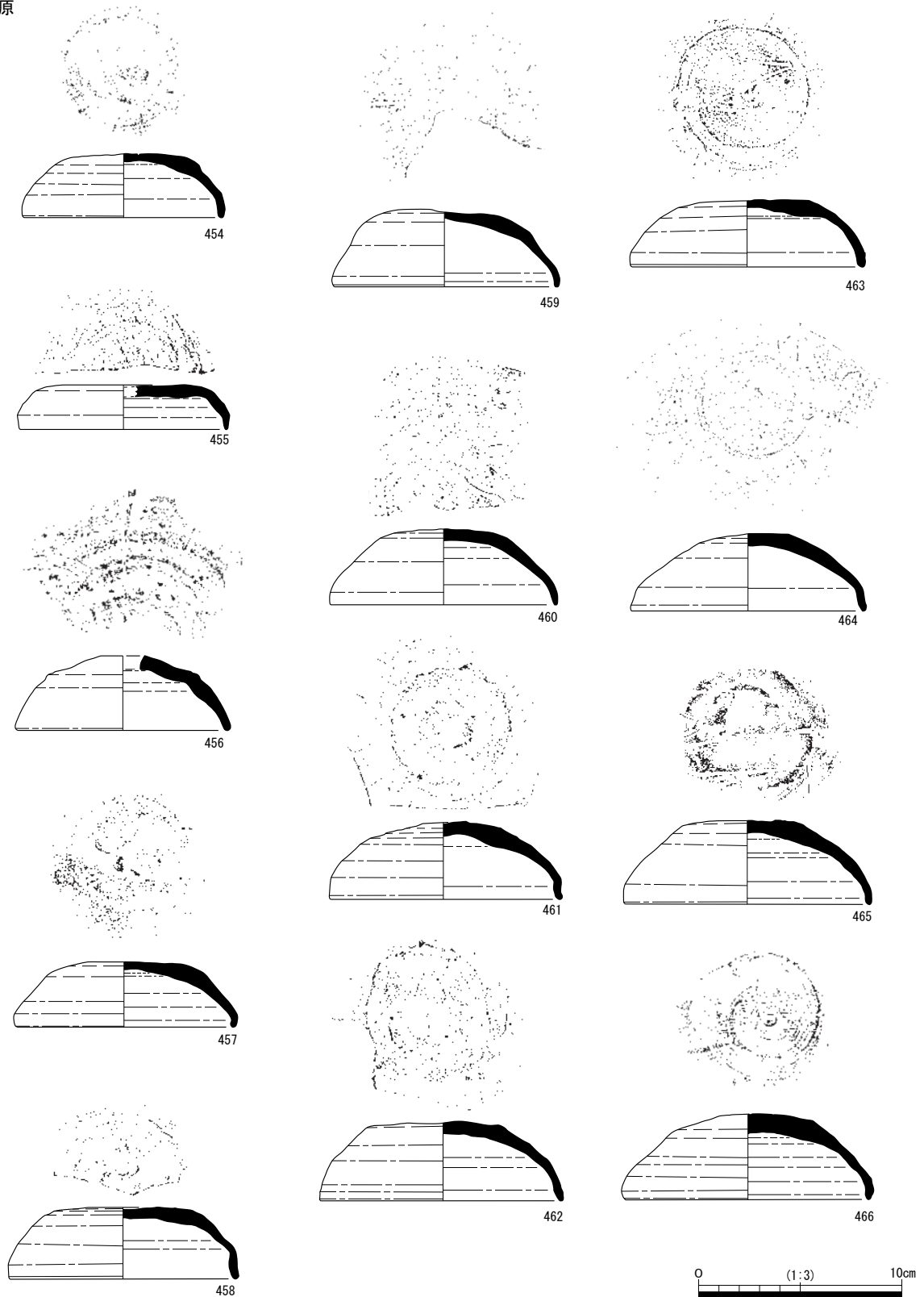
しくは直口の壺で、いずれも平底を呈する。442 は体部上半にカキメ、下半に回転ヘラケズリを施す。443 は甑もしくは鍋の把手である。差し込み技法で体部と接合する。表面は工具ナデ・ナデで、把手先端部を削り落とす。焼成は瓦質である。444～449 は甕である。444 は内外面が回転ナデで、頸部に平行タタキが残る。頸部外面にはヘラ記号状の痕跡がある。445 は体部外面に平行タタキ後カキメ、内面には同心円当具痕が残る。446 は体部外面に擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。447 は頸部外面に斜線文を施し、448 はヘラ記号を有する。449 は焼成前穿孔を施す体部片である。

瓦 (450～453) 450～452 は平瓦で、焼成は良好で灰色を呈する。側縁部と端部は面取りを行う。いずれも凹面に模骨痕・布目痕が残る、450 は凸面に平行タタキ、452 は凹面に模骨の紐の痕跡が残る。453 は丸瓦で、凹面に模骨痕・布目痕が残る。凸面はナデである。

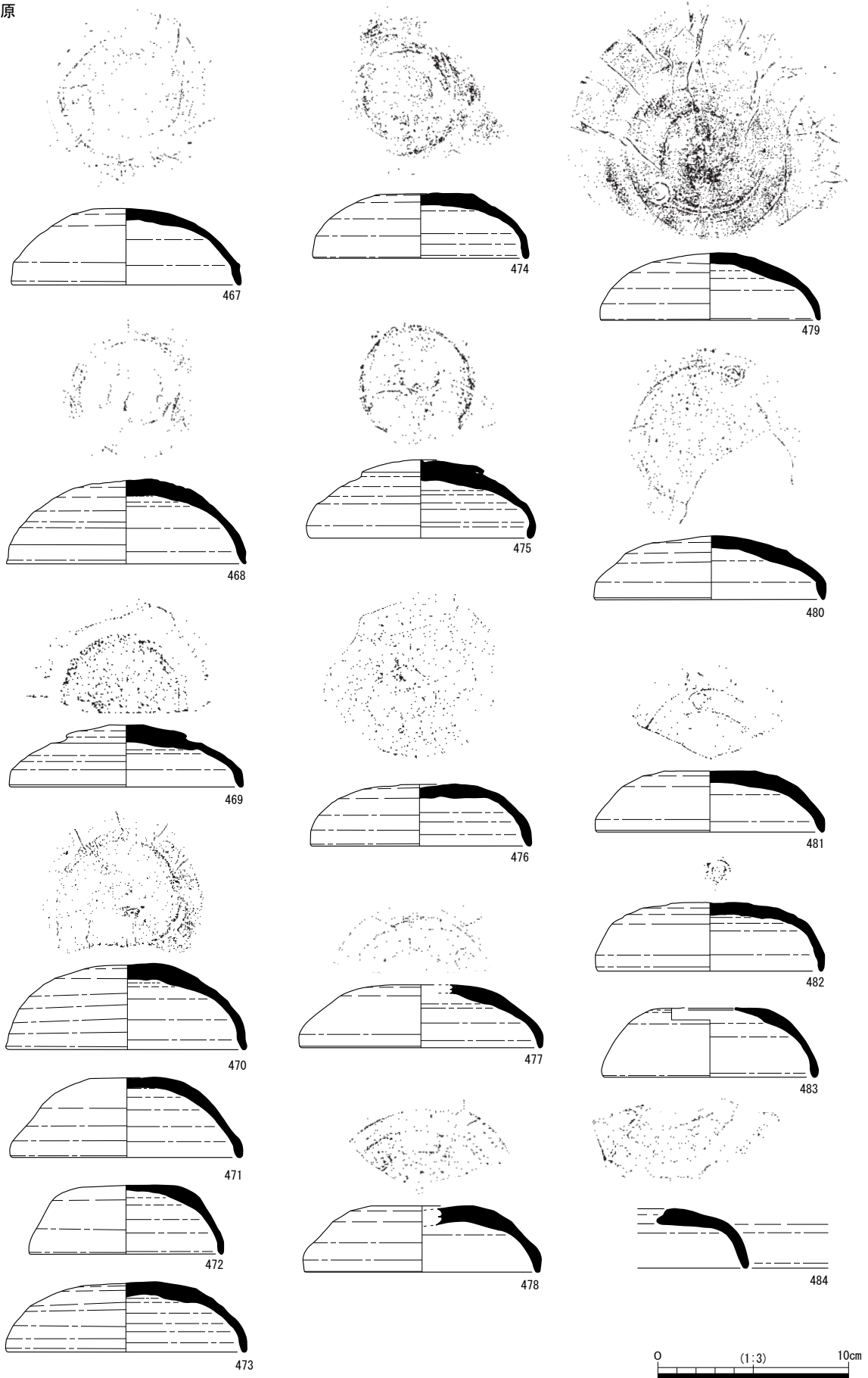
【灰原 (第 60～72 図)】

須恵器 (454～571) 454～484 は杯H蓋である。454～470・474～476 は外面にヘラ記号、477～482 は外面に竹管文を施す。天井部は 455・462 が手持ちヘラケズリ、461・465・469・475 がヘラ切

灰原



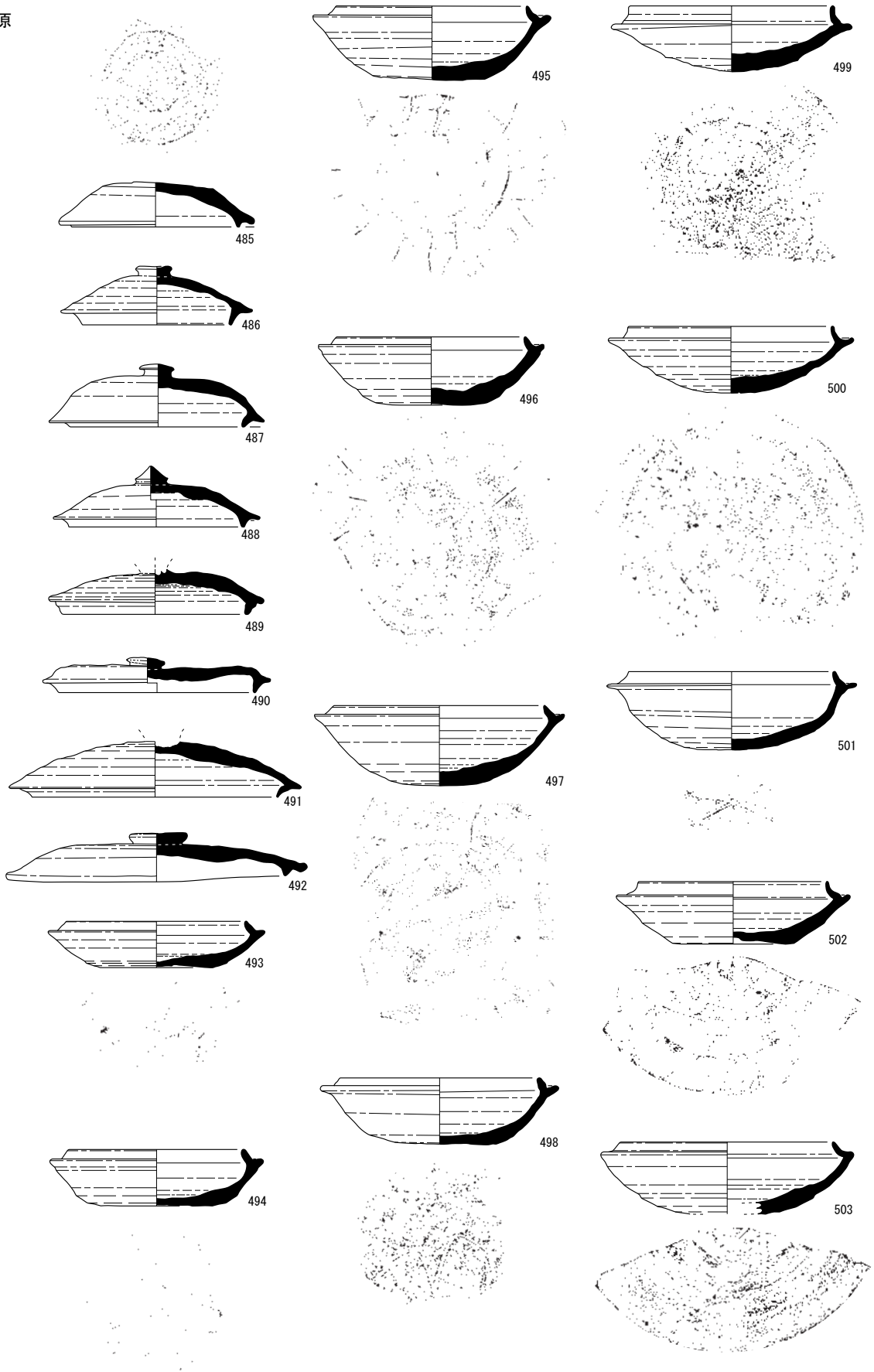
第60图 2号窯跡出土遺物実測図⑩ (1/3)



第 61 图 2 号窯跡出土遺物実測图① (1/3)

灰原

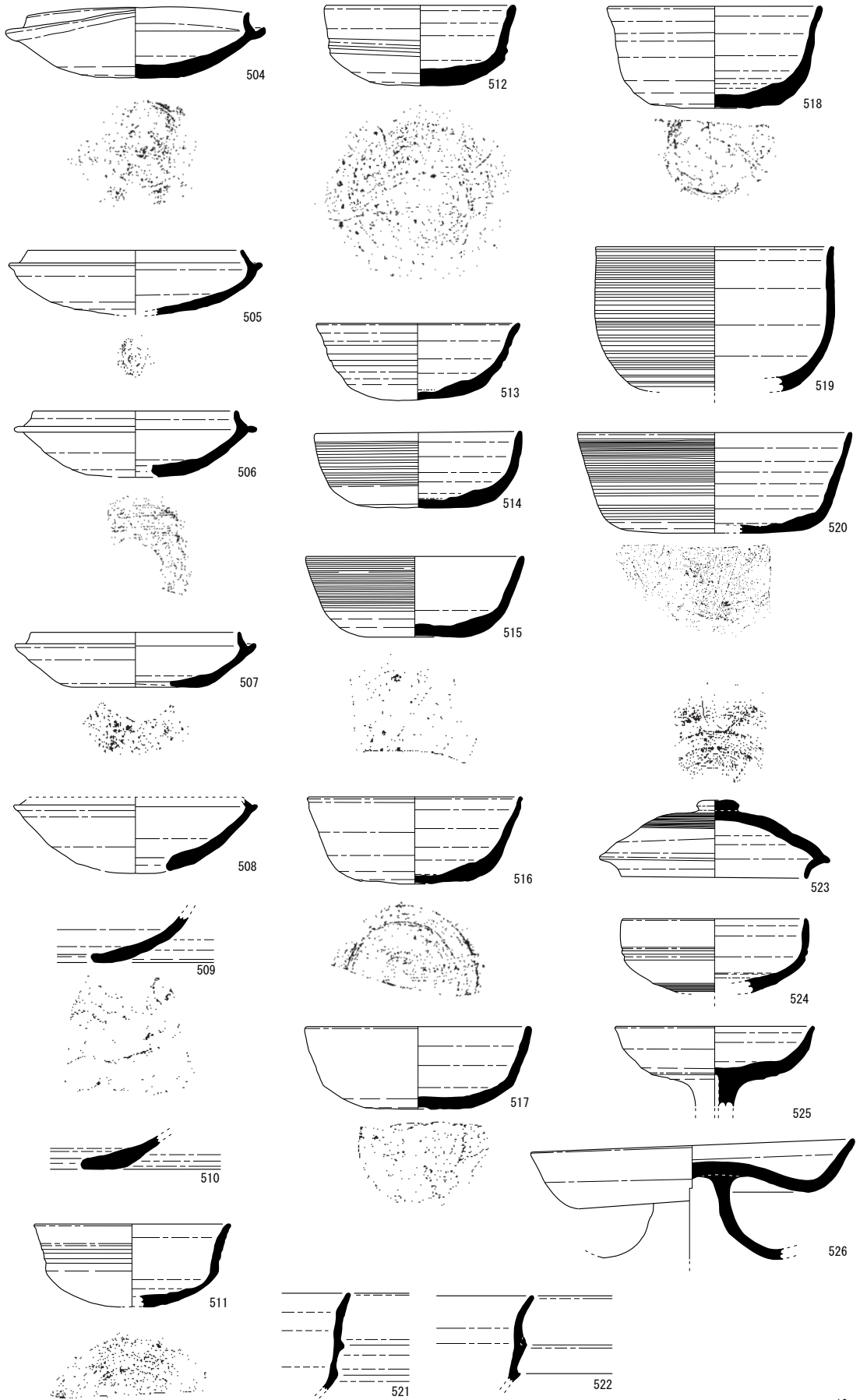
大谷窯跡群



第 62 图 2 号窯跡出土遺物実測図⑫ (1/3)

灰原

大谷窯跡群

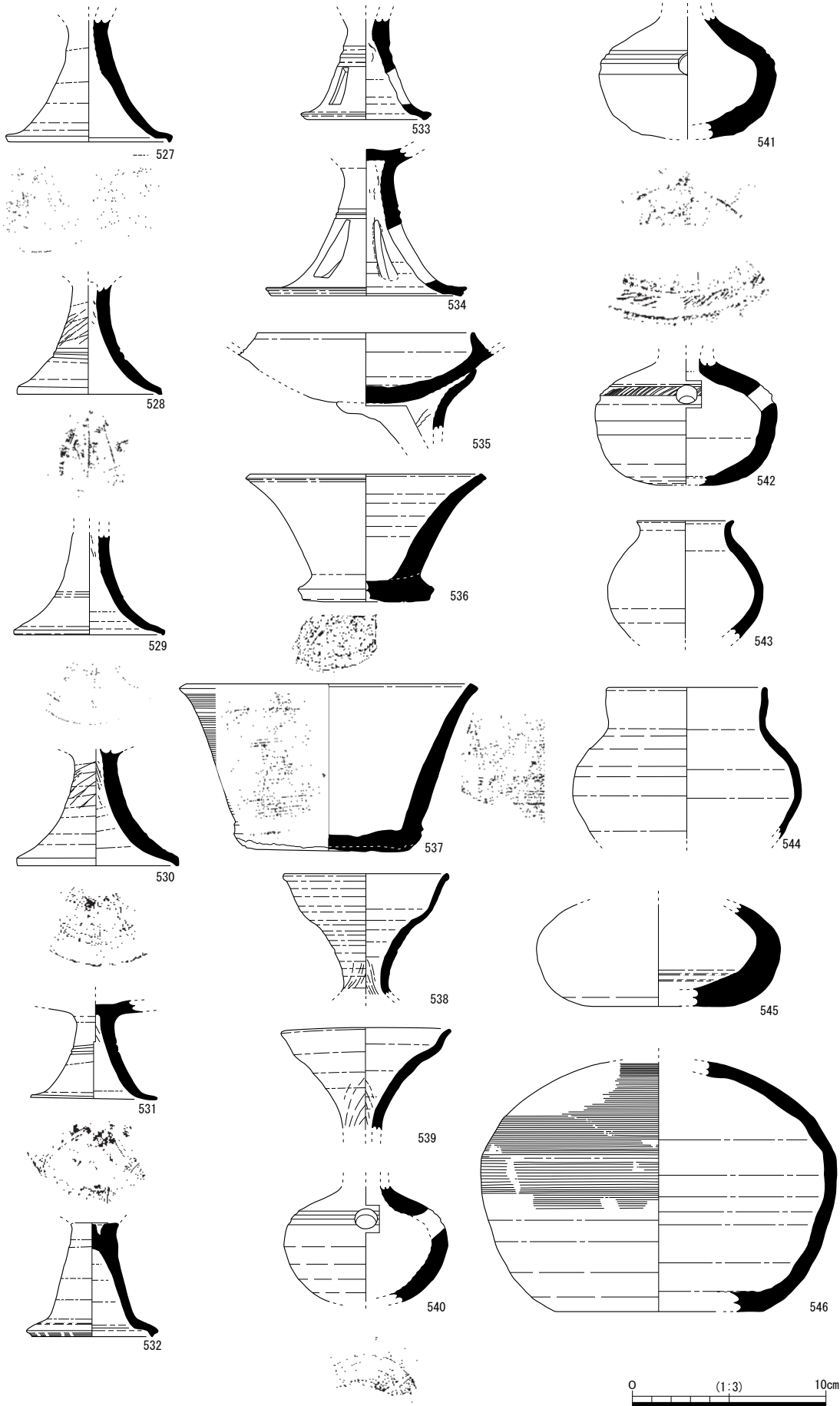


第 63 图 2 号窯跡出土遺物実測图⑬ (1/3)

0 (1:3) 10cm

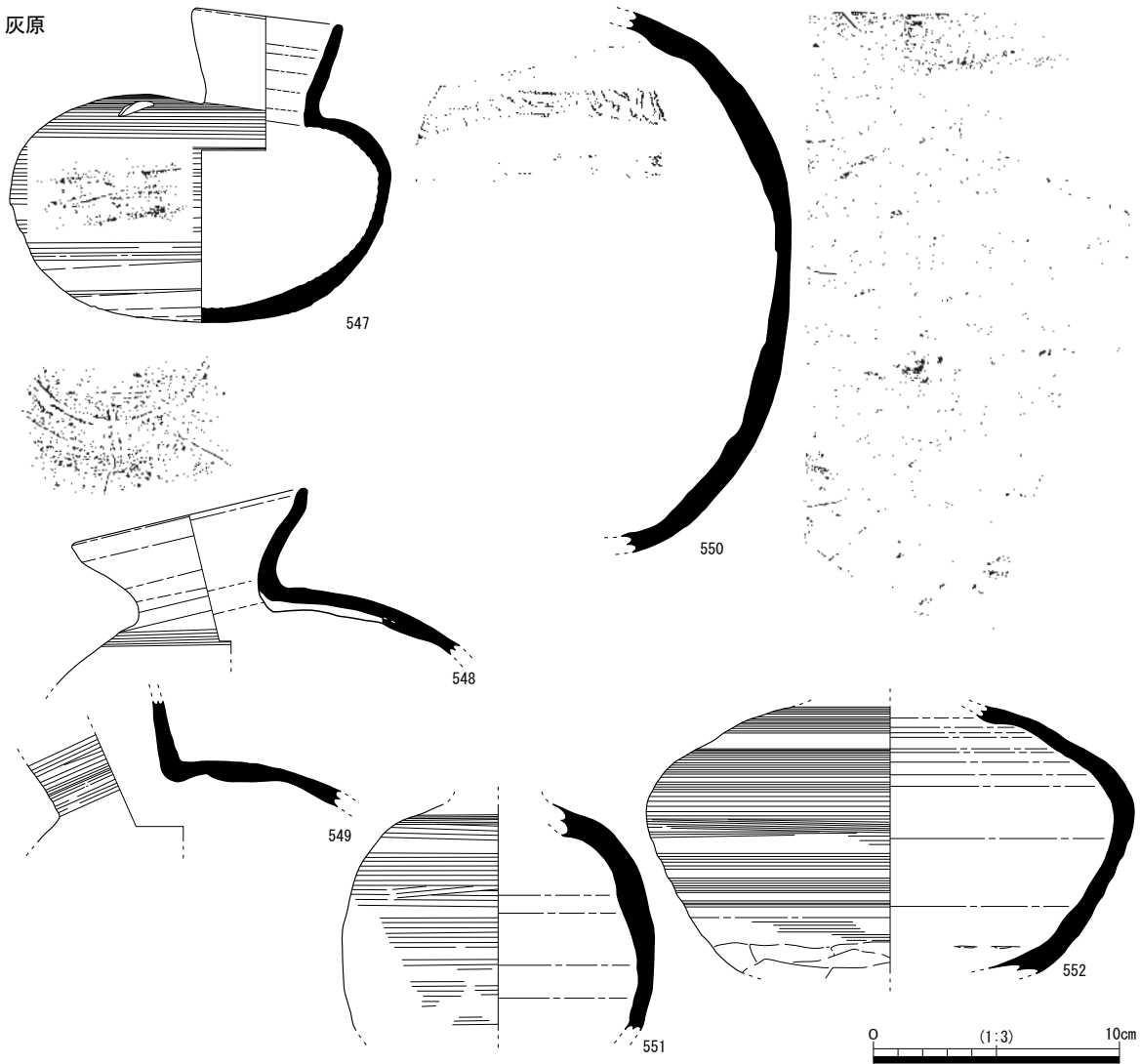
灰原

大谷窯跡群



第64图 2号窯跡出土遺物実測图⑭ (1/3)

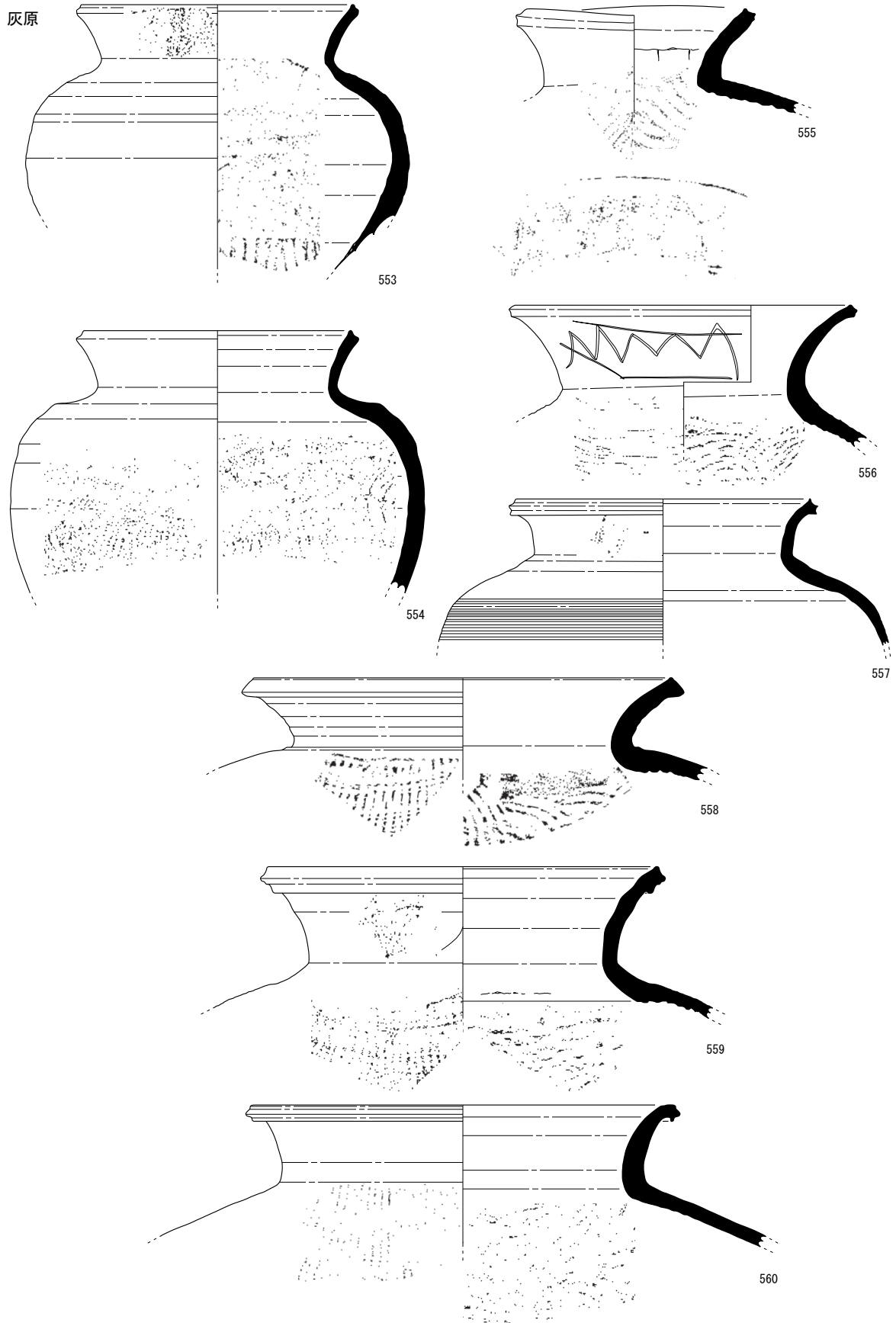
灰原



第 65 図 2 号窯跡出土遺物実測図⑮ (1/3)

り、他は回転ヘラケズリである。483・484は天井部に焼成前穿孔がある。485～489は杯G蓋で、485以外はツマミを有し、485は天井部にヘラ記号がある。天井部は485がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。490～492は杯B蓋で、口縁部にカエリを有し、天井部は回転ヘラケズリである。493～510は杯H身である。505は外面に竹管文、508以外はヘラ記号を有する。底部は498・499・506・507・509・510がヘラ切り、503が手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリである。506～510は底部に焼成前穿孔がある。511～517は杯G身で、513・514以外は外面にヘラ記号を有する。511～513は外面に沈線、514・515はカキメを施す。518～522は椀で、518・520は外面にヘラ記号を有する。519・520は外面にカキメを施し、521・522は凸帯を有する。523は高杯の蓋で、ボタン状のツマミを有し、天井部はカキメである。524～534は高杯である。524は杯部にカキメを施し、他は回転ヘラケズリである。527～534は高杯の脚部片で、527～531は内面にヘラ記号を有する。533・534は長方形の透かしを施す。535は杯H身と高杯脚部の溶着資料で、降灰のため調整は不明である。536・537はすり鉢（陶臼）で、536は底部、537は体部にヘラ記号を有する。537は体部にカキメを施す。538～542は甕である。538・539は口頸部片で、いずれも受口状を呈する。540～

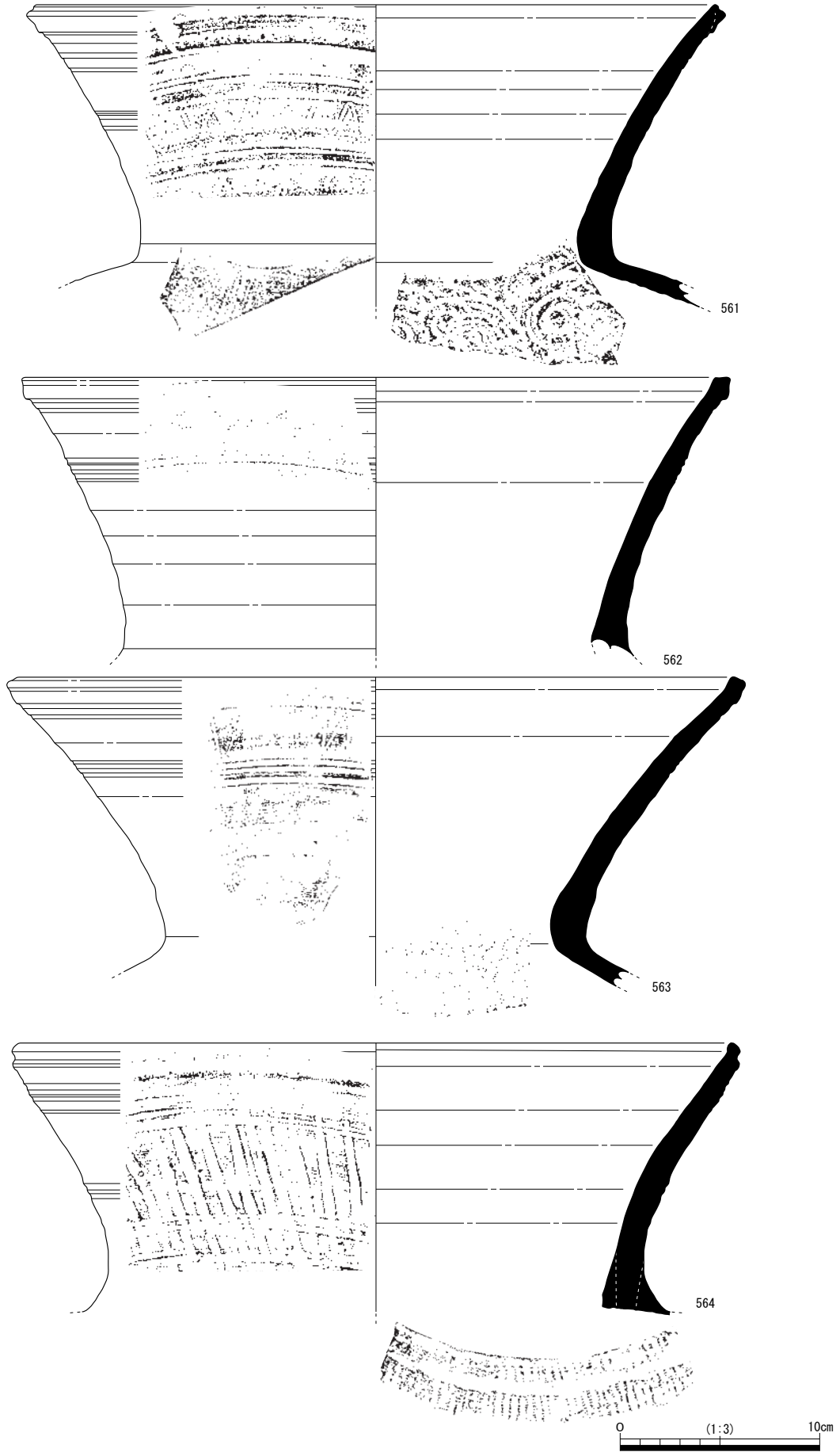
灰原



第 66 图 2 号窯跡出土遺物実測図⑯ (1/3)

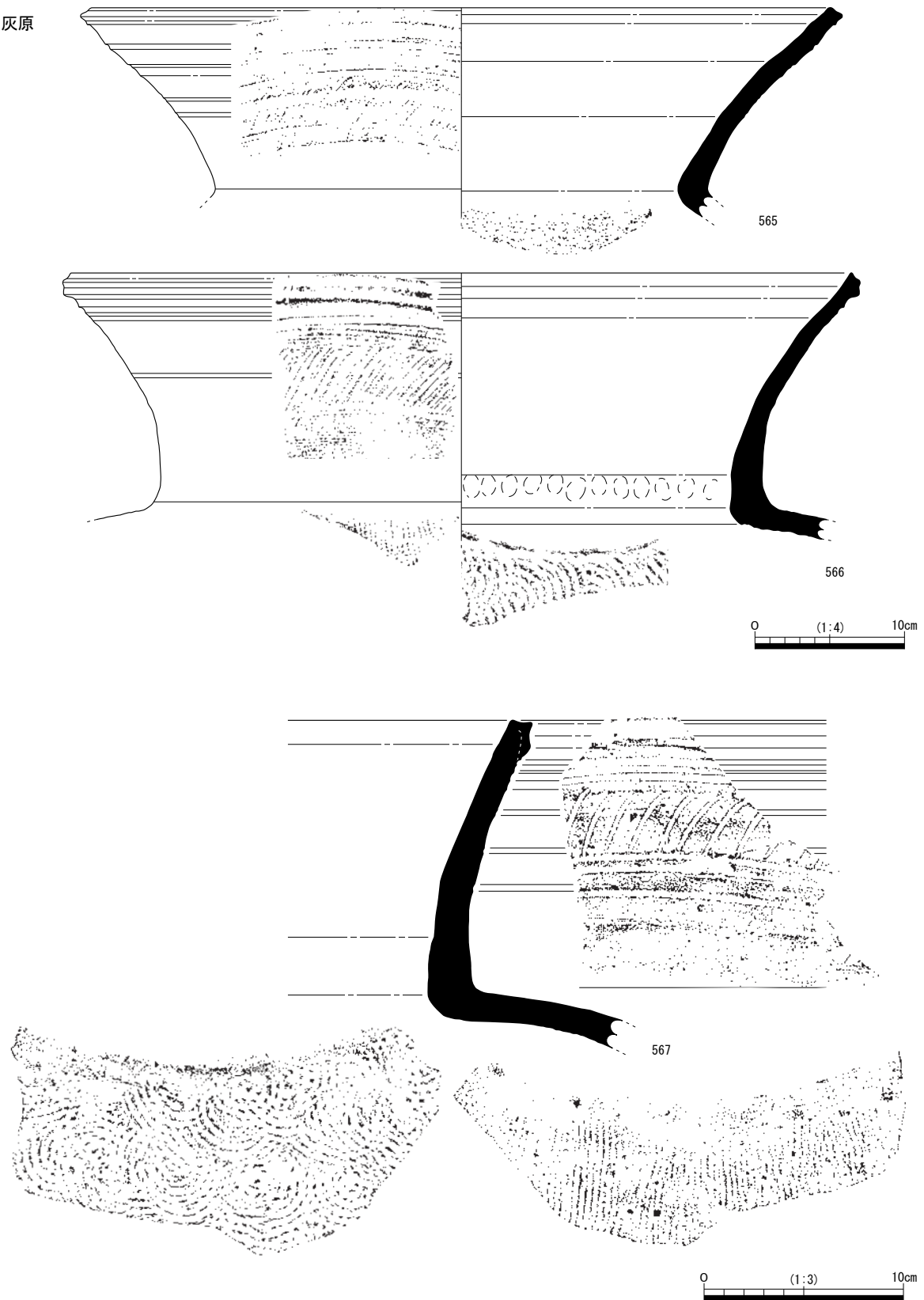
灰原

大谷窯跡群



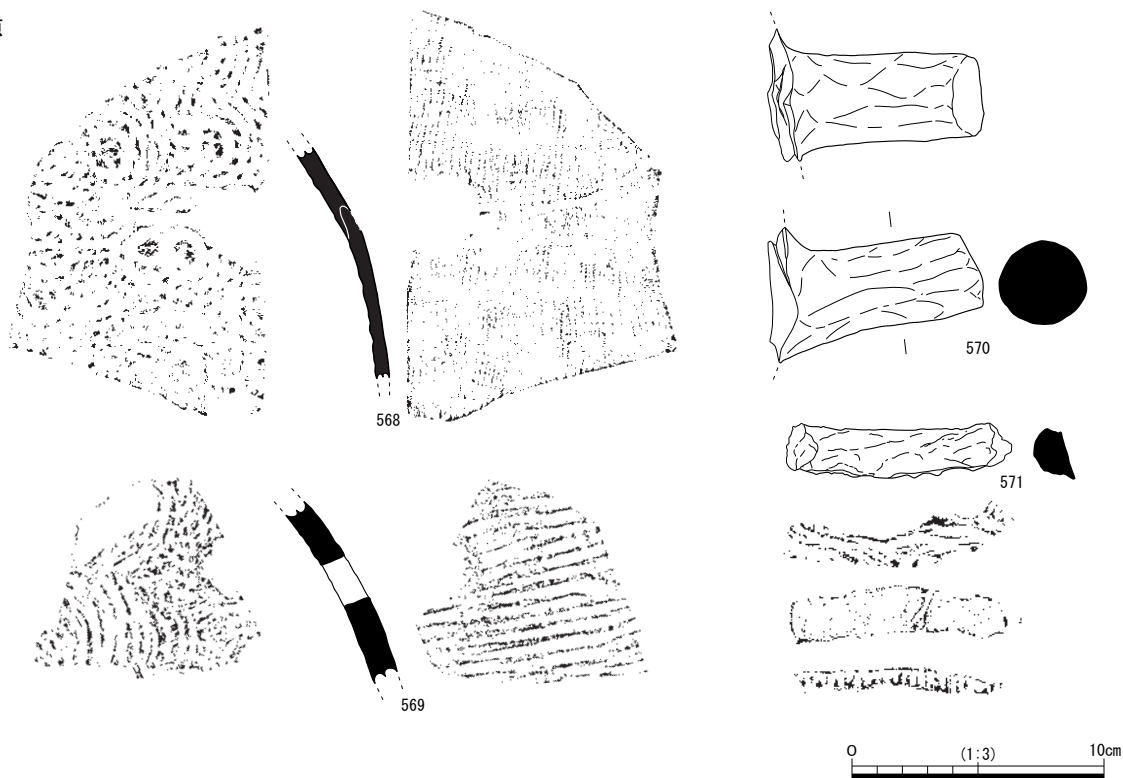
第 67 図 2 号窯跡出土遺物実測図① (1/3)

灰原



第 68 图 2 号窯跡出土遺物実測図⑱ (1/3・1/4)

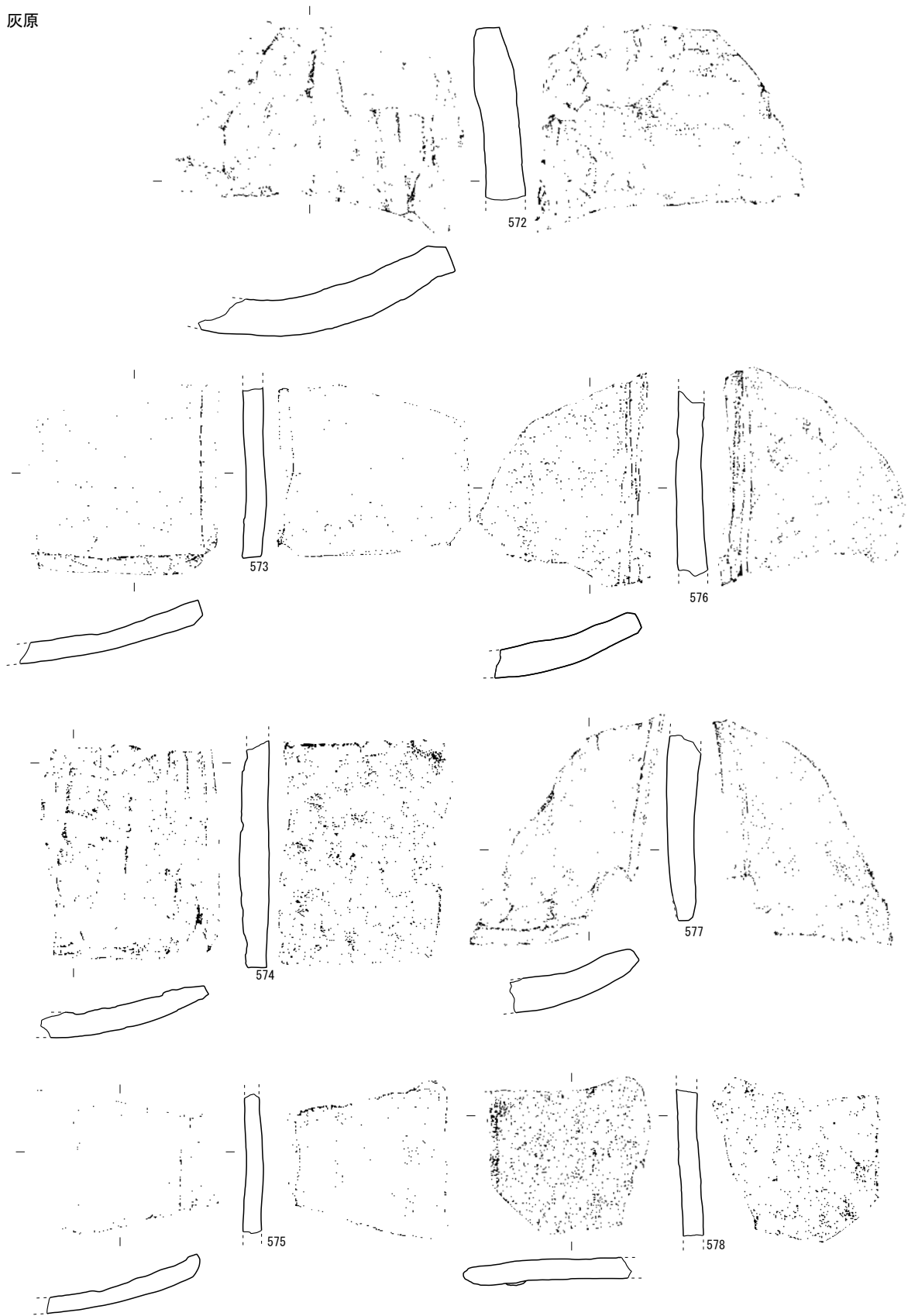
灰原



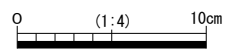
第 69 図 2号窯跡出土遺物実測図⑱ (1/3)

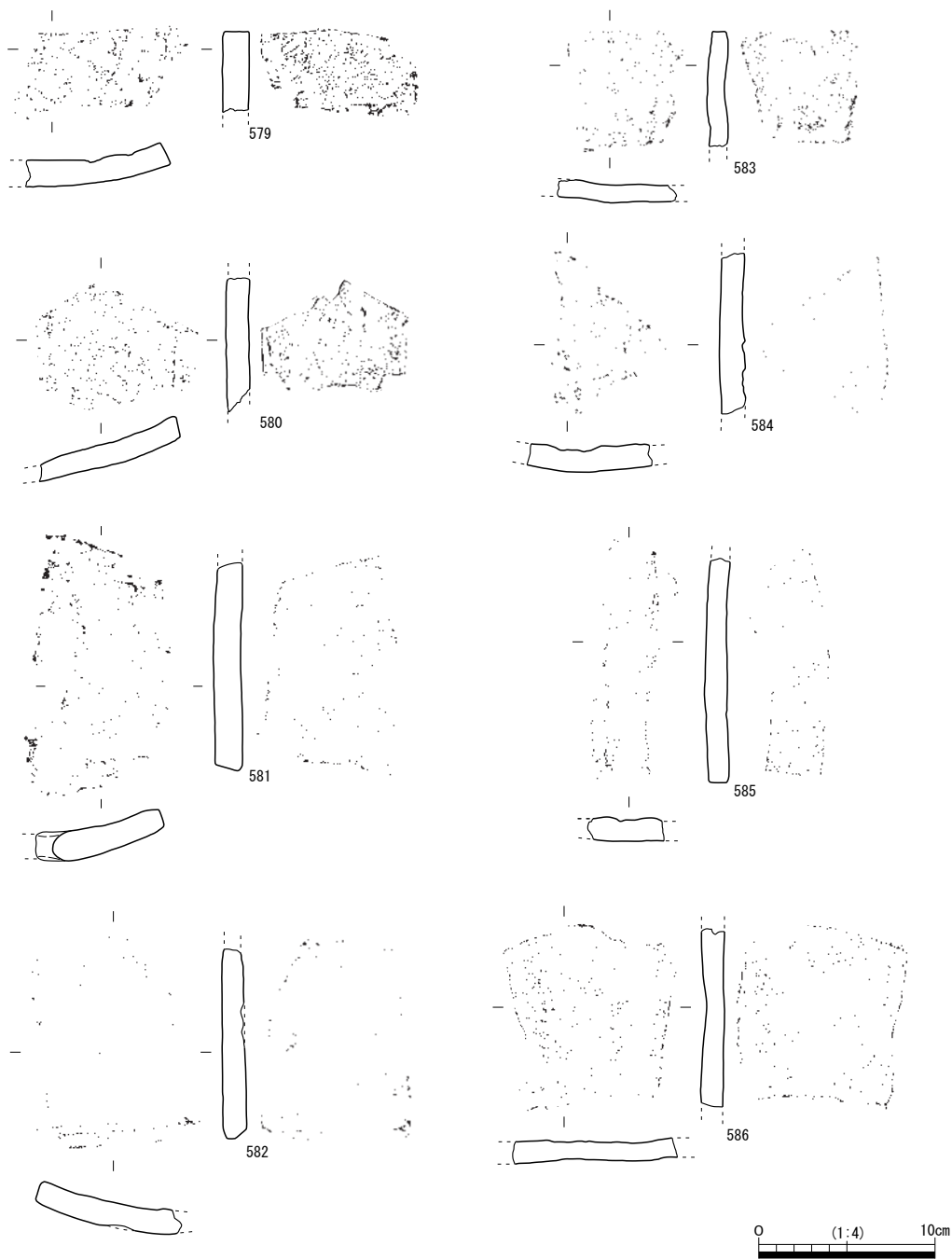
542 は体部片で、540・541 は底部にヘラ記号、542 は肩部に刺突文を施す。543～545 は小型の壺である。546 は瓶類で、底部は平底、体部は扁球形を呈する。体部上半にカキメを施す。547～549 は平瓶である。547 は体部上半にカキメを施し、ヘラ記号を有する。548 は体部上半に、549 は口縁部にカキメを施す。550 は横瓶の体部片で、閉塞痕が残る。タタキ成形後、内外面に回転ナデを施す。551・552 は瓶類であろう。551 はなで肩様を呈し、外面にカキメを施す。552 は扁球形で、体部下半は手持ちヘラケズリ、他はカキメを施す。553～560 は小型・中型の甕である。557 は外面にカキメ、内面には回転ナデ、他はいずれも外面は平行タタキもしくは擬格子タタキ、内面は同心円文・弧状の当具痕が残る。553・556・557・559 は口頸部にヘラ記号を有する。561～567 は大甕である。体部が残るものは、外面に平行タタキもしくは擬格子タタキ、内面は同心円文・弧状の当具痕である。561～563 は口頸部に波状文を施し、563 は線刻状の条線がある。564～567 は口頸部に斜線文を施す。568・569 は焼成前穿孔を施す甕の体部片である。外面は平行タタキ、内面には同心円当具痕が残る。570 は甑あるいは鍋の把手で、443 と同一個体の可能性がある。差し込み技法で体部と接合する。表面は工具ナデ・ナデで、把手先端部を切り落とす。焼成は瓦質である。571 は切削物で、1面は本体から切り離れた際のケズリ、1面は内面の当具痕、1面は本体の平行タタキが転写されている。

瓦 (572～590) 572～586 は平瓦である。焼成は硬質で灰色を呈するものや、軟質で黄橙色を呈するものがある。胎土に1mm程度の白色砂粒を含むものが多い。側縁部と端部は面取りし、側縁部は凹面もしくは凸面に及ぶものもある。厚さの平均は1.5cmで、厚いものは2.6cm、薄いものは1.0cmである。いずれも凹面に模骨痕・布目痕が残る、574 は糸切り痕、580 は線刻がある。572～577 は凸面に平行タタキが残る。581 は焼成前穿孔を施す。587～589 は丸瓦で、587・588 は同一個体で



第70図 2号窯跡出土遺物実測図⑳ (1/4)



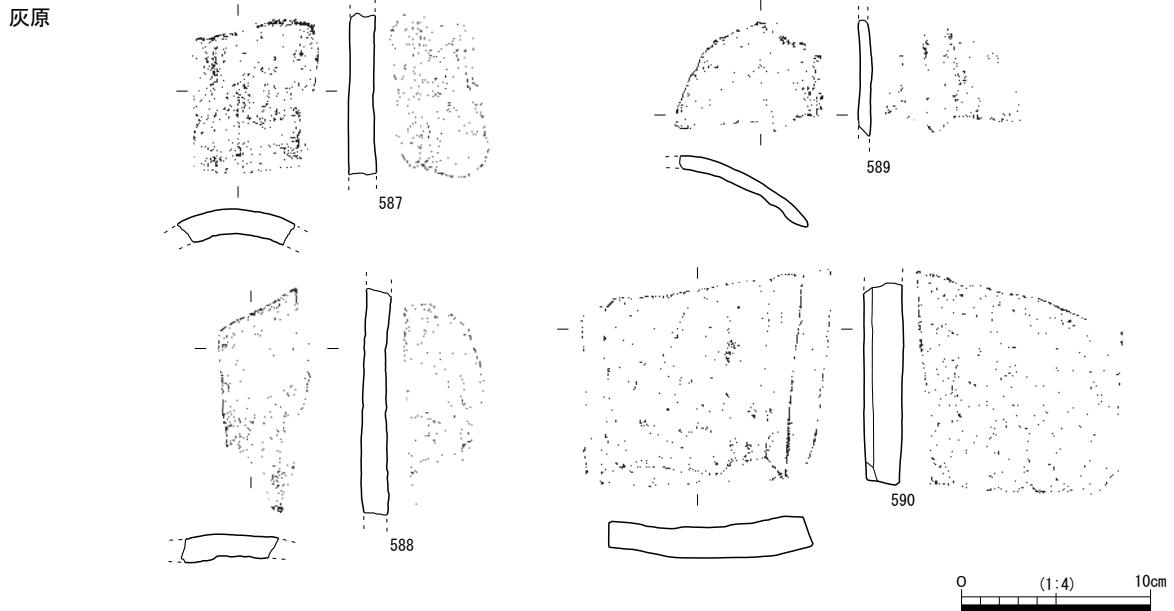


第 71 図 2 号窯跡出土遺物実測図㉑ (1/4)

あろう。いずれも凹面に模骨痕・布目痕が残り、凸面はナデである。589 は厚さ 0.7 mm と非常に薄い。590 は広端部と両側縁部が残存し、幅 11.5cm と通常の平瓦と比べて狭いことから熨斗瓦と判断した。凹面は模骨痕・布目痕が残り、端部を面取りする。凸面はタタキ後ナデである。

【その他 (第 73 ~ 76 図)】

須恵器 (591 ~ 628) 591 ~ 601 は杯 H 蓋である。600 を除き外面にヘラ記号を有する。天井部は 595・597・599・600 がヘラ切り、598 が手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリである。601 は天井部に焼成前穿孔がある。602・603 は杯 G 蓋で、603 はツマミを有する。いずれも外面にヘラ記号を有し、602 は天井部にヘラ切り、603 は回転ヘラケズリである。604 ~ 619 は杯 H 身で、いずれも



第 72 図 2 号窯跡出土遺物実測図② (1/4)

外面にヘラ記号を有する。底部は 609・610・612・614・616・617 がヘラ切り、611 が手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリである。615・616・618 は底部に焼成前穿孔、617 は焼成後穿孔を施す。620 は鉢で、内外面ともに回転ナデである。621・622 は小型の甕で、621 は内外面に回転ナデ、622 は外面に平行タタキ、内面には弧状の当具痕が残る。623～626 は大甕で、625 は無文、他は口頸部に斜線文を施す。627 は甕の体部片で、破断面に二次焼成を受けていることから、焼き台の可能性はある。外面に平行タタキ、内面には同心円当具痕が残る。628 は焼成前穿孔を施す甕の体部片で、外面に平行タタキ、内面には弧状の当具痕が残る。

瓦 (629～634) 629～633 は平瓦である。焼成は硬質で灰色を呈するものや、軟質で橙色を呈するものがある。いずれも凹面に模骨痕・布目痕が残る、端部は面取りする。凸面はナデで、629・631・632 はタタキの痕跡が残る。633 は凹面に線刻がある。634 は丸瓦で、摩滅のため調整は不明であるが、凹面に模骨痕が残る。

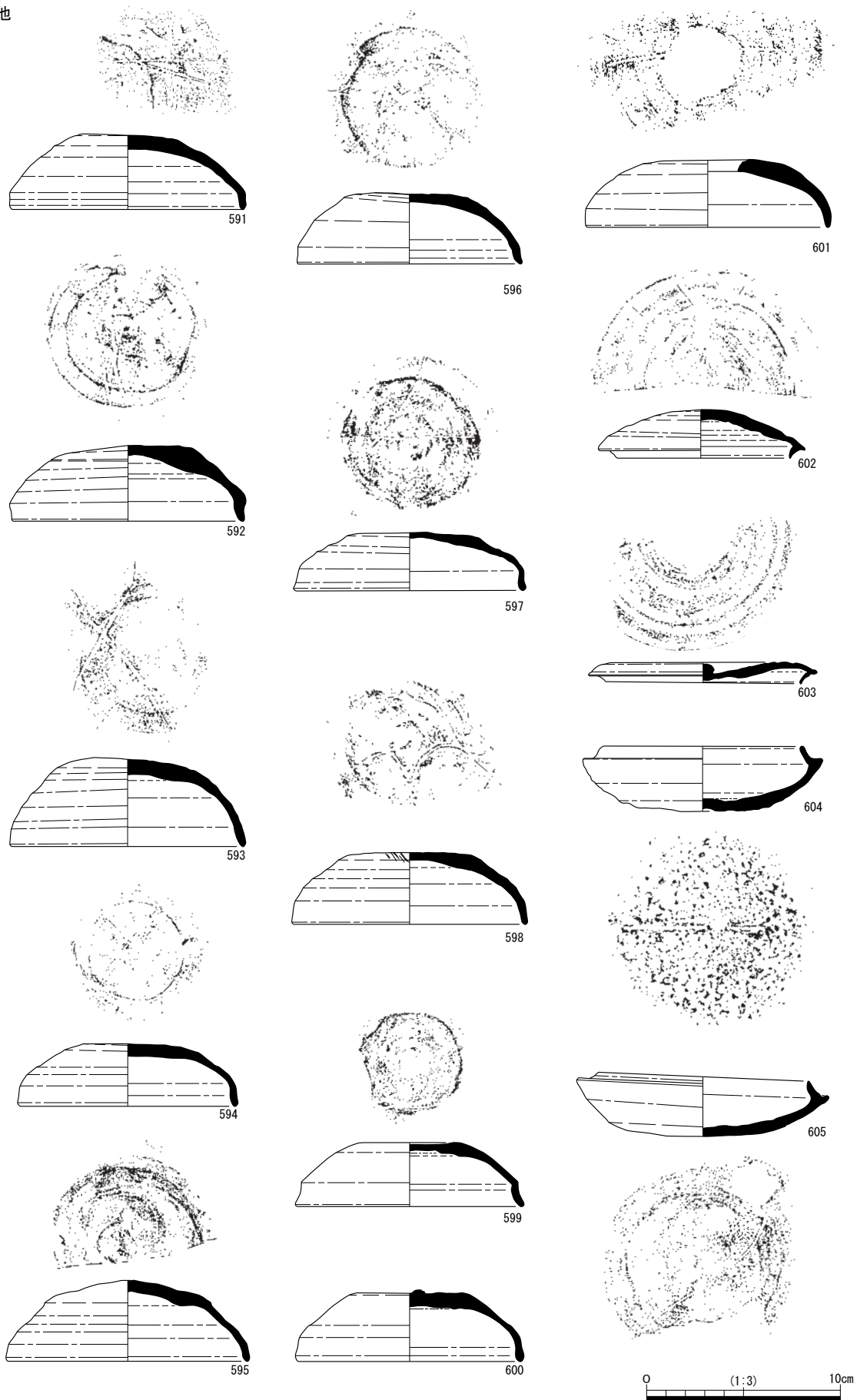
土製品 (635) 陶製紡錘車である。降灰のため調整は不明である。

(3) 小結

2号窯は地下式窖窯で、1号窯に近い規模・構造と考えられる。平面寸胴形で、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯である。煙道部の一部に天井部を確認した。窯体内で出土した須恵器は杯Bも含むが、主体は杯Hである。蓋・身ともに口径10～12cmほどで、ヘラケズリを施さないものもあることからIVB期に位置づけられる。また、初期瓦が複数出土しており、瓦陶兼業窯である。瓦は圧倒的に平瓦が多く、丸瓦4点のほか熨斗瓦が1点ある。

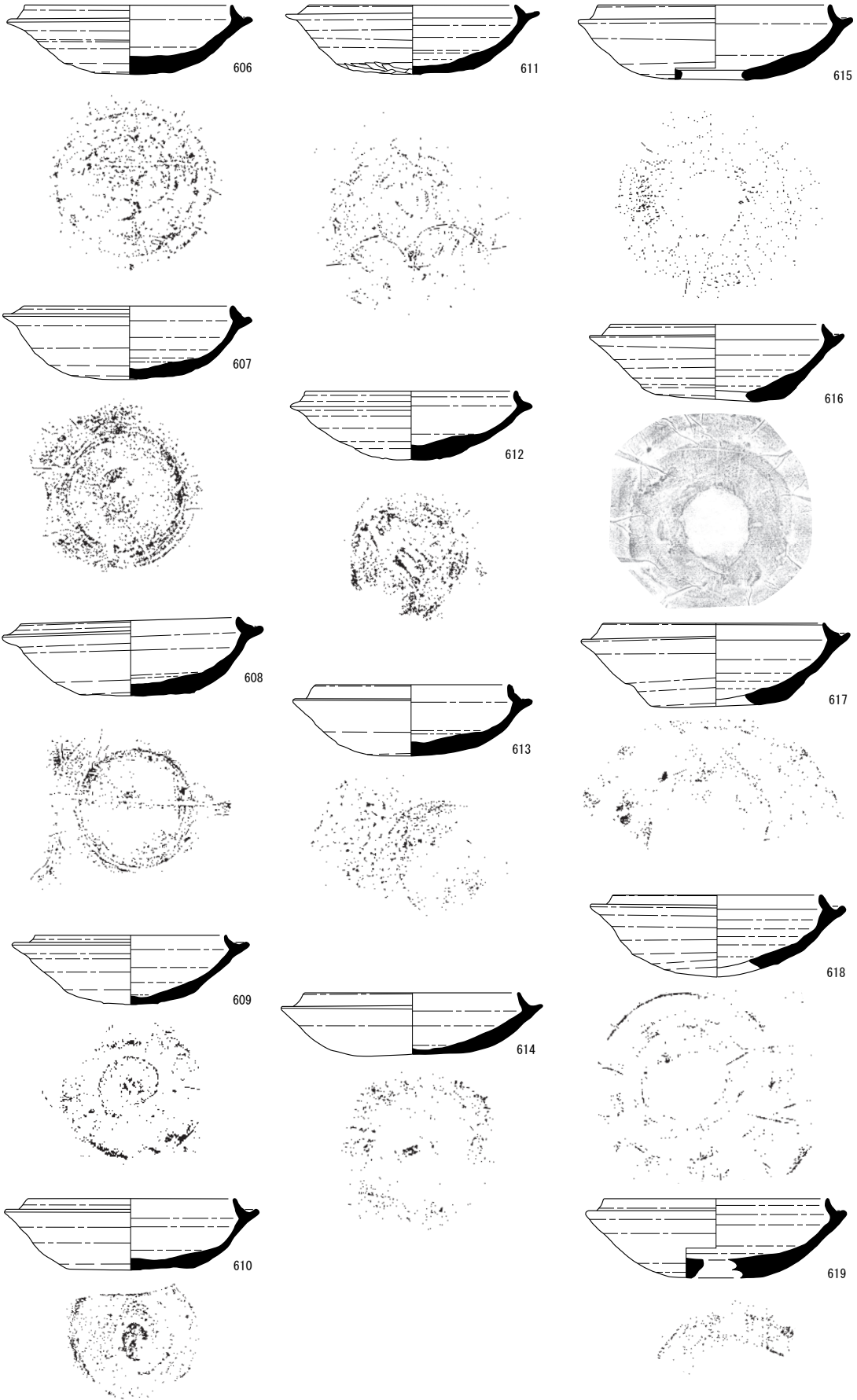
その他

大谷窯跡群



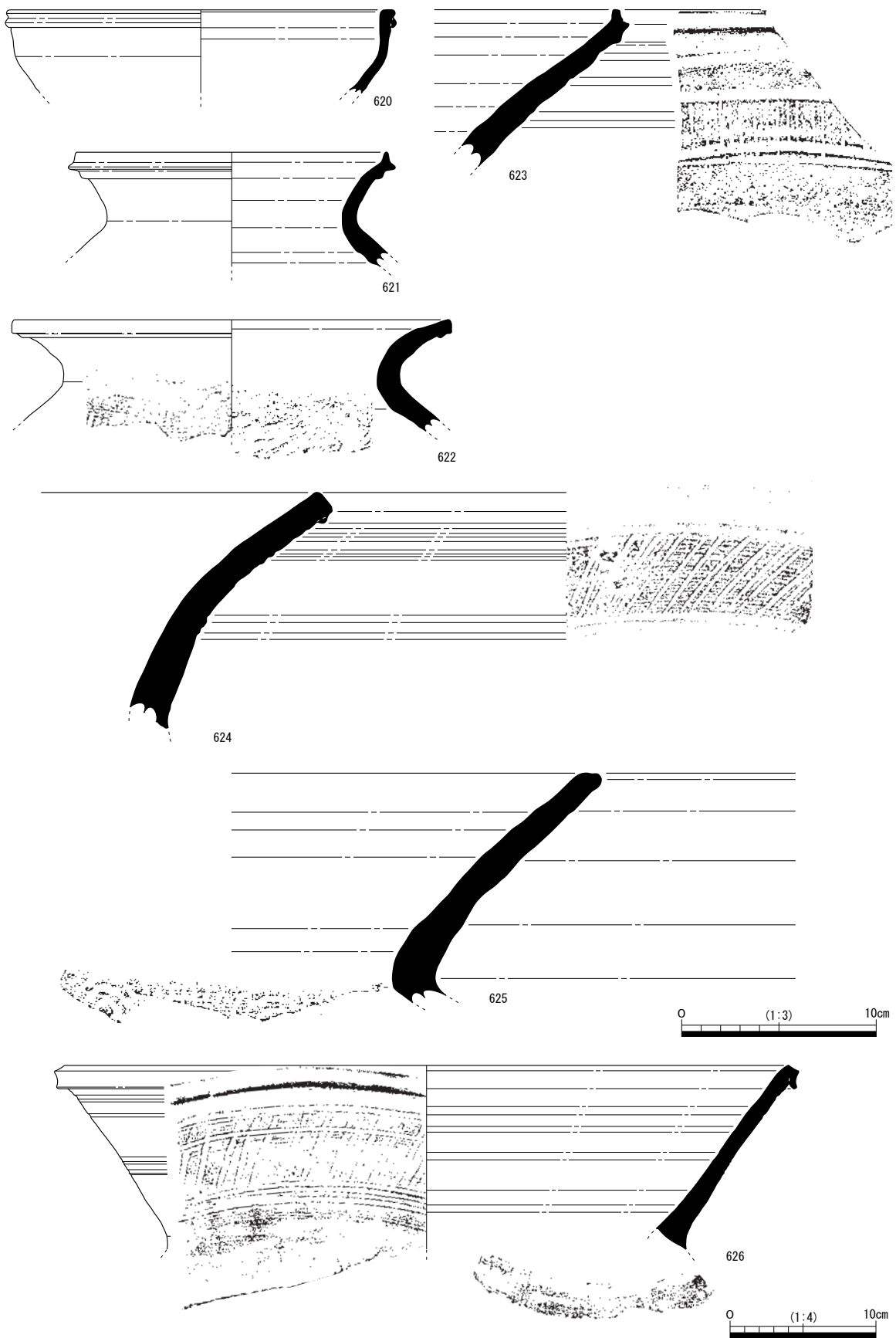
第 73 図 2 号窯跡出土遺物実測図⑳ (1/3)

その他



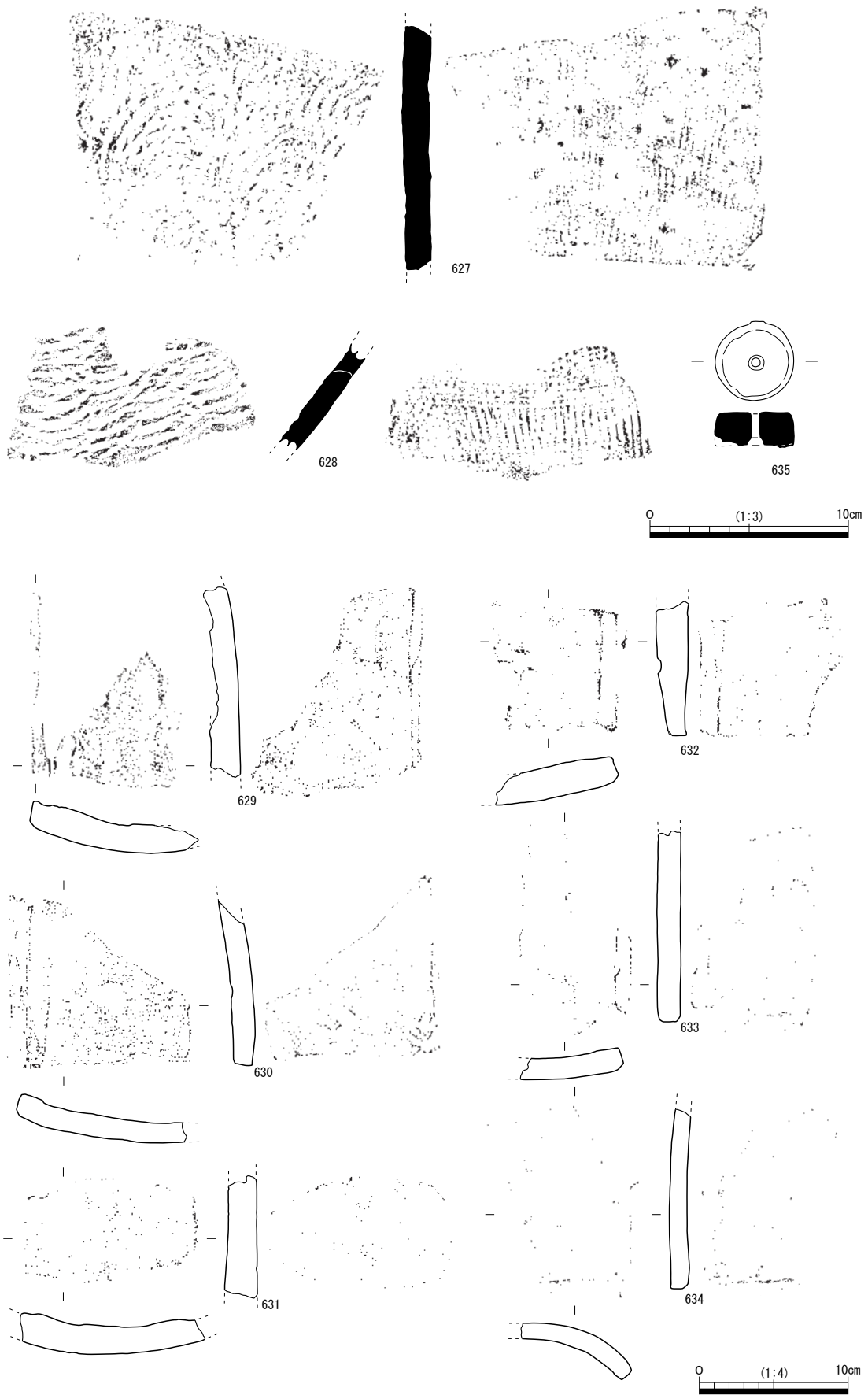
第74図 2号窯跡出土遺物実測図⑭ (1/3)

その他



第 75 図 2 号窯跡出土遺物実測図㉕ (1/3・1/4)

その他



第76図 2号窯跡出土遺物実測図② (1/3・1/4)

4. 3号窯跡

(1) 窯の構造 (第77図、図版21・29～31)

1・2号窯から北へ約25mの地点、同一丘陵の先端部に位置する。3号窯の灰原が4号窯の灰原に切られることから、3号窯から4号窯への先後関係を示す。

地下式の窖窯である。灰原から煙道部まで確認し、水平長約9mを検出した。全長6.5mで、焚口部側はわずかに絞り込まれるが、窯尻部ではほとんど絞り込みはなく、平面寸胴プランを呈する。燃焼部から煙道部にかけて天井部が遺存し、複数の排煙口からなる多孔式煙道である。窯の主軸方位はS-41°-Eである。焼成部や煙道部の横断面を見ると、窯体を拡幅している状況が確認でき、最低でも2度の操業面を想定できる。

【焚口部・燃焼部】 床面はほぼ水平で、最大幅は1.8mである。側壁には人頭大の石を用いた石組がある。左壁は長さ2.8m、右壁は長さ2.4mで、高さは両側壁ともに1.2mほどである。石の隙間にはスサ入り粘土や褐色・黄色土を用いて目詰めをしている。

遺物は杯G身、杯B蓋が出土した。

【焼成部】 水平長約5.5m、幅は焚口部側で1.8m、煙道部側で1.5m、天井までの高さは1.5m前後である。床面の傾斜角度は焚口部側から中央部までおおむね25度、中央部から窯尻部にかけては35度前後となる。燃焼部側の床面で、焼き台と考えられる須恵器甕片が出土した。

【煙道部】 3つの排煙口が上下2段に横一列に並ぶ多孔式煙道で、天井部が遺存する。奥壁までの水平長は約1.3mである。各排煙口の直径は上段が0.4m前後、下段が0.2m前後である。煙道部の横断面図では、上段と下段の境付近のレベルで、窯体を拡幅した痕跡が表現されている。したがって、6つの排煙口が並存するものではなく、それぞれの操業面に対応する3つの排煙口と捉えた方が良いであろう。

【溝】 煙道部の右側に、溝が接続する。窯の右側を焚口部方向に9mほど湾曲しながらのびる。上端の幅0.6m、下端の幅0.4mで、断面は逆台形を呈する。

【灰原】 詳細は不明であるが、全体図の中で長さ5m、幅3mの範囲で図示されている。

(2) 出土遺物

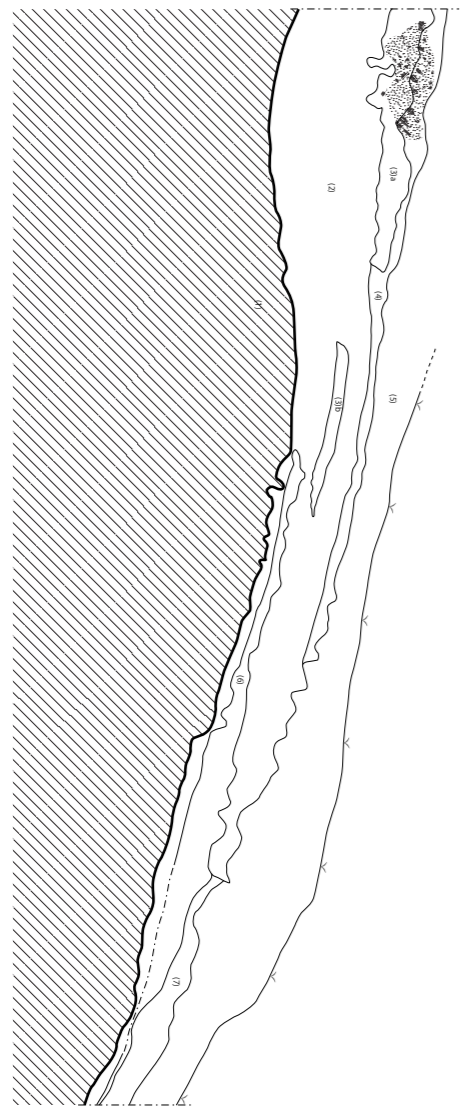
【焼成部 (第78図)】

須恵器 (636・637) 636は杯B蓋で、天井部は回転ヘラケズリである。637は杯G身である。底部はヘラ切り後ナデで、一部回転ヘラケズリを施す。

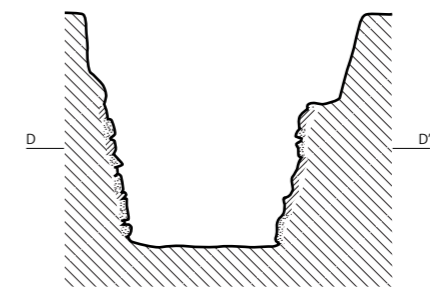
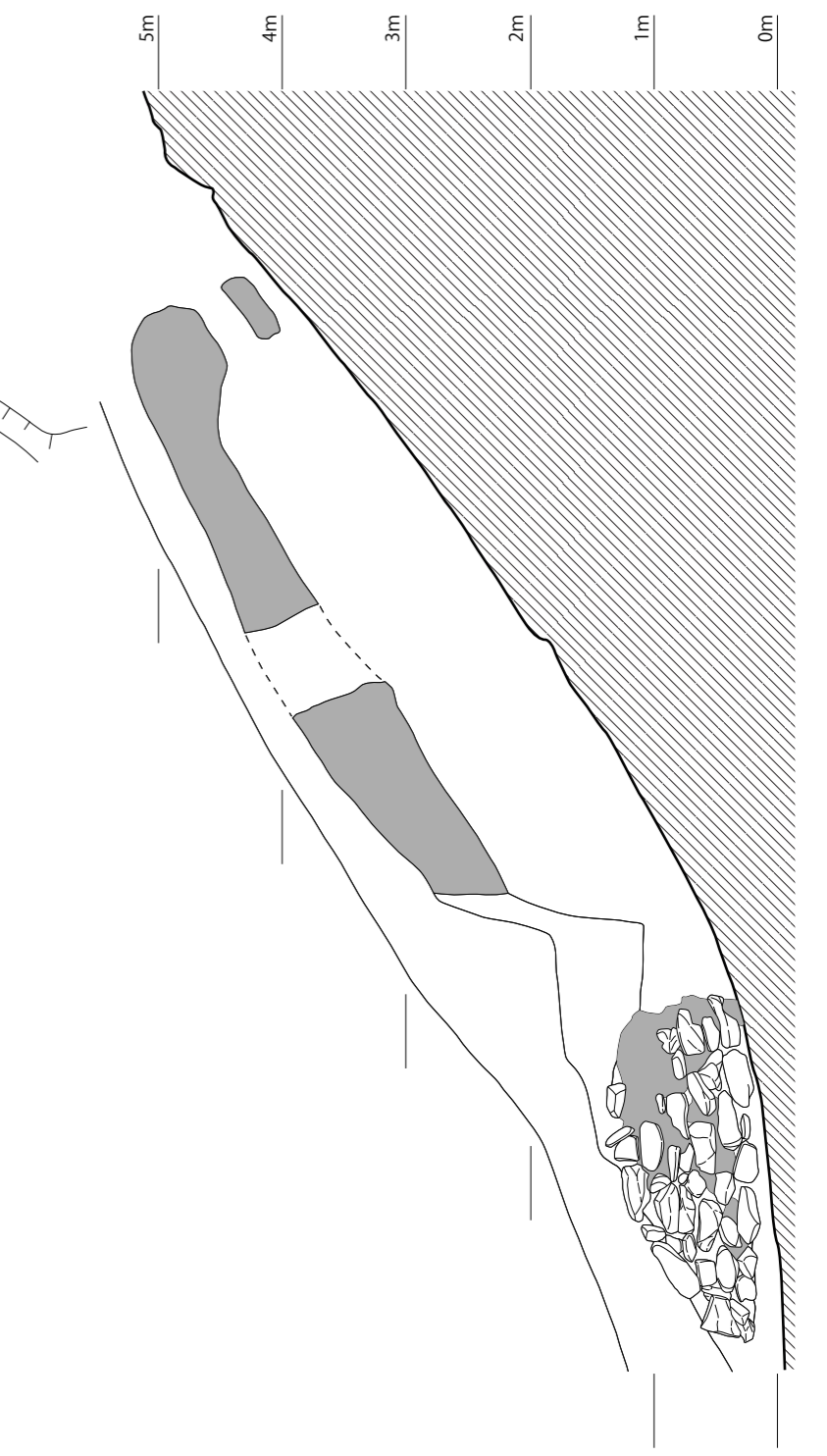
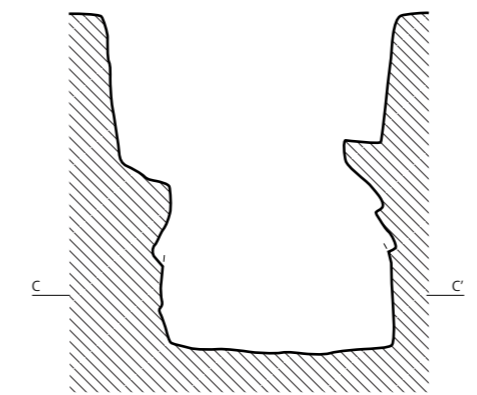
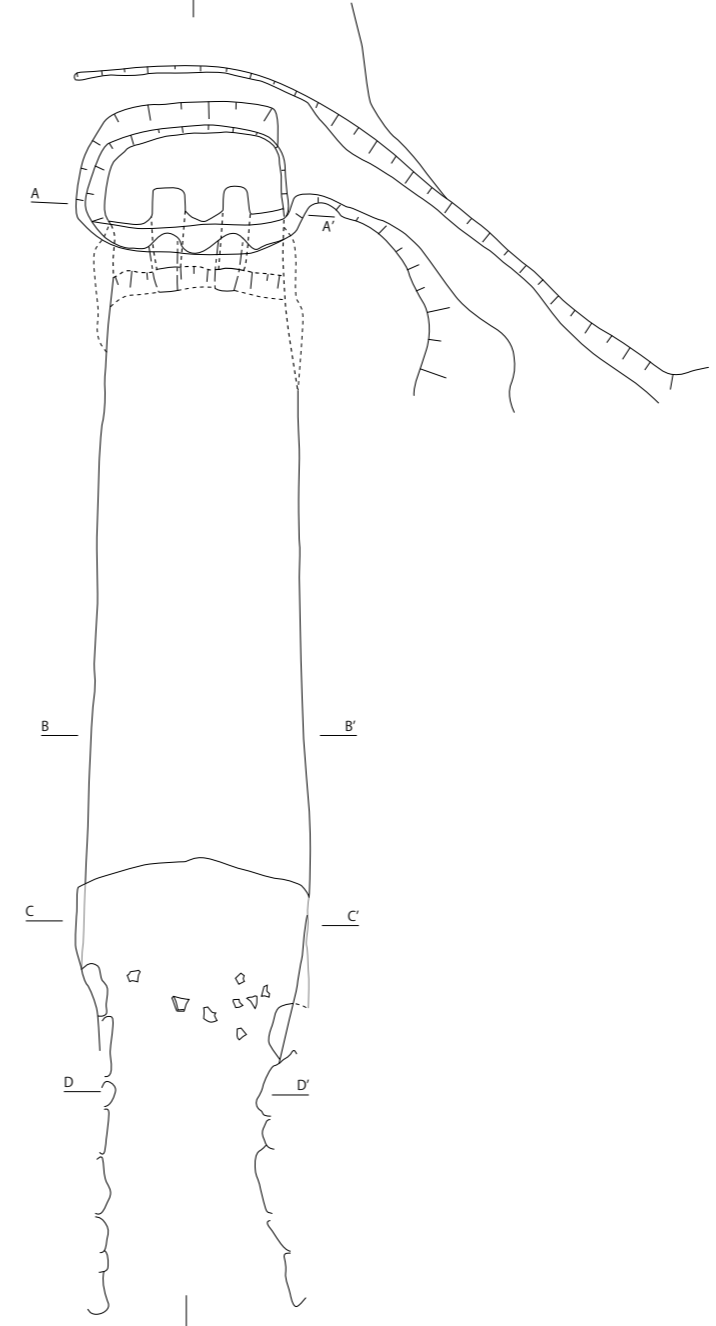
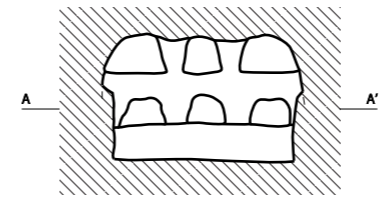
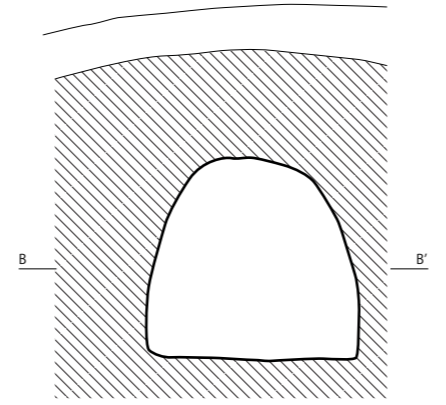
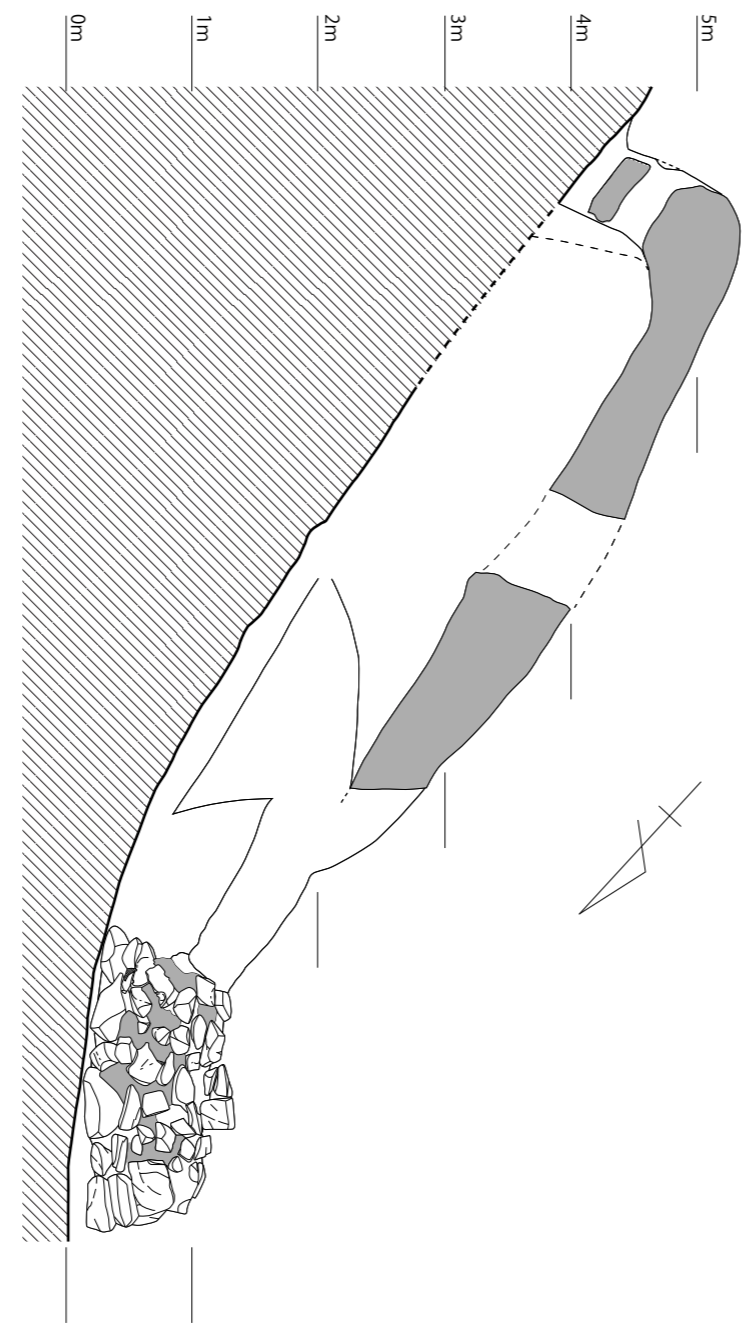
【灰原 (第78～80図)】

須恵器 (638～691) 638～641は杯H蓋で、640・641は外面にヘラ記号を有する。天井部は640が回転ヘラケズリ、他はヘラ切りである。642は杯H身の可能性もあるが、蓋として図示した。外面にヘラ記号を有し、天井部は回転ヘラケズリである。643は杯G蓋で、天井部はヘラ切りである。644～665は杯B蓋である。644～656は口縁部にカエリ、644～653はツマミを有する。646・650の天井部はヘラケズリ、他はヘラ切り後ナデ・回転ナデを施す。657～665は口縁部が直立する。天井部は657・658がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。666～668は杯H身である。666・668

- (1) 地山 (乳褐色)
- (2) 炭化物混黒炭色土層 (典型的遺物含層)
- (3)a 花崗岩粒及炭小塊混黄褐色土層 (砂質)
- b " " " " (砂質・上部灰混入)
- (4) 黒灰褐色土層
- (5) 暗灰褐色土層
- (6) 粘質乳灰褐色土層 (灰混) (一部土器包含する)
- (7) 乳灰色灰炭層 (灰混)



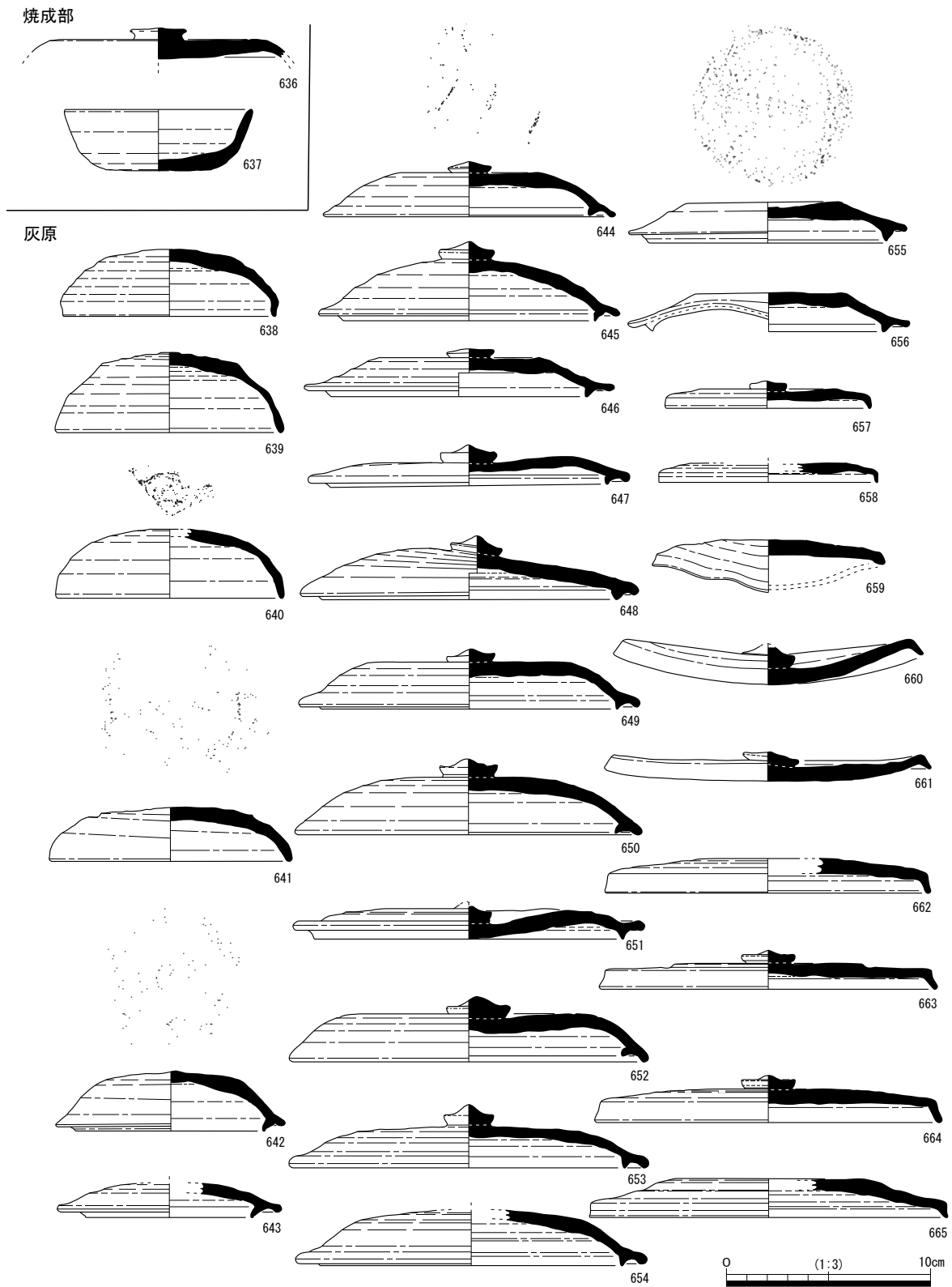
灰原織斯土層



高さの数値は絶対高ではなく比高差を示す。



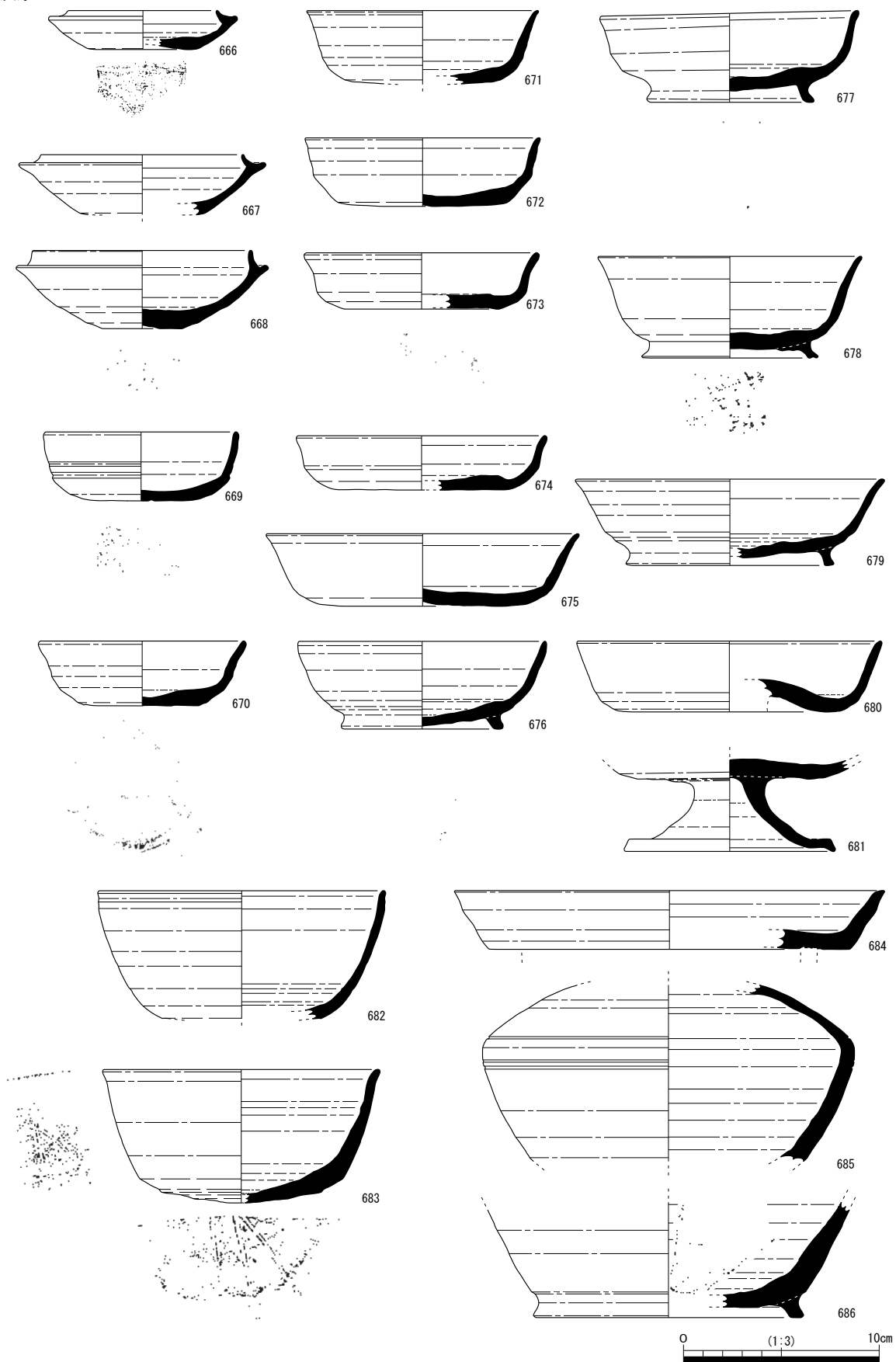
第 77 図 大谷窯跡群 3 号窯跡実測図 (1/60)



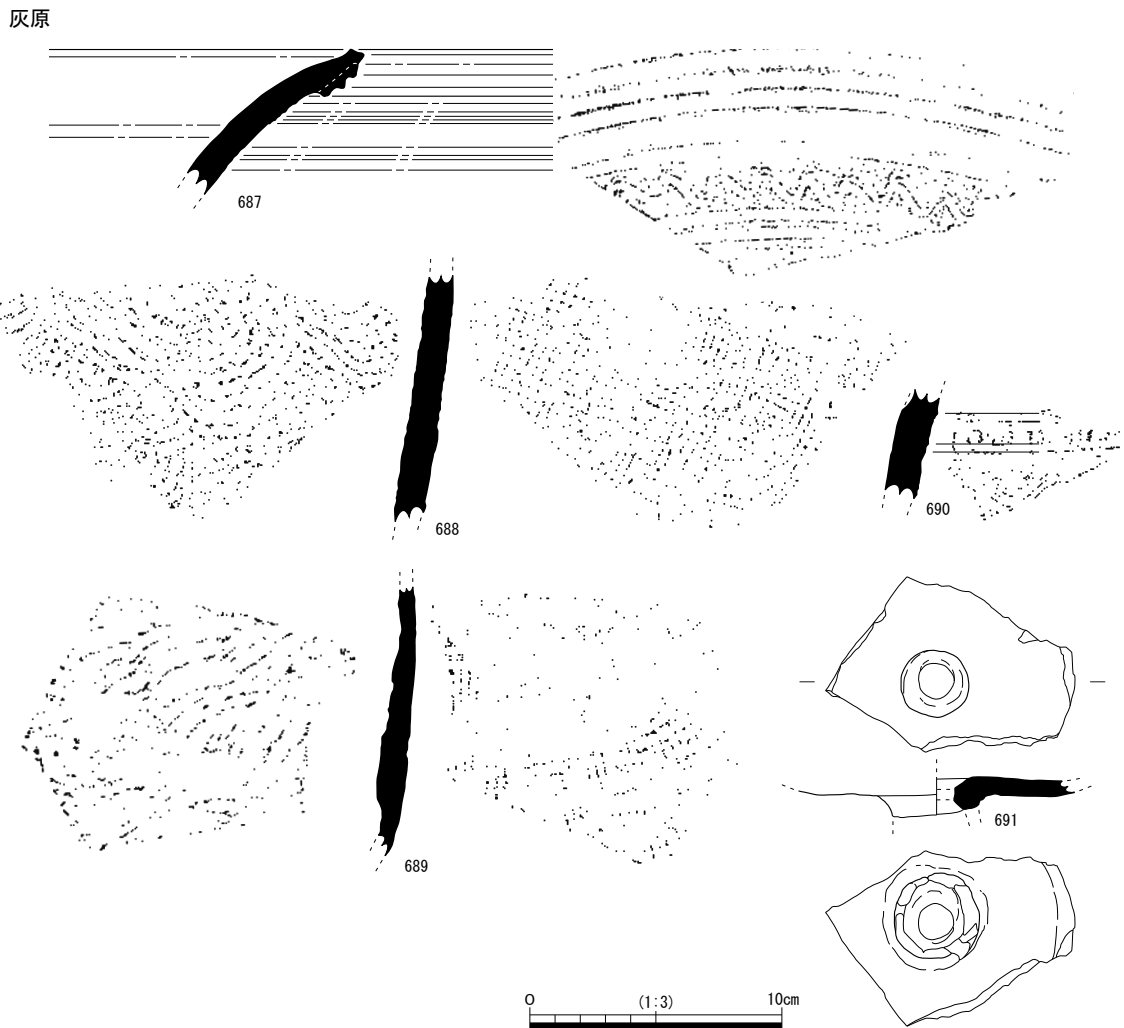
第 78 図 3 号窯跡出土遺物実測図① (1/3)

は外面にヘラ記号を有する。いずれも底部はヘラ切りで、668 は一部手持ちヘラケズリを施す。669 ～ 675 は杯 G 身で、669・670・673 は外面にヘラ記号を有する。底部は 673・675 が回転ヘラケズリ、他はヘラ切りである。676 ～ 679 は杯 B 身で、676 ～ 678 は底部外面にヘラ記号を有する。いずれも高台端部は外側に張り出し、底部はヘラ切りであるが、一部回転ヘラケズリを施す。680・681 は高杯で、内外面は回転ナデである。682・683 は椀である。底部はヘラ切りで、683 は底部側面に回

灰原



第 79 图 3 号窯跡出土遺物実測图② (1/3)



第80図 3号窯跡出土遺物実測図③ (1/3)

転ヘラケズリを施し、底部・体部の外面にヘラ記号を有する。684は高台付皿である。底部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデである。685は長頸壺であろうか。体部は扁球形で、肩が張る。体部下半は回転ヘラケズリ、他は回転ナデである。686は長頸壺の底部片である。外面は回転ナデ後一部回転ヘラケズリ、内面には当具痕が残る。687は大甕の口頸部片で、外面に波状文を施す。688・689は甕の体部片で、外面に擬格子タタキ、内面には同心円・弧状の当具痕が残る。690は甕の小片で、外面に波状文および列点文を施す。691は高杯杯部の形態であるが、中央に焼成前穿孔を有するもので、器種は不明である。柱状の突起が下方へと伸びる。

(3) 小結

3号窯は、全長6.5mほどの地下式窖窯である。平面寸胴形で、複数の排煙口を有する多孔式煙道窯である。焼成部から煙道部にかけて天井部が残る。窯体内で出土した須恵器は杯G・杯Bで、灰原出土の遺物には、杯H（蓋の口径10～12cm）、杯G・杯Bがある。1・2号窯と比べて窯の規模が縮小していることや初期瓦を含まないことから、V～VI期にかけて操業したと考える。

5. 4号窯跡

(1) 窯の構造 (第81図、図版21・29・32)

3号窯の北側に接して構築する。3号窯の灰原を切ることから、3号窯から4号窯への先後関係を示す。地下式の窖窯である。煙道部を欠き、灰原から焼成部までを検出した。検出した残存長は約7mである。全長4.5mで、焚口部・窯尻部の絞り込みはなく、平面寸胴プランを呈する。窯の主軸方位はS-36°-Eである。

【焚口部・燃焼部】 床面はほぼ水平で、最大幅は1.2mである。

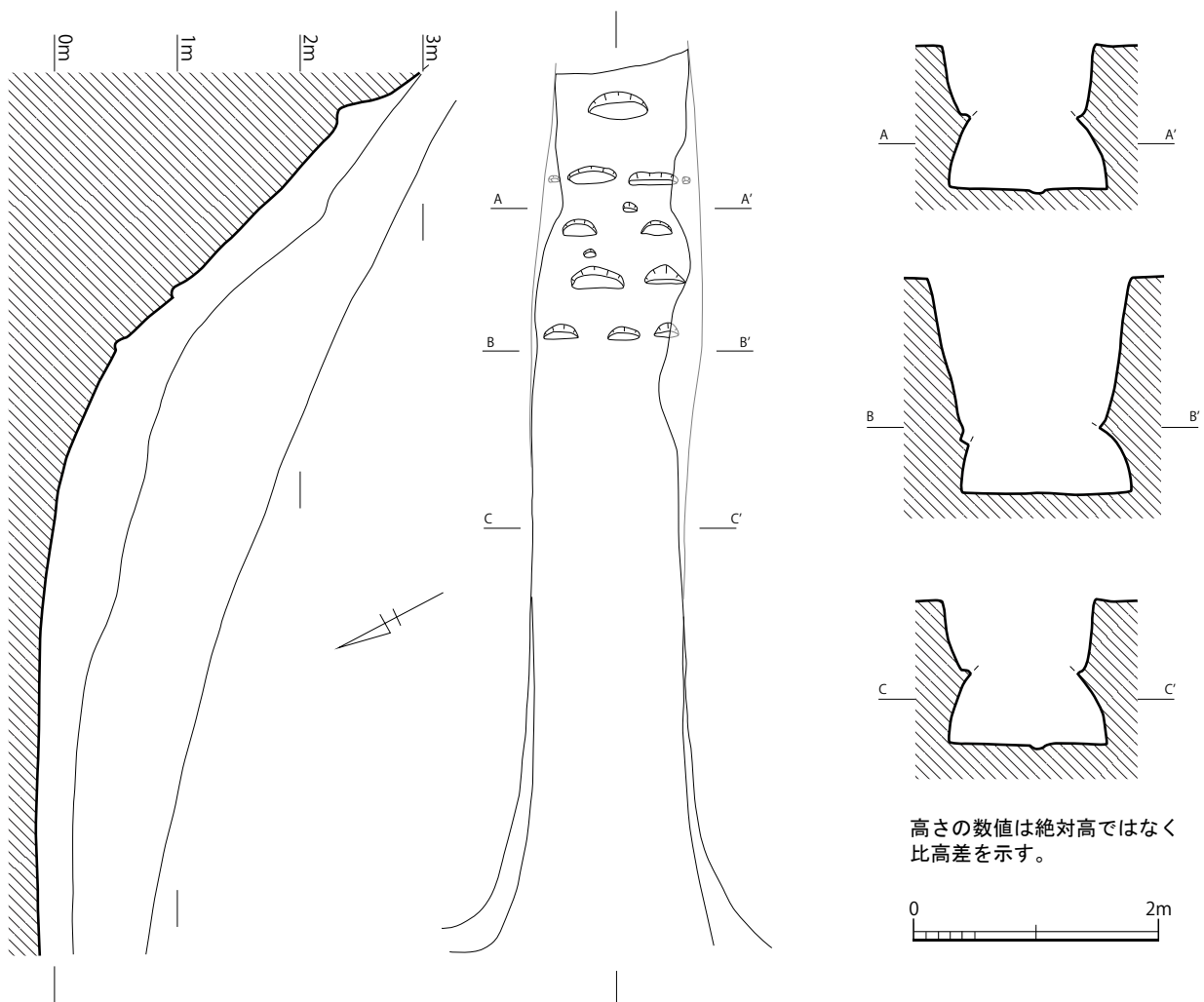
遺物は杯B蓋が出土した。

【焼成部】 水平長4.8m以上、幅は燃焼部側で1.2m、中央部で1.4m、煙道部側で1.1mである。床面の傾斜角度は焚口部側から中央部までおおむね10～25度、中央部から排煙部側にかけては45度前後となる。煙道部側の床面には直径0.1～0.5mほどの大小のピットがある。

【煙道部】 不明である。

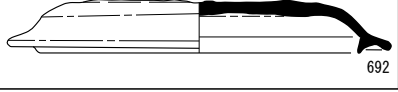
【灰原】 詳細は不明であるが、全体図の中で長さ4m、幅2mの範囲で図示されている。

遺物は須恵器杯H・杯G・杯B、高杯、皿、甕などが出土した。

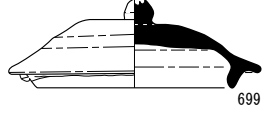


第81図 大谷窯跡群4号窯跡実測図 (1/60)

焼成部



692

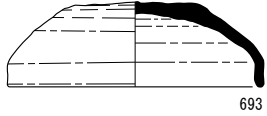


699

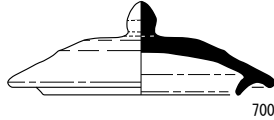


709

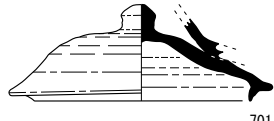
灰原



693



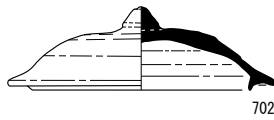
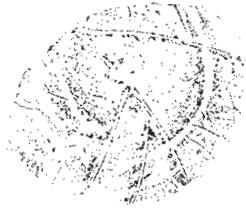
700



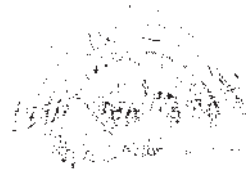
701



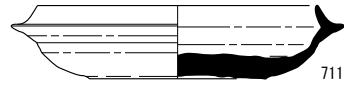
710



702



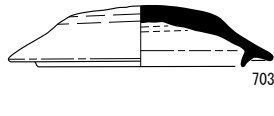
694



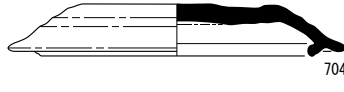
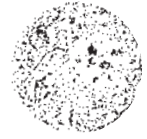
711



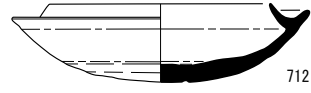
695



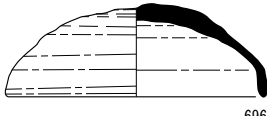
703



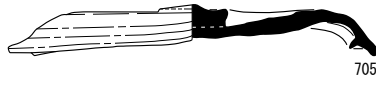
704



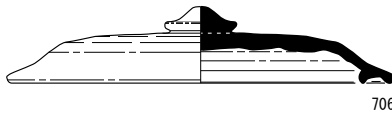
712



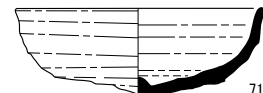
696



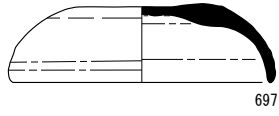
705



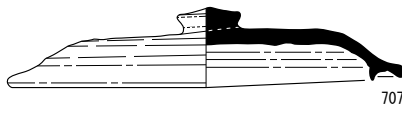
706



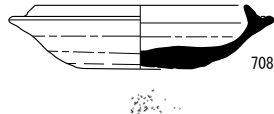
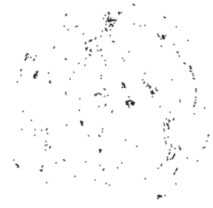
713



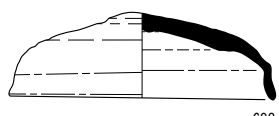
697



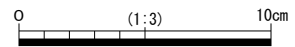
707



708

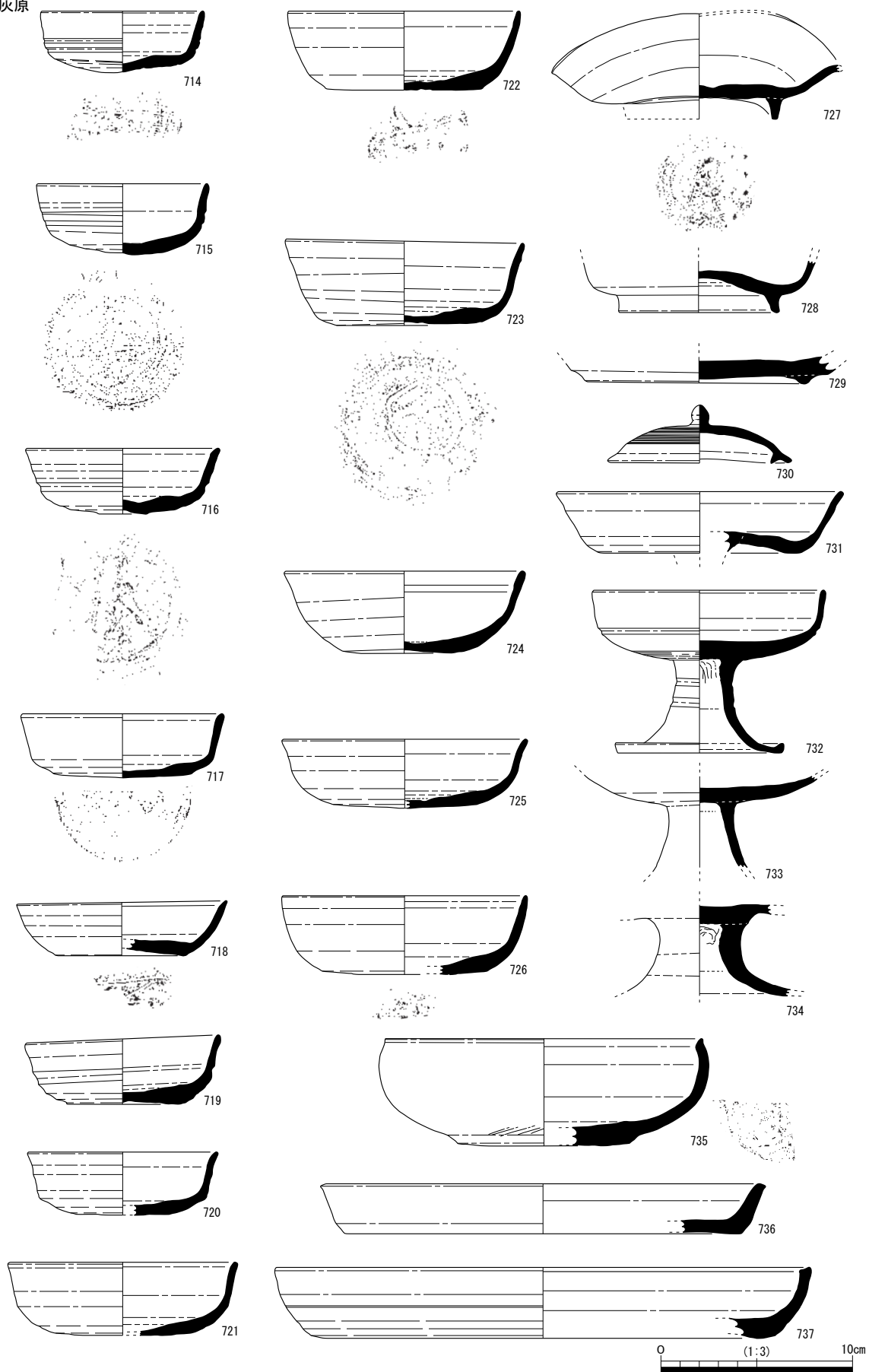


698

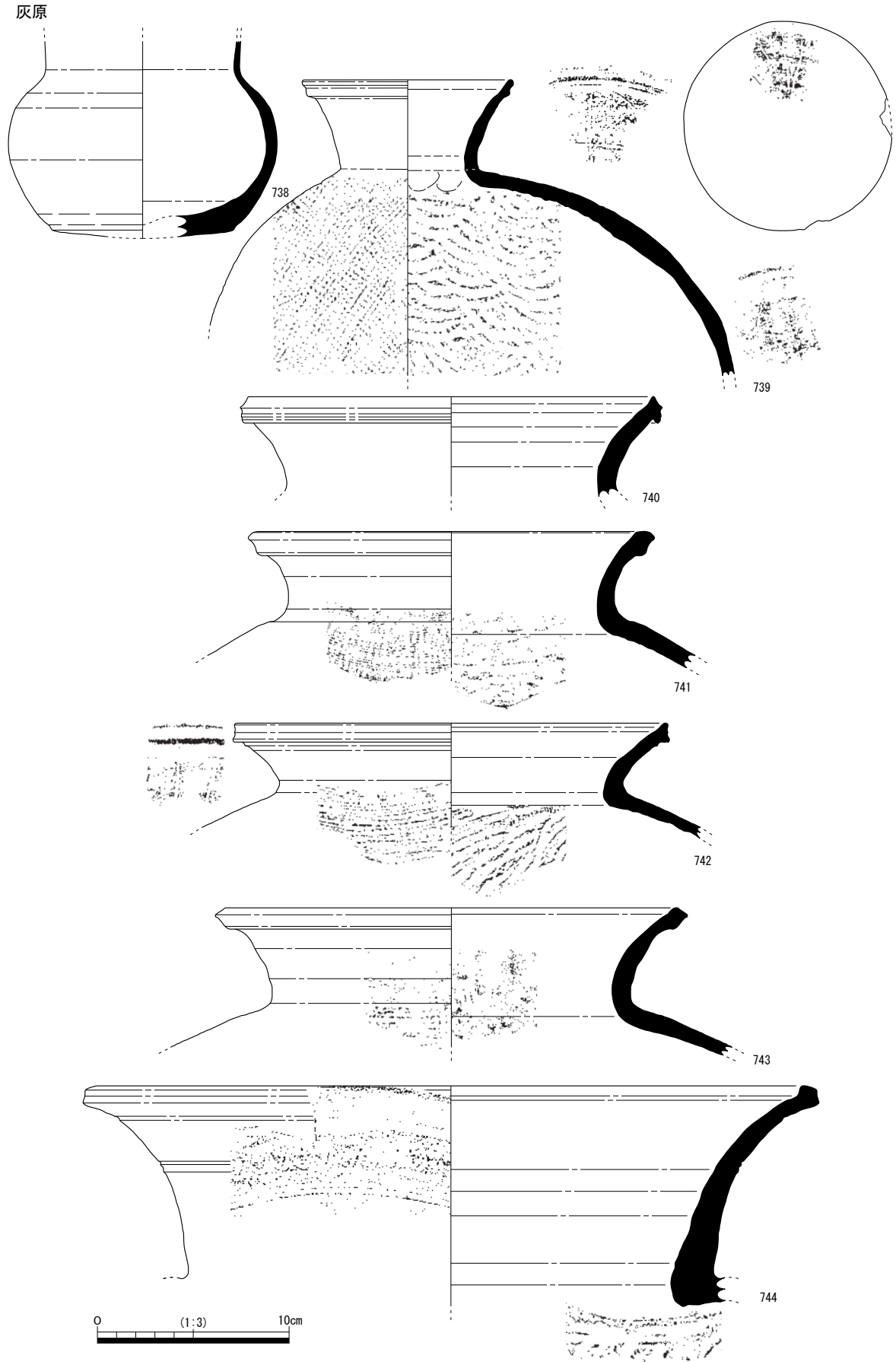


第 82 图 4 号窯跡出土遺物実測图① (1/3)

灰原



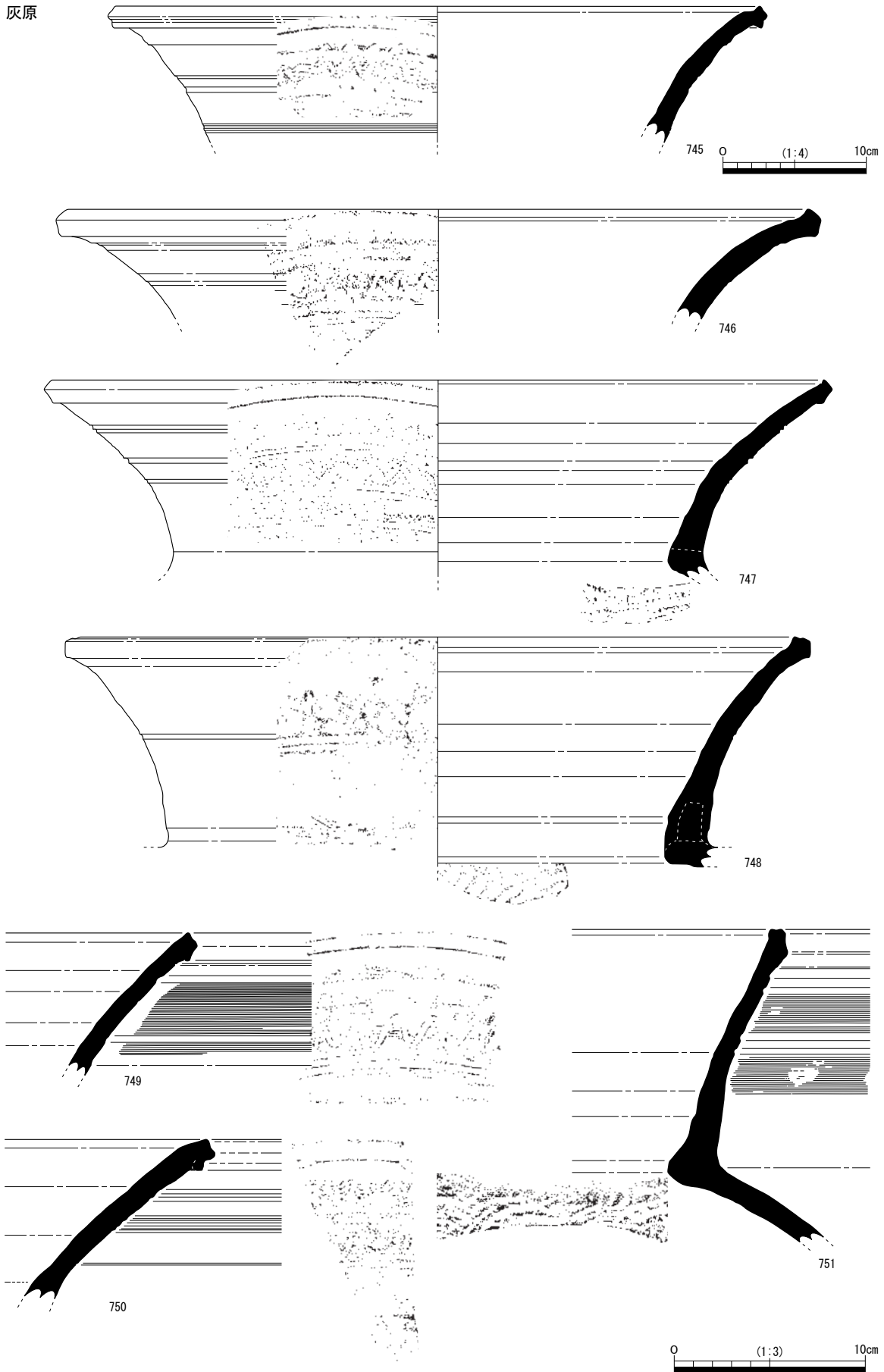
第 83 图 4 号窯跡出土遺物実測图② (1/3)



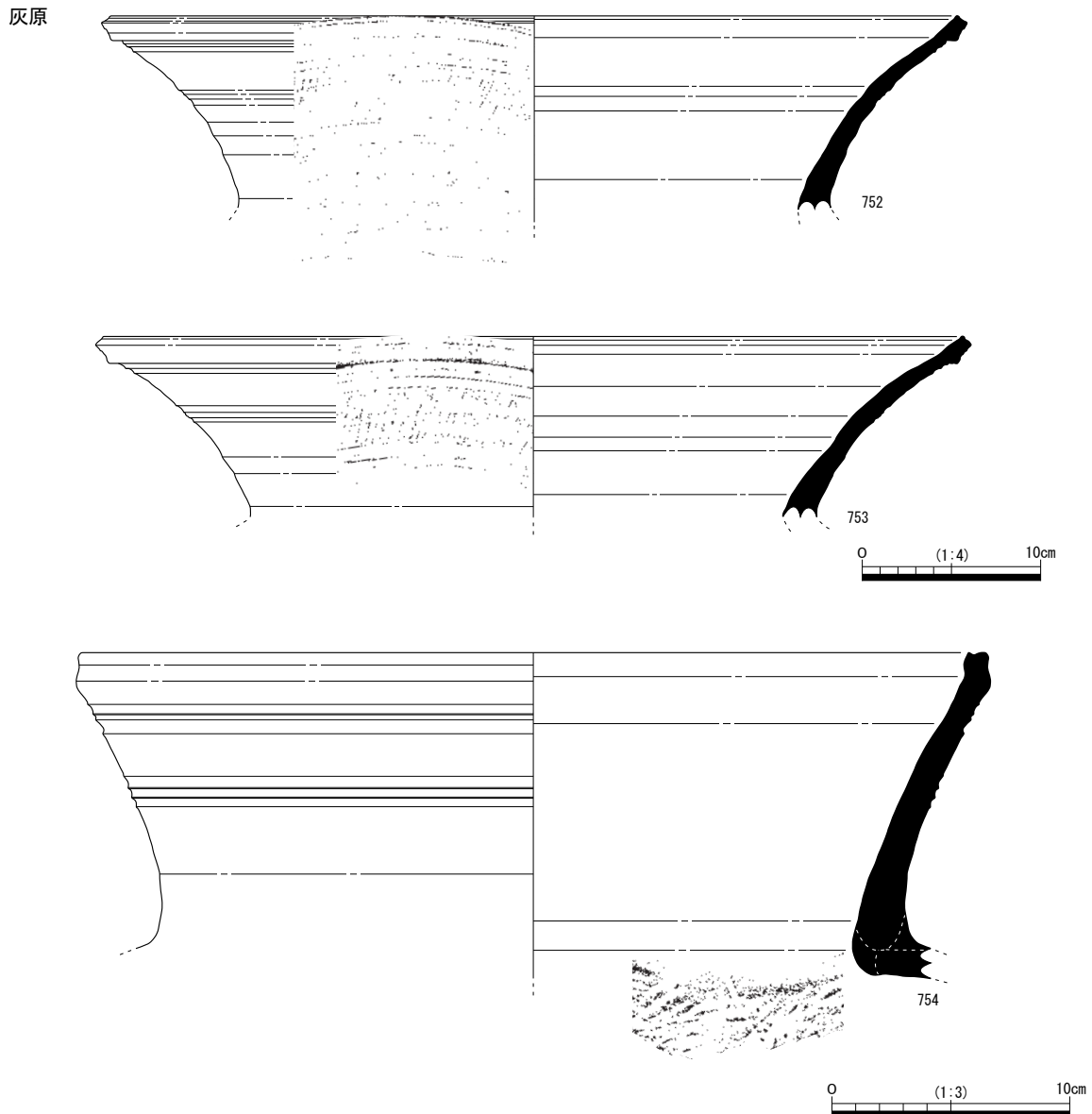
第 84 图 4 号窯跡出土遺物実測図③ (1/3)

灰原

大谷窯跡群



第 85 图 4 号窯跡出土遺物実測図④ (1/3・1/4)



第 86 図 4 号窯跡出土遺物実測図⑤ (1/3・1/4)

(2) 出土遺物**【焼成部 (第 82 図)】**

須恵器 (692) 杯 B 蓋で、口縁部にカエリを有し、天井部はヘラ切りで一部回転ヘラケズリを施す。

【灰原 (第 82 ~ 86 図)】

須恵器 (693 ~ 754) 693 ~ 698 は杯 H 蓋で、口径は 10 cm 程度である。695 を除き外面にヘラ記号を有する。天井部は 696 が回転ヘラケズリ、他はヘラ切りである。699 ~ 703 は杯 G 蓋である。699 ~ 702 はツマミを有する。天井部はいずれも回転ヘラケズリである。703 は外面にヘラ記号を有する。704 ~ 707 は杯 B 蓋で、口縁部にカエリを有し、705 ~ 707 はツマミを有する。天井部は 704 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。705 は器体が大きく歪み、706 は外面にヘラ記号を有する。708 ~ 712 は杯 H 身で、口径は 711 が 11 cm、他は 8 ~ 9 cm である。すべて外面にヘラ記号を有する。底部は 712 が回転ヘラケズリ、他はヘラ切りである。713 ~ 726 は杯 G 身で、719・720・721・724・

725を除き外面にヘラ記号を有する。底部は714・715・723が回転ヘラケズリ、他はヘラ切りである。714～716は体部に沈線が巡る。727・728は杯B身で、いずれも高台は断面方形を呈し、端部の張り出しはない。727は底部外面にヘラ記号を有する。729は大型の器種で、高台付きの皿であろうか。高台の断面は低い逆台形を呈する。730は天井部にカキメを施すもので、高杯の蓋であろう。口縁部にカエリがあり、擬宝珠形のツマミを有する。731～734は高杯で、731・733は杯部下半に回転ヘラケズリ、732はカキメを施し、他は回転ナデである。735は鉢で、底部は平底を呈し、体部は内湾する。底部はヘラ切り後ナデで、外面にヘラ記号を有する。736・737は皿で、底部に手持ちヘラケズリを施す。738は平底の直口壺である。底部はヘラ切り後ナデ、他は回転ナデである。739は横瓶で、口頸部の3ヶ所にヘラ記号を有する。体部はタタキ成形で、外面に擬格子タタキ、内面には弧状の当具痕が残る。740～743は中型の甕である。口頸部はいずれも内外面を回転ナデ、741～743は体部外面に平行もしくは擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。742は口頸部にヘラ記号を有する。744～754は大甕である。いずれも口頸部は内外面とも回転ナデで、749・751は外面にカキメを施す。744～750は口頸部に波状文、752・753は斜線文を施し、751・754は無文である。

(3) 小結

4号窯は全長4.5mほどの地下式窖窯である。平面寸胴形で、煙道部の構造は不明である。窯体内で出土した須恵器は杯B、灰原からは杯H・杯G・杯B、高杯、甕・大甕などが出土した。灰原出土遺物の主体は杯G・杯Bであることや、1～3号と比較して窯の規模が著しく小型であることから、操業期間はVI期を中心とした時期を想定したい。

6. トレンチ、その他の出土遺物

【0 トレンチ (第 87 図)】

須恵器 (755) 隼の体部片で、底部にヘラ記号を有し、肩部に刺突文を施す。

【1 トレンチ (第 87 図)】

須恵器 (756 ~ 759) 756・757 は杯 H 蓋で、外面にヘラ記号を有する。天井部は 756 が回転ヘラケズリ、757 がヘラ切りである。758 は瓶類の口縁部であろう。内外面ともに回転ナデで、外面にヘラ記号を有する。759 は瓶類もしくは壺である。体部は球形で底部は平底である。肩部にカキメを施し、体部下半は回転ヘラケズリである。

【2 トレンチ (第 87 図)】

須恵器 (760 ~ 769) 760 ~ 764 は杯 H 蓋で、いずれも外面にヘラ記号を有する。天井部は 760 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。765 ~ 767 は杯 H 身で、いずれも外面にヘラ記号を有する。底部は 765・766 が回転ヘラケズリ、767 がヘラ切りである。768 は高杯の杯部片で、沈線が巡る。769 は直口壺で、肩部に板状工具による回転ナデを施す。

【3 トレンチ (第 88 図)】

須恵器 (770 ~ 772) 770 は小型の壺である。底部はナデで、体部下半にヘラ状工具によるナデを施す。771 は瓶類もしくは壺である。体部に 3 条の沈線を施す。772 は扁平な器形の肩部片で、長頸壺であろうか。肩部に楯状工具により刺突文を施す。

【4 トレンチ (第 88 図)】

須恵器 (773 ~ 777) 773 ~ 775 は杯 H 蓋で、いずれも外面にヘラ記号を有する。775 は内面にヘラ記号状の条線がある。天井部はいずれもヘラ切りである。776 は杯 H 身で、外面にヘラ記号を有する。底部はヘラ切り後一部ヘラケズリを施す。777 は直口壺で、内外面は回転ナデである。

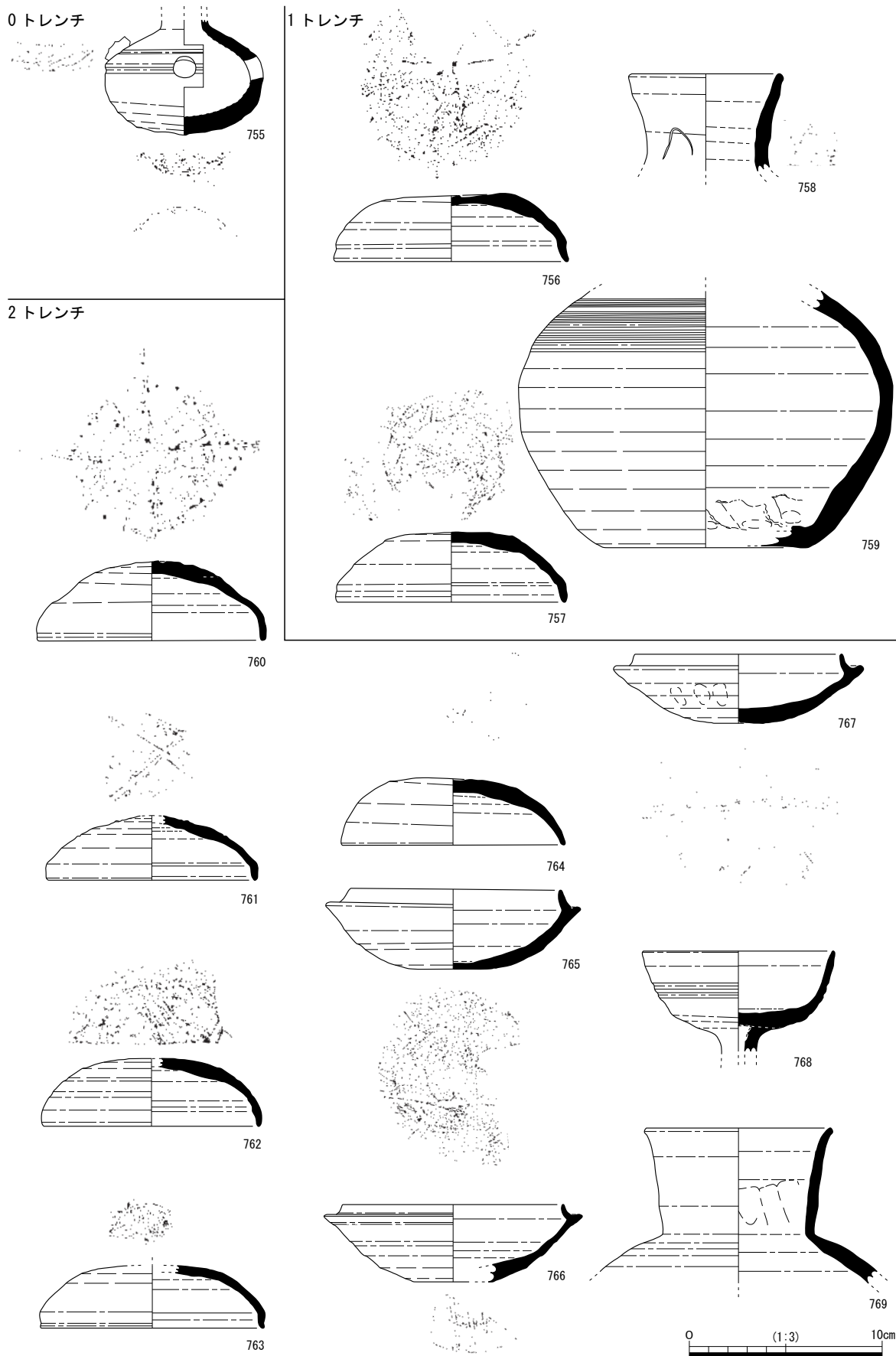
【5 トレンチ (第 89 図)】

須恵器 (778 ~ 796) 778 ~ 781 は杯 H 蓋で、天井部はいずれも回転ヘラケズリである。778・779 は外面にヘラ記号を有し、780・781 は外面に竹管文を施す。782 は杯 G 蓋で、天井部は回転ヘラケズリである。783 ~ 790 は杯 H 身で、底部は全て回転ヘラケズリである。786 ~ 788 は外面にヘラ記号を有し、789・790 は外面に竹管文を施す。785 は底部に焼成前穿孔がある。791・792 は椀で、外面にヘラ記号を有する。底部はいずれも回転ヘラケズリである。793 は高杯蓋で、ボタン状のツマミを有し、天井部は回転ヘラケズリである。794・795 は隼である。794 は口頸部片で、内外面は回転ナデ、シボリ痕が明瞭に残る。795 は体部片で、最大径の位置に刺突文を施し、底部にヘラ記号を有する。796 は平瓶で、肩部がやや張る。底部は接合部で剥離する。

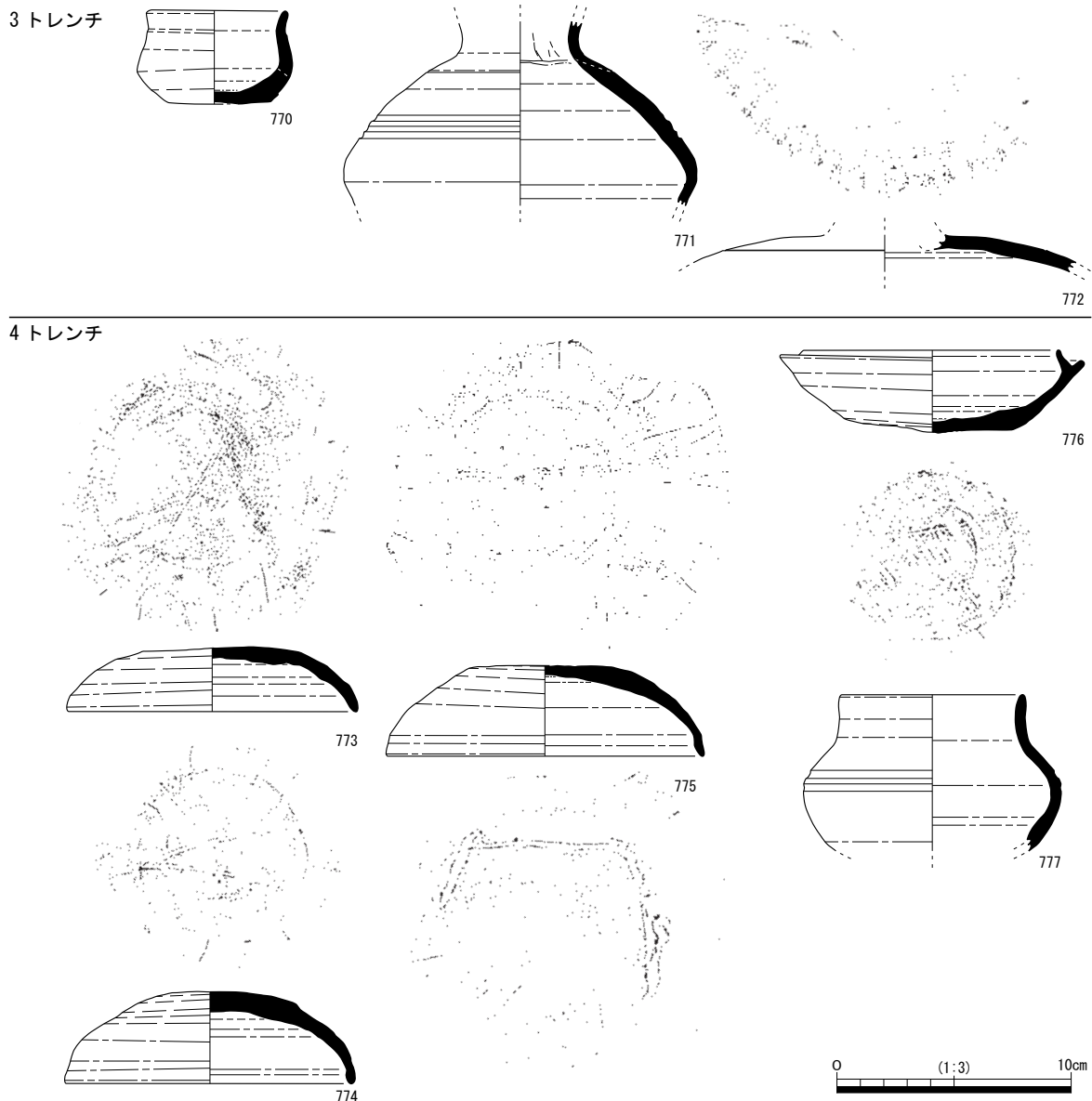
【1・2号灰原 (第 90 図)】

須恵器 (797 ~ 801) 797 は杯 H 蓋で、外面にヘラ記号を有し、天井部は回転ヘラケズリである。798 は杯 H 身で、外面にヘラ記号を有し、底部は回転ヘラケズリである。799 は杯で、底部はヘラ切り後ナデである。800・801 は椀で、800 は体部上半にカキメを施し、801 は体部下半に突帯が巡る。

瓦 (802) 平瓦である。凹面に模骨痕・布目痕が残り、凸面はナデである。



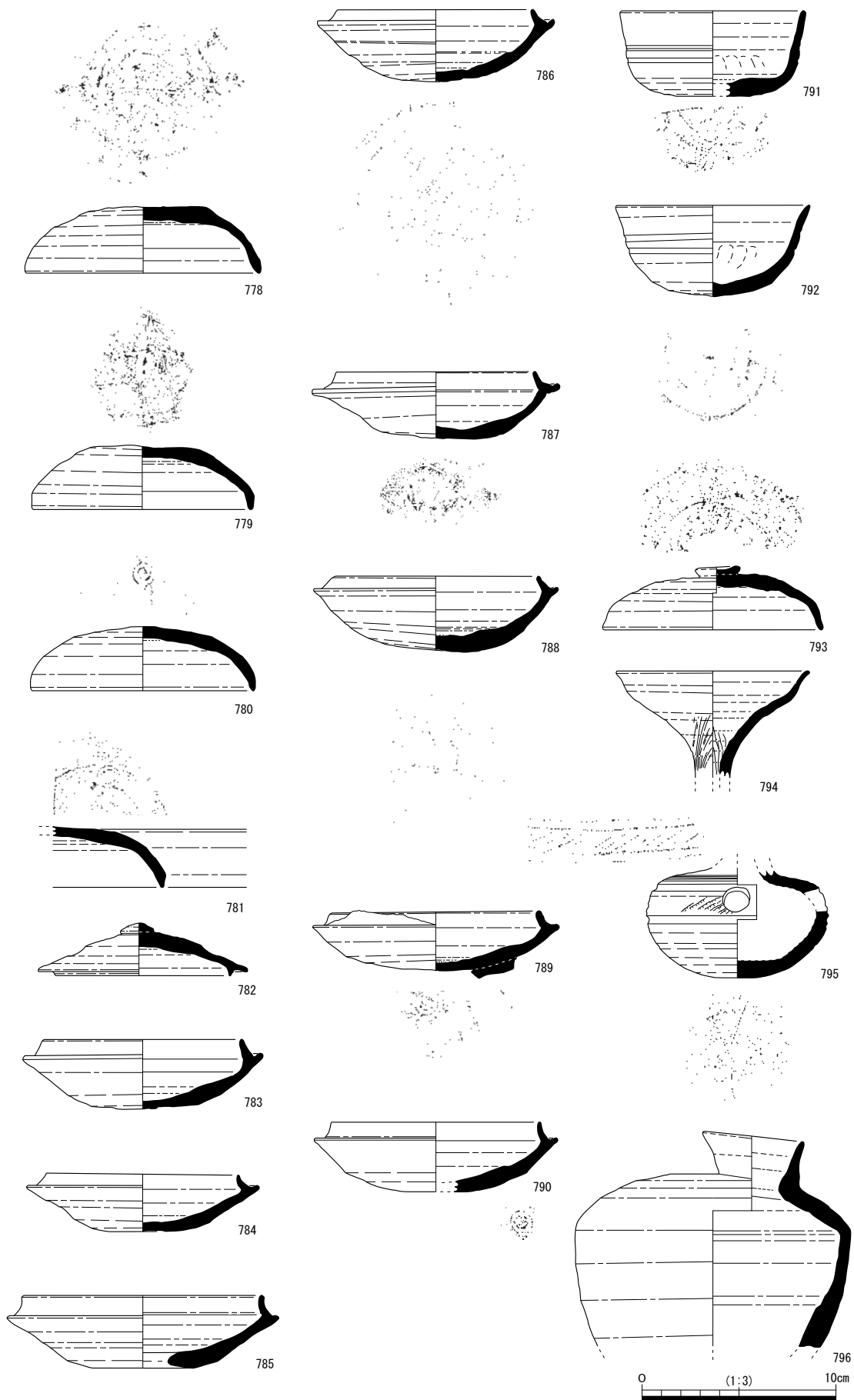
第 87 図 0・1・2 トレンチ出土遺物実測図 (1/3)



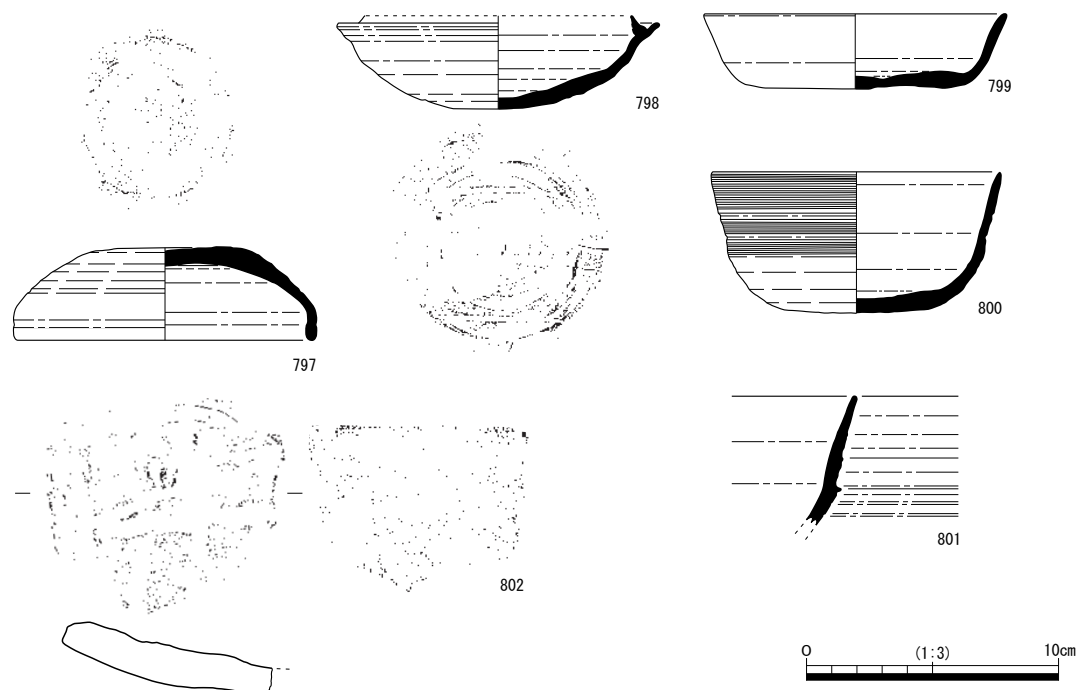
第88図 3・4 トレンチ出土遺物実測図 (1/3)

【3区灰原 (第91～94図)】

須恵器 (803～855) 803～807は杯H蓋で、805～807は外面にヘラ記号を有する。807は天井部を手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリを施す。808～813は杯G蓋で、812・813は外面にヘラ記号を有する。天井部は809がカキメ、811～813がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。814～828は杯B蓋で、814～825は口縁部にカエリを有し、826・827は口縁部が直立する。820・822・825は外面にヘラ記号を有する。天井部は821・822がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。829は杯H身で、外面にヘラ記号を有する。底部は回転ヘラケズリである。830～838は杯G身で、831～837は外面にヘラ記号を有する。いずれも底部はヘラ切りで、830・832・833は底部側面に回転ヘラケズリを施す。838の底部はヘラ切りである。839～842は杯B身で、842を除き底部外面にヘラ記号を有する。840～842の高台は端部がわずかに外方に張り出す。843は杯Bと比べ、口径が小さい高台付の杯である。844は底部を欠くが、杯B身であろう。845・846は皿もしくは盤で、



第 89 図 5 トレンチ出土遺物実測図 (1/3)

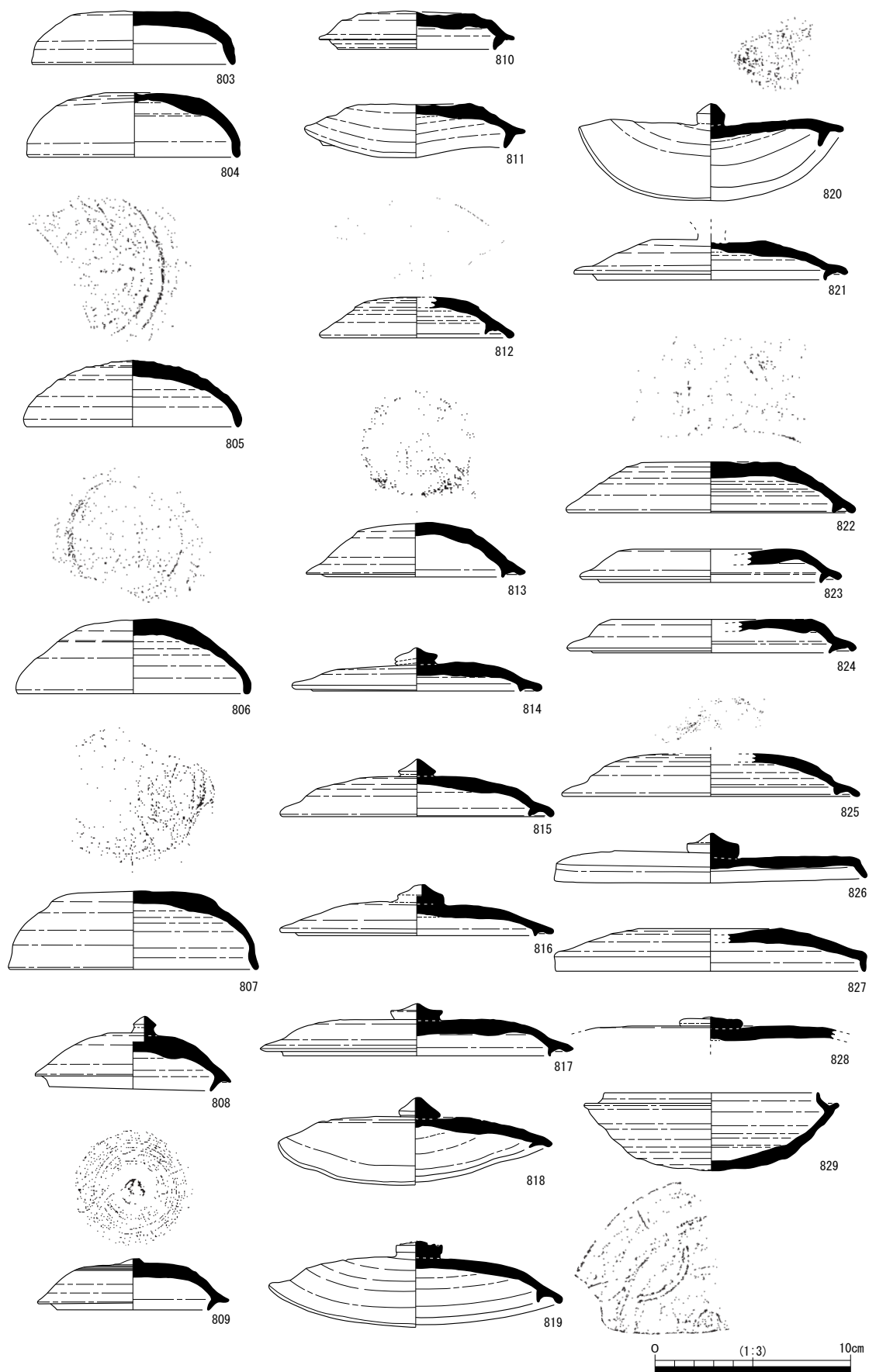


第90図 3区1・2号灰原出土遺物実測図 (1/3)

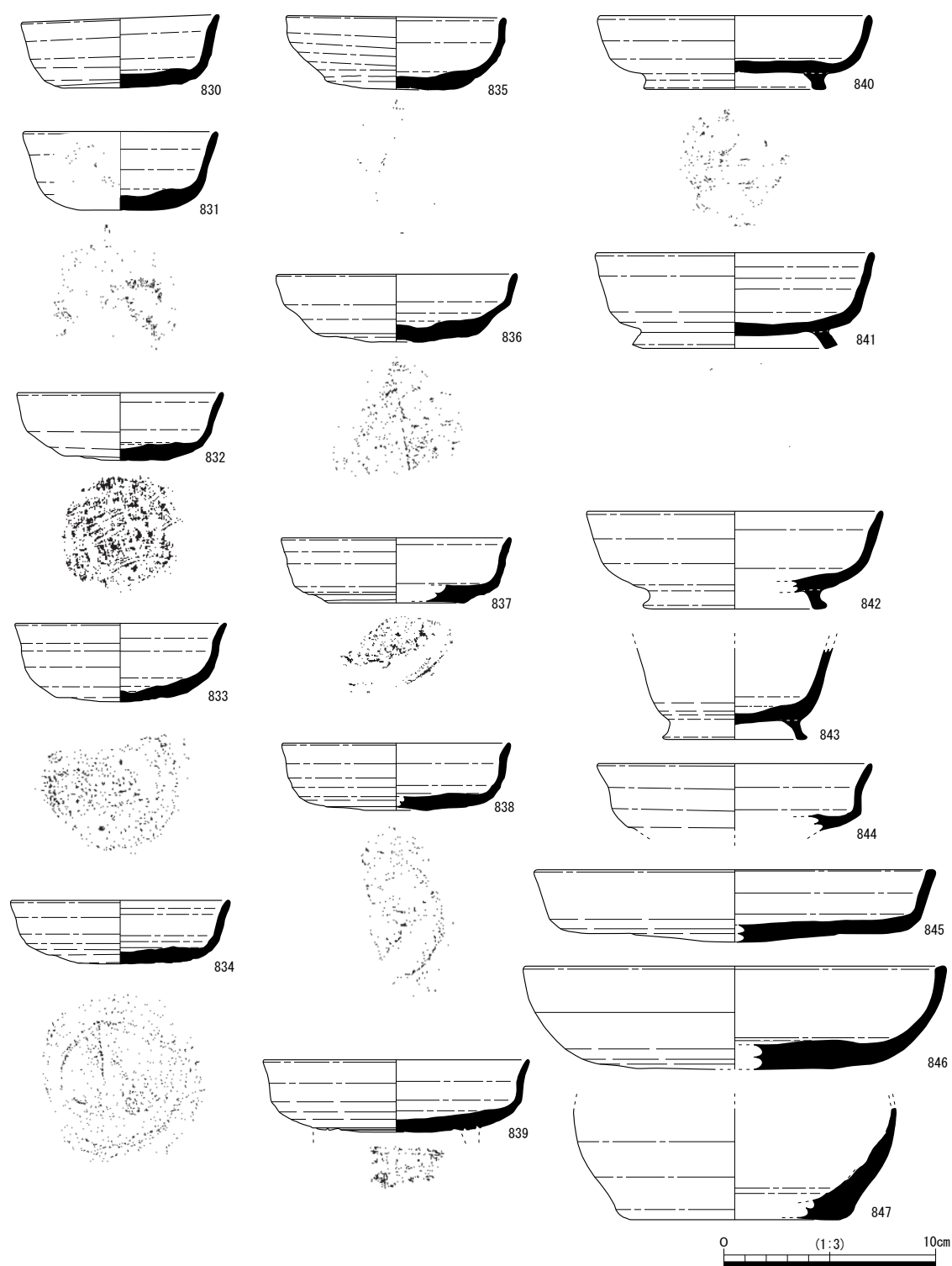
845は口縁部が直立する。846は内湾して立ち上がる。845の底部はヘラ切り後側面に回転ヘラケズリを行う。846の底部は回転ヘラケズリである。847は鉢状の器形を呈する壺で、底部は平底である。底部はヘラ切り、底部側面は回転ヘラケズリを施す。848はすり鉢（陶臼）で、底部外面に無数の刺突痕がある。849は瓶類の口縁部であろう。850は小型の甕で、内外面は回転ナデである。851は中型の甕で、外面にカキメ後波状文を施す。852は大甕で、外面に二段の波状文を施す。

853～855は獣脚硯である。853は脚部の1本と縁台（海底）の1/6程度が遺存する。縁台端部の復元径は17.0cmである。焼成はやや軟質で橙褐色を帯びる。胎土は精良で、1mm以下および1～2mmの白色砂粒を含む。縁台上面の外縁部側は外堤部の剥離痕があり、外堤部の厚さは0.3cmほどと想定できる。陸側は1.0cmの幅で回転ナデを施し、幅0.4mmの剥離痕がある。回転ナデが擬口縁かは明瞭ではないが、陸側が接続すると考えられる。海底部分は2.3～2.6cmの幅で回転ナデを施しているが、全体に粗い調整である。縁台上面の高さは3.4～3.5cmである。縁台下面はケズリ、陸側はナデである。縁台端部も水平方向にケズリを施す。脚部は断面の形状が円形で、下半部に向けて幅を広げ、設置面は平坦である。縁台外縁部に接合し、脚上端部は欠損するが、縁台より上に突出する。脚前面にはスタンプにより5条の条線および横方向の沈線を施文するが、左端の条線と横方向の沈線はつぶれて不明である。条線の先端は欠損のため形状不明であるが、下方に向かって広がる。文様の上端は角が明確ではなく、やや歪んでいる。スタンプの両側にはヘラ状工具により縦の沈線を施す。脚部設置面の調整は、不明であるがナデであろう。

854は脚部の1本、縁台（海底）の1/5程度が遺存する。縁台端部の復元径は17.6cmである。焼成はやや軟質で橙褐色を帯びる。胎土は精良で、1mm以下および1～2mmの白色砂粒を含む。縁台上面の外縁部側は外堤部の剥離痕と考えられ、外堤部の厚さは0.5cmほどと想定できる。陸側は

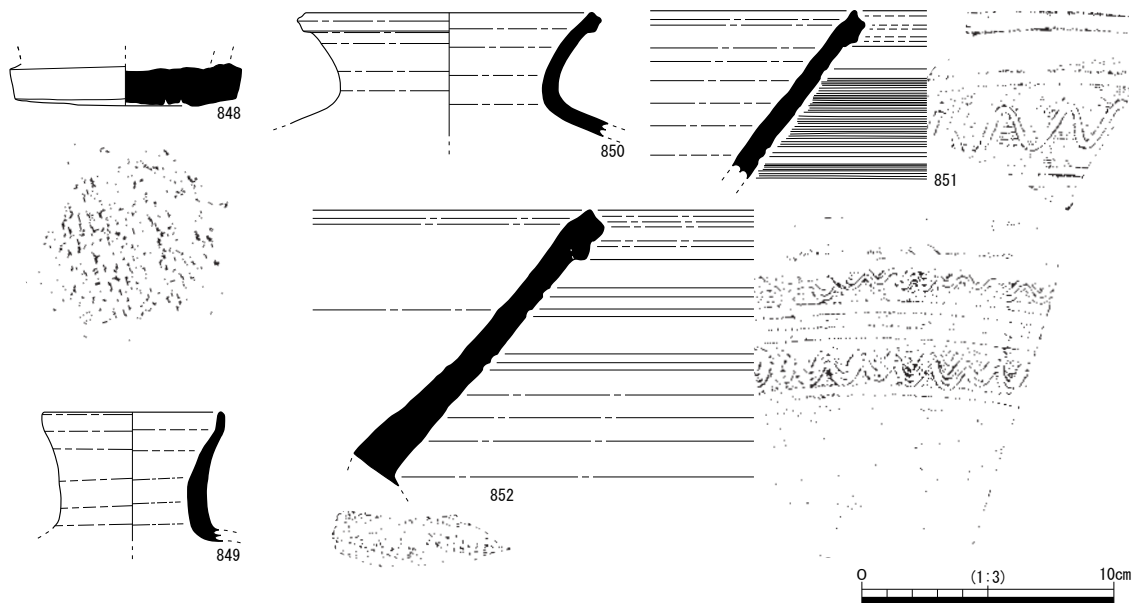


第 91 图 3 区灰原出土遺物実測図① (1/3)



第92図 3区灰原出土遺物実測図② (1/3)

0.3～0.5cmの幅で回転ナデを施し、擬口縁状を呈することから、陸部の剥離痕跡と考えられる。海底部分は指オサエ後2.2～2.5cmの幅で回転ナデを施しているが、全体に粗い調整で指頭痕が明瞭に残る。海底上面の高さは4.0cmである。縁台下面はケズリ、陸側はナデである。縁台端部も水平方向にケズリを施す。脚部は断面の形状が楕円形で、下半部が幅広になりながら上方に反り上がる。設置面は丸みを帯び平坦面はない。縁台外縁部に接合し、脚上端部は欠損するが、縁台より上



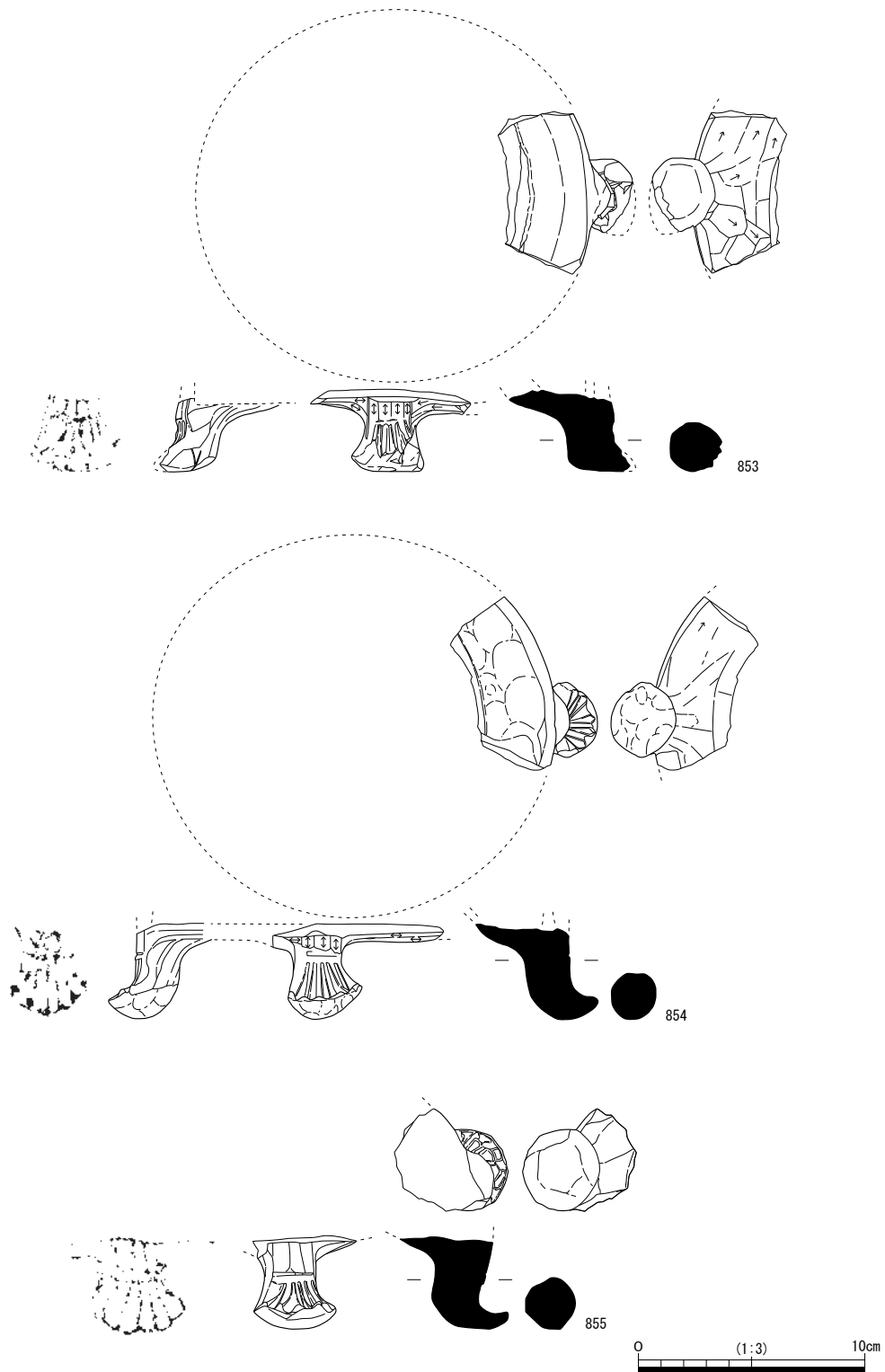
第 93 図 3 区灰原出土遺物実測図③ (1/3)

に突出する。脚前面にはスタンプにより 5 条の条線および横方向の沈線（2 条の突線）を施文する。条線の先端は剣菱形を呈し、文様の上端は明瞭な角を有している。文様の部分が窪むことから、文様を陽刻した原体を使用したことが分かる。脚部上位・文様の両側面と背面部は垂直方向にケズリを施す。砂粒の動きは小さく、非常にシャープであることから、ある程度乾燥が進んだ段階の調整と考えられる。脚部設置面は指オサエで、指頭痕が明瞭に残る。

855 は脚部の 1 本と縁台の一部が遺存するが、細片のため直径は不明である。焼成は硬質で灰色を呈する。胎土は精良で、1 mm 以下および 1～2 mm の白色砂粒を含む。縁台上面は全体が剥離するため、外堤・陸・海との関係性や調整は不明である。縁台下面はケズリで、縁台端部も水平方向のケズリである。脚部は断面の形状が円形で、下半部が幅広になりながら端部は上方に反り上がる。設置面は丸みを帯び、直径 1.5 cm の範囲で平坦面がある。縁台外縁部に接合し、脚上端部は欠損するが、縁台より上に突出する。脚前面はスタンプにより施文し、文様のモチーフ・形状や寸法が 854 と酷似しており、同一原体を使用したと考えられる。ただし、855 は脚部先端側を一度スタンプしたのち、もう一度本体側に押圧することから、一部文様に乱れが生じる。脚部上位・文様の両側面と背面部は垂直方向にケズリを施す。854 と比べ、砂粒や粘土の動きが顕著で、粘土の乾燥が進行していない段階の調整と考えられる。脚部設置面は工具によるナデで、一部穀類の圧痕が残る。854 と 855 は色調が大きく異なるが、その他の要素はよく似る。855 は縁台上面の剥離面が焼け弾けたようにも見えることから二次焼成を受けた可能性もあり、この場合 854 と 855 は同一個体の可能性がある。

【3 区道路断面（第 95 図）】

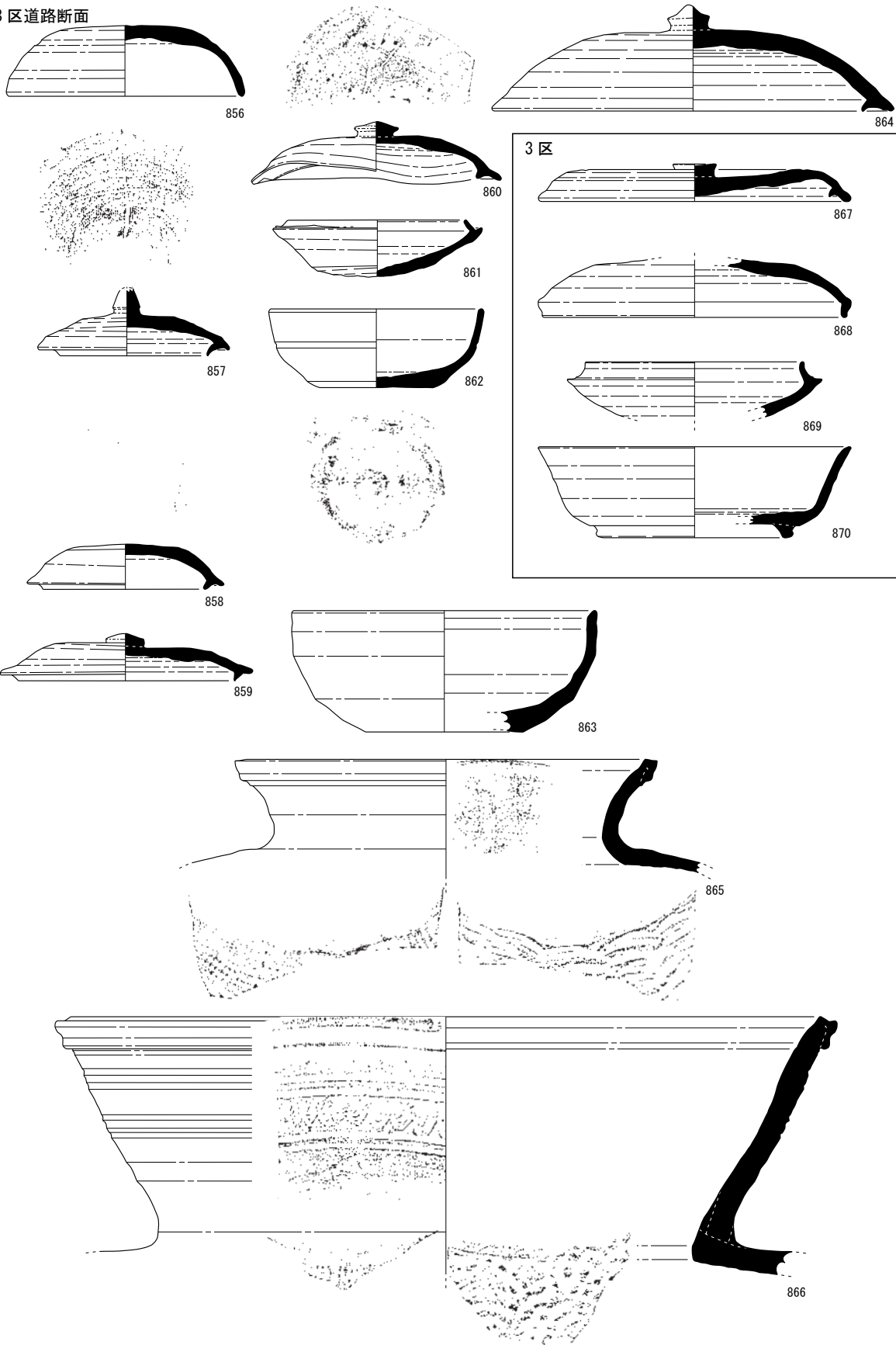
須恵器（856～866） 856 は杯 H 蓋で、天井部は回転ヘラケズリである。857・858 は杯 G 蓋で、いずれも外面にヘラ記号を有する。天井部は 857 が回転ヘラケズリ、858 は摩滅のため不明である。859・860 は杯 B 蓋で、860 は外面にヘラ記号を有する。天井部は 859 がヘラ切り、860 が回転ヘラ



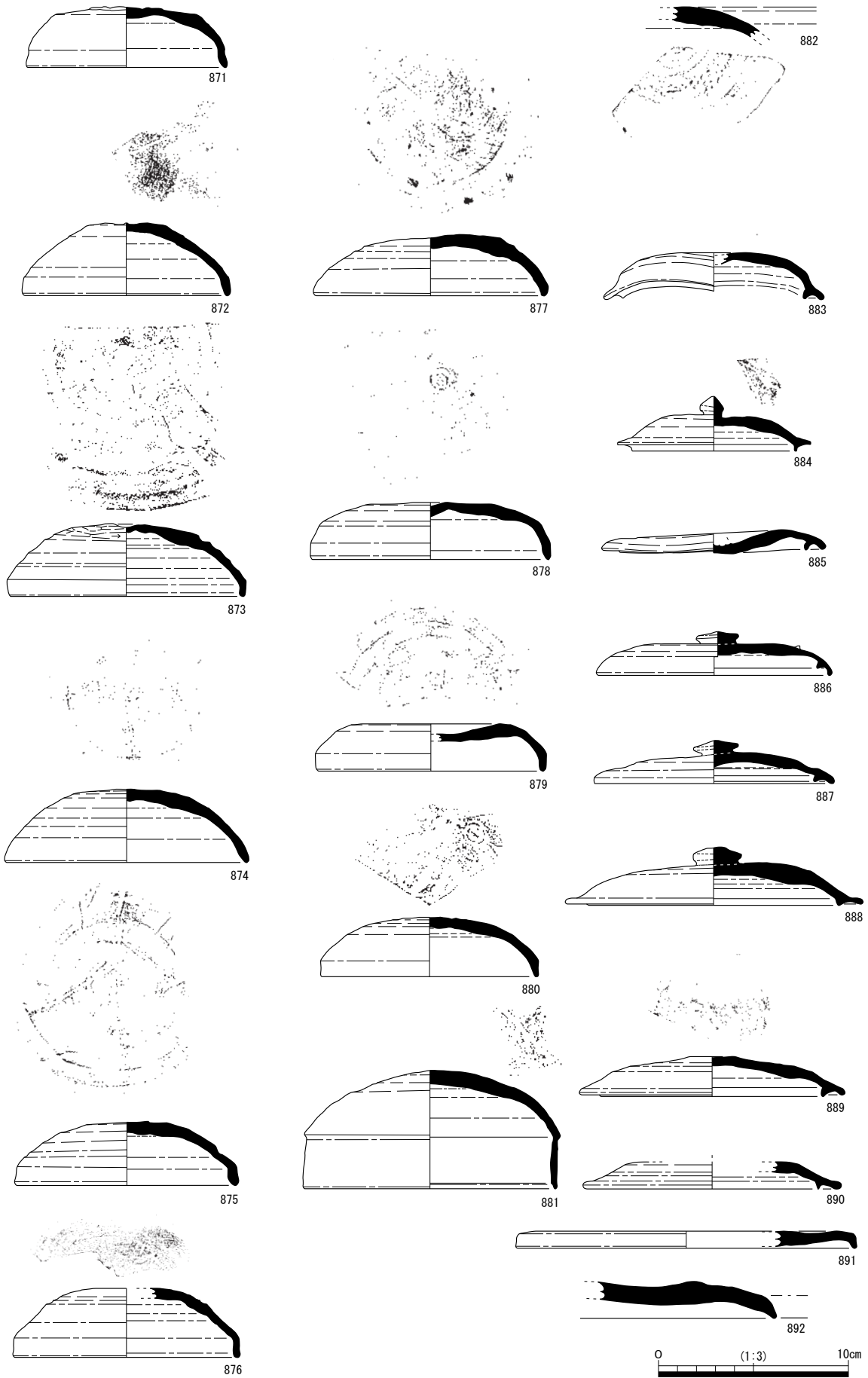
第94図 3区灰原出土遺物実測図④ (1/3)

ケズリである。861は杯H身で、底部はヘラ切りである。862は杯身で、外面にヘラ記号を有し、カキメを施す。863は鉢で、内外面は回転ナデ、底部の調整は摩滅のため不明である。864は大型の蓋で、壺に伴うものであろうか。口縁部にカエリを有する。天井部はヘラ切りである。865は中型の甕である。体部は外面に擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。口頸部にヘラ記号を有する。866は大甕で、体部は外面に平行タタキ、内面には同心円当具痕が残る。頸部に波状文を施す。

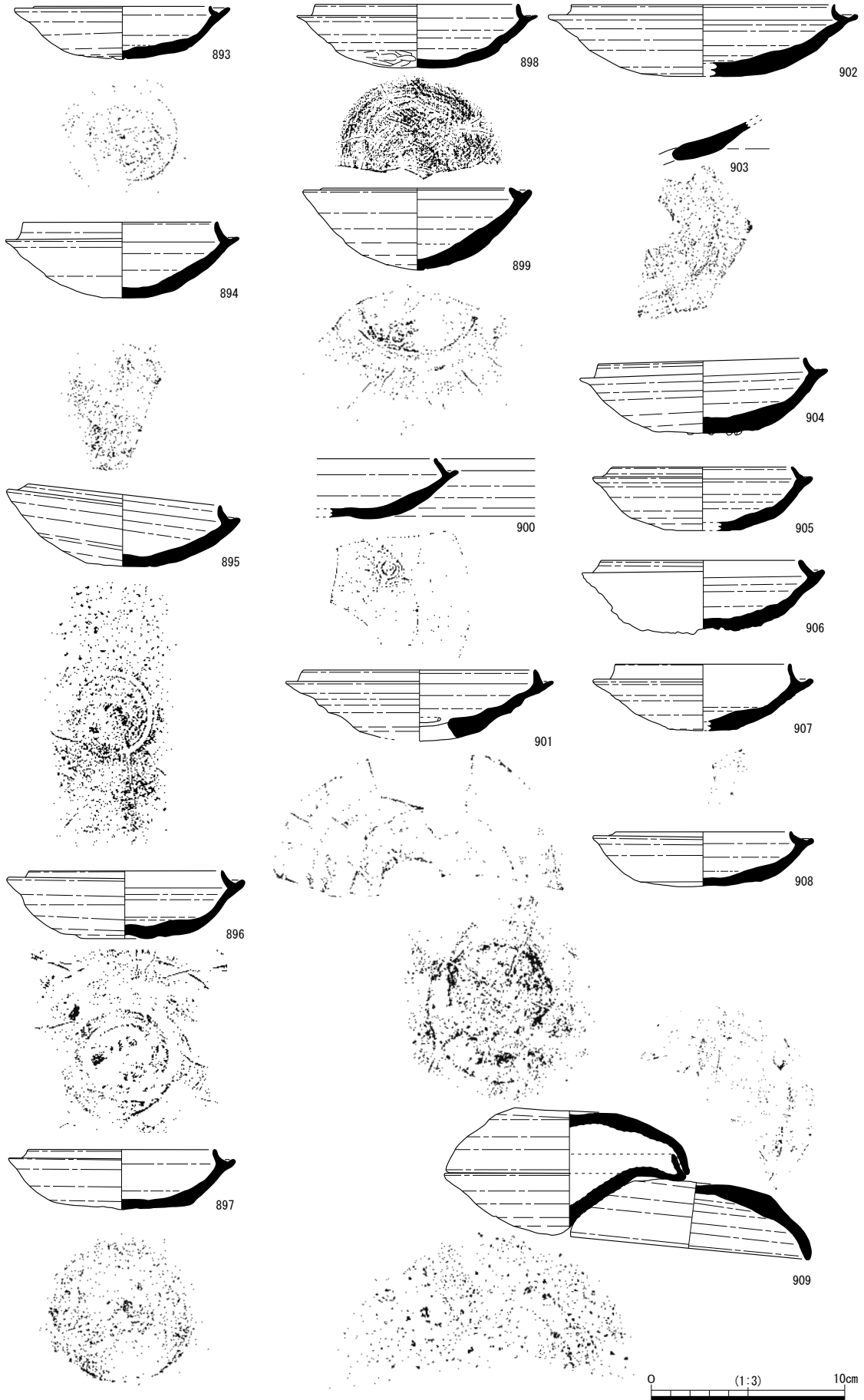
3区道路断面



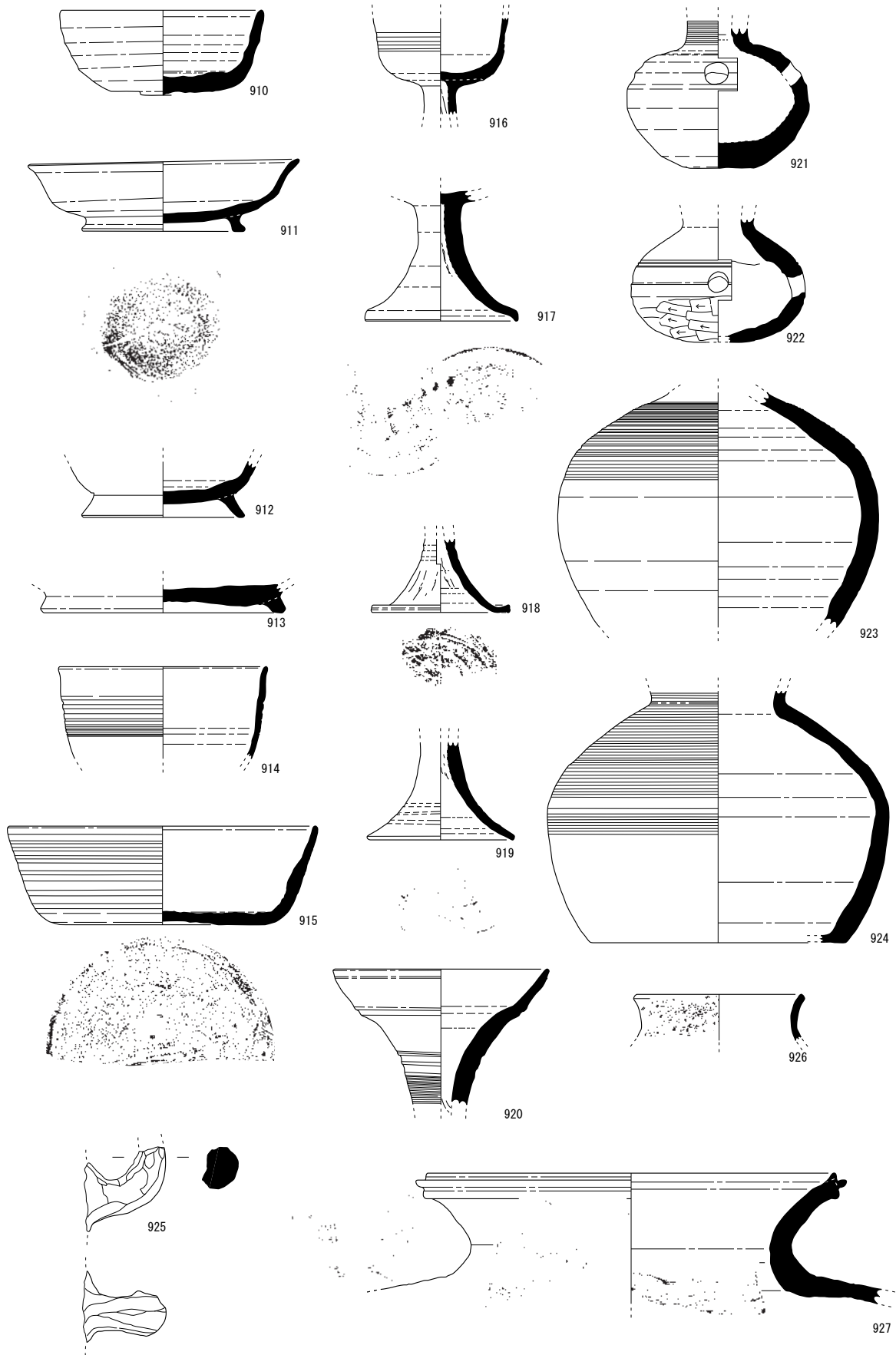
第95图 3区道路断面灰原・3区出土遺物実測图 (1/3)



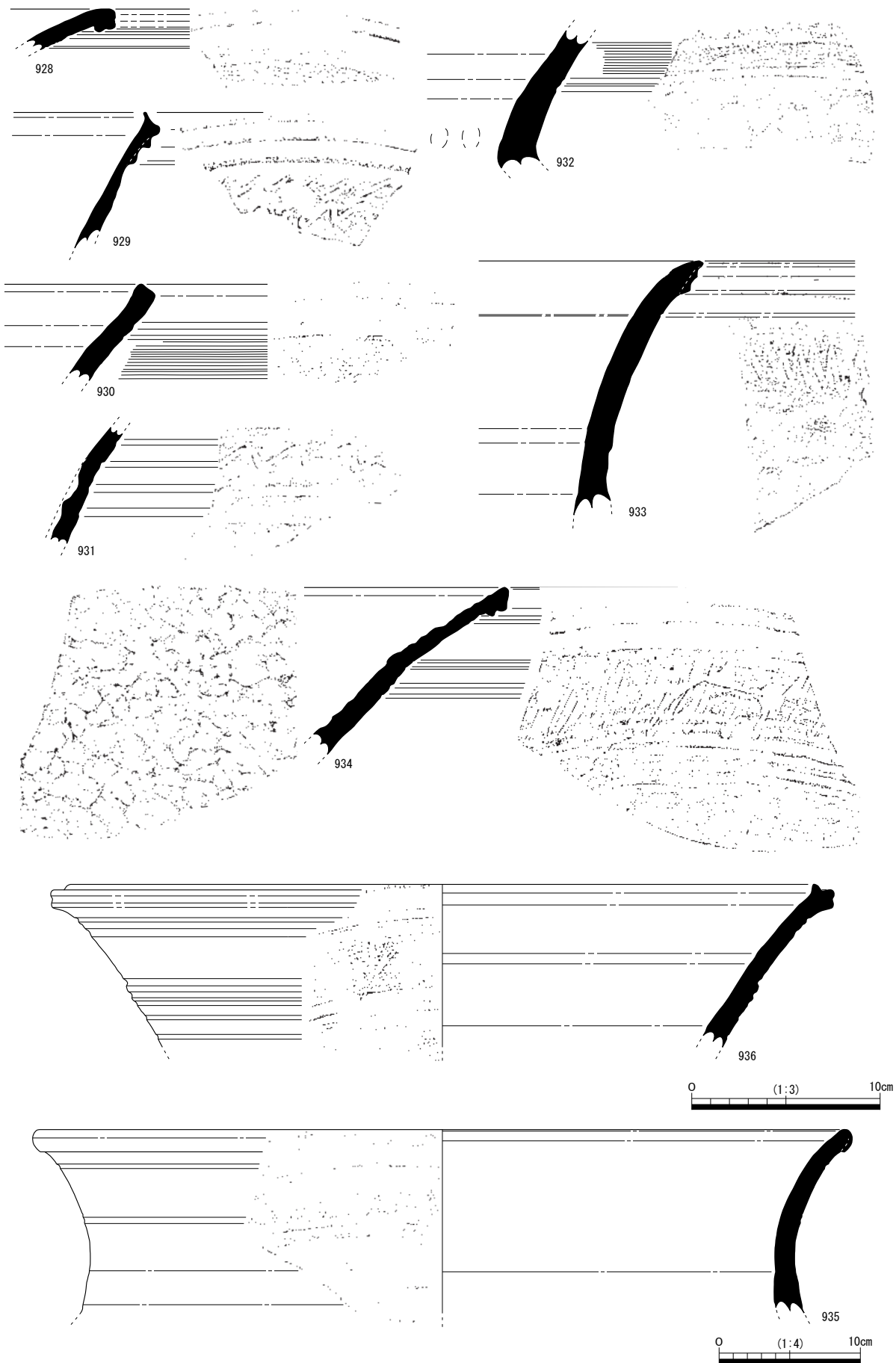
第 96 图 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測图① (1/3)



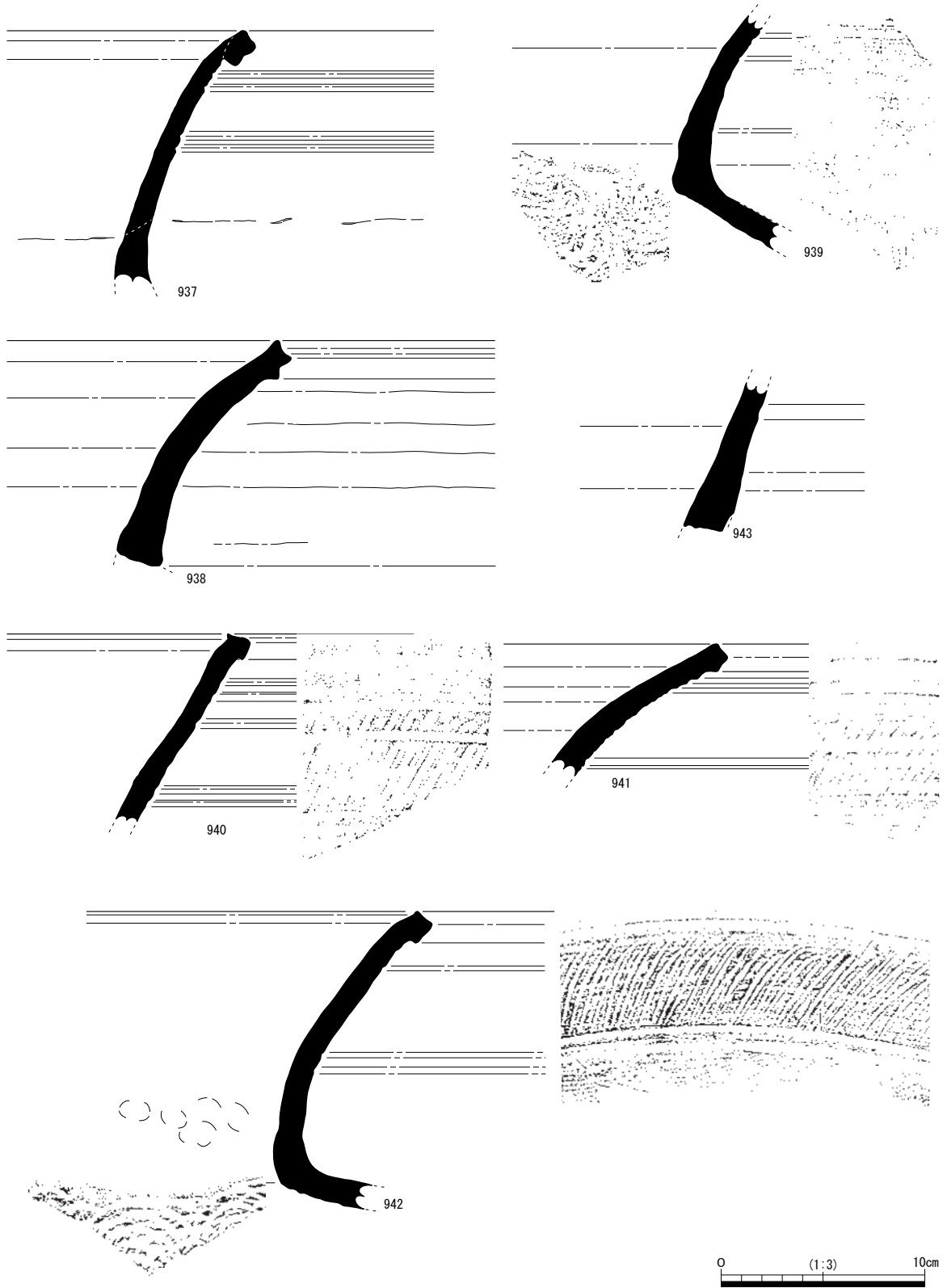
第 97 図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図② (1/3)



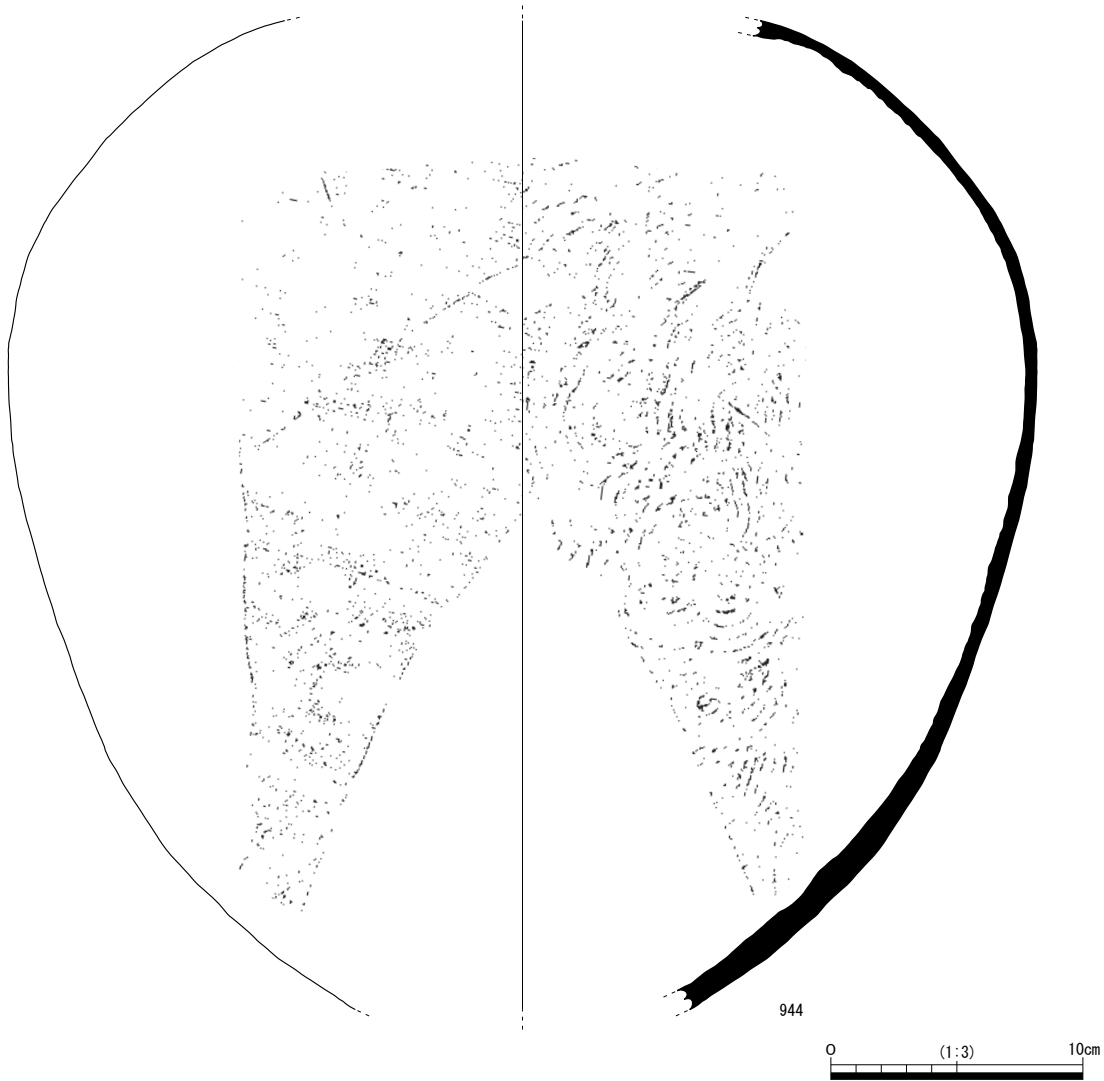
第 98 図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図③ (1/3)



第99図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図④ (1/3・1/4)



第 100 図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑤ (1/3)



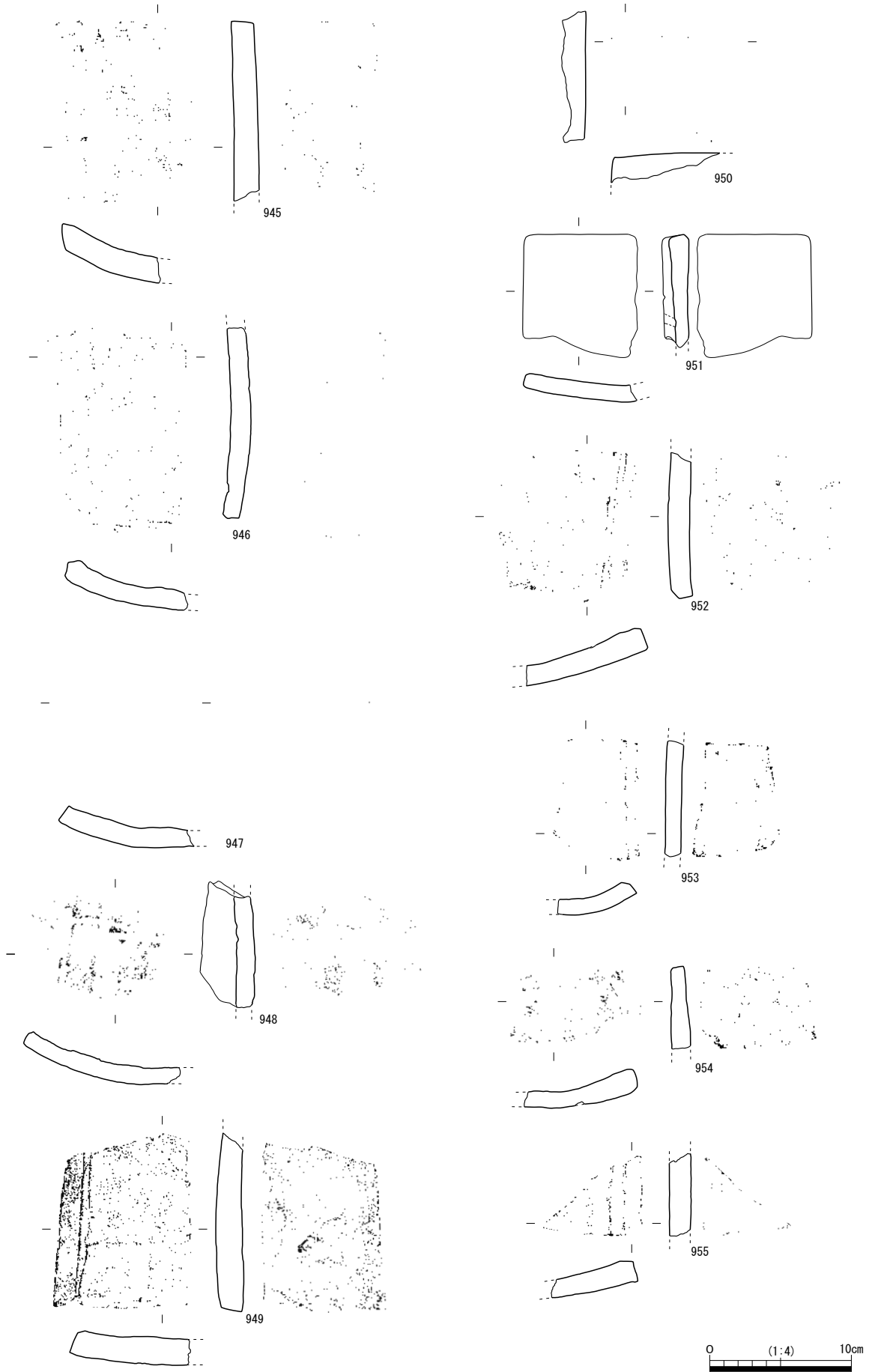
第 101 図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑥ (1/3)

【3区 (第 95 図)】

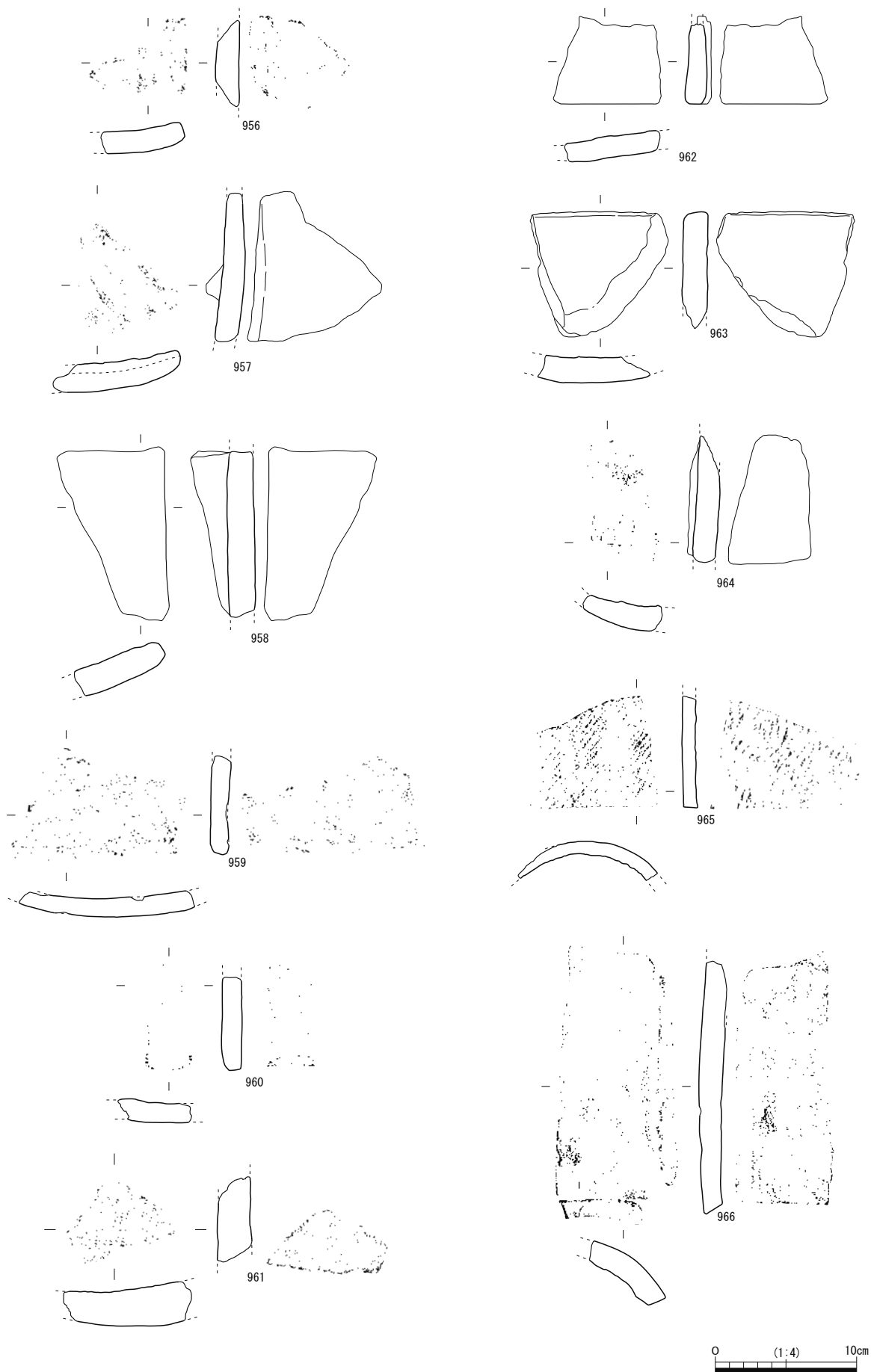
須恵器 (867～870) 867・868 は杯 B 蓋で、867 は口縁部にカエリを有し、868 は直立する。天井部は 867 が回転ヘラケズリ、868 はヘラ切りである。869 は杯 H 身で、降灰のため調整は不明である。870 は杯 B 身で、高台の断面形状は方形を呈する。

【出土地点不明遺物 (第 96～104 図)】

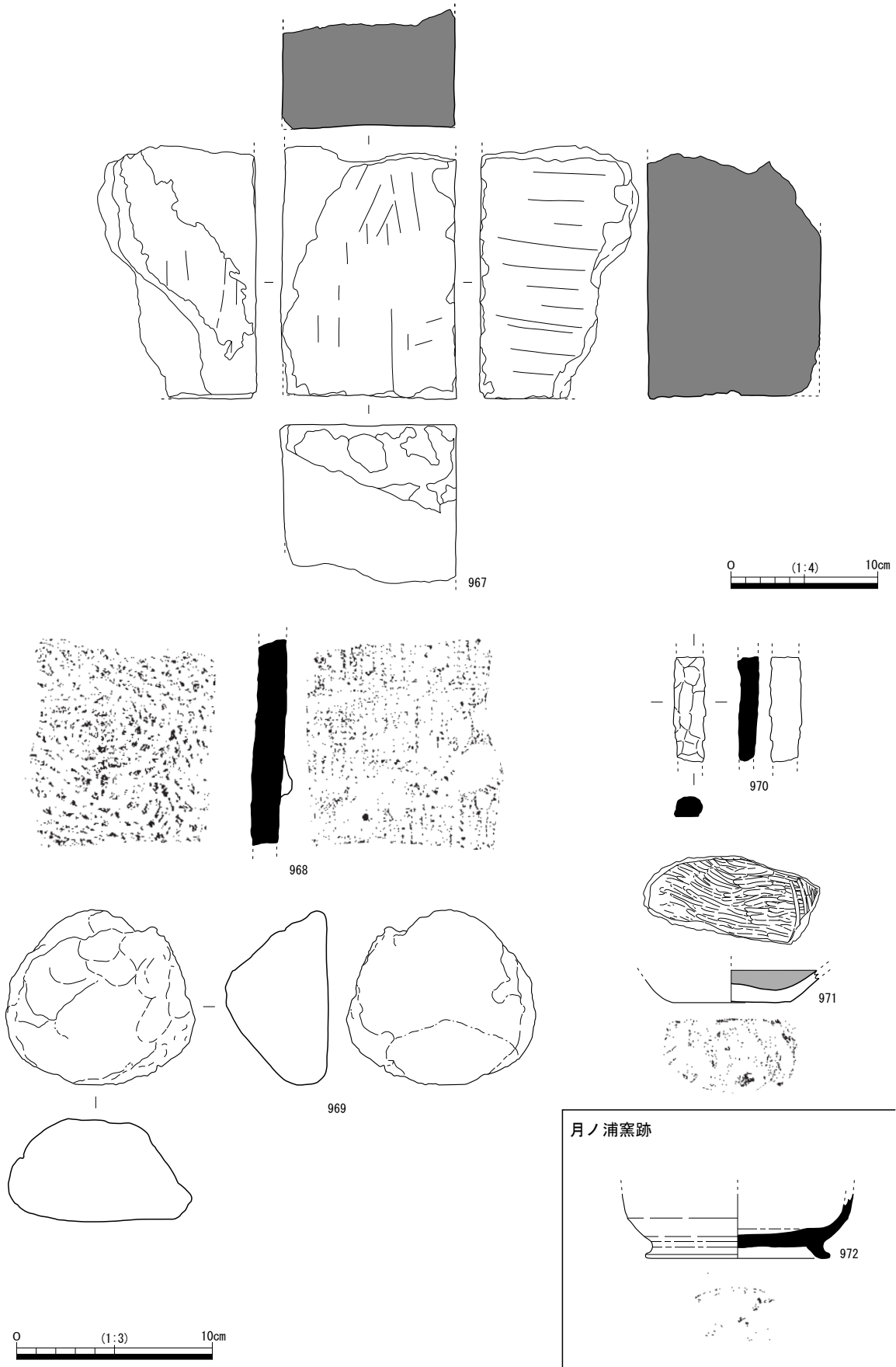
須恵器 (871～944) 871～882 は杯 H 蓋で、872～877・881 は外面にヘラ記号、878～880 は竹管文を有する。天井部は 871 がヘラ切り、873 が手持ちヘラケズリ、他は回転ヘラケズリで、881・882 は内面に同心円当具痕が残る。883・884 は杯 G 蓋で、外面にヘラ記号を有し、天井部は回転ヘラケズリである。885～892 は杯 B 蓋で、885～890 は口縁部にカエリを有し、891・892 は直立する。天井部は 889・890 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリである。889 は外面にヘラ記号を有する。893～908 は杯 H 身で、893～898・901～904・907 は外面にヘラ記号を有し、899・900 は竹管文を施す。底部は 890・896・908 がヘラ切り、他は回転ヘラケズリもしくは回転ナデで仕上げる。901・903 は底部に焼成前穿孔がある。909 は杯 H 蓋杯のセットと杯 H 蓋の溶着資料である。セットの蓋杯は底部・天井部ともに回転ヘラケズリで、外面にヘラ記号を有する。溶着した蓋は天井部を手持ちヘラケズ



第 102 図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑦ (1/4)



第 103 図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑧ (1/4)



第104図 大谷窯跡群出土地点不明遺物実測図⑨・月ノ浦窯跡出土遺物実測図 (1/3・1/4)

りし、外面にヘラ記号を有する。910は杯G身で、底部は回転ヘラケズリである。911・912は杯B身で、911は底部外面にヘラ記号を有する。高台は911が端部に張り出しを有し、912はやや高い。913は長頸壺の底部であろう。高台の断面形状は方形である。914は椀で外面に沈線・カキメを施す。915は杯で、外面にヘラ記号を有し、体部にカキメを施す。916は高杯の杯部片で、外面に沈線が巡る。917～919は高杯脚部で、内面にヘラ記号を有する。920～922は甕である。920は口頸部片で、下半部にカキメを施す。921は体部から頸部の破片で、頸部下半にカキメを施す。922は体部片で、下半部は手持ちヘラケズリである。923・924は壺もしくは瓶類の体部片である。いずれも体部は球形で、上半部にカキメを施す。925は把手の破片である。926は小型の甕の口縁部である。927は中型の甕で、頸部外面にヘラ記号を有する。体部は外面に擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。928～944は大甕である。口頸部は928～935が波状文、936～939が無文、940～942が斜線文である。936・939は外面にヘラ記号を有し、931・934は器面の剥離が顕著である。944は体部片で、外面に平行もしくは擬格子タタキ、内面には同心円当具痕が残る。

瓦 (945～966) 945～964は平瓦である。いずれも破片であるが、残存状況が良好な945は残存幅8.0cm、残存長13.1cm、946は残存幅8.9cm、残存長15.0cm、厚さは平均1.5cm前後である。凹面は模骨痕・布目痕が残り、948・949は糸切り痕、948は模骨の紐の痕跡が残る。側縁部・端部は面取りし、一部は凹面もしくは凸面まで調整が及ぶ。凸面はナデで仕上げるが、945・948・952・955などは平行タタキが残る。965・966は丸瓦である。965は凹面に弧状の当具痕、凸面は平行タタキが残る。966は残存長18.7cmで、凹面に模骨痕・布目痕があり、凸面はケズリ・ナデで仕上げる。

埴 (967) 無文埴で、四面に遺存面がある。近現代の所産である可能性も考えたが、表面の調整の雰囲気や焼成から古代のものだと判断した。直方体を呈し、長さ17.3cm以上、幅10.8cm、厚さ11.7cm以上である。角が非常に鋭い稜を成すことから型作りと想定できる。破断面を見ると空隙を生じる部分が複数あり、型の中に粘土を押し込んで成形したと推測される。各面ともに工具ナデ・ナデで調整し、長軸方向に平行するナデが主体だが、一部は短軸方向に平行してナデを施す。焼成は瓦質焼成で、表面は灰白色を呈し、内部は褐色を呈する部分もある。胎土は比較的精良で、他の須恵器と変わらないが、直径3mm程度の砂粒や植物質が抜け落ちたような痕跡もある。

焼き台 (968・969) 968は須恵器大甕の体部片で、破断面にも被熱を受ける。外面平行タタキ、内面には同心円当具痕が残る。969は土塊で、断面形状は三角形を呈し、底面は平坦である。

切削物 (970) 須恵質で、一面に削り取った際の痕跡がある。

黒色土器 (971) 内面を燻したA類の杯もしくは皿である。内面は精緻なミガキ、底部は回転糸切りである。

【月ノ浦窯跡出土遺物 (第104図)】

大谷窯跡群の資料の中に、「月の浦古窯跡ステバ」と注記された土器が含まれていたため、参考資料として報告する。

須恵器 (972) 杯B身で、底部外面にヘラ記号を有する。高台は端部が外方に突出する。

VI. 総括

1. 各窯跡の構造と操業時期

ここでは、各窯跡の構造・操業時期や特徴について整理する。

(1) 乙金窯跡

1号窯跡

【窯の構造】 平面胴張りプランで、全長 7.3 m である。焼成部に段はなく、煙道部に溝はない。

【操業時期】 III A ～ III B 期古段階と想定される。

【生産器種】 蓋杯類を中心に、高杯・甕・提瓶・甕のほか、手捏ね成形の皿を生産する。

【総重量】 28.3kg

2号窯跡

【窯の構造】 平面胴張りプランで、全長 7.4 m である。焼成部に段はなく、煙道部に溝はない。

【操業時期】 III A ～ III B 期古段階と想定される。

【生産器種】 蓋杯類を中心に、甕・小型壺・提瓶・両耳付直口壺・甕を生産する。

【総重量】 25.6kg

(2) 東浦窯跡群

1号窯跡

【窯の構造】 平面寸胴プランで、全長 8.9 m である。多孔式煙道窯で、煙道部に溝が接続する。燃焼部の床面には舟底状ピットがある。右壁は補修に伴い設置したと考えられる石組がある。

【操業時期】 IV A 期新段階を中心とした時期が想定される。

【生産器種】 蓋杯類を中心に、短脚高杯・椀・すり鉢・小型壺・平瓶・甕・大甕のほか、いわゆる金属器模倣椀の可能性のある器種を生産する。

【総重量】 75.8kg

【その他特徴】 蓋杯類の天井部・底部を指オサエにより押し出し、丸みを帯びた器形が特徴的で、2号窯跡とも共通する。

2号窯跡

【窯の構造】 1号窯跡の構造とよく似る。平面寸胴プランで、全長 8.6 m である。多孔式煙道窯で、煙道部に溝が接続する。燃焼部の床面には舟底状ピットがある。右壁には補修に伴い設置したと考えられる石組がある。焼成部の窯尻部側床面には段を設置する。

【操業時期】 IV A 期新段階を中心とした時期が想定される。

【生産器種】 蓋杯類を中心に、高杯・大甕がある。

【総重量】 25.2kg

【その他特徴】 1号窯跡と同様に蓋杯類の天井部・底部が丸みを帯びる点の特徴的である。

なお、本文中でも触れたように、焼成部右壁沿いからは複数の鉄鏃が出土した。2号窯跡出土遺物のパンコンテナからは焼骨の可能性のある人骨が確認された。鉄鏃・焼骨の存在から、カマド塚

状遺構の可能性があり、操業後に墳墓として窯を利用した可能性がある事例として注目される。

3号窯跡

【窯の構造】 平面寸胴プランで、全長 9.5 m である。多孔式煙道窯の可能性はある。煙道部に溝が接続し、焼成部の窯尻部側床面には段を設置する。焼成部では支柱の可能性のある粘土塊が出土した。

【操業時期】 IV A 期古段階に位置付けられる。

【生産器種】 蓋杯類を中心に、高杯・椀・甗・甕がある。

【総重量】 75kg

【その他特徴】 焼成部内の当初操業面から浮いた状態で、未焼成の甕などが出土した。調査時の所見では、操業停止後に物置として再利用したと解釈されている。

(3) 大谷窯跡群

1号窯跡

【窯の構造】 平面寸胴プランで、全長 8.9 m の多孔式煙道窯である。煙道部に溝が接続する。焼成部の窯尻部側床面には段を設置する。

【操業時期】 IV B 期に位置づけられる。

【生産器種】 蓋杯・高杯・甗・椀・すり鉢・大甕・瓦がある。

【総重量】 92.3kg

【その他特徴】 瓦陶兼業窯で、非常に多くの遺物が出土した。

2号窯跡

【窯の構造】 平面寸胴プランの多孔式煙道窯である。煙道部に溝が接続する。

【操業時期】 IV B 期に位置づけられる。

【生産器種】 蓋杯・高杯・椀・甗・すり鉢・平瓶・甗（もしくは鍋）・甕・大甕・瓦がある。

【総重量】 398.4kg

【その他特徴】 瓦陶兼業窯で、非常に多くの遺物が出土した。

3号窯跡

【窯の構造】 平面寸胴プランで、全長 6.5 m ほどの多孔式煙道窯である。

【操業時期】 V～VI 期に位置づけられる。

【生産器種】 蓋杯・高杯・椀・長頸壺・甕などがある。

【総重量】 35.1kg

【その他特徴】 最新段階の多孔式煙道窯と考えられる。

4号窯跡

【窯の構造】 平面寸胴プランで、全長 4.5 m ほどである。煙道部の構造は不明である。

【操業時期】 VI 期を中心とした時期と考えられる。

【生産器種】 蓋杯・高杯・皿・椀・甕・大甕

【総重量】 35.1kg

【その他特徴】 小型の窯である。大甕の出土量が比較的多い。

2. 大谷窯跡群出土の獣脚硯

上田龍児

(1) 大谷窯跡群出土獣脚硯の特徴

大谷窯跡群では、3点の獣脚硯が出土した。「Ⅲ区ステバ」の注記があることから灰原に伴うと考えられるが、詳細な出土状況や帰属する窯は不明である。いずれも脚1本および脚周辺の破片である。製作技法はいわゆる縁台獣脚硯と共通し、倒置状態で成形し縁台を作り出した上で、縁台外端部に脚部を接合したものと想定される。外堤部を縁台外端部に接合し、縁台は突出しない。また、脚上半と縁台外端は連続的なケズリにより調整する。脚頭は縁台上面（海底面）より上方に突出し、脚下半は下方に向けて幅広になる。854・855は脚底面が丸みを帯び、端部は上方へと反り上がる。脚部前面には5条の線を陽刻したスタンプにより施文し、器面の文様は凹面となる（註1）。

854と855の文様は同一の原体を使用し、法量・技法ともに酷似することから同工品と考えられ、同一個体の可能性もある。853は文様や脚部の形態が若干異なり、854・855とは別個体である。したがって、少なくとも2個体の獣脚硯が存在する。

(2) 白井克也氏による検討

北部九州出土の獣脚硯については、白井克也氏による詳細な分析がある（白井2004）。白井氏は北部九州出土の獣脚硯を16点抽出し、これに関連する畿内・百済出土資料を含めて、縁台や脚部の製作技法を検討した。その結果、縁台を4式、脚部を5類に分類し、両者の組み合わせ7組を抽出した。このうち、縁台1式と脚b・c類が組み合うものは、百済では出土例がなく北部九州に多いことから、牛頸窯跡群での生産を想定し、脚部の断面形や文様から縁台1式・脚c類については同工品群A、縁台1式・脚b類については同工品群Bと位置付けた。また、縁台2式・3式（脚部e類）・4式（脚部d類）は百済に分布し、その一部は北部九州・畿内にも搬入されたが、これらは北部九州・畿内には直接の影響を与えなかったとする。畿内における獣脚硯の出現については「畿内にもたらされた未発見の獣脚硯（あるいは実物を伴わない製作情報）をもとに、陶邑で獣脚硯18（筆者註：縁台1式・脚a類）が生産された。これとほぼ同型の獣脚硯6（筆者註：元岡遺跡群出土（第105図7）＝縁台1式・脚a類）が筑紫にもたらされるなど、畿内からの強い影響のもとに北部九州でも獣脚硯の同工品群A・Bなど縁台獣脚硯が生産され」た、と結論づけた。縁台獣脚硯の年代については、畿内においては蹄脚硯の出現よりやや遅れる7世紀後葉を中心とする短期間、北部九州においては7世紀後葉から8世紀前葉と想定した。

以上、白井氏の整理により、少なくとも縁台1式のうち脚b・c類（第105図1～6）は北部九州にしか存在せず、当地の獣脚硯の特徴といえる。

(3) 北部九州出土獣脚硯の新例

①比恵遺跡群141次（Ⅱ区南側包含層）出土例①（第105図3）

脚部1本のみでの破片で、残存高3.9cmである。断面形は楕円形である。背面と前面上半はヘラケズリで調整する。前面下半には押圧により鋸歯文を施し、鋸歯文上縁に2条の突線を有する。文様や断面形状は那珂遺跡群21次SE61出土例や御供田遺跡4号住居出土例と酷似しており、白井氏の

同工品群 A と考えられる。

②比恵遺跡群 141 次 (I 区 SX118) 出土例② (第 105 図 6)

脚部 1 本のみの破片で、残存高 3.9 cm である。断面形は円形から四角形に近い。背面と前面上半はへラケズリで調整する。前面下半には 2 条の突線により 2 段に分かれ、上段は三角形文、下段は鋸歯文を押圧施文する。文様・断面形状やケズリの癖などが荒木西ノ原出土例や牛頸塚原遺跡溝出土例に酷似しており、白井氏の同工品群 B に位置付けられる。

③日焼遺跡第 2 次 (第 105 図 8)

脚部・外堤・海部および陸の一部が残る。縁台の直径 15.8 cm、硯面の直径 11.6 cm である。実見していないが、外側に張り出すやや厚めの縁台で、海底面と縁台上面が同一の高さとなる。外端部に脚を接合しており、縁台端面は脚頭の左右で連続し、脚頭の脚上面と縁台上面が一致する。こうした特徴は白井氏の縁台 1 式・脚 a 類に該当し、元岡遺跡例や畿内出土例に近いものである。

④阿恵遺跡出土例 (第 105 図 9)

脚部 1 本のみが出土した。残存高 4.2 cm、表面をへラケズリで調整し、断面五角形を呈する。

⑤博多遺跡群 139 次 SE0116 出土例 (第 105 図 10)

脚部のみの遺存である。前面をへラケズリで調整し、へら状工具で削り出すことにより施文する。色調は黄橙色を呈し、胎土は緻密であり、牛頸塚跡群には見られない特徴を有する。VII B 期の須恵器と伴出する。

⑥博多遺跡群 102 次出土例 (第 105 図 11)

皿状の硯面の外周に脚部が接続する。硯面の外端部はわずかに上方に立ち上がるが、明確な海・陸はない。脚部は薄板状で外側上方に跳ね上がる。文様はなくへラケズリにより調整する。自然釉により全面に光沢があり、やや暗い灰色を呈し、黄色の砂粒を含む。牛頸塚跡群にはない特徴である。有田遺跡 77 次 SD11 出土例に近い。遺構に伴うものではなく、共伴遺物は不明である。

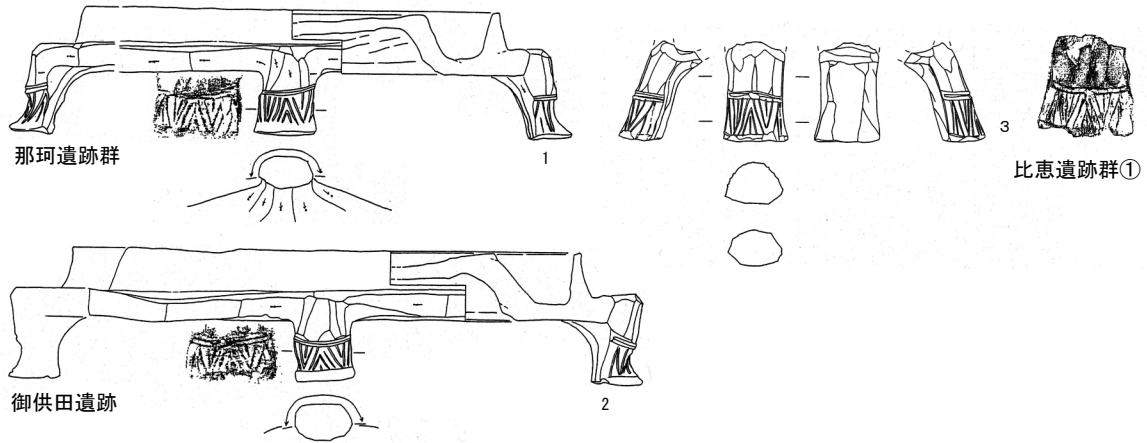
(4) 大谷窯跡群出土獣脚硯の位置付け

大谷窯跡群出土の獣脚硯と北部九州出土例を概観してきた。大谷例は、現状では北部九州出土獣脚硯の中で型式的な連続性は認めがたく(註 2)、畿内・朝鮮半島を含めても類例は見出せない。ただし、基本的な製作技法はこれまで知られている縁台獣脚硯と同様である。脚部が縁台の外側および上方に飛び出す点は北部九州出土の獣脚硯と共通する要素で、脚上半と縁台外端部に水平方向の一連のケズリを施し、脚頭を削り出す技法は北部九州の獣脚硯に特徴的な白井氏 c 類に近い。一方で、脚底面が丸みを帯びる点、原体を押し付けて施文する点や縁台端部に外堤部が接続する点など、これまで知られていた獣脚硯にない特徴を有している。全体的な特徴は、白井氏が同工品群 A・B とした御供田遺跡例や塚原遺跡例が最も近い。

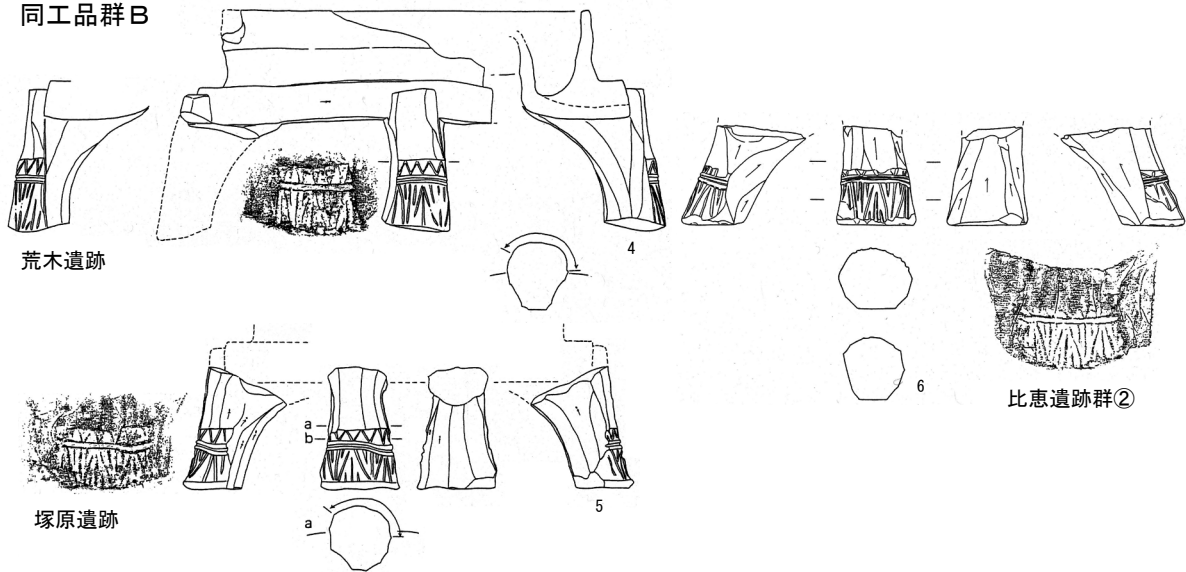
年代的な位置付けは帰属する窯や伴出遺物が不明なため確実ではないが、大谷窯跡群の操業期間を考慮すると 7 世紀代の可能性が高い。他の諸例の年代観や大谷窯跡群の操業期間より、7 世紀後半頃の所産と位置付けたい(註 3)。

なお、獣脚硯としては牛頸地区の生産地で出土した唯一の事例であり、牛頸窯跡群で獣脚硯を生

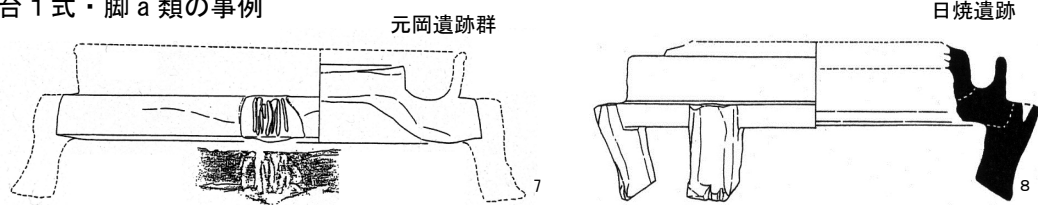
同工品群A



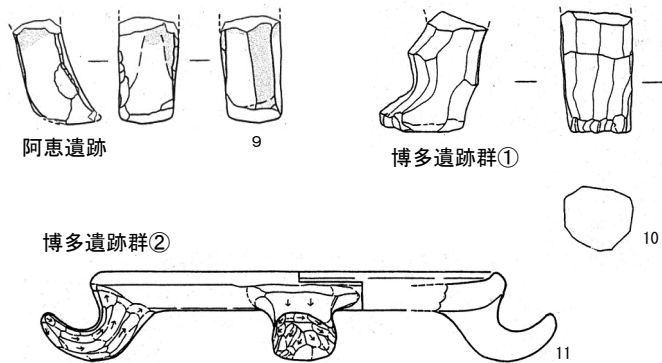
同工品群B



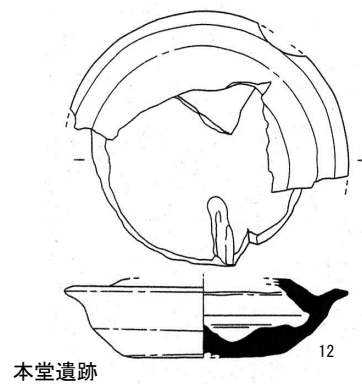
縁台1式・脚a類の事例



その他の新例



参考資料



第105図 北部九州出土の獣脚硯（同工品群A・Bと関連資料）(1/3)

(1・2・4・5・7は白井2004より転載、他は各報告書より引用)

産したことを示す確実な根拠となる重要な資料といえよう。また、獣脚硯の新例を検討する中で、比恵遺跡において牛頸産と考えられる資料を確認できたことも大きな成果である（註4）。

本稿の執筆に際しては、白井克也氏に資料を実見していただき、製作技法・類例との比較・全体的な位置づけについて有益なご意見をいただいた。獣脚硯の類例については、亀田修一氏・小田裕樹氏よりご教示いただいた。また、大宰府出土の陶硯全般については、小田和利氏よりご教示いただいた。記して、感謝申し上げます。

【註】

(1) 文様のネガとポジが反転していると理解した場合、月ノ浦窯跡出土の軒丸瓦の文様と同様の発想と捉えることができる。月ノ浦の軒丸瓦は瓦工人そのものではなく、瓦の情報を知る須恵器工人により製作されたものと見る意見もある。牛頸窯跡群における獣脚硯の希少性から見ても、大谷窯跡群出土獣脚硯は通常の須恵器工人が見よう見まねや獣脚硯に関する情報を基に製作した可能性があり、興味深い。

(2) そもそも獣脚硯は生産量が少なく、通常の土器のような型式変化をするわけではない（白井氏よりご教示を得た）。

(3) 北部九州出土の獣脚硯で年代的な位置付けが明確なものは少なく、少なくとも北部九州では7世紀中頃以前に遡り得る陶硯の確実な例はない。なお、牛頸窯跡群内の本堂遺跡7次調査では杯H身（法量・形態・技法からIVB期に近い）の形態に近い器体に硯面を貼り付けた中空硯の事例（第105図12）がある。ベースとなる器体が杯H身であるならば、7世紀中頃以前に遡り得る資料であり、今後注意しておきたい資料である。

(4) 牛頸産獣脚硯の多くが、那珂・比恵遺跡群に供給されたことが分かる。那珂21次は遺跡北西部、比恵遺跡との境界付近に位置し、調査地西側には那珂川が北流する。比恵141次は遺跡南西部、那珂遺跡との境界付近の谷部に位置し、西側には那珂川が近接する。報告者は弥生時代においては、船着場の可能性も指摘する。今後は、獣脚硯の需給関係や使用の場についても検討していく必要があるだろう。

【参考文献】

小田和利 2018 『大宰府管内出土陶硯の科学分析的研究』

白井克也 2004 「筑紫出土の獣脚硯」『九州考古学』第79号 九州考古学会

横田賢次郎 1983 「福岡県内出土の硯について-分類と編年に関する一考察-」『九州歴史資料館研究論集9』

【報告書】

大野城市教育委員会 2008 『牛頸本堂遺跡群Ⅶ』大野城市文化財調査報告書第81集

粕屋町教育委員会 2018 『阿恵遺跡』粕屋町文化財調査報告書第43集

太宰府市教育委員会 2008 『太宰府・佐野地区遺跡群24』太宰府市の文化財第100集

福岡市教育委員会 1992 『那珂5』福岡市埋蔵文化財報告書第291集

福岡市教育委員会 2002 『博多80』福岡市埋蔵文化財報告書第706集

福岡市教育委員会 2004 『博多98』福岡市埋蔵文化財報告書第807集

福岡市教育委員会 2018 『比恵80』福岡市埋蔵文化財報告書第1348集

3. 牛頸窯跡群の朝鮮半島系資料について

上田龍児

大谷窯跡群では少数ながらも朝鮮半島との関わりが推測される資料を確認した。ここでは、亀田修一氏（亀田 2008 ほか）や寺井誠氏（寺井 2012 ほか）をはじめ関連資料についての先行研究を参照しつつ、生産地のみならず集落の資料も含めて牛頸窯跡群の朝鮮半島系資料を整理する。

(1) 事例の紹介

新羅土器 4点ある。2点は採集品でそれぞれ5世紀前半から中頃の杯身（第106図2）、6世紀初頭の蓋（第106図1）（白井 1999）であり、牛頸開窯前の当地域と新羅との交流を示す資料として注目できる。他2点は開窯期直後の工人集落で出土した例である。御供田遺跡例は単体スタンプ文を有する蓋（第106図3）、上園遺跡例は単体スタンプ文を有する壺で、いずれも6世紀後半の所産である。牛頸開窯直後の新羅との交流を示す資料といえよう。

陶質土器模倣椀 杯B出現以前の高台付椀（第106図4・5）で、金属器模倣椀とされることが多い。最近では寺井誠氏により陶質土器の椀を模倣した土器の可能性が示され（寺井 2012）、筆者も寺井氏の見解に賛成である。本書で報告した東浦窯跡群や大谷窯跡群でも出土した。牛頸周辺以外では、比恵遺跡や観音山古墳群などに分布し、牛頸窯跡群から供給したと推測される。なお、本堂遺跡の椀に竹管状の施文をする事例（第106図5）があることは新羅土器との関わりにおいて示唆的である。

新羅土器を模倣した可能性がある須恵器 新羅土器を模倣したと考えられる須恵器のうち、もっとも可能性が高いのが野添遺跡の例（第106図8）である。鉢や椀の可能性があり、7世紀後半に位置付けられる。口縁部外面に竹管状の文様および楡歯状工具による縦方向の文様があり、新羅土器に見られるスタンプ円文や縦長連続文を想起させる。このほか、竹管状の文様を密に施す事例として、本堂遺跡出土の平底直口壺（第106図6）と平田窯跡出土の蓋がある。前者は平底、後者は新羅土器のおとし蓋のような形態に類似し、須恵器には一般的でない器形である。

頸基部突帯付壺 頸基部に突帯を有する須恵器については、新羅土器長頸壺との関わりで理解されている（亀田 2004・2005、下原 2013）。本堂遺跡では同形・同大で、製作技法や装飾が酷似した個体が2点ある（第106図7）。体部はタタキ成形、底部は抹角平底で、頸基部に突帯を有す。扁球形の体部最大径の位置に注口がある。7世紀前半頃の可能性が高い。機能的には甗に近いが、通常甗の時期が降るにつれて体部が縮小傾向にあるのに対し、本例は体部が大型である点で通常甗の型変化からは逸脱する。なお、牛頸窯跡群で生産された初期瓦の主要な供給地である那珂遺跡でも、頸基部に竹管状の文様を施した突帯を有する壺が2点ある（第106図9・10）。破片資料であるものの突帯の存在と文様の特徴から新羅土器との親縁性を強く示唆する。以上、間接的な要素であるが、これらについても新羅土器との関わりの中で生産されたものと理解したい。

有溝把手付土器 甗や鍋の把手に溝を有するものである。日本列島では希少で、朝鮮半島では普遍的に存在することや、日本列島の出土例の多くが他の要素から渡来人が居住したと考えられる遺跡に伴うことから、製作に渡来人が関与したと考えられる（亀田 2003）。本堂遺跡で2点（第106図12）、上園遺跡で1点、惣利西遺跡で1点（第106図11）あり、いずれも工人集落ないし須恵器窯

に由来するものである。本堂遺跡例・上園遺跡例は須恵質、惣利西遺跡例も焼成は軟質だが胎土は精良であることから焼成不良の須恵器と考える。これらは他の事例と同様に渡来人が関わった資料と理解される。なお、牛頸周辺では須恵質の甗や鍋が多いのも一つの特徴である。

裁頭形把手付土器 日本列島の甗や鍋の把手先端部は先細りや丸く収めるものが通有であるが、把手先端部を切り落とすことにより裁頭形にするものがあり、便宜的に「裁頭形把手付土器」と表現する。有溝把手付土器同様、日本列島では希少で、朝鮮半島では普遍的に存在する。吉武遺跡群など5世紀の渡来系集落とされる遺跡や初期須恵器窯に類例があるほか、近辺では薬師の森遺跡で瓦質焼成のものがある。有溝把手付土器と同様に渡来人との関わりが想定できる。大谷2号窯で2点の破片が出土した。須恵器というよりも瓦質を呈するものであり、薬師の森遺跡の例に近い。

多孔甗 本堂遺跡で丸底の底部に多数の小円孔を有する甗が1点ある(第106図13)ほか、8世紀代の事例で日ノ浦遺跡SK20出土例(第106図14)、御供田遺跡出土例がある。寺井氏によると小円孔を多数穿つものは慶尚北道に多いとされ(寺井2016)、本堂遺跡例は丸底という点からも新羅・加耶地域との関係が想定できる。日ノ浦遺跡・御供田遺跡例も朝鮮半島との関わりで理解される資料である(亀田2008)。なお、後述する春日市平田遺跡でも6～7世紀に位置づけられる多孔甗を複数確認した。

内面平行当具痕を有する土器 寺井氏により新羅・加耶に特徴的な技法であることが明らかとなっている(寺井2019)。牛頸窯では希少であることが指摘されるが、報告書の再読や未報告資料の検討により牛頸周辺では御供田遺跡(第106図16・17)・野添窯跡・梅頭遺跡(第106図15)・春日市平田遺跡で確認できた。前二者は須恵器蓋杯・高杯(ⅢB～ⅣA期)、梅頭遺跡例は土師器甕である。寺井氏が指摘するとおり大型の器種にはなく、数量的にも極めて稀な存在である。大野城市東部に位置する乙金地区遺跡群では内面平行当具痕を有する土器が非常に多く存在することと対照的で、新羅・加耶系渡来人の多寡や窯業生産への関与の度合いを示すものであろうか。

円筒状土製品 カマドの煙突と考えられ、百済系の資料と位置付けられる(権五榮・李亨源2006、亀田2008)。小田浦窯跡で複数出土したことから、牛頸窯跡群で生産されていたことは間違いない。惣利西遺跡(第106図18)・塚原遺跡などの集落に供給されていることから、実際に使用する目的で生産されたのであろう。

三足壺 三足器との関わりで百済土器的な要素とされる(嶋田1993)。生産地では小田浦窯跡群、消費地では日ノ浦遺跡・塚原遺跡・惣利西遺跡などに分布する。

初期瓦 7世紀中頃以前のいわゆる初期瓦は、神ノ前2号窯例を最古例に大浦窯跡・野添窯跡・日ノ浦窯跡・小田浦窯跡・浦ノ原窯跡・春日平田窯跡・本堂遺跡などの生産地や、浦ノ原遺跡・惣利西遺跡(第106図19)・御供田遺跡・梅頭遺跡・本堂遺跡・日ノ浦遺跡・塚原遺跡などの集落遺跡で見つかっている。本書で報告した大谷1・2号窯でも初期瓦を生産することが確認できた。牛頸周辺以外では、那津官家推定地である比恵・那珂遺跡群や那珂河流域の複数の遺跡のほか、御笠川流域の立花寺遺跡などでも確認される。牛頸出土の初期瓦について、亀田氏は朝鮮半島からの渡来人が生産に関わったと想定し、技術的な変遷から複数回にわたる渡来があったと指摘した(亀田

2008)。その系譜については、高句麗や高句麗・百濟・新羅の国境地帯付近と想定した。また、比嘉えりか氏は月ノ浦 I 号窯の軒丸瓦について、古新羅の高句麗系蓮華文に類例を求めたうえで、製作技法は古新羅の百濟系のものとし、伝播過程の複雑さと数度にわたる造瓦技術伝播の波があったことを指摘した（比嘉 2008）。これら初期瓦の主要な供給地が那津官家推定地である比恵・那珂遺跡群であることから、中央政権との関わりも注目される資料である。

無文磚 大谷窯跡で 1 点出土し、現状では 7 世紀代の所産と位置付けた。牛頸窯跡群では主要な生産物ではないが、可能性があるものとして小田浦 79 地点 2 号窯で 7 世紀前半に位置付けられる資料がある（第 106 図 20）。残存長 17.8 cm、幅 11.0 cm、厚さ 4.5 cm。粘土を幾重にも重ねながら成形し、表裏面・側面・小口面ともにタタキ後ナデを施す。複数の面にタタキを施す点については違和感があるが、厚みがあることや粘土を重ねながら成形する点は磚の製作技法に近く、長さ・幅ともに大谷窯跡出土例に近い。時期的には初期瓦の生産時期と重なり、瓦生産に関する情報や技術の導入とともに磚の生産を始めたと考えても不自然ではなかろう。7 世紀代の事例は類例が乏しいことから位置付けは不明確であるものの、大谷窯跡出土の磚も 7 世紀前半頃に位置付けられる可能性がある。官衙や寺院などでの使用が想定されることから、公的機関との関わりにも注意が必要である。

初期の陶硯 大谷窯跡から 3 点の獣脚硯が出土し、先述のとおり 7 世紀の所産であると位置付けた。このほか、御供田遺跡例や塚原遺跡例などは 7 世紀後葉から 8 世紀前葉の牛頸産と考えられる（白井 2004）。なお、本堂遺跡例は杯 H 身を基に硯面を貼り付けて硯として製作した可能性があり、注目される。初期の陶硯についても前代に類例がないものであり、その系譜は朝鮮半島に求められる可能性がある。ただし、主要な供給先が比恵・那珂遺跡群であることからしても、公的機関との関わりを視野に入れておく必要がある。

ヘラ書き須恵器「内椋人」 ハセムシ窯跡群 12 地点では、複数のヘラ書き須恵器が出土している。この中で、和銅六年の紀年銘がある須恵器に渡来系氏族である「内椋人」が記されている（第 106 図 21）。8 世紀代の資料であるが、牛頸窯跡群に渡来系氏族がいたことを示す。

溝付竪穴住居 重藤輝行氏により馬韓・百濟地域との関連が指摘される資料である（2020 重藤）。春日市平田遺跡は 6 世紀後半を中心とした集落で、30 ～ 40 基の竪穴住居が確認されている。未報告資料であるが、「春日市史」の中に遺構配置図が掲載されており、その中に竪穴住居の隅に溝が接続する溝付住居が複数ある（第 106 図 22）。

（2）まとめ

系譜 今回の整理を通じて、牛頸窯跡群では新羅土器や内面平行当具痕などの新羅・加耶的な要素と、円筒状土製品や溝付住居などの馬韓・百濟的な要素があることが改めて確認できた。前者では、新羅土器といった直接的な搬入品のほか、模倣品・影響品や内面平行当具痕のように渡来人との関わりを示すものがある。一方で、確実な百濟土器はなく、三足壺を除き百濟からの影響を示す土器は少ない。ところが、円筒状土製品や溝付竪穴住居といった土器以外の要素に百濟からの影響が明瞭に現れており、やはり渡来人の存在を示すものである。

渡来人がそれぞれの系譜ごとに排他的な関係ではなく、牛頸窯跡群の中で異なる系譜を持つ人々

が共存していたことを示す。同様の現象は、博多湾沿岸の複数の地域で認めることができ、6・7世紀に通用のあり方を示す（註1）。牛頸出土朝鮮半島系資料のうち、土器は新羅・加耶的、土器以外は馬韓・百濟的であること背景は不明であるが、複数の系統が混在する状況は初期瓦における系譜関係の複雑さと同様であり、興味深い。

変遷 新羅土器は開窯期以前から開窯期直後の6世紀後半まで継続的に搬入される。新羅土器の模倣品や影響を受けた土器は、新羅土器の搬入時期よりも遅れる6世紀末以降に増加する。7世紀後半には野添遺跡のように縦長連続文の影響を受けた土器があり、新羅土器の変遷と合致する。以上より、牛頸周辺では開窯期以前より断続的に新羅（・加耶）と直接あるいは間接の交流や影響関係が認められ、開窯期直後では渡来人の存在が確実視できる。

百濟系の資料である円筒状土製品の多くは、7世紀前半前後の所産である。7世紀中頃から後半では百濟系の要素は希薄となり、これは660年に百濟が滅亡することとも符合する。

背景 搬入品の新羅土器は直接的な交流を示すが、新羅土器以外はいずれも模倣品・影響品であり間接的な交流を示す。円筒状土製品や溝付堅穴住居は、百濟からの渡来人との関わりで理解できる。有溝把手付土器・裁頭把手付土器の存在や内面平行当具の使用は、模倣といったレベルではなく製作者の癖や習慣によるところが大きく、朝鮮半島からの渡来人により生産された可能性が高い。

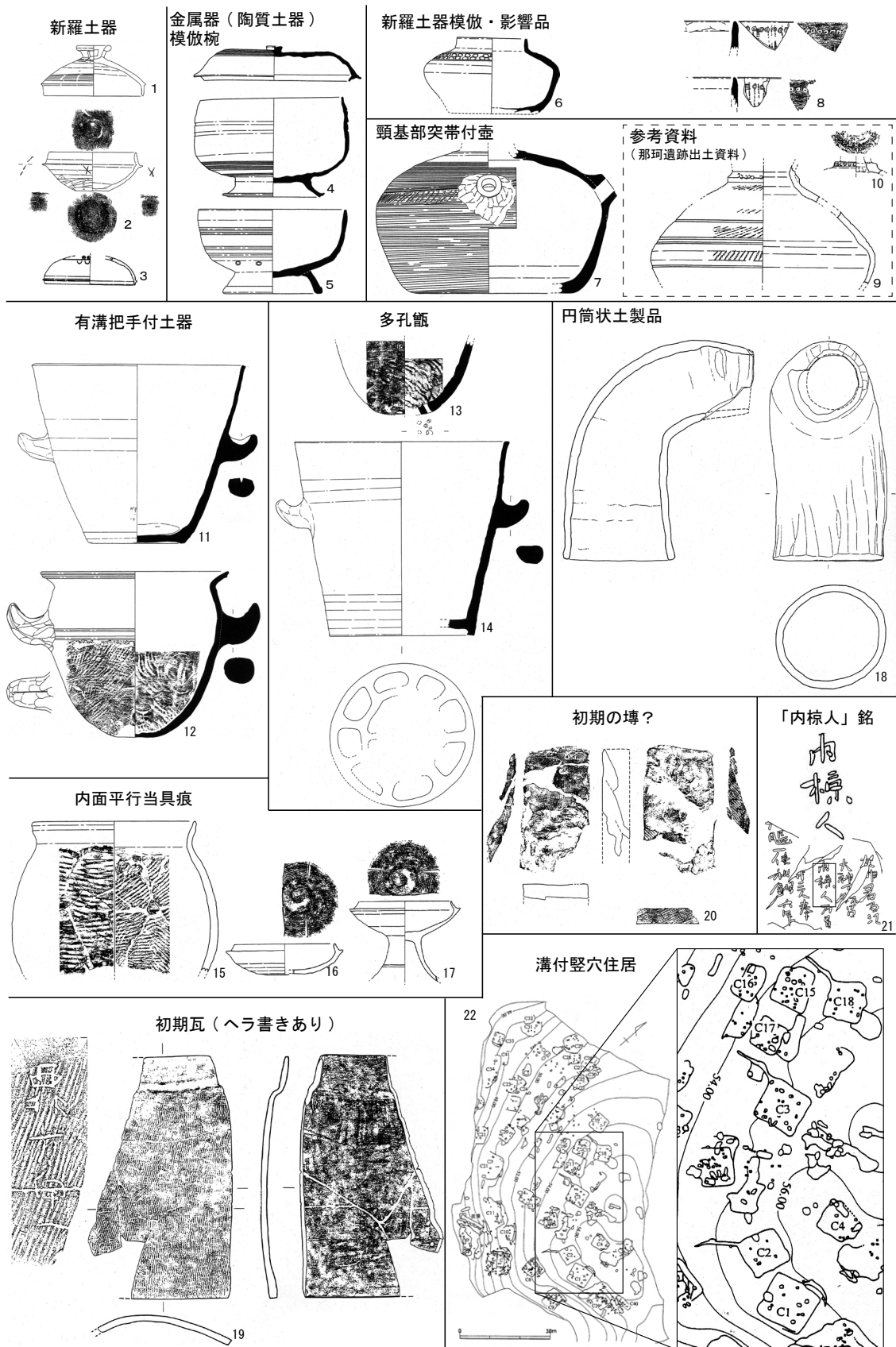
ところで、大野城市東部の乙金地区遺跡群では、6世紀中頃から渡来人の存在が明瞭になるが、6世紀後半までは直接的な搬入品はなく、6世紀末以降に非常に多くの新羅土器が搬入される。牛頸周辺では6世紀後半まで直接的な搬入品が認められ、6世紀末以降は継続しないことと対照的である。したがって、牛頸窯跡群では開窯期直後までは朝鮮半島と直接的な交流があったが、6世紀末以降は渡来人の存在が明確ながらも直接的な往来の痕跡が乏しいこととなる。

初期瓦のみならず、生産地である牛頸窯跡群でも希少な存在である高台付椀や頸基部突帯付壺が、那津官家想定地の比恵・那珂遺跡群で出土することを考慮すると、これらの器物は公的機関との関わりの中で生産された可能性も想定できる。なお、初期瓦の系譜は複雑な様相を呈するものの、岡田裕之氏は牛頸窯跡群における瓦陶兼業窯の多くが多孔式煙道窯を採用し、初期瓦の出現時期とも合致することから両者の系譜に何らかの関係を持つと推測する（岡田2008）。初期瓦生産の開始や多孔式煙道窯が出現する6世紀末頃は、牛頸窯跡群の生産拡大期にあたり集落の拡大・人口増加の時期でもあることから、当該期が牛頸窯跡群の大きな画期になることは間違いない。この時期に百濟系の様相が明確になることや、牛頸産の初期瓦が那津官家推定地である比恵・那珂遺跡群に供給されることから、その背景にはより大きな力が働いていたと考えることは想像に難くない。

陶棺の生産・梅頭1次1号窯転用墓における象嵌大刀の副葬、さらには7世紀前半における「大神部見乃官」へラ書き須恵器などに見る牛頸窯跡群と畿内との関係性を考慮すると、6世紀末以降の牛頸窯跡群の渡来人たちは、畿内を経由してきた人々であった可能性も充分想定できるであろう（註2）。今後、周辺の資料も含めて吟味を重ね、実態を明らかにしていきたい。

【註】

(1) 例えば、福岡平野東部の乙金地区遺跡群、福岡平野西部の吉武遺跡群、糸島半島の元岡遺跡群などでは新羅・加耶系



第 106 図 牛頭窟跡群の朝鮮半島系資料

(11 ~ 14・21 は 1/8、19 は 1/12、20 は 1/10、22 は縮尺任意、他は 1/6)

(1・2 は白井 1999 より転載、他は各報告書より引用)

資料と馬韓・百濟系資料が混在しており、同一の集落内・小地域内に多様な系譜の渡来人が存在した可能性がある。

(2) この点について、亀田氏は「朝鮮半島から直接、または近畿地方などに一度立ち寄ってきたものと推測される。この近畿地方経由の考えは考古学的に証明できるかどうかかわからないが、朝鮮半島からの新しい渡来人たちが日本列島の各地に移動・定着するときに、この7世紀前半頃にまったく近畿地方の大和政権中枢部との関わりなしで可能であったかは疑問である」と指摘している(亀田2008)。筆者は6世紀末以降において渡来人の存在が明確であるにも関わらず搬入品が乏しいことが、手がかりの一つになるのではと考えている。

【参考文献】

- 石木秀啓 2010 「各地域の窯の様相 九州」『古代窯業の基礎研究-須恵器窯の技術と系譜-』
- 岡田裕之 2008 「北部九州における初期瓦生産と須恵器生産」『九州と東アジアの考古学-九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集- (上巻)』
- 亀田修一 2003 「渡来人の考古学」『七隈史学』第4号
- 亀田修一 2004 「豊前西部の渡来人」『福岡大学考古学論集-小田富士雄先生退職記念-』
- 亀田修一 2005 「地域における渡来人の認定方法-豊前上毛郡地域を例として-」『九州における渡来人の受容と展開』九前研発表要旨・資料集
- 亀田修一 2008 「牛頸窯跡群と渡来人」『九州と東アジアの考古学-九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集- (上巻)』
- 権五榮・李亨源 2006 「壁柱(大壁)建物研究のために」『日韓集落研究の現況と課題(Ⅱ)』日韓集落研究会
- 茂和敏・佐藤昭則 1980 「福岡県牛頸表採陶質土器の紹介」『地域相研究』第9号
- 重藤輝行 2020 「古墳時代九州北部の排水溝付堅穴住居と渡来人」『福岡大学考古学論集3-武末純一先生退職記念-』
- 嶋田光一 1993 「須恵器有蓋三足壺考」『古文化談叢』第30集(中)
- 寺井誠 2012 「6・7世紀の北部九州出土朝鮮半島系土器と対外交渉」『沖ノ島祭祀と九州諸勢力の対外交渉』九前研発表要旨・資料集
- 寺井誠 2016 『日本列島における出現期の甎の故地に関する基礎的研究』
- 寺井誠 2019 『渡来文化の故地についての基礎的研究-新羅・加耶的要素を中心として-』
- 下原幸裕 2013 「頸基部に突帯を有する須恵器壺・瓶」『福岡大学考古学論集-考古学研究室開設 25 周年記念-』
- 白井克也 1999 「大野城市出土新羅土器の再検討-須恵器との並行関係ならびに流入の背景-」『福岡考古』第18号
- 白井克也 2004 「筑紫出土の獣脚硯」『九州考古学』第79集
- 比嘉えりか 2008 「初期瓦研究の現状と課題-筑前地域を中心に-」『七隈史学』第9号

【報告書】

〈大野城市〉1981『牛頸平田窯跡-E地点-』大野城市文化財調査報告書第7集、1989『牛頸ハセムシ窯跡群Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第30集、1991『牛頸後田窯跡群』大野城市文化財調査報告書第33集、1993『牛頸月ノ浦窯跡群-付、小田浦28地点-』大野城市文化財調査報告書第39集、1994『牛頸日ノ浦遺跡群』大野城市文化財調査報告書第42集、1995『牛頸塚原遺跡群』大野城市文化財調査報告書第44集、2007『牛頸小田浦窯跡群Ⅱ-79地点の調査-』大野城市文化財調査報告書第73集、2008『牛頸窯跡群-総括報告書-』大野城市文化財調査報告書第77集、2008『牛頸本堂遺跡群Ⅶ』大野城市文化財調査報告書第81集、2008『牛頸梅頭遺跡群Ⅱ～第2次調査～』大野城市文化財調査報告書第84集、2014『上園遺跡3-第5・6・7次調査-』大野城市文化財調査報告書第121集、2014『野添遺跡5-第9次調査-』大野城市文化財調査報告書第140集 / 〈九州大学〉1994『九州大学埋蔵文化財調査報告-九州大学筑紫地区遺跡群(第3冊)』 / 〈春日市〉1985『春日地区遺跡群Ⅲ』春日市文化財調査報告書第15集、1995『春日市史(上巻)自然 原始・古代 中世・近世』 / 〈福岡市〉2010『那珂56-那珂遺跡群114次調査の報告-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1082集、2017『那珂76-那珂遺跡群156次調査の報告-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1312集

4. ヘラ記号について

園井正隆

はじめに 須恵器に記されたヘラ記号については、従前の発掘調査の成果や研究報告書などで、多くの考察が加えられ、さらに現在も研究が続けられている（註1）。ここでは、本書で報告した乙金窯跡2基、東浦窯跡群3基、大谷窯跡群4基、合計9基の窯跡から出土した須恵器の蓋杯を対象に、ヘラ記号の種類や画数についてまとめてみたい。

比率 本書に掲載した972点中、蓋杯の総数は530点を数え、全体の54.5%を占める。その中の334点にヘラ記号が記されている。表1に示したように、乙金1号窯跡から出土した13点の蓋杯にヘラ記号は認められなかった。乙金2号窯跡では23点の蓋杯のうち、4点にヘラ記号が記されており、17.4%の割合となる。東浦窯跡群1号窯跡では37.5%、2号窯跡では抽出した14点のうち全てにヘラ記号を認めた。3号窯跡では12点の蓋杯のうち、7点にヘラ記号があり、58.3%と高い数値を示している。また、大谷窯跡群では、1・2・4号窯跡で60%を超える割合のヘラ記号を認めた。しかし、3号窯跡は30%台にとどまっている。

表1 ヘラ記号を有する須恵器蓋杯の出土数一覧表

窯名	乙金窯跡			東浦窯跡群				大谷窯跡群					合計		
	1号	2号	不明	1号	2号	3号	不明	1号	2号	3号	4号	トレンチ		不明	
蓋杯数	13	23	1	48	14	12	16	60	171	43	36	32	96	565	
ヘラ記号	杯蓋	0	1	0	12	9	5	1	27	65	5	7	13	23	168
	杯身	0	3	1	6	5	2	2	16	69	8	15	9	30	166
	計	0	4	1	18	14	7	3	43	134	13	22	22	53	334
合計	5			42				287					334		
割合(%)	0	17.4	100	37.5	100	58.3	18.8	71.7	78.4	30.2	61.1	68.8	55.2	59.1	

※上記の点数は、出土遺物中より実測対象とした蓋杯の蓋と身を抽出した点数である。

※不明とは、窯跡群内における出土地点が不明の遺物を指す。

分類 ヘラ記号の観察は、ヘラ記号の形状、画数や線種などに主眼を置いた。表2では、記されたヘラ記号を小分類として挙げている。また、デザインの原形となる形状を大分類とした。中分類はヘラ記号のデザインの組み合わせを図示した。

各窯の傾向 各々の窯跡出土の蓋杯に記されたヘラ記号の出土点数や記号の内容を述べたい。

【乙金窯跡1号窯跡】 掲載遺物の点数は33点であったが、蓋杯が13点あるにもかかわらず、ヘラ記号を有する蓋杯は認められない。蓋杯の形状や調整方法からⅢA～ⅢB期に位置づけられ、器種構成としては、蓋杯、高杯、壺、壺、提瓶、甕である。

【乙金窯跡2号窯跡】 掲載遺物は45点で蓋杯は23点ある。ヘラ記号を有する蓋杯は4点あり、ヘラ記号の種類は、「一・三・×」の3種類である。「一」は2点あり、蓋と身に施されていた。

【東浦窯跡群1号窯跡】 掲載遺物72点中、蓋杯は48点で、18点にヘラ記号が認められた。細片など10点については、ヘラ記号の形状の判別はできなかった。残る8点は6種類のヘラ記号が認められ、

表2 乙金窯跡、東浦窯跡群、大谷窯跡群におけるヘラ記号一覧表

大分類	中分類	小分類	個数	乙金窯跡			東浦窯跡群				大谷窯跡群					画数						
				1号窯	2号窯	不明	1号窯	2号窯	3号窯	不明	1号窯	2号窯	3号窯	4号窯	トレンチ		不明					
				蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身	蓋-身		蓋-身	蓋-身				
—	—	—	19		2		3					2	7		3	1	1	1				
					1-1		3-0				1-1	1-6		1-2	0-1	0-1						
	Z	Z	4									3	1				1	1				
											3-0	1-0				0-1						
	=	=	16				1	3					2	4	2		2	2	2			
							0-1	2-1			1-1	1-3	1-1		1-1	1-1						
	T	T	8											4		1	2	2				
													2-2	0-1	1-1							
≡	≡	10		1		1						1	4		2		1	3				
				1-0		1-0				0-1	3-1		0-2		0-1							
≡	≡	18										2	13	1	1		1	3				
										1-1	7-6	1-0	1-0		1-0							
≡	≡	2										2						4				
													1-1									
≡	≡	4				1		1				2						4				
						1-0		0-1			0-2											
)))	17									4	6	1	2	1	3	1				
															2-2	4-2	0-1		2-0	0-1	1-2	
															2							2
															1-1							
))	7										3	2			1	1	2				
														2-1	1-1		1-0		0-1			
))	6											3		1	2		3				
														3-0		0-1	1-1					
)))	9					1				2	3		2	1	1	1				
															1-1	1-2			0-2	1-0	1-0	
																6						1
																3-3						
))	4										2	2					2				
														1-1	2-0							
))	3											3					3				
														3-0								
^	^	^	9							2	1	1	2	1		1	1	2				
^	^	11					2					1	2	1	3		2	3				
														1-0	0-2	0-1	1-2			1-1		
^	^	10					8					1			1			4				
														1-0			0-1					
X	X	X	28		1		1		1			5	12			2	6	2				
					1-0		0-1		0-1		3-2	5-7				2-0	5-1					
X	X	17				1						2	10			3	1	3				
														1-1	7-3		2-1		0-1			
X	X	4										2		1		1		4				
														2-0		1-0			1-0			
出土地点不明			0	0	1	10	0	3	2	10	48	2	7	6	30							
その他			0-0	0-0	0-1	6-4	0-0	3-0	0-2	7-3	19-29	0-2	2-5	3-3	12-18							
ヘラ記号総数			334	0	4	1	18	14	7	3	43	134	13	22	22	53						

「一」が3点で全て蓋であった。

【東浦窯跡群2号窯跡】 掲載遺物28点中、蓋杯は14点で、ヘラ記号は14点確認した。4種類のヘラ記号の内3種類が複数の遺物で確認された。「二」が3点、「△」が8点、「△」が2点を数える。特に「△」と「△」は、乙金窯跡や東浦1号窯跡では見られなかったデザインである。「△」は蓋4点、身4点で、「△」は2点とも蓋であった。

【東浦窯跡群3号窯跡】 掲載遺物23点中、蓋杯は12点で、ヘラ記号を有する蓋杯を7点確認した。3種類のヘラ記号で、「△」が蓋2点、「≡」が身1点、「×」が身1点であった。東浦3号窯跡(IV A古)で出土した「△」は、東浦2号窯跡(IV A新)で出土した「△」と「△」の原型とも思われ、ヘラ記号の使用の様相を考えるうえで興味深い。

【大谷窯跡群1号窯跡】 掲載遺物129点中、蓋杯は60点で、43点のヘラ記号を持つ蓋杯を確認した。ヘラ記号の種類は15種類を数える。「×」を記されたものは5点あり、内訳は蓋が3点、身が2点である。また、弧状「一」のヘラ記号の蓋・身が2点ずつ出土している。

【大谷窯跡群2号窯跡】 掲載遺物286点中、蓋杯は171点。ヘラ記号を有する蓋杯は総数134点で、その内訳は蓋が65点、身が69点である。複数の蓋杯が同一ヘラ記号を有する。その内訳は、「一」7点、「一」6点、「≡」13点、「二」4点、「≡」4点、「×」12点、「×」10点、「m」6点が主なヘラ記号である。記号の種類は、判別不能のヘラ記号を含めると約30種を数える。今回報告した窯跡の中では最も多いバリエーションである。

【大谷窯跡群3号窯跡】 掲載遺物55点中、蓋杯は43点で、その内13点にヘラ記号を有する蓋杯を認めた。ヘラ記号の形状が明瞭なものは8点で、蓋4点、身4点であり、7種類の形状を認めた。複数の蓋杯に記されたヘラ記号は「T」が4点、「二」が2点であった。

【大谷窯跡群4号窯跡】 掲載遺物63点中、蓋杯は36点で、ヘラ記号を持つ蓋杯は22点であり、8種類の形状の内、「一」「一」「≡」「△」「○」の5種類の形状を複数個体で確認した。

使用時期 表3は、各窯跡の操業時期とヘラ記号の使用された時期を示した表である。

窯跡の操業時期を当てはめると、乙金窯跡がⅢA～ⅢB期に操業し、東浦窯跡群がIV A期、大谷窯跡群1・2号窯跡がIV B期、大谷窯跡群3号窯跡がV～VI期、大谷窯跡群4号窯跡がVI期にかけて操業されたと考えられる。このことから、ヘラ記号はⅢA～ⅢB期に少なく、IV A期に増加し、IV B期には種類のバリエーションが拡大し、V期～VI期には減少する。牛頸窯跡群では、IV期に生産が拡大することが明らかになっているが、ヘラ記号のバリエーションからすると生産のみならず、流通も拡大・複雑化する様相が読み取れる。

なお、ⅢA期から使用された「一」「≡」「×」は、VI期まで継続して使用されたデザインである。次に、IV A期には「二」「≡」「○」「△」「△」「△」「×」が出現し、バリエーションの増加がみられる。その内「≡」「×」はIV B期で途切れるが、他はVI期までの継続使用が認められる。IV B期ではヘラ記号のデザインはさらに増加し、「Z」「≡」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」などが出現するが、「≡」「一」「一」「一」はVI期まで継続する。他はIV B期みの使用である。

表3 乙金窯跡、東浦窯跡群、大谷窯跡群のヘラ記号使用時期一覧表

窯跡		時期					
		ⅢA期	ⅢB期	ⅣA期	ⅣB期	V期	Ⅵ期
乙金窯跡	1号窯跡	■	■				
	2号窯跡	■	■				
東浦窯跡群	1号窯跡			■			
	2号窯跡			■			
	3号窯跡			■			
大谷窯跡群	1号窯跡				■		
	2号窯跡				■		
	3号窯跡					■	■
	4号窯跡						■
二			■		■		
N					■		
三				■	■	■	■
T						■	■
三		■	■	■	■	■	■
H					■	■	■
三					■		
H				■	■	■	■
()					■	■	■
O					■		
ノ					■		
O					■	■	■
C				■	■	■	■
3					■		
E					■		
A				■	■	■	■
A				■	■	■	■
X		■	■	■	■	■	■
X				■	■		
X					■	■	■

なお、ⅢA～ⅢB期におけるヘラ記号の少なさは、表4に示されるように、他の窯にも同様の傾向が認められ、ヘラ記号が需要され始めた当時の様相が想起される。

表4 Ⅲ期操業窯のヘラ記号を有する蓋杯の出土数一覧表

窯名	乙金窯跡(註2)	本堂遺跡14次(註3)	野添窯跡(註4)
	1号(H24年調査)	灰原	6号
出土蓋杯数	53	148	53
ヘラ記号	杯蓋	4	3 (身・蓋)
	杯身	3	
	計	7	3
割合(%)	3.7	5.4	5.7

デザインの変遷 ヘラ記号が使用された時期を、窯の操業時期に照らし合わせた表3では、「一」

「≡」「×」は乙金・東浦・大谷窯跡で認められ、基本ともいえるデザインである。この基本デザ

インに線を付加することで、デザ

インの種類を拡大させ、供給先への対

応を図ったものと思われる。表5で

図示したものはデザインの変遷であ

る。Ⅲ期に出現した基本形に、縦も

しくは横に1本の直線を加えたもの

がⅣA期に出現するヘラ記号である。

この時期に1画の「○」と、「×」

から発展したと思われる「∧」が出

現し、1画ずつ付加されて新たな記

号を創り出している。ⅣB期には弧

状のデザインや1画で描くことがで

きる「Z」や「m」などが創出される。

デザインの変遷はこのように1画を

どこに付加するか、または、複雑な

デザインを創り出すことでバリエーションの増加につながっている。

デザインの変遷はこのような1画をどこに付加するか、または、複雑なデザインを創り出すことでバリエーションの増加につながっている。

意義づけ ヘラ記号の意義については、生産地と供給先に関する議論がこれまで行われ、供給先を

示す記号との見方が主流を占めている。ヘラ記号をデザインとして画数に注目してみた。

当時、ヘラ記号を記す作業は工房において、土器の成形後に素早く行っていたと推察できる。ま

た、複数供給地に送るためには複数のヘラ記号が必要となろう。このような状況の下で、土器に記

す場合、必然的に効率的なデザイン、つまり、少ない画数の記号が想定されるため、窯跡より出土

したヘラ記号の画数について触れてみたい。

現に描かれているヘラ記号の画数は「一」「一」「Z」などの1画もあれば、「×」「≡」のよ

うな4画もある。さらに、それ以上の画数のデザインも見られるのである。

表5 ヘラ記号のデザイン変遷表

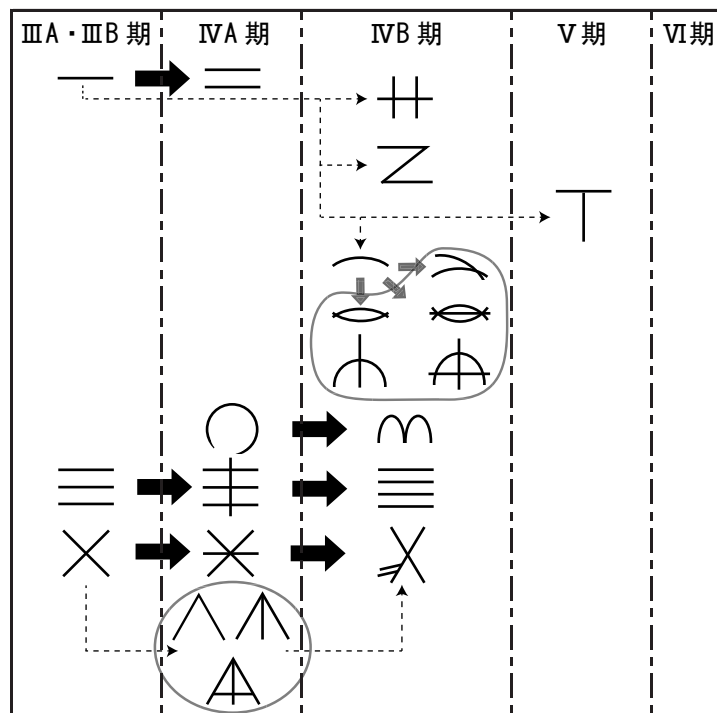


表6 ヘラ記号の画数における使用比率一覧表

ヘラ記号の画数	乙金・東浦・大谷窯跡で使用されたヘラ記号	個体数	総数の比率
1画	— ㇀ 〇 ㇁ ㇂	55	16.5%
2画	＝ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈	74	22.1%
3画	≡ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌ ㇍ ㇎	65	19.5%
4画	≡ ㇏ ㇐ ㇑	20	6.0%
不明その他		120	35.9%
合計		334	100%

そこで、出土した個体数から画数の比率を表6に示してみた。ここに挙げたヘラ記号は判読可能なものを抽出したものである。破片や判読困難な資料は不明資料とした。ヘラ記号のデザインの1画から3画までが58.1%であった。その中でも、2画のデザインが22.1%と最も高い値を示し、次いで、3画が19.5%、1画が16.5%と、20%前後の数値であるのに対して、4画のデザインでは6.0%と低い値であった。つまり、3画までのデザインをベースとして様々なデザインを加えていったと考えられよう。

工人が工房において土器の成形を行った後、ヘラ記号を記す際に時間をかけずに描くには、1画～3画のデザインが主流であった可能性が高い。デザインの変遷で示したように、従来から使用されたデザインに直線や弧、または円などを付加した新種のデザインであっても少画数の形状を創出している。

このようなヘラ記号のデザインの使用期間や増減に関しては、歴史的な背景や消費地の動向もふまえ、更なる検討が必要である。

【註】

- (1) 『牛頸窯跡群—総括報告書I—』 大野城市文化財調査報告書 第77集 2008 大野城市教育委員会
- (2) 「乙金窯跡」は本書に掲載した乙金1号と同一の窯跡で、平成24年の調査で出土した資料を参考資料として取り上げた。
『乙金地区遺跡群22～善一田遺跡第1次調査～』 大野城市文化財調査報告書 第158集 大野城市教育委員会
- (3) 「本堂14次遺跡」は灰原のみ確認された。
『牛頸本堂窯跡IX』 大野城市文化財調査報告書 第83集 2008 大野城市教育委員会
- (4) 「野添窯跡」は1969年に調査が行われ、ⅢA期の窯跡に位置付けられている。
『野添窯跡』 大野城市文化財調査報告書 第22集 1987 大野城市教育委員会

表7 乙金窯跡出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
乙金窯跡 1号窯跡							
1	須恵器	杯蓋	1号焼成部下層	①(13.8) ②3.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N4/	外面ワラ状痕跡、歪み
2	須恵器	杯蓋	1号焼成部下層	①(13.8) ②4.3 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、一部ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰N6/〜黒N2/ 内、灰白N7/	外面降灰、内面ワラ状痕跡
3	須恵器	杯蓋	1号窯体下層	①(16.0) ②3.9 ⑤1/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm角閃石微量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	
4	須恵器	杯身	1号下層	①(13.2) ②4.1 ⑤1/2 受部径(15.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	
5	須恵器	高杯 (杯部)	1号窯体上層	①(14.4) ②(4.2) ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケ ズリ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1〜2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰7.5Y5/1	歪み
6	須恵器	高杯 (杯部)	1号窯体下層	①(15.2) ②(4.7) ⑤1/3 受部径(16.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、工具痕 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	歪み
7	須恵器	高杯 (脚部)	1号焼成部下層	②(12.3) ⑤1/3	外面:杯部回転ナデ、脚部回転ナデ後カキメ 内面:杯部回転ナデ後ナデ、脚部回転ナデ後ナ デ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N4/	外面降灰、3方向に2段 透孔、内面ワラ状痕跡
8	須恵器	高杯 (脚部)	1号窯体下層	②(6.1) ③(7.6) ⑤1/5	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰7.5Y5/1	内面シボリ痕、3方向 に方形透孔
9	須恵器	甕 (頸部)	1号焚口部下層	②(5.6) ⑤頸部破片 頸部径(4.2)	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:良好 C:外、青灰5B5/1 内、灰N5/	波状文
10	須恵器	杯蓋	1号灰原	②(3.7) ⑤1/4	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ、一部ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰N5/ 内、灰7.5Y5/1	
11	須恵器	杯蓋	1号灰原	①(13.2) ②3.8 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰白7.5Y7/1	内面降灰
12	須恵器	杯蓋	1号灰原	①(14.0) ②(3.7) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリープ灰2.5GY6/1 内、オリープ灰 2.5GY6/1	
13	須恵器	杯蓋	1号灰原下層	①(14.4) ②3.7 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、オリープ灰10Y6/2	
14	須恵器	杯身	1号灰原	①(11.6) ②(4.3) ⑤1/4 受部径(14.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm石英微量1〜1.5mm白色粒子長石多 量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰白5Y7/1	
15	須恵器	杯身	1号灰原	①(13.8) ②(3.8) ⑤1/6 受部径(15.8)	外面:回転ナデ後ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm黒色粒子少量白色粒子多量 B: 良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰白5Y7/1	
16	須恵器	高杯 (脚部)	1号灰原上層	②(10.0) ⑤脚部破片	外面:杯部回転ナデ、脚部回転ナデ 内面:脚部ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰10Y5/1	3方向に2段の透孔、内 面シボリ痕
17	須恵器	甕 (口縁)	1号埋土中	①(14.6) ②(4.1) ⑤口縁部1/3 頸部径(11.7)	外面:口縁部回転ナデ、頸部平行タキ後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	
18	須恵器	甕 (口縁)	1号灰原	②(6.0) ⑤1/10	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰5Y5/1	
19	須恵器	皿状製品	1号灰原	②1.6 ⑤1/8	外面:ナデ、工具痕、指オサエ 内面:ナデ、当具痕、工具痕、指オサエ	A:精良 1〜2mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰5Y5/1	手摺ね
20	須恵器	杯蓋	1号	①(13.1) ②3.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ、手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y6/1	
21	須恵器	杯蓋	1号	①(14.4) ②4.5 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	
22	須恵器	杯身	1号	①(13.3) ②3.4 ⑤1/3 受部径(15.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 微細粒子含む B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	外面降灰、浴着物
23	須恵器	高杯 (脚部)	1号	②(4.8) ⑤1/8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	外面降灰、透孔
24	須恵器	高杯 (脚部)	1号	②4.9 ③(11.6) ⑤1/6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	外面降灰
25	須恵器	高杯 (脚部)	1号表採	②(10.9) ⑤ほぼ完形 脚部径(6.9)	外面:ナデ 工具痕 内面:ナデ	A:精良 長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	内面シボリ痕、3方向 の未貫通透孔
26	須恵器	提瓶 (体部)	1号	②(13.0) ⑤1/10	外面:回転ナデ後一部カキメ、体部平行タキ 内面:体部同心円当具後回転ナデ	A:精良 1〜3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、青灰10B65/1 内、青灰10B65/1	肩部に環状把手
27	須恵器	甕 (口頸)	1号	①(13.8) ②(5.3) ⑤1/3	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具痕	A:精良 1mm長石多量 B:良好 C:外、灰 7.5Y6/1〜オリープ黒7.5Y3/1 内、灰7.5Y6/1 〜黒N2/	内面降灰
28	須恵器	甕 (口頸)	1号	②(9.1) ⑤口縁〜肩部破片	外面:口縁部回転ナデ、体部平行タキ後カキ メ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具後回 転ナデ	A:精良 1mm石英長石微量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	
29	須恵器	甕 (口頸)	1号	①(16.3) ②(5.4) ⑤1/8	外面:口縁部回転ナデ、頸部タキ後ナデ、体 部平行タキ後カキメ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、暗緑灰5G3/1 内、青灰5B5/1	
30	須恵器	甕 (口頸)	1号	①(21.9) ②(7.6) ⑤1/8	外面:口縁部回転ナデ、体部平行タキ後ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰オリープ7.5Y6/2	
31	須恵器	甕	1号	②(9.7) ⑤1/4 頸部径(16.6)	外面:頸部カキメ、体部平行タキ後カキメ、 一部ナデ 内面:頸部回転ナデ、体部当具後回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、オリープ灰2.5GY6/1 内、灰N5/	
32	須恵器	甕	1号	②(10.9) ⑤1/5	外面:口縁部降灰の為調整不明瞭、体部平行タ キ後カキメ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具後回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰N4/	外面シボリ痕
33	須恵器	甕 (口頸)	1号	②(6.6) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰N4/	
乙金窯跡 2号窯跡							
34	須恵器	杯蓋	2号焼成部下層	①13.0 ②4.5 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	歪み、外面降灰
35	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①(13.2) ②3.6 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、同心円当具痕	A:精良 微細長石少量1〜3mm石英多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	ヘラ記号
36	須恵器	杯蓋	2号焼成部下層	①(13.2) ②4.2 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石微量 B:良好 C:外、暗緑N3/〜灰N6/ 内、灰N5/	ヘラ記号

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
37	須恵器	杯蓋	2号焼成部下方	①(13.6) ②3.9 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	外面降灰、別個体溶着
38	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①14.2 ②3.8 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N4/	歪み
39	須恵器	杯身	2号焼成部下方	①11.4 ②4.1 ⑤3/5 受部径13.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰白N7/	ヘラ記号、外面降灰、蓋と重焼き、溶着物多数
40	須恵器	壺	2号焼成部下方	①(7.4) ②(5.8) ⑤1/5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm石英長石白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	内外面降灰、自然釉、溶着物
41	須恵器	甕(口縁)	2号焼成部下方	②(5.6) ⑤口縁部破片	外面:ナデ、カキメ後波状文 内面:ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰10V6/1	内面降灰、波状文
42	須恵器	杯蓋	2号焼成部1層	①10.3 ②3.1 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具後ナデ	A:精良 3mm石英多量 B:やや不良 C:外、灰N5/ 内、灰5V6/1	
43	須恵器	杯身	2号焼成部2層	①11.9 ②3.9 ⑤ほぼ完形 受部径14.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 3mm石英多量 B:やや不良 C:外、灰7.5V6/1~4/1 内、灰7.5V6/1	ヘラ記号、別個体溶着、重焼痕
44	須恵器	甕(口縁)	2号焼成部2層	②(4.3) ⑤口縁部破片	外面:ナデ 内面:ナデ	A:精良 2mm石英少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、褐灰7.5V4/1	外面降灰、波状文、外面磨滅
45	須恵器	杯蓋	2号燃焼部	①13.0 ②3.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、頂部自然釉付着の為調整不明瞭 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1~3mm石英角閃石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N4/	別個体溶着、外面自然釉
46	須恵器	杯蓋	2号燃焼部	①13.3 ②3.6 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量2~3mm石英多量 B:良好 C:外、青黒10B62/1 内、青灰10B65/1	外面降灰、別個体溶着
47	須恵器	杯蓋	2号燃焼部	①(13.8) ②3.4 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、一部ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N4/	
48	須恵器	杯蓋	2号2次床面下	①(14.4) ②4.1 ⑤2/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1.5mm石英少量 B:良好 C:外、黄灰2.5V5/1 内、黄灰2.5V5/1	
49	須恵器	杯蓋	2号2次床面下	①(16.4) ②4.4 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰黄褐10V8/2 内、灰黄褐10V8/2	
50	須恵器	杯身	2号燃焼部	①(11.0) ②4.0 ⑤1/3 受部径(14.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子 B:良好 C:外、灰7.5V5/ 内、灰N5/	外周降灰、蓋と重焼き、歪み
51	須恵器	杯身	2号燃焼部	①(12.0) ②4.0 ⑤1/3 受部径(14.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1~2mm乳白色粒子赤褐色粒子 B:やや不良 C:外、黄灰2.5V4/1 内、灰白2.5V7/1	別個体溶着、外面降灰、蓋と重焼き
52	須恵器	両耳壺	2号窯尻部	①(17.4) ②(8.6) ⑤口縁~肩部破片、把手片	外面:口縁部回転ナデ後一部カキメ、平行タタキ後カキメ一部ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具後ナデ	A:精良 1~2mm長石少量 B:良好 C:外、オリブ灰2.5V6/1~暗灰N3/ 内、暗灰N3/	環状把手、重焼痕
53	須恵器	提瓶(肩部)	2号窯尻部	②(3.8) ⑤頸部破片 頸部径(6.8)	外面:頸部回転ナデ後カキメ、体部回転ナデ後一部カキメ、把手回転ナデ、指オサエ 内面:頸部回転ナデ、体部同心円当具後回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、にぶい黄橙10V8/3~暗オリブ5V4/4 内、灰7.5V6/1~4/1	内外面自然釉、外面溶着物
54	須恵器	甕(口頸)	2号窯尻部	①(26.0) ②(9.8) ⑤1/5	外面:口縁部回転ナデ、体部平行タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子多量 B:良好 C: 外、黄灰2.5V5/1 内、暗褐10V8/3~10V4/1	降灰、内面クラ状痕跡、内外面自然釉
55	須恵器	大甕(頸部)	2号窯尻部	②(9.8) ⑤頸部破片	外面:頸部回転ナデ、体部擬格子タタキ 内面:頸部回転ナデ、工具ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1~5mm石英多量 B:良好 C:外、黒7.5V2/1、灰黄2.5V6/2 内、黒7.5V2/1	外面降灰、自然釉、波状文、歪み
56	須恵器	杯身	2号灰原	①(11.9) ②(4.8) ⑤1/3 受部径(14.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N5/~灰黄褐10V8/2 内、灰N5/	外面降灰
57	須恵器	杯身	2号灰原	①(12.6) ②(3.7) ⑤1/3 受部径(15.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	歪み
58	須恵器	甕(口縁)	2号灰原	②(3.6) ⑤1/6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英多量 B:やや不良 C:外、黒N2/ 内、灰7.5V4/1	外面降灰、波状文
59	須恵器	甕(口頸)	2号灰原	①(20.4) ②(7.5) ⑤破片	外面:口縁部回転ナデ、体部平行タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部当具痕	A:精良 1~4mm白色粒子多量 B:良好 C: 外、黒褐2.5V3/1~暗灰黄2.5V4/2 内、黒褐2.5V3/1~灰N5/	外面降灰、自然釉
60	須恵器	杯蓋	2号	①(13.2) ②3.5 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、当具痕	A:精良 1mm長石少量1~3mm石英多量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、灰N5/	外面降灰、外面自然釉
61	須恵器	杯蓋	2号	①(13.2) ②3.5 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、頂部自然釉付着の為調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm角閃石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	外面降灰、外面自然釉
62	須恵器	杯蓋	2号	①(13.6) ②3.5 ⑤1/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英角閃石少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、黒N2/	外面ヘラケズリが磨き状の調整
63	須恵器	杯身	2号	①(11.9) ②4.2 ⑤1/6 受部径(13.7)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、当具痕	A:精良 1mm石英少量微細白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	外面降灰
64	須恵器	杯身	2号	①(11.3) ②4.0 ⑤1/3 受部径(13.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:良好 C:外、オリブ灰2.5V5/1 内、灰N6/	外面降灰
65	須恵器	杯身	2号	①(11.8) ②4.0 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、灰N5/	ヘラ記号、別個体溶着
66	須恵器	甕(口縁)	2号	①(11.8) ②(4.0) ⑤1/3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、黒 2.5V2/1 内、黒褐2.5V3/1、黄灰2.5V4/1	内面降灰、歪み、自然釉、波状文
67	須恵器	甕(口縁)	2号	①(11.2) ②(2.5) ⑤1/8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	波状文
68	須恵器	瓶類	2号	②(6.5) ⑤底部破片	外面:回転ナデ後カキメ、底部短いピッチのケズリ 内面:タタキ後ナデ	A:精良 1mm長石角閃石微量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	
69	須恵器	甕/蓋(口縁)	2号	①(9.0) ②(5.0) ⑤1/4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、工具ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子 B:良好 C:外、灰白7.5V7/1、黒N1.5/ 内、暗灰N3/	内外面降灰
70	須恵器	甕(頸部)	2号	②(9.2) ⑤1/4頸部 頸部径(15.6)	外面:頸部回転ナデ、体部平行タタキ後カキメ 内面:頸部回転ナデ、体部当具後一部ナデ	A:精良 1~2mm黒色粒子赤色粒子 B:良好 C:外、灰白7.5V7/1 内、灰白N7/	
71	須恵器	大甕	2号	②(13.2) ⑤1/7	外面:回転ナデ後カキメ、指オサエ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰10V5/1	波状文、刺突による斜線文
72	須恵器	大甕(肩部)	2号	②(15.0) ⑤頸部~肩部破片	外面:頸部回転ナデ、体部擬格子タタキ 内面:頸部付け根に指オサエ、体部当具痕	A:精良 1~2mm白色粒子黒色粒子 B:良好 C:外、にぶい黄褐10V8/3 内、褐灰10V8/1	歪み
乙金葉跡 出土地不明							
73	須恵器	杯身	不明	①(11.6) ②3.7 ⑤4/1 受部径(13.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、当具痕	A:精良 微細黒色粒子少量 B:良好 C:外、明オリブ灰2.5V7/1 内、オリブ灰2.5V6/1	ヘラ記号

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
74	須恵器	大甕 (頸部)	不明	② (10.1) ⑤頸部破片	外面:回転ナデ、カキメ後回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~1.5mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、黄灰2.5Y5/1	斜線文、接合部で剥離
75	須恵器	器台 (脚部)	不明	② (6.6) ③(31.2) ⑤1/8	外面:回転ナデ、ケズリ 内面:回転ナデ、ケズリ	A:精良 1~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	外面降灰、5方向に2段 透孔、波状文、歪み
76	須恵器	器台 (脚部)	不明	② (1.5) ⑤破片	外面:回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~3mm長石少量 B:良好 C:外、青灰5B5/1 内、灰N6/	歪み、波状文
77	土製品	窯壁	不明	長16.4 幅16.1 厚8.8		A:粗 1~3mm石英多量 C:外、灰白10YR7/1 内、極5YR6/8~褐灰10YR5/1	スサ混入
78	縄文土器	浅鉢 (口縁)	不明	② (4.6) ⑤1/10	外面:ナデ、磨減により調整不明瞭 内面:ナデ	A:精良 石英長石角閃石赤色粒子多量 B:やや不良 C:外、暗灰N3/ 内、灰5Y5/1	条痕

表 8 東浦窯跡群出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
東浦窯跡群 1号窯跡							
79	須恵器	杯蓋	1号焼成部	①(10.4) ② (3.6) ⑤1/8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、黒5Y2/1 内、灰10Y4/1	ヘラ記号、内外面降灰
80	須恵器	杯蓋	1号焼成部	①(12.8) ②3.6 ⑤1/8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号
81	須恵器	杯蓋	1号焼成部	①(13.0) ②3.3 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰オリーブ5GY6/1 内、灰N6/	ヘラ記号
82	須恵器	杯身	1号焼成部	②3.5 ⑤1/4	外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英角閃石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、黄灰2.5Y5/1	
83	須恵器	杯身	1号焼成部	② (3.6) ⑤1/8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	別個体溶着
84	須恵器	甕 (口縁)	1号焼成部	② (7.7) ⑤1/10	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1~3mm長石少量 B:良好 C:外、褐灰10YR5/1 内、褐灰10YR5/1	連続斜線文
85	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(11.8) ②4.3 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm長石少量石英多量 B:やや不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、黄灰2.5Y7/2	
86	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(12.4) ② (2.8) ⑤1/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量白色粒子多量 B:良好 C:外、暗緑灰5G4/1 内、暗緑灰5G4/1	
87	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(11.9) ②3.8 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm石英多量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/1 内、黄灰2.5Y7/2	
88	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(12.1) ②3.9 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 2mm石英多量 B:良好 C:外、青灰5B5/1 内、青灰5B6/1	
89	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(13.0) ② (3.3) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英角閃石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	ヘラ記号、別個体溶着、自然釉
90	須恵器	杯蓋	1号焚口部	② (3.5) ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、暗灰N3/ 内、褐灰5YR4/1	ヘラ記号、外面降灰
91	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①13.0 ②4.0 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm乳白色粒子 B:やや不良 C:外、暗灰N3/ 内、暗灰N3/	内外面降灰、自然釉、歪み
92	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(13.9) ② (3.2) ⑤1/8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細石英長石少量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/2 内、にぶい黄橙10YR7/2	
93	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(12.8) ② (3.7) ⑤3/4	外面:回転ナデ後ケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3.5mm石英多量 B:不良 C:外、淡黄2.5Y8/3 内、浅黄橙10YR8/3	ヘラ記号
94	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(12.2) ② (4.0) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ 指オサエ	A:精良 1~3mm石英多量 B:不良 C:外、灰白10YR8/1 内、灰白N8/	全体的に磨減
95	須恵器	杯蓋	1号焚口部	①(11.6) ② (1.8) ⑤1/4 受部径(13.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、オリーブ灰2.5GY5/1 内、オリーブ灰5GY6/1	外面降灰
96	須恵器	杯蓋	1号焚口部	② (1.9) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細黒色粒子微量1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	
97	須恵器	杯蓋	1号焚口部	② (2.7) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/2 内、灰白10YR8/2	
98	須恵器	杯蓋	1号焚口部	② (3.3) ⑤1/8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英微量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、灰7.5Y6/1	
99	須恵器	杯身	1号焚口部	①(9.9) ②3.1 ⑤1/2 受部径(12.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ、板状圧痕 内面:回転ナデ 指オサエ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、黒褐2.5Y3/1 内、暗灰N3/	外面降灰、歪み
100	須恵器	杯身	1号焚口部	①(10.3) ② (2.4) ⑤1/4口縁部 受部径(12.4)	外面:回転ナデ後ケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:やや不良 C:外、暗灰黄2.5Y5/2 内、灰褐10YR5/1	外面降灰
101	須恵器	杯身	1号焚口部	①(10.2) ②2.8 ⑤1/3 受部径(12.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、黄灰2.5Y5/1	別個体溶着
102	須恵器	杯身	1号焚口部	①(10.2) ② (3.7) ⑤1/3 受部径(12.6)	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ、底部ヘラ切り 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰白N7/	
103	須恵器	杯身	1号焚口部	①(10.4) ②3.3 ⑤1/3 受部径(13.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、オリーブ黒5Y3/1 内、灰N4/	外面降灰
104	須恵器	杯身	1号焚口部	①10.9 ②3.6 ⑤4/5 受部径13.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N4/	別個体溶着

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
105	須恵器	杯身	1号焚口部	①11.1 ②3.7 ⑤完形 受部径12.8	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 1~2mm長石少量石英白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	内外面降灰、歪み
106	須恵器	杯身	1号焚口部	①(11.2) ②(2.8) ⑤1/5 受部径(13.0)	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号、外面降灰
107	須恵器	杯身	1号焚口部	①(11.4) ②(2.8) ⑤1/6 受部径(13.6)	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm白色粒子 B:良好 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰白2.5Y7/1	ヘラ記号
108	須恵器	杯身	1号焚口部	①(11.6) ②(2.1) ⑤口縁部破片 受部径(14.0)	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、褐灰7.5YR5/1 内、褐灰7.5YR5/1	外面溶着物
109	須恵器	杯身	1号焚口部	②(2.2) ⑤口縁部破片	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N4/	
110	須恵器	杯身	1号焚口部	②(3.1) ⑤口縁部破片	外面:回転ナゲ、降灰の調整不明瞭 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y6/1	溶着片あり、外面降灰
111	須恵器	杯身	1号焚口部	②(2.7) ⑤1/4口縁部	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、褐灰10YR6/1	
112	須恵器	高杯 (杯部)	1号焚口部	①(9.6) ②(4.0) ⑤1/4	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰N5/	
113	須恵器	高杯 (脚部)	1号焚口部	②(4.5) ⑤脚部破片	外面:ナゲ 内面:ナゲ	A:精良 1mm石英白色粒子微量 B:不良 C:外、にぶい橙7.5YR5/4 内、にぶい橙 7.5YR7/4	3方向に透孔
114	須恵器	杯蓋	1号前庭部	①(12.6) ②3.9 ⑤3/4	外面:回転ナゲ、ヘラ切り後回転ヘラ切り 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号
115	須恵器	杯蓋	1号前庭部	①(12.0) ②4.4 ⑤3/4	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ一部ナゲ 内面:回転ナゲ後ナゲ、指オサエ	A:精良 1~1.5mm石英白色粒子多量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰黄2.5Y7/2	
116	須恵器	杯蓋	1号前庭部	①12.7 ②3.9 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ、指オサエ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、黒10Y2/1 内、灰N4/	ヘラ記号、重焼痕、別 個体溶着
117	須恵器	杯身	1号前庭部	①(10.8) ②3.7 ⑤1/2 受部径(12.8)	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1~2.5mm白色粒子多量 B:良好 C:外、青灰5PB6/1 内、明青灰5PB7/1	
118	須恵器	高杯 (脚部)	1号前庭部	②(4.7) ③(6.4) ⑤1/2脚部	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰5Y5/1	内面シボり痕、外面降灰
119	須恵器	高杯 (脚部)	1号前庭部	②(5.5) ③8.4 ⑤3/4	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm石英多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	内面ヘラ記号、内面シ ボり痕、外面磨減
120	須恵器	壺	1号前庭部	①(8.4) ②(4.1) ⑤1/6口縁部	外面:口縁部回転ナゲ、体部回転ナゲ後カキメ 内面:回転ナゲ	A:精良 1~1.5mm石英白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰7.5YR5/2 内、灰黄褐10YR4/2	内外面降灰
121	須恵器	壺	1号前庭部	①10.6 ②10.5 ⑤ほぼ完形	外面:口縁部回転ナゲ、体部上半部回転ナゲ後カ キメ下半部回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	ヘラ記号
122	須恵器	甌	1号前庭部	②(6.3) ⑤1/3胴部	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	外面降灰
123	須恵器	大甌 (口縁)	1号前庭部	①(60.0) ②(18.9) ⑤1/7口縁部	外面:口縁部回転ナゲ後一部カキメ、体部回転ナ ゲ 内面:回転ナゲ、工具ナゲ後ナゲ、指圧痕、体部 当具痕	A:精良 1~3mm長石角閃石金雲母少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y4/1	波状文
124	須恵器	杯蓋	1号灰原	①(12.1) ②3.6 ⑤3/4	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号、外面降灰
125	須恵器	杯蓋	1号灰原	①(12.6) ②3.3 ⑤1/4	外面:回転ナゲ、回転ヘラ切り後手持ちヘラケズ リ 内面:回転ナゲ後ナゲ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、黄灰2.5Y6/1	ヘラ記号
126	須恵器	杯身	1号灰原	①(9.8) ②3.7 ⑤1/4 受部径(11.8)	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、暗灰黄2.5Y5/2	ヘラ記号、外面降灰、 溶着物、焼き膨れ
127	須恵器	杯身	1号灰原	①(10.6) ②(4.0) ⑤1/4 受部径(12.4)	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、オリーブ黒7.5Y3/1 内、灰10Y5/1	ヘラ記号、焼き膨れ、 歪み
128	須恵器	高杯	1号灰原	①(10.4) ②(4.1) ⑤1/4	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰黄2.5Y6/2	
129	須恵器	高杯	1号灰原	①(11.2) ②(4.2) ⑤1/4	外面:上半部回転ナゲ、下半部回転ヘラケズリ後 カキメ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y6/1 内、灰7.5Y6/1	
130	須恵器	椀	1号灰原	①(8.4) ②(5.0) ⑤1/4	外面:回転ナゲ、底部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄褐10YR6/2 内、灰黄褐10YR5/2	ヘラ記号
131	須恵器	椀	1号灰原	①(14.0) ②(5.0) ⑤1/8	外面:回転ナゲ後底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm石英長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y6/1	
132	須恵器	平瓶	1号灰原	②(10.0) ⑤1/2	外面:上半部回転ナゲ後カキメ、指頭痕、下半部 回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 1~2mm石英長石少量 B:良好 C:外、赤灰10R6/1 内、褐灰7.5YR6/1	
133	須恵器	すり鉢	1号灰原	①(17.0) ②(12.0) ⑤1/4	外面:工具による回転ナゲ、カキメ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰白N5/ 内、灰白N4/	接合部降灰、接合部で 剥離
134	須恵器	杯蓋	1号溝	①(13.2) ②(3.3) ⑤1/3	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1~3mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2	
135	須恵器	杯蓋	1号トレンチ	①(12.0) ②2.4 ⑤1/4	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号
136	須恵器	杯蓋	1号トレンチ	①(14.0) ②4.3 ⑤2/3	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号
137	須恵器	杯身	1号トレンチ	①(10.6) ②3.5 ⑤1/3 受部径(12.8)	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ	A:精良 2~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	ヘラ記号
138	須恵器	杯身	1号トレンチ	①(10.0) ②3.7 ⑤1/4 受部径(12.0)	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	
139	須恵器	杯身	1号トレンチ	①(12.7) ②3.0 ⑤1/5 受部径(14.6)	外面:回転ナゲ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナゲ後ナゲ	A:精良 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号、別個体溶着
140	須恵器	高杯 (脚部)	1号トレンチ	②(4.6) ③8.5 ⑤3/4底部	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	内面ヘラ記号、内面シ ボり痕
141	須恵器	高杯 (脚部)	1号トレンチ	②(5.8) ⑤脚部部を欠損	外面:回転ナゲ 内面:回転ナゲ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白N7/ 内、灰N6/	内面シボり痕
142	須恵器	高杯 (脚部)	1号トレンチ	②(11.5) ⑤脚部部を欠損	外面:回転ナゲ後一部カキメ 内面:回転ナゲ、ナゲ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	内面降灰
143	須恵器	平瓶	1号トレンチ	②(3.6) ⑤頸部~肩部破片	外面:カキメ、浮文貼付 内面:回転ナゲ	A:精良 微細長石1mm角閃石白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰N5/ 内、灰5Y5/1	ヘラ記号、風船技法、 内外面降灰

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調		備考
144	須恵器	甕 (口頭)	1号トレンチ	②(5.7) ⑤1/8口縁部	外面:口縁部回転ナデ、頸部平行タタキ後回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、頸部平行タタキ後指当痕、一部当具痕残る	A:精良 微細長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰黄2.5Y6/1	ヘラ記号、内外面降灰	
145	須恵器	甕 (口頭)	1号トレンチ	②(7.4) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/1	連続斜線文	
146	須恵器	杯蓋	1号	①11.1 ②4.0 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石多量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、黒N2/	内外面黒変	
147	須恵器	椀	1号	①10.8 ②4.6 ⑤3/4	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後指オサエ	A:精良 小石混入 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号、歪み	
148	須恵器	大甕 (口縁)	1号	②(14.0) ⑤口縁部破片	外面:口縁部ナデ、工具によるナデ、強いハケのアタリ、体部ナデ 内面:口縁部ナデ、降灰の為調整不明瞭、体部同心円当具痕	A:精良 1mm石英長石多量 B:良好 C:灰白5Y7/1~灰5Y6/1 内、灰5Y5/1	斜線文	
149	須恵器	大甕 (口縁)	1号	②(4.2) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ、ハケ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石微量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1~灰N5/ 内、黄灰2.5Y5/1	斜線文	
150	須恵器	大甕	1号	②(28.9) ⑤胴部破片	外面:握格子タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 1mm長石白色粒子 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1~黄灰2.5Y5/1 内、黄灰2.5Y6/1		
東浦窯跡群 2号窯跡								
151	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①12.8 ②3.6 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ後ナデ	A:精良 微細~1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	ヘラ記号	
152	焼き台	焼き台	2号焼成部	長13.0 幅12.0 厚1.1 ⑤破片	外面: 内面:同心円当具痕、端部ヘラ切り	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青黒5B2/1 内、青灰5B6/1	花崗岩に溶着、窯道具	
153	須恵器	甕 (口縁)	2号燃焼部	①(16.0) ②(5.8) ⑤1/3	外面:口縁部回転ナデ、体部握格子タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕一部ナデ	A:精良 微細石英長石微量 B:良好 C:外、浅黄2.5Y7/3 内、灰黄2.5Y7/2	ヘラ記号、全体的に磨滅	
154	須恵器	大甕 (口縁)	2号燃焼部	②(6.1) ⑤口縁部破片	外面:カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰白7.5Y7/1	連続斜線文	
155	須恵器	大甕 (口縁)	2号燃焼部	②(5.9) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:ナデ、工具ナデ、指オサエ	A:精良 微細石英長石微量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰7.5Y5/1	波状文	
156	須恵器	大甕 (口縁)	2号燃焼部	②(6.4) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ、カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰白N4/ 内、灰7.5Y5/1	波状文、内面降灰	
157	須恵器	杯蓋	2号禁口部	①(14.0) ②(3.8) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ、当具痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、緑灰10G5/1 内、青灰5B6/1	ヘラ記号、穿孔	
158	須恵器	杯蓋	2号禁口部	①(13.6) ②(3.8) ⑤1/8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/2 内、にぶい黄橙10YR7/2		
159	須恵器	杯蓋	2号溝	①13.1 ②4.6 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5B5/1 内、青灰5B6/1	ヘラ記号、歪み	
160	須恵器	杯蓋	2号溝	①(13.1) ②(3.0) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、青灰5B6/1		
161	須恵器	高杯 (杯部)	2号溝	①(12.0) ②(3.8) ⑤1/8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、降灰の為調整不明瞭	A:精良 1mm石英長石角閃石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、浅黄2.5Y7/3	内面降灰	
162	須恵器	杯蓋	2号	①12.1 ②4.1 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子少量黒色粒子赤色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰白2.5Y7/1	ヘラ記号	
163	須恵器	杯蓋	2号	①12.3 ②4.3 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰白7.5Y7/1	ヘラ記号	
164	須恵器	杯蓋	2号	①12.1 ②4.3 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子少量黒色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2	ヘラ記号、天井部押し出し技法	
165	須恵器	杯蓋	2号	①12.4 ②4.4 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ	A:精良 微細~1mm石英長石角閃石少量 B:やや不良 C:外、灰白10YR8/2 内、浅黄2.5Y7/3	ヘラ記号	
166	須恵器	杯蓋	2号	①13.8 ②4.2 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰黄2.5Y7/2		
167	須恵器	杯蓋	2号	①12.7 ②3.1 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5B65/1 内、青灰10B66/1	ヘラ記号	
168	須恵器	杯蓋	2号	①12.7 ②3.6 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ後指オサエ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰10B66/1 内、青灰5B65/1	ヘラ記号	
169	須恵器	杯身	2号	①10.4 ②4.0 ⑤完形 受部径12.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ	A:精良 微細角閃石少量1mm白色粒子微量 B: やや不良 C:外、灰白10YR7/1 内、にぶい黄橙10YR7/2	ヘラ記号	
170	須恵器	杯身	2号	①10.6 ②4.3 ⑤3/5 受部径12.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 微細長石1mm角閃石少量 B:やや不良 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号	
171	須恵器	杯身	2号	①10.7 ②3.8 ⑤ほぼ完形 受部径12.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ	A:精良 微細長石角閃石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/1	ヘラ記号	
172	須恵器	杯身	2号	①11.2 ②3.3 ⑤完形 受部径13.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm白色粒子赤色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号	
173	須恵器	杯身	2号	①9.9 ②3.7 ⑤完形 受部径12.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英長石微量 B:やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号、外面磨滅	
174	須恵器	杯身	2号	①10.6 ②3.8 ⑤完形 受部径12.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N7/	溶着物	
175	須恵器	杯身	2号	②(3.0) ⑤口縁~底部破片	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:外、淡黄2.5Y8/3 内、淡黄2.5Y8/3	穿孔	
176	須恵器	甕 (口縁)	2号	②(5.5) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰7.5Y4/1	斜線文	
177	須恵器	大甕 (口頭)	2号	①(72.8) ②(16.3) ⑤1/8口縁部	外面:口縁部ナデ、頸部工具による回転ナデ後一部ナデ、体部平行タタキ 内面:口縁部ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm石英長石多量 B:良好 C:外、灰7.5Y4/1 内、灰10Y4/1	連続斜線文、内面頸部粘土貼付	
東浦窯跡群 3号窯跡								
178	須恵器	高杯 (杯部)	3号焼成部	②(3.6) ⑤杯部破片	外面:カキメ 内面:ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、にぶい赤褐5YR4/3 内、にぶい赤褐5YR4/3	沈線文	
179	須恵器	甕	3号焼成部	②(6.6) ⑤胴部~底部破片	外面:上半部カキメ、下半部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1~黒褐2.5Y3/1 内、黒2.5Y2/1	刺突文、内外面降灰	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
180	須恵器	杯蓋/身	3号焼成部	長(12.0) ②(1.8) ⑤破片	外面:磨減の不明瞭 内面:磨減の不明瞭	A:1mm石英微量長石少量 B:良好 C:外、に ぶい黄橙10YR7/4 内、にぶい黄橙10YR7/4	穿孔
181	須恵器	甕 (口頸)	3号焼成部	①22.2 ②(14.3) ⑤口縁~肩部破片	外面:ナデ、振格子タタキ 内面:ナデ、同心円当具痕	A:精良 微細長石1mm石英白色粒子少量 B:良 好 C:外、暗灰N3/~灰オリーブ5Y5/2 内、暗 灰N3/	溶着物
182	須恵器	杯蓋	3号燃焼部	①(12.8) ②(3.5) ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1~2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰、 焼き歪み
183	須恵器	杯蓋	3号燃焼部	①(12.3) ②3.5 ⑤1/2	外面:回転ナデ、回転ヘラケズリ、一部未調整、 工具痕 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1mm石英2mm白色粒子少量 B: やや不良 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号
184	須恵器	杯蓋	3号燃焼部	①13.0 ②3.9 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指圧痕	A:精良 1~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号、外面降灰
185	須恵器	高杯	3号燃焼部	①13.0 ②(16.0) ⑤4/5 受部径15.7	外面:杯部回転ナデ後カキメ、脚部回転ナデ後カ キメ、カキメ後ナデ 内面:杯部回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子1~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	杯部に激しい歪み、溶 着物
186	須恵器	杯蓋	3号焚口部	①(13.2) ②3.3 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰白2.5Y7/1	ヘラ記号、焼き膨れ
187	須恵器	杯蓋	3号焚口部	①(13.4) ②3.6 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰白N7/	自然釉、外面降灰
188	須恵器	杯蓋	3号焚口部	①(14.2) ②(3.9) ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y7/1	ヘラ記号、焼成後穿孔
189	須恵器	杯身	3号焚口部	①11.1 ②4.4 ⑤ほぼ完形 受部径13.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子多量3mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰10Y4/~灰白7.5Y8/1 内、灰 白7.5Y7/1	
190	須恵器	蓋	3号焚口部	①(6.0) ②(1.9) ⑤1/4	外面:回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量黒色粒子多量 B:良 好 C:外、オリーブ黒10Y3/1 内、オリーブ黒 10Y3/1	ヘラ記号
191	須恵器	高杯 (杯部)	3号焚口部	①(11.2) ②(3.9) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N4/	内外面降灰
192	須恵器	高杯 (脚部)	3号焚口部	②(4.8) ③(11.2) ⑤破片	外面:回転ナデ、カキメ後一部ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 白色粒子赤色粒子多量 B:不良 C:外、灰オリーブ5Y6/2 内、灰オリーブ5Y6/2	内外面線刻複数
193	須恵器	椀	3号焚口部	①10.8 ②6.8 ⑤ほぼ完形 受部径12.4	外面:回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、中央部未 調整 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 1mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号、内面降灰
194	須恵器	杯身	3号前庭部	①10.6 ②3.3 ⑤2/3 受部径12.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、ハケ状工具痕ナデ、指頭痕	A:精良 微細~3mm石英長石やや多量 B:良好 C:外、灰N6/~N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号
195	須恵器	高杯 (杯部)	3号前庭部	①(13.2) ②(3.5) ⑤1/4口縁部	外面:回転ナデ、脚付け後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細角閃石少量雲母多量1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1~暗灰N3/ 内、灰黄 2.5Y6/2	刺突文、内面降灰
196	須恵器	甕 (口縁)	3号前庭部	①(17.2) ②(4.2) ⑤1/4口縁部	外面:口縁部回転ナデ、頸部平行タタキ 内面:口縁部回転ナデ、頸部当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	内面降灰
197	須恵器	杯身	3号煙道	①12.9 ②4.3 ⑤完形 受部径16.1	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/1	穿孔
198	須恵器	杯身	3号	①(12.4) ②(4.1) ⑤1/4 受部径(15.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 長石多量黒色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	内面降灰
199	須恵器	杯身	3号	①10.7 ②3.7 ⑤1/2 受部径12.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ナデ 内面:ナデ、指オサエ後ナデ	A:精良 微細長石少量1~2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号
200	縄文土器	浅鉢	3号	②(5.8) ⑤破片	外面:ナデ 内面:ナデ	A:粒子少なめ 石英長石角閃石少量 B:良好 C:外、にぶい黄橙10YR4/3 内、にぶい黄橙 10YR6/3	
東浦窯跡群 出土地不明							
201	須恵器	杯蓋	不明	①12.0 ②4.1 ⑤4/5	外面:ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:ナデ、同心円当具後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰白7.5Y7/2	
202	須恵器	杯蓋	不明	①(12.2) ②5.5 ⑤1/4	外面:ナデ、回転ヘラケズリ 内面:ナデ、同心円当具後ナデ	A:精良 白色粒子黒色粒子多量2mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰7.5Y6/1	歪み
203	須恵器	杯蓋	不明	①(13.0) ②4.5 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、同心円当具痕、指オサエ	A:黒色粒子多量2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	口縁部歪み
204	須恵器	杯蓋	不明	①(13.2) ②4.8 ⑤1/2	外面:ナデ、回転ヘラケズリ 内面:ナデ、同心円当具後ナデ	A:精良 赤色粒子少量1~2mm白色粒子多量 B: 良好 C:外、灰N7/ 内、灰N7/	
205	須恵器	杯蓋	不明	①(11.7) ②3.5 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ後ナデ	A:精良 微細長石角閃石1~2mm石英少量 B:や や不良 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、黄灰2.5Y6/1	降灰
206	須恵器	杯蓋	不明	②(2.6) ⑤破片 穿孔径2.5	外面:ナデ、回転ヘラケズリ 内面:磨減により調整不明瞭	A:精良 赤色粒子1mm白色粒子多量 B:不良 C:外、橙7.5YR6/6 内、橙7.5YR6/6	焼成前穿孔
207	須恵器	杯蓋	不明	②(2.7) ⑤破片	外面:回転ナデ、ヘラ切り未調整 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子微細長石1~2mm石英少量 B: 良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	ヘラ記号
208	須恵器	杯身	不明	①(9.8) ②3.2 ⑤1/3 受部径(12.0)	外面:ナデ、回転ヘラケズリ 内面:ナデ、当具痕後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰 N5/~黒褐2.5Y3/1 内、オリーブ灰2.5Y5/1、受 部、灰N5/	ヘラ記号
209	須恵器	杯身	不明	①(11.6) ②3.1 ⑤1/4 受部径(14.0)	外面:ナデ、ヘラケズリ 内面:ナデ、当具痕後ナデ	A:精良 微細角閃石微量1mm長石少量 B:良好 C:外、浅黄2.5Y7/3~暗灰黄2.5Y5/2 内、黄灰 2.5Y5/1	ヘラ記号、別個体溶着
210	須恵器	杯身	不明	①(11.6) ②(3.9) ⑤1/5 受部径(14.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰5Y6/1	自然釉
211	須恵器	杯身	不明	①12.2 ②2.7 ⑤2/3 受部径15.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り 内面:回転ナデ、当具痕後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/2	内外面降灰、自然釉、 溶着物、歪み
212	須恵器	杯身	不明	①(12.2) ②3.8 ⑤1/4 受部径(14.2)	外面:回転ナデ後ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕後ナデ	A:精良 微細長石1mm石英白色粒子少量 B:良 好 C:外、灰N5/ 内、黄灰2.5Y4/1	
213	須恵器	杯身	不明	①(12.2) ②4.1 ⑤1/4 受部径(14.4)	外面:ナデ、回転ヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ	A:精良 微細~2mm石英長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1~にぶい黄2.5Y6/4 内、に ぶい黄2.5Y6/4	
214	須恵器	杯身	不明	①(12.4) ②(4.8) ⑤1/4 受部径(14.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、ナデ、当具痕	A:精良 微細長石1mm角閃石白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰7.5Y6/1	外面降灰、自然釉、別 個体溶着

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
215	須恵器	杯蓋 杯身	不明	杯蓋 ①(13.6) ②3.3 杯身 ①(12.8) ②3.8 ⑤1/4 受部径(15.6)	杯蓋 外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具痕 杯身 外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:ナデ、当具後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:蓋身共に、外、浅黄2.5Y7/4 内、暗青灰10B6/4/1	蓋と身が溶着、外面降灰
216	須恵器	高杯	不明	②(11.0) ⑤杯部へ脚部破片	外面:杯部ナデ、脚部カキメ 内面:杯部回転ナデ、指オサエ、脚部ナデ	A:精良 微細長石1~2mm石英白色粒子少量 B: やや不良 C:外、灰5Y4/1 内、暗灰黄5Y5/2	刺突文、3方向に透孔
217	須恵器	甕	不明	長(9.3) 厚1.5 ⑤胴部破片	外面:平行タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 1mm長石1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	
218	須恵器	甕 (底部)	不明	②(14.5) ⑤破片	外面:縦格タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、黒2/ 内、暗灰N3/	自然釉多量、須恵器破片溶着
219	須恵器	甕 (体部)	不明	長(22.8) 厚1.3 ⑤破片	外面:縦格タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 1mm白色粒子少量微細金雲母微量 B: 良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、にぶい黄橙10YR6/4	
220	瓦	平瓦	不明	⑤破片	凹面:布目痕 凸面:タタキ	A:白色粒子1mm少量 B:良好 C:凹、灰5Y4/1 凸、灰7.5Y4/1	

表9 大谷窯跡群出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
大谷窯跡群 1号窯跡							
221	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①11.2 ②3.7 ⑤7/8	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 微細~1mm黒色粒子少量 B:良好 C:外、淡黄2.5Y8/3 内、灰黄2.5Y7/2	
222	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①11.4 ②3.6 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子微量 B:良好 C:外、黒褐10YR3/1 内、褐灰10YR5/1	ヘラ記号、外面降灰
223	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①11.6 ②2.7 ⑤7/8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:やや良 B:良好 C:外、灰N5/ 内、暗灰黄2.5Y5/2	ヘラ記号、溶着痕、内 外面降灰、歪み
224	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①(11.8) ②2.9 ⑤3/4	内面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 外面:回転ナデ	A:やや良 砂粒多量1~3mm石英角閃石白色粒子 ごく少量 B:良好 C:外、黒褐10YR3/1 内、 灰N4/	ヘラ記号、外面降灰
225	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①11.8 ②3.1 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm長石粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、褐灰10YR4/1	ヘラ記号、内外面降灰
226	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①(11.9) ②3.2 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:やや良 1~3mm長石粒子多量 B:良好 C:外、にぶい黄橙10YR7/1 内、灰N6/	ヘラ記号、外面降灰
227	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①(12.0) ②3.5 ⑤7/8	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、青灰5PB6/1 内、灰N4/	ヘラ記号、外面降灰
228	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①12.2 ②4.2 ⑤完形	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細~1mm角閃石明青色粒子多量 B: 良好 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/1	ヘラ記号
229	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①12.4 ②3.6 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黒褐2.5Y3/1 内、黒2.5Y2/1	内外面降灰、ヘラ記 号、自然釉、重焼、焼 き跡
230	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①(12.4) ②4.2 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm石英長石白色粒子少量 B:やや 不良 C:外、浅黄2.5Y7/3 内、灰黄2.5Y7/2	ヘラ記号
231	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①12.5 ②3.3 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR5/1 内、褐灰10YR4/1	ヘラ記号、自然釉
232	須恵器	杯蓋	1号燃焼部	①9.5 ②3.5 ⑤完形 受部径11.6	外面:手持ちヘラケズリ、ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~5mm黒色粒子多量石英白色粒子少量 B:良 好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰5Y5/1	ヘラ記号、溶着物、外 面降灰、歪み
233	須恵器	杯身	1号燃焼部	①9.0 ②3.3 ⑤完形 受部径11.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子微量 B:良好 C:外、黒褐10YR3/1 内、黒褐5YR2/1	ヘラ記号
234	須恵器	杯身	1号燃焼部	①10.0 ②3.3 ⑤ほぼ完形 受部径12.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズ リ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰白10YR7/1 内、にぶい黄橙10YR7/2	ヘラ記号
235	須恵器	杯身	1号燃焼部	①11.0 ②3.6 ⑤9/10 受部径(12.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm長石粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N4/	ヘラ記号、降灰、歪 み、溶着物
236	須恵器	杯身	1号燃焼部	①10.6 ②3.4 ⑤完形 受部径12.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~5mm粒子多量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、黒褐10YR3/1	ヘラ記号
237	須恵器	杯身	1号燃焼部	①(10.5) ②3.5 ⑤1/2 受部径(12.2)	外面:回転ナデ、底部降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	外面降灰、溶着物、歪 み
238	須恵器	杯身	1号燃焼部	①10.8 ②3.5 ⑤4/5 受部径(12.9)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:2~4mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰N4/	溶着物、外面降灰
239	須恵器	杯身	1号燃焼部	①(10.6) ②(3.3) ⑤1/3 受部径(11.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~5mm石英白色粒子少量 B:良好 C:外、にぶい赤褐5YR5/3 内、にぶい赤褐 5YR5/4	穿孔
240	須恵器	杯身	1号燃焼部	①10.7 ②3.0 ⑤ほぼ完形 受部径12.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、黒褐2.5YR3/1	ヘラ記号、窯道具、穿 孔
241	須恵器	碗	1号燃焼部	①(10.5) ②(4.5) ⑤1/8	外面:回転ナデ、底部工具ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	内面降灰、外面シボリ 痕
242	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(20.4) 幅(16.6) 厚2.4 ⑤1/4 側縁部、狭端部	凹面:ケズリ 凸面:ケズリ後ナデ、一部工具ナデ、指頭圧痕	A:精良 B:良好 C:凹、灰N6/ 凸、灰白7.5Y7/1	布目痕、模骨痕
243	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(16.2) 幅(14.6) 厚1.5 ⑤1/5 側縁部、狭端部	凹面:端部面取り 凸面:端部面取り、タタキ後ナデ、一部ケズリ、 切断痕	A:精良 1~3mm長石白色粒子多量 B:良好 C:凹、灰N5/ 凸、暗赤褐2.5YR3/2	布目痕、模骨痕、紐の 痕跡
244	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(11.1) 幅(16.2) 厚1.2 ~1.5 ⑤1/10 側縁部、広端部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:ナデ、工具痕、指オサエ	A:精良 2~3mm白色粒子少量 B:不良 C:凹、灰7.5Y5/1 凸、黄灰2.5Y6/1	布目痕、模骨痕、糸切 り痕、紐の痕跡、粘土 継目
245	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(13.9) 幅(12.9) 厚1.2 ~1.6 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:端部面取り、タタキ、ナデ	A:精良 2~3mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰7.5Y5/1 凸、7.5Y6/1	布目痕、模骨痕
246	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(12.5) 幅(6.1) 厚0.8 ~1.5 ⑤1/12 側縁部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:端部面取り、平行タタキ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子赤色粒子少量 B:不良 C:凹、灰白2.5Y7/1 凸、黄灰2.5Y6/1	布目痕、模骨痕、紐の 痕跡

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
247	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(26.9) 幅(12.6) 厚1.5 ⑤2/3 側縁部、広端部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:平行タタキ後ケズリ、ケズリ後ナデ、工具痕	A:1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、暗灰N3/凸、灰N4/	布目痕、根骨痕、糸切り痕、紐の痕跡、降灰
248	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(21.0) 幅(11.8) 厚1.1 ⑤1/5 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:タタキ後ナデ、工具痕	A:1~3mm白色粒子1~2mm黒色粒子 B:良好 C:凹、灰10Y4/1 凸、灰7.5Y5/1	根骨痕、紐の痕跡、凸面降灰
249	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(19.1) 幅(15.2) 厚1.7 ⑤1/5 側縁部、広端部	凹面:端部面取り、板状圧痕、タガ状の圧痕 凸面:平行タタキ、工具痕	A:精良 B:良好 C:凹、黒褐2.5Y3/1 凸、灰5Y4/1	布目痕、根骨痕、溶着片、凹面降灰、二次焼成
250	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(15.8) 幅(10.2) 厚1.1 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り、ナデ 凸面:端部面取り、平行タタキ後ケズリ	A:1mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰7.5Y6/1 凸、灰7.5Y5/1	布目痕、根骨痕、糸切り痕、凹面降灰
251	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(8.8) 幅(8.5) 厚1.2~1.8 ⑤1/20 側縁部、広端部	凹面:端部面取り、ナデ 凸面:端部面取り、タタキ後ナデ、工具痕	A:精良 2~3mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰N6/凸、灰N6/	布目痕、根骨痕、紐の痕跡、帯状粘土継目
252	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(24.3) 幅(12.9) 厚1.3 ⑤1/4 狭端部	凹面:降灰の調整不明瞭 凸面:ナデ	A:2~6mm白色粒子黒色微粒子多量 B:良好 C:凹、灰7.5Y4/1 凸、灰5Y4/1	布目痕、根骨痕、紐の痕跡 凹凸面降灰
253	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(6.8) 幅(9.0) 厚1.2~1.5 ⑤1/20	凹面:降灰の調整不明瞭 凸面:タタキ後ナデ、ヘラケズリ	A:精良 金雲母ごく少量 B:不良 C:凹、灰10Y7/1 凸、灰10Y8R/2	布目痕、根骨痕、糸切り痕、紐の痕跡、粘土継目
254	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(14.5) 幅(11.4) 厚1.5 ⑤1/12	凹面:降灰の調整不明瞭 凸面:平行タタキ、指頭痕、工具痕	A:精良 1mm長石等白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰N5/凸、灰N5/	布目痕、根骨痕
255	瓦	平瓦	1号燃焼部	長(11.4) 幅(10.0) 厚1.1 ⑤1/10	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:ヘラケズリ、タタキ、工具痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰N5/~灰N6/凸、灰N5/	布目痕、根骨痕、紐の痕跡
256	須恵器	杯蓋	1号焚口	①11.8 ②3.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ、工具ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm長石等白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/内、灰N5/	ヘラ記号、内外面降灰
257	須恵器	杯蓋	1号焚口	①(12.0) ②3.6 ⑤3/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰N6/内、灰N6/	竹管文、内外面降灰
258	須恵器	杯蓋	1号焚口	①12.1 ②4.1 ⑤9/10	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/~灰褐7.5YR4/2 内、暗灰N3/	ヘラ記号、口径歪み
259	須恵器	杯身	1号焚口	①10.8 ②3.9 ⑤3/4 受部径12.8	外面:降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、にぶい黄褐10YR5/4、 黒2.5Y2/1 内、黒褐10YR3/1	ヘラ記号、杯蓋溶着、内外面降灰、自然釉、内面焼き跡
260	須恵器	匙(口頭)	1号焚口	①(4.5) ②(5.3) ⑤2/5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	内外面シボリ痕
261	須恵器	椀	1号焚口	②(8.7) ⑤1/10	外面:カキメ状回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 白色微粒子少量 B:良好 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白2.5Y7/1	内外面降灰
262	須恵器	大甕	1号焚口	①(40.0) ②(15.5) ⑤6/1口縁部	外面:口縁部工具による回転ナデ、指頭痕、体部平行タタキ痕 内面:口縁部回転ナデ後工具ナデ、指オサエ、体部同心内当具痕	A:2~3mm白色粒子ごく少量 B:良好 C:外、オリープ黒5Y3/1 内、灰7.5Y5/1	外面降灰、自然釉、焼き跡
263	須恵器	杯蓋	1号焼成部	①(11.8) ②<2.7> ⑤1/7	外面:回転ナデ ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子黒色微粒子少量 B:良好 C:外、黒2.5Y2/1 内、灰N5/	外面降灰、一部磨滅
264	須恵器	杯蓋	1号焼成部	②(3.2) ⑤1/3	外面:ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ 指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白10Y7/1 内、灰白10Y7/1	竹管文、外面降灰
265	須恵器	杯蓋	1号焼成部	①(10.6) ②3.3 ⑤1/5 受部径(13.0) 幅み径2.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、にぶい橙5YR6/4 内、にぶい橙5YR6/4	ヘラ記号
266	須恵器	杯蓋	1号焼成部	②(1.1) ⑤1/14	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 微細角閃石少量 B:良好 C:外、赤灰10R1/6 内、黄灰2.5Y5/1	外面降灰
267	須恵器	杯身	1号焼成部	①(9.9) ②<3.3> ⑤1/4	外面:降灰により調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白10Y7/1 内、褐灰10YR6/1	外面降灰、溶着物
268	須恵器	杯身	1号焼成部	①11.9 ②4.5 ⑤ほぼ完形 受部径12.5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰褐5YR4/2 内、にぶい赤褐2.5YR4/3	歪み
269	須恵器	高台付杯	1号焼成部	③(9.5) ②(16.0) ⑤1/6	外面:ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:やや不良 C:外、浅黄2.5Y7/3 内、浅黄2.5Y7/3	磨滅
270	須恵器	高杯(杯部)	1号焼成部	①(9.8) ②<3.3> ⑤1/2	外面:回転ナデ後上部カキメ下半部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 白色粒子黒色微粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰5Y5/1	粘土貼り付け痕
271	須恵器	高杯(脚部)	1号焼成部	②<3.5> ③5.8 ⑤脚部完形	外面:回転ナデ後上半部カキメ下半部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子石英少量 B:良好 C:外、灰N4/内、暗オリープ灰2.5G4/1	内面ヘラ記号、内面シボリ痕、接合部で剥離、歪み
272	須恵器	高杯(脚部)	1号焼成部	②(5.8) ③8.4 ⑤4/5	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/内、灰N5/	内面ヘラ記号、内面シボリ痕
273	須恵器	椀	1号焼成部	①(9.4) ②4.9 ⑤1/2	外面:カキメ、底部手持ちヘラケズリ 内面:ナデ、指オサエ、降灰の調整不明瞭	A:精良 B:良好 C:外、暗褐7.5YR3/3 内、黒褐7.5YR3/1	内面降灰
274	須恵器	ナリ鉢	1号焼成部	②(6.7) ③8.0 ⑤1/2	外面:回転ナデ後ナデ、底部工具ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白N7/内、灰N5/	内外面一部降灰
275	須恵器	杯蓋(幅み)	1号焼成部	②3.6 ④3.7	外面:ナデ 内面:ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/3 内、灰黄褐10YR5/2	蓋部欠損、外面シボリ痕
276	須恵器	杯蓋	1号窯尻N03	①10.2 ②3.1 ⑤9/10	外面:回転ナデ後工具による回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C: 外、灰5Y4/1~褐灰7.5YR5/2 内、褐灰7.5YR5/2	穿孔
277	須恵器	杯蓋	1号窯尻	①10.4 ②3.4 ⑤4/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子黒色微粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号
278	須恵器	杯蓋	1号窯尻けむ出し	①11.6 ②3.5 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm白色粒子極少量 B:やや不良 C:外、灰10Y5/1 内、灰赤2.5YR5/2	ヘラ記号、外面降灰、内面焼き跡
279	須恵器	杯蓋	1号窯尻けむ出し	①12.4 ②4.0 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5YR6/1 内、灰N5/	ヘラ記号、内外面降灰
280	須恵器	杯蓋	1号窯尻けむ出し	①12.6 ②3.6 ⑤7/8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、褐灰10YR5/1	ヘラ記号、杯身片溶着、外面降灰、焼き跡
281	須恵器	杯身	1号窯尻けむ出し	①11.1 ②3.2 ⑤5/6 受部径13.5	外面:降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~3mm長石等白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/内、灰6/	外面降灰、溶着物
282	須恵器	杯身	1号窯尻N04	①11.9 ②3.2 ⑤ほぼ完形 受部径12.8	外面:降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~3mm石英長石少量 B:良好 C:外、黒2.5Y2/1 内、灰白7.5Y7/1	外面降灰、溶着物
283	須恵器	杯身	1号煙道	①10.2 ②3.7 ⑤ほぼ完形 受部径12.5	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2~3mm白色粒子少量 B:良好 C: 外、黒褐7.5YR3/1、にぶい褐7.5YR5/3 内、褐灰7.5YR4/1~灰褐7.5YR5/2	ヘラ記号 外面降灰

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
284	須恵器	杯身	1号窯尻けむ出し	①(10.2) ②4.0 ⑤5/6 受部径(12.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、底部ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/1	ヘラ記号
285	須恵器	高杯(脚部)	1号窯尻けむ出し	②(8.3) ⑤脚部2/5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰5Y4/1	内外面シボリ痕、外面降灰
286	瓦	平瓦	1号焼成部	長(13.8) 幅(9.8) 厚1.6 ⑤1/6 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:平行タタキ後ナデ、工具痕	A:1mm~5mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、黒地2.5Y3/1 凸、黄灰2.5Y5/1	目目痕、模骨痕、紐の痕跡
287	瓦	平瓦	1号焼成部	長(9.5) 幅(12.2) 厚1.2 ~1.4 ⑤1/10程度 狭端部、側縁部	凹面:端部面取り 凸面:平行タタキ後ナデ	A:微細~4mm白色粒子 B:良好 C:凹、オリープ黒5Y3/1 凸、灰5Y4/1	目目痕、模骨痕、紐の痕跡
288	瓦	平瓦	1号焼成部	長(11.9) 幅(12.1) 厚1.1~1.4 ⑤6/1 側縁部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:平行タタキ、ケズリ後ナデ	A:精良 1~4mm白色粒子微量 B:良好 C:凹、黄灰10YR5/1 凸、黄灰10YR6/1	目目痕、模骨痕、紐の痕跡
289	瓦	平瓦	1号焼成部	長(13.3) 幅(16.5) 厚1.4 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:平行タタキ後ナデ、端部面取り	A:精良 1mm~2mm白色粒子多量 B:良好 C:凹、黄灰2.5Y5/1 凸、灰5Y4/1	目目痕、模骨痕、糸切り痕
290	瓦	平瓦	1号焼成部	長(10.8) 幅(12.7) 厚1.4 ~1.6 ⑤1/10 側縁部、広端部	凹面:ケズリ 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1~2mm角閃石白色粒子少量 B:不良 C:凹、橙5YR7/8 凸、橙5YR7/8	目目痕、模骨痕、紐の痕跡、磨滅
291	瓦	平瓦	1号焼成部	長(11.2) 幅(11.0) 厚2.2 ⑤1/10 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:平行タタキ後ナデ、指オサエ	A:1~2mm白色粒子多量 B:良好 C:凹、赤灰 2.5YR5/1 凸、にぶい赤灰2.5YR5/3	目目痕、模骨痕、紐の痕跡
292	瓦	平瓦	1号焼成部	長(11.9) 幅(8.6) 厚1.2 ~1.4 ⑤1/9 側縁部、広端部	凹面: 凸面:工具ナデ、工具痕	A:2~4mm白色粒子微量 B:良好 C:凹、灰5Y4/1 凸、黄灰2.5Y4/1	目目痕、模骨痕、紐の痕跡、糸切り痕
293	瓦	平瓦	1号焼成部	長(16.4) 幅(11.6) 厚1.2~1.7 ⑤1/5 広端部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:タタキ後ナデ、ケズリ、工具痕、指オサエ	A:1~2mm白色粒子微量 B:良好 C:凹、暗灰N3/ 凸、灰5Y4/1	目目痕、模骨痕、紐の痕跡
294	瓦	丸瓦	1号焼成部	長(19.0) 幅(12.4) 厚1.6 ⑤1/4 側縁部、広端部	凸面:タタキ後ナデ 凹面:端部面取り、ナデ、ケズリ	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、褐灰7.5YR5/1 凸、褐灰10YR6/1	目目痕、模骨痕、紐の痕跡
295	瓦	道具瓦	1号焼成部	長(17.9) 幅(16.6) 厚1.7 ⑤1/5 側縁部、広端部	凹面:ケズリ ユビオサエ 模骨痕 凸面:ナデ 平行タタキ ケズリ 指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰5Y5/1 凸、灰5Y4/1	目目痕、模骨痕
296	須恵器	杯蓋	1号溝	①10.6 ②4.5 ⑤完形	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色微粒子1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号、内外面降灰
297	須恵器	杯身	1号溝	①11.3 ②3.6 ⑤完形 受部径13.1	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~5mm石英白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰10Y5/1	ヘラ記号、歪み
298	須恵器	杯蓋	1号灰原	①(11.6) ②4.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰褐7.5YR5/2 内、灰白7.5Y7/1	ヘラ記号、内外面降灰、歪み
299	須恵器	杯蓋	1号灰原	①11.6 ②4.1 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、工具による頂部調整 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~3mm白色粒子黒色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰5Y6/1	ヘラ記号、外面降灰
300	須恵器	杯身	1号灰原	①(9.0) ②3.0 ⑤4/5 受部径(11.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ 当具痕か	A:精良 微細角閃石ごく少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰N6/	ヘラ記号、溶着片
301	須恵器	杯身	1号灰原	①9.3 ②2.7 ⑤4/5 受部径11.3	外面:回転ナデ、底部ヘラ切り離し後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリープ黒5Y3/1 内、黄灰2.5Y4/1	ヘラ記号、外面降灰、別個体溶着
302	須恵器	杯身	1号灰原	①10.8 ②3.5 ⑤4/5 受部径13.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、底部未調整 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~3mm長石等白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号
303	須恵器	杯身	1号灰原	①11.2 ②3.7 ⑤2/3 受部径13.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、底部降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰
304	須恵器	高杯(杯部)	1号灰原	①(9.6) ②(6.0) ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ナデ 内面:回転ナデ後指オサエ	A:精良 2~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、褐灰10YR4/1	外面降灰
305	須恵器	高杯(脚部)	1号灰原	②(6.0) ⑤脚部完形 脚幅径7.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰N4/	内面ヘラ記号、内外面シボリ痕
306	須恵器	長頸壺	1号灰原	②(9.2) ⑤1/8 肩径(20.0)	外面:ナデ、降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ、ナデ	A:1mm白色粒子1~3mm黒色粒子多量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N6/	内面焼き跡、外面降灰
307	瓦	平瓦	1号灰原	長(12.7) 幅(7.4) 厚1.6 ⑤1/10 広端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:平行タタキ後ナデ、磨滅により調整不明瞭	A:1~3mm石英赤色微粒子1~4mm長石少量 B:不良 C:凹、にぶい黄褐10YR5/3 凸、にぶい黄褐10YR7/3	目目痕、模骨痕、糸切り痕、紐の痕跡
308	瓦	平瓦	1号灰原	長(13.3) 幅(10.3) 厚0.6 ~1.2 ⑤1/5 側縁部	凹面:端部面取り、工具ナデ 凸面:平行タタキ後ナデ、工具痕	A:1~2mm白色粒子白雲母角閃石微粒子少量 B:良好 C:凹、灰7.5Y5/1 凸、灰5Y4/1	目目痕、模骨痕、凹凸面降灰、溶着物、歪み
309	須恵器	杯蓋	1号左2A	①(12.0) ②(3.2) ⑤1/3	外面:ヘラ切り後回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰、内面焼き跡
310	須恵器	杯蓋	1号左2A	①(12.6) ②(3.2) ⑤1/3	外面:ヘラ切り後ナデ、一部回転ヘラケズリ一部回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm黒色粒子白色粒子少量 B:良好 C:外、黒7.5YR2/1 内、褐灰5YR4/1	ヘラ記号、外面降灰、自然釉、溶着片
311	須恵器	杯蓋	1号左2A	①(12.6) ②(3.9) ⑤1/2	外面:ヘラ切り後回転ナデ、回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1~褐灰5YR5/1 内、褐灰10YR6/1	ヘラ記号、外面降灰
312	須恵器	杯蓋	1号	①12.0 ②3.6 ⑤9/10	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、暗灰黄2.5Y5/2 内、褐灰10YR5/1	ヘラ記号、外面降灰、自然釉、溶着片
313	須恵器	杯蓋	1号	①11.7 ②4.2 ⑤5/6	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子黒色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、黄灰2.5Y6/1	ヘラ記号、外面降灰
314	須恵器	杯身	1号左2A	①(10.2) ②(4.0) ⑤1/4 受部径(12.2)	外面:回転ナデ ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰N6/	外面降灰
315	須恵器	杯身	1号左2A	①(12.0) ②(3.8) ⑤1/7 受部径(14.9)	外面:ヘラ切り後ナデ、一部回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰7.5YR5/1 内、灰褐7.5YR5/2	ヘラ記号
316	須恵器	杯身	1号	①(11.4) ②(3.3) ⑤2/5杯部 受部径(13.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、工具痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C: 外、にぶい黄橙10YR7/2 内、にぶい黄橙10YR6/3	ヘラ記号、穿孔、窯道具、内外面磨滅
317	須恵器	高杯(杯部)	1号左2A	①(8.4) ②(3.1) ⑤1/4杯部	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、暗赤灰7.5R4/1 内、暗赤灰10R4/1	内外面降灰、ヘラ記号
318	須恵器	高杯(杯部)	1号左2A	①(8.6) ②(3.0) ⑤1/3	外面:ヘラ切り後回転ナデ、回転ナデ後ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰5Y5/1	
319	須恵器	杯蓋 杯身	1号	杯蓋 ⑤完形 受部径12.6 杯身 ①12.0 ⑤完形	蓋:回転ナデ後回転ヘラケズリ 身:回転ナデ後回転ヘラケズリ	A:精良 杯蓋、1~8mm石英白色粒子少量 杯身、1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:杯蓋、黒褐10YR2/1 杯身、褐灰10YR5/1	蓋と身が溶着、降灰、蓋身ヘラ記号、溶着物

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
320	須恵器	杯蓋 杯身	1号左2A	杯蓋 ①(14.1) ②(2.4) 杯身 ②(2.4) ⑤1/10 受部径(14.0)	杯蓋 外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 杯身 外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:蓋身共に、外、暗青灰5P3/1 内、灰白7.5Y7/1	別個体の杯身溶着、内外面降灰
321	須恵器	杯蓋 杯身	1号	杯身a ②2.9 受部径12.9 杯蓋b ①12.2 ②3.3 杯身c ②(4.2) ⑤a完形b完形c3/5	杯身a:回転ナデ 杯蓋b:回転ナデ 杯身c:回転ナデ、指オサエ その他3個体とも降灰の為調整不明瞭	A:精良 B:良好 C:杯身a、灰黄褐10YR4/2、 杯蓋b、橙7.5YR6/6、 杯身c外、橙7.5YR6/6 内、褐灰10YR4/1	3点溶着、ヘラ記号、自然釉、全体に降灰
322	須恵器	高杯	1号左2A	①(11.2) ②(8.0) ⑤2/5 受部径(13.6)	外面:杯部回転ナデ後回転ヘラケズリ、脚部調整不明 内面:杯部回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:不良 C:外、浅黄橙10YR8/3~橙7.5YR6/6 内、浅黄橙10YR8/4	内面シボリ痕
323	須恵器	高杯 (脚部)	1号左2A	②(5.8) ③(7.6) ⑤9/10脚部	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C: 外、褐灰10YR4/1、黒褐2.5Y3/2 内、褐灰10YR4/1	ヘラ記号、内面シボリ痕、外面降灰
324	須恵器	高杯 (脚部)	1号左2A	②(5.9) ③(8.9) ⑤4/5脚部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、青灰10B6/5/1	内外面シボリ痕
325	須恵器	壺	1号左2A	①(6.4) ②(6.0) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 白色微粒子少量 B:不良 C:外、灰白5Y7/2 内、灰白5Y7/1	
326	須恵器	甕 (頸部)	1号左2A	②(11.7) ⑤破片	外面:カキメ 内面:ナデ	A:精良 1~2mm長石等白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰5Y4/1	斜線文、山形文、頸部 肩部接合痕
327	須恵器	甕	1号	長(12.2) 幅(12.1) 厚0.6 ~1.2 ⑤破片	外面:擬格子タタキ、工具痕 内面:同心円当具痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、暗赤灰10R4/1	穿孔、外面降灰
328	須恵器	甕	1号右	⑤破片	外面:擬格子タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰10Y6/1	焼成前穿孔
329	瓦	平瓦	1号	長(19.8) 幅(11.2) 厚0.8 ~1.4 ⑤1/6 側縁部	凹面:ケズリ 凸面:端部面取り、ヘラケズリ 凸面:端部面取り、ケズリ後ナデ、タタキ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、黄灰2.5Y5/1 凸、黄灰2.5Y5/1	布目痕、横骨痕、粘土 帯の継目、紐の痕跡
330	瓦	平瓦	1号	長(15.5) 幅(11.5) 厚1.5 ~2.1 ⑤1/6 側縁部	凹面:ケズリ 凸面:端部面取り、タタキ後ケズリ、帯状粘土貼り 合わせ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰5Y6/1 凸、灰5Y6/1	布目痕、横骨痕、裏の 破片溶着(同心円当具 痕)
331	瓦	平瓦	1号左2A	長(12.2) 幅(9.8) 厚1.2 ~1.6 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:タタキ、ナデ	A:精良 B:良好 C:凹、灰5Y6/1~黄灰2.5Y6/1 凸、灰5Y6/1	布目痕、横骨痕、紐の 痕跡
332	瓦	平瓦	1号	長(8.2) 幅(18.3) 厚1.2 ⑤1/7 側縁部	凹面:タタキ後ナデ、工具痕 凸面:タタキ後ナデ、工具痕	A:精良 B:良好 C:凹、褐灰10YR4/1 凸、黒褐10YR3/1	糸切り痕、降灰
333	瓦	平瓦	1号右	長(14.9) 幅(10.4) 厚1.2 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:端部面取り、平行タタキ後ナデ、ケズリ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰白2.5Y7/1 凸、黄灰2.5Y6/1	布目痕、横骨痕、糸切 り痕
334	瓦	平瓦	1号	長(14.2) 幅(9.1) 厚1.5 ⑤1/10 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:端部面取り、タタキ	A:1~3mm白色粒子多量 B:良好 C:凹、灰N6/ 凸、灰N6/	布目痕、横骨痕
335	瓦	平瓦	1号	長(11.2) 幅(7.9) 厚1.2 ⑤1/16 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:ヘラケズリ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰N6/ 凸、黄灰2.5Y6/1	布目痕、横骨痕
336	瓦	平瓦	1号	長(10.1) 幅(10.3) 厚0.7 ~1.2 ⑤1/10 側縁部	凹面:降灰の為調整不明瞭 凸面:タタキ後ナデ	A:2~3mm白色粒子黒色粒子少量 B:良好 C:凹、暗赤灰7.5R3/1 凸、灰5Y5/1	布目痕、横骨痕、凹面 降灰、溶着物
337	瓦	平瓦	1号右	長(9.3) 幅(7.9) 厚1.6 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:タタキ後ナデ	A:精良 B:良好 C:凹、灰N4/ 凸、灰7.5Y5/1	布目痕、横骨痕、紐の 痕跡、凸面降灰
338	瓦	平瓦	1号右	長(11.0) 幅(8.6) 厚1.2 ⑤1/16 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:ヘラケズリ	A:精良 1~4mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰N5/ 凸、灰N4/	布目痕、横骨痕
339	瓦	平瓦	1号	長(9.5) 幅(7.4) 厚1.0~ 1.1 ⑤1/15 側縁部、狭端部	凹面:端部面取り 凸面:端部面取り、ケズリ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、黄灰2.5Y5/1 凸、黒褐2.5Y3/1	布目痕、横骨痕
340	瓦	平瓦	1号右	長(8.3) 幅(7.6) 厚1.1~ 1.4 ⑤1/15 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭	A:1mm石英赤色粒子少量 B:不良 C:凹、橙5YR6/6 凸、橙5YR7/6	布目痕、横骨痕、紐の 痕跡、凸面降灰
341	瓦	平瓦	1号	長(6.4) 幅(8.0) 厚1.9 ⑤1/30 広端部	凹面:端部面取り 凸面:タタキ後ナデ 工具痕	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、青灰5B6/1 凸、暗青灰5B4/1	布目痕、横骨痕、糸切 り痕
342	瓦	平瓦	1号	長(6.6) 幅(9.5) 厚1.1~ 1.6 ⑤破片 狭端部	凹面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭 凸面:ナデ、磨滅により調整不明瞭	A:1~2mm白色石英少量赤色粒子ごく少量 B:不良 C:凹、橙5YR7/6 凸、橙5YR6/6	布目痕、紐の痕跡、凹 凸面磨滅
343	瓦	平瓦	1号	長(7.4) 幅(7.2) 厚0.9~ 1.5 ⑤1/20	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:タタキ、磨滅により調整不明瞭	A:精良 微細黒雲母ごく少量 B:不良 C:凹、橙7.5YR6/6 凸、橙7.5YR7/6	横骨痕、凹凸面磨滅
344	瓦	平瓦	1号右	長(11.1) 幅(5.9) 厚1.1 ~1.3 ⑤1/9 側縁部、狭端部	凹面:端部面取り、ケズリ 凸面:端部面取り、タタキ後ナデ、指オサエ、工 具痕	A:1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰5Y5/1 凸、黄灰2.5Y5/1	布目痕、横骨痕、糸切 り痕、溶着物
345	瓦	平瓦	1号	長(13.1) 幅(10.4) 厚0.8 ~1.3 ⑤1/5~1/8 側縁部	凹面:端部面取り、ケズリ 凸面:端部面取り、タタキ後ナデ、工具痕、指オ サエ	A:1~3mm石英少量 B:良好 C:凹、にぶい赤褐5YR4/3 凸、灰褐5YR4/2	布目痕、横骨痕、糸切 り痕、紐の痕跡
346	瓦	平瓦	1号	長(10.6) 幅(11.4) 厚1.6 ⑤1/9 側縁部、狭端部	凹面:端部面取り 凸面:端部面取り、平行タタキ後ナデ	A:2~3mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、オリブ黒10Y3/1 凸、灰N5/	布目痕、横骨痕
347	瓦	平瓦	1号	長(7.3) 幅(8.9) 厚0.7~ 1.4 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り、工具痕 凸面:平行タタキ後ナデ、工具痕、指オサエ	A:1~5mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、黄灰2.5Y5/1 凸、灰5Y4/1	布目痕、横骨痕、糸切 り痕、凸面降灰
348	瓦	平瓦	1号	長(6.8) 幅(9.0) 厚1.4 ⑤1/25 側縁部	凹面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:1~2mm白色粒子少量 B:不良 C:凹、橙5YR7/6 凸、橙5YR7/6	布目痕、横骨痕、凹凸 面磨滅
349	瓦	平瓦	1号右	長(6.3) 幅(6.3) 厚1.4~ 2.1 ⑤1/25 側縁部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:端部面取り、タタキ後ナデ、工具痕	A:1~3mm白色粒子少量 B:凹、良好 凸、不良 C:凹、黄灰2.5Y5/1 凸、黄灰2.5Y7/3	横骨痕、凹面磨滅
大谷窯跡群 2号窯跡							
350	須恵器	杯蓋	2号燃焼部	①11.8 ②4.1 ⑤完形	外面:回転ナデ、ヘラ切り後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、天井部指オサエ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、明オリブ灰2.5GY7/1 内、灰白5Y7/2	ヘラ記号
351	須恵器	杯蓋	2号燃焼部	①12.1 ②3.2 ⑤完形 受部径14.4 擴み径2.7	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、明オリブ灰2.5GY7/1 内、灰白10Y7/1	
352	須恵器	杯蓋	2号燃焼部	①(17.8) ②1.2 ⑤1/2 擴み径2.7	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5B6/5/1 内、青灰5B6/5/1	
353	須恵器	高杯 (杯部)	2号燃焼部	①(15.8) ②(4.1) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰10Y6/1 内、灰10Y6/1	外面降灰
354	須恵器	杯身	2号焚口	①11.6 ②3.7 ⑤2/3 受部径13.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1~灰N5/ 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号、外面降灰、 溶着物

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
355	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①(10.2) ②(3.0) ⑤1/4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英微細長石1mm白色粒子少量 B: やや不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰白2.5Y7/1	
356	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①12.0 ②3.5 ⑤1/2	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:不良 C:外、灰褐7.5YR5/2 内、にぶい橙7.5YR5/3	窯道具、焼成前穿孔
357	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①(12.0) ②4.0 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、褐灰10YR5/1	ヘラ記号
358	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①(12.4) ②4.0 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~2mm白色粒子やや多量 B:不良 C:外、にぶい橙7.5YR6/4~7/3 内、にぶい橙7.5YR7/3	ヘラ記号
359	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①12.6 ②4.2 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英微細長石少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰白2.5Y8/2	
360	須恵器	杯蓋	2号焼成部	①(11.2) ②3.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子微量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号、降灰、焼成時の気泡による膨張
361	須恵器	杯身	2号焼成部	①9.8 ②3.3 ③6.1 ⑤完形 受部径11.8	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5PB5/1~暗青灰5PB3/1 内、暗青灰5PB4/1	ヘラ記号、歪み、外面降灰
362	須恵器	杯身	2号焼成部	①(9.8) ②3.5 ⑤1/2 受部径(11.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英長石多量 B:良好 C:外、暗赤灰2.5YR3/1~赤灰2.5YR4/1 内、赤灰2.5YR4/1	ヘラ記号、外面降灰、別個体溶着物
363	須恵器	杯身	2号焼成部	①(10.6) ②3.4 ⑤1/2 受部径(12.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細白色粒子微量 B:不良 C:外、淡黄2.5Y8/3 内、淡黄2.5Y8/3	ヘラ記号
364	須恵器	杯身	2号焼成部	①(10.6) ②3.6 ⑤2/3 受部径(12.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細石英長石微量 B:良好 C:外、灰5Y4/1~灰オリーブ5Y6/2 内、灰5Y5/1	ヘラ記号、重焼痕、外面降灰
365	須恵器	杯身	2号焼成部	①(10.8) ②3.7 ⑤1/2 受部径(13.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~2mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号
366	須恵器	杯身	2号焼成部	①(11.4) ②3.4 ⑤1/2 受部径(14.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1~灰N5/ 内、灰10Y6/1	ヘラ記号
367	須恵器	杯身	2号焼成部	①(10.2) ②3.4 ⑤1/4 受部径(12.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y5/1	ヘラ記号、焼成後穿孔
368	須恵器	杯身	2号焼成部	①(11.8) ②(2.2) ⑤1/3 受部径(14.0)	外面:回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面:	A:精良 微細石英長石微量 B:良好 C:外、暗オリーブ灰5Y3/1 内、灰7.5Y4/1	重焼痕、内外面降灰、溶着物
369	須恵器	高杯(杯部)	2号焼成部	①(10.8) ②(3.3) ⑤1/4	外面:回転ヘラケズリ後カキメ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N4/	
370	須恵器	高杯(杯部)	2号焼成部	①(11.6) ②3.0 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、青5B5/1、黒N2/、灰白5Y7/2 内、灰10Y5/1	ヘラ記号、外面降灰
371	須恵器	大甕(口縁)	2号焼成部	①(42.0) ②(8.1) ⑤破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量3mm白色粒子少量 B: やや不良 C:外、褐灰7.5YR4/1 内、灰褐7.5YR4/2	斜線文
372	須恵器	甕(口縁)	2号焼成部	②(3.5) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子微量 B:良好 C:外、緑灰5G5/1 内、暗緑灰10G4/1	
373	須恵器	杯蓋	2号灰原上層	①10.8 ②3.4 ⑤3/4	外面:回転ナデ後一部回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 微細白色粒子やや多量 B:やや不良 C:外、灰10Y4/1 内、灰10Y4/1	ヘラ記号、外面降灰
374	須恵器	杯蓋	2号灰原上層	①(11.4) ②3.8 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/~暗灰N3/ 内、オリーブ灰2.5G6/1	ヘラ記号、外面降灰
375	須恵器	杯蓋	2号灰原上層	①(11.6) ②3.4 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細石英長石微量 B:良好 C:外、灰白5Y7/2、黒N5/ 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰
376	須恵器	杯蓋	2号灰原上層	①(11.6) ②4.2 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰黄2.5Y7/2	ヘラ記号、全体的に摩耗
377	須恵器	杯蓋	2号灰原上層	①(12.0) ②3.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石やや多量微細金雲母微量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、黄灰2.5Y5/1	ヘラ記号
378	須恵器	杯蓋	2号灰原上層	①(12.0) ②3.8 ⑤1/2	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリーブ灰2.5G5/1 内、オリーブ灰2.5G6/1	ヘラ記号
379	須恵器	杯蓋	2号灰原上層	①12.2 ②4.3 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号、歪み
380	須恵器	杯身	2号灰原上層	①(10.3) ②3.5 ⑤1/4 受部径(12.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰10Y4/1	焼成前穿孔
381	須恵器	杯身	2号灰原上層	①9.3 ②3.5 ③3/4 受部径12.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 白色粒子やや多量 B:良好 C:外、灰10Y7/1 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰
382	須恵器	杯身	2号灰原上層	①10.2 ②3.4 ⑤ほぼ完形 受部径12.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N4/	ヘラ記号、歪み
383	須恵器	杯身	2号灰原上層	①(10.5) ②3.7 ⑤3/4 受部径(12.6)	外面:回転ナデ後一部回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号
384	須恵器	高杯(杯部)	2号灰原上層	①(10.0) ②(5.4) ⑤3/4	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、黄灰2.5Y5/1	内外面降灰
385	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(11.1) ②(3.7) ⑤3/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	ヘラ記号
386	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(11.8) ②3.7 ⑤1/6	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号、歪み
387	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(11.9) ②3.5 ⑤1/6	外面:回転ナデ、一部回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、褐灰N4/1 内、褐灰N5/1	ヘラ記号
388	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①11.1 ②3.4 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	ヘラ記号
389	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(11.4) ②2.9 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 B:良好 C:外、黒N2/ 内、暗灰N3/	ヘラ記号
390	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(12.2) ②3.8 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	ヘラ記号
391	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①12.2 ②3.3 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石多量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰黄2.5Y6/2	ヘラ記号
392	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(11.2) ②3.5 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~5mm石英多量 B:良好 C:外、灰オリーブ7.5Y6/2~暗灰N3/ 内、暗オリーブ灰5G4/1	ヘラ記号
393	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①11.9 ②3.2 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/1 内、灰白5Y7/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
394	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①11.8 ②3.7 ⑤ほぼ完形 穿孔径1.9	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、暗 オリーフ灰2.5G/4/1 内、灰7.5V4/1~灰褐 7.5YR4/2	ヘラ記号、焼成前穿 孔、外面降灰
395	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(11.6) ②3.1 ⑤1/2 穿孔径(1.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 穿孔部分微細金雲母微量 B:やや不良 C:外、浅黄2.5Y7/3 内、暗青灰5B6/4/1~黒 N1.5/	内外面ヘラ記号、焼成 前穿孔、溶着物、一部 降灰
396	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(13.8) ②2.4 ⑤1/2 穿孔径2.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細金雲母1mm白色粒子微量 B:やや 不良 C:灰黄2.5Y6/2~黒2.5Y2/1 内、暗灰N3/ ~灰黄2.5Y7/2	ヘラ記号、穿孔
397	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	②(1.8) ⑤穿孔部破片 穿孔径(2.8)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰5V6/1	ヘラ記号、焼成前穿孔
398	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(10.4) ②3.6 ⑤1/2 穿孔径1.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細金雲母白色粒子微量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y6/1~黒2.5Y2/1 内、暗灰N3/	穿孔、外面降灰
399	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(12.0) ②4.2 ⑤1/4 穿孔径2.6	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5V4/1~灰黄2.5Y6/2 内、黄灰 2.5Y5/1	焼成前穿孔
400	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	②(1.0) ⑤穿孔部破片	外面:ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~3mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号、焼成前穿孔
401	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(8.6) ②1.8 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y5/1	
402	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(9.0) ②3.1 ⑤1/4 受部径(11.5) 擴み径(1.7)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰5V4/1 内、灰N4/	
403	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(9.0) ②3.5 ⑤1/3 受部径(11.5) 擴み径1.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、暗灰黄2.5Y4/2 内、暗灰黄2.5Y4/2	
404	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①8.1 ②2.4 ⑤4/5 受部径10.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm石英多量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、褐灰7.5YR5/1	ヘラ記号
405	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①(9.4) ②2.4 ⑤2/3 受部径1.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、暗青灰5B3/1 内、暗青灰5B4/1	ヘラ記号、擴み貼付、 外面降灰、自然釉
406	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	①9.7 ②2.2 ⑤完形 擴み径2.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm石英少量 B:良好 C:外、暗オリーフ灰2.5G/3/1 内、灰N4/	ヘラ記号、別個体溶着
407	須恵器	高杯蓋	2号灰原下層	①(12.6) ②4.2 ⑤1/4 受部径(15.2) 擴み径(1.5)	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 5mm白色粒子1~3mm石英多量 B:良好 C:外、暗灰5G4/1 内、青灰5B5/1	重焼痕、外面降灰
408	須恵器	杯蓋	2号灰原下層	②3.0 ⑤1/8天井部~肩部 擴み径3.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰5V4/1 内、灰5V4/1	
409	須恵器	杯身	2号灰原下層	①9.9 ②3.1 ⑤ほぼ完形 受部径12.2	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~5mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰オリーフ5Y5/2	ヘラ記号
410	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.3 ②3.6 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量黒色粒子多量 B:やや良 好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰N6/	ヘラ記号、外面降灰、 鉄分溶着
411	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.0 ②4.0 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英多量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰オリーフ7.5Y5/2	ヘラ記号、外面降灰、 鉄分溶着
412	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.2 ②2.9 ⑤3/4 受部径12.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、にぶい極5YR6/4 内、にぶい極5YR6/4	ヘラ記号
413	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.2 ②3.2 ⑤3/4 受部径12.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、黄褐2.5Y5/3 内、黄灰2.5Y5/1	ヘラ記号
414	須恵器	杯身	2号灰原下層	①(10.2) ②3.3 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰白N7/	ヘラ記号
415	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.4 ②4.0 ⑤ほぼ完形 受部径12.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、浅黄2.5Y7/3 内、浅黄2.5Y7/3	ヘラ記号
416	須恵器	杯身	2号灰原下層	①(10.4) ②4.1 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~2mm石英多量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰N5/	ヘラ記号、重焼痕、別 個体溶着
417	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.5 ②3.7 ⑤3/4 受部径13.7	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰5V6/1 内、灰5V5/1	ヘラ記号
418	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.0 ②3.1 ⑤2/3	外面:回転ナデ後一部回転ヘラケズリ、ヘラ切り 後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 B:良好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰N6/	ヘラ記号、外面降灰
419	須恵器	杯身	2号灰原下層	①11.4 ②3.7 ⑤ほぼ完形 受部径13.5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰5V4/1 内、灰5Y5/1	ヘラ記号、別個体溶着
420	須恵器	杯身	2号灰原下層	①12.2 ②3.2 ⑤3/4 受部径10.4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰5V6/1 内、灰黄2.5Y6/2	ヘラ記号
421	須恵器	杯身	2号灰原下層	①12.6 ②3.9 ⑤2/3 受部径10.1	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、 褐灰10YR5/1~灰黄褐10YR5/2 内、灰5YR5/1	ヘラ記号
422	須恵器	杯身	2号灰原下層	①(11.2) ②3.6 ⑤1/4 受部径(13.0)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや良好 C:外、灰5V4/1 内、灰5Y5/1	ヘラ記号、焼成前穿孔
423	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.0 ②3.4 ⑤3/4 受部径12.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰7.5Y5/1	別個体溶着、外面降灰
424	須恵器	杯身	2号灰原下層	①9.9 ②3.5 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、暗灰N3/	ヘラ記号
425	須恵器	杯身	2号灰原下層	①10.2 ②4.7 ⑤1/4口縁部	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰5V4/1 内、灰5V4/1	焼成時の気泡による膨 張
426	須恵器	杯身	2号灰原下層	①(10.4) ②(3.8) ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	内面焼成時の気泡あり
427	須恵器	杯身	2号灰原下層	①(12.4) ②4.1 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英角閃石少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y5/1	外面降灰、自然釉
428	須恵器	椀	2号灰原下層	①(9.4) ②4.2 ⑤1/3	外面:回転ナデ、底部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 5mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰黄2.5Y5/2 内、暗灰黄2.5Y5/2	ヘラ記号
429	須恵器	椀	2号灰原下層	①(9.6) ②4.5 ③(5.8) ⑤1/4	外面:白色粒子少量、一部回転ヘラケズリ、底部ヘラ 切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、暗青灰5B4/1	ヘラ記号
430	須恵器	椀	2号灰原下層	①(14.0) ②(6.1) ⑤1/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	突帯貼付
431	須恵器	椀	2号灰原下層	②(4.9) ⑤1/2	外面:回転ナデ後カキメ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰 7.5Y5/1 内、浅黄2.5Y7/3~灰褐10YR6/1	ヘラ記号
432	須恵器	鉢	2号灰原下層	①(15.0) ②(5.0) ⑤1/8	外面:回転ナデ後カキメ、底部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄 2.5Y6/2~オリーフ黒7.5Y3/1 内、暗灰N1/	
433	須恵器	杯	2号灰原下層	①(16.6) ②4.7 ⑤1/3	外面:回転ナデ後カキメ、底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰白N7/	ヘラ記号

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調		備考
434	須恵器	高杯 (脚部)	2号灰原下層	②(6.8) ⑤2/3 脚幅径(8.2)	外面:回転ナデ 杯部カキメ 内面:回転ナデ 杯部ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子多量 B:良好 C: 外、杯部、暗灰N3/、脚部、灰赤2.5YR4/2 内、 杯部、暗灰N3/、脚部、灰赤2.5YR4/2		
435	須恵器	壺蓋	2号灰原下層	①(6.6) ②3.5 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm石英多量 B:良好 C: 外、灰赤1.5YR6/2 内、灰赤7.5YR5/2		ヘラ記号
436	須恵器	壺蓋	2号灰原下層	①(8.2) ②3.3 ⑤1/3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm角閃石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰5Y6/1		ヘラ記号、外面磨減
437	須恵器	壺	2号灰原下層	②(4.9) ③3.4 ⑤1/3	外面:回転ナデ、一部回転ヘラケズリ、底部ヘラ 切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、褐灰5YR4/1 内、褐灰5YR4/1		ヘラ記号
438	須恵器	平瓶	2号灰原下層	①(6.4) ②(15.4) ⑤2/3	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ、閉塞痕	A:精良 微細長石1~3mm白色粒子少量1mm黒色粒 子多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/		自然釉、外面降灰
439	須恵器	平瓶	2号灰原下層	②(9.8) ⑤2/3 頸部径4.5	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ、閉塞痕	A:精良 微細長石1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰5Y4/1		ヘラ記号
440	須恵器	瓶/壺	2号灰原下層	②(8.2) ③(12.4) ⑤1/4底部	外面:回転ナデ後下半部のみヘラケズリ、底部ナ デ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰5Y6/1		
441	須恵器	平瓶	2号灰原下層	②(11.4) ⑤2/3 頸部径(6.2)	外面:回転ナデ後上半部カキメ下半部回転ヘラケ ズリ 内面:回転ナデ、閉塞痕	A:精良 1~3mm石英少量 B:やや不良 C:外、褐灰10YR6/1 内、褐灰10YR6/1		ヘラ記号
442	須恵器	瓶/壺	2号灰原下層	②(11.3) ⑤1/3	外面:回転ナデ後上半部カキメ下半部回転ヘラケ ズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2		
443	須恵器	把手 瓶/壺	2号灰原下層	長(8.5) 幅(4.3) 厚3.0	外面:工具ナデ、先端部ケズリ 指オサエ 内面:ナデ	A:精良 1mm石英長石微量 B:良好 C:外、灰 白5Y8/1~灰5Y6/1 内、灰白5Y8/1~灰5Y6/1		
444	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原下層	①14.2 ②(6.4) ⑤口縁部完形	外面:回転ナデ 頸部平行タタキ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰 7.5Y5/1 内、褐灰7.5YR5/1		ヘラ記号
445	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原下層	①18.0 ②(7.6) ⑤口縁部完形	外面:口縁部回転ナデ後カキメ 体部平行タタキ 後カキメ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 2mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄褐10YR6/2 内、暗赤褐7.5R3/2		自然釉
446	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原下層	①(23.4) ②(12.6) ⑤1/3口縁部	外面:口縁部回転ナデ 体部縦格子タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 2mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄 2.5Y7/2~黒N2/ 内、灰黄2.5Y7/2~暗灰N3/		
447	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原下層	①(44.0) ②(14.1) ⑤1/2口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄 2.5Y6/2 内、暗灰黄2.5Y5/2~オリーブ黒 2.5GY6/1		斜線文
448	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原下層	②(15.8) ⑤1/12口縁部	外面:回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1~灰5Y4/1 内、灰5Y6/1		ヘラ記号
449	須恵器	甕 (体部)	2号灰原下層	②(11.6) ⑤胴部破片	外面:平行タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 2mm長石少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰5Y4/1		焼成前穿孔
450	瓦	平瓦	2号灰原下層	長(14.3) 幅(13.7) 厚 (2.0) ⑤破片 側縁部	凹:端面面取り 凸:平行タタキ後ナデ	A:砂粒1~2mm石英少量 B:良好 C:凹、灰7.5Y5/1 凸、灰N6/		布目痕、模骨痕
451	瓦	平瓦	2号灰原下層	長(13.6) 幅(8.2) 厚1.2 ⑤破片 側縁部、広端部	凹:端面面取り 凸:ナデ	A:砂粒1~2mm石英少量 B:良好 C:凹、灰7.5Y6/1 凸、灰7.5Y6/1		布目痕、模骨痕
452	瓦	平瓦	2号灰原下層	長(12.0) 幅(9.5) 厚1.9 ⑤破片 側縁部、広端部	凹:一部ナデ 凸:ナデ、ケズリ	A:砂粒1~2mm石英少量 B:良好 C:凹、灰7.5Y6/1 凸、灰7.5Y5/1		布目痕、模骨痕、細の 痕跡
453	瓦	丸瓦	2号灰原下層	長(7.4) 幅(6.6) 厚1.3 ⑤破片 側縁部	凹:端面面取り 凸:ナデ、一部ケズリ	A:砂粒1~2mm石英少量 B:良好 C:凹、灰7.5Y6/1 凸、灰7.5Y7/1		布目痕、模骨痕
454	須恵器	杯蓋	2号灰原	①9.7 ②3.1 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/		ヘラ記号
455	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(10.2) ②2.2 ⑤1/2	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、暗青灰5PB4/1		ヘラ記号、外面降灰
456	須恵器	杯蓋	2号灰原	①10.6 ②3.7 ⑤1/4	外面:回転ナデ、一部回転ヘラケズリ、ヘラ切り 後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、赤灰2.5YR4/1 内、赤灰2.5YR4/1		ヘラ記号、焼成前穿孔
457	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.0) ②3.2 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/1 内、灰白5Y8/1		ヘラ記号、一部磨減
458	須恵器	杯蓋	2号灰原	①11.3 ②3.5 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後一部回転ヘラケズリ ヘラ切り 後ナデ、一部剥離の為調整不明 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、赤灰2.5YR4/1 内、赤灰2.5YR4/1		ヘラ記号
459	須恵器	杯蓋	2号灰原	①11.0 ②3.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm石英多量微細長石少量 B:やや 不良 C:外、灰赤1.5YR6/2 内、灰赤1.5YR6/2 7.5Y5/2		ヘラ記号
460	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.0) ②3.7 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、褐灰10YR4/1		ヘラ記号
461	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.8) ②3.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、オリーブ灰5Y5/1~緑黒5G2/1 内、灰 N4/		ヘラ記号
462	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(12.0) ②3.8 ⑤2/3	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~6mm石英微細長石多量 B:良好 C:外、黒2.5GY2/1 内、灰N4/		ヘラ記号、外面降灰、 焼成時の気泡
463	須恵器	杯蓋	2号灰原	①11.4 ②3.2 ⑤3/4	外面:回転ナデ後一部回転ヘラケズリ ヘラ切り 後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子多量1~3mm石英少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、灰N4/		ヘラ記号、外面降灰
464	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.4) ②3.8 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英多量2mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/		ヘラ記号
465	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.2 ②4.1 ⑤3/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰褐5YR6/2 内、明褐灰7.5YR7/2		ヘラ記号
466	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.0 ②4.2 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1		ヘラ記号
467	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.0 ②4.0 ⑤4/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、暗緑灰7.5GY4/1 内、暗緑灰7.5GY4/1		ヘラ記号
468	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.6 ②4.4 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2		ヘラ記号、歪み
469	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(12.2) ②3.2 ⑤1/2	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2~3mm石英少量 B:良好 C:外、暗 オリーブ灰2.5GY4/1 内、暗オリーブ灰5GY4/1		ヘラ記号、一部降灰

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径④最大径⑤残存 ※(復元) (残存)				
470	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.6 ②4.4 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2~4mm石英多量微細角閃石少量 B:やや不良 C:外、オリブ灰2.5GY6/1 内、オリブ灰2.5GY5/1	ヘラ記号	
471	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.0 ②4.2 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N4/内、灰N4/		
472	須恵器	杯蓋	2号灰原	①10.1 ②3.6 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ、底部調整不明 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、浅黄2.5Y7/3		
473	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.6 ②3.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、灰N4/	自然釉、外面降灰	
474	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.3) ②3.4 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰褐5YR4/2 内、褐灰5YR4/1	ヘラ記号	
475	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.4) ②4.1 ⑤3/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰白N7/ 内、灰N6/	ヘラ記号、外面降灰	
476	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.5) ②3.2 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm石英多量3~5mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリブ灰5GY5/1 内、灰N5/	ヘラ記号	
477	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(12.6) ②3.3 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm石英少量 B:良好 C:外、灰褐5YR4/2 内、灰褐5YR5/2	竹管文	
478	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(12.4) ②3.5 ⑤1/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm石英多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	竹管文	
479	須恵器	杯蓋	2号灰原	①11.6 ②3.5 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石角閃石少量 B:良好 C:外、褐灰10YR6/1 内、褐灰7.5YR6/1	竹管文	
480	須恵器	杯蓋	2号灰原	①12.0 ②3.3 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 3~4mm石英少量 B:良好 C:外、暗青灰10B6/1 内、暗青灰10B6/4/1	竹管文	
481	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.8) ②3.2 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm石英多量 B:良好 C:外、赤褐10R4/3 内、灰赤10R4/2	竹管文	
482	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(12.0) ②3.6 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子少量黒色粒子少量 B:良好 C:外、灰白N6/ 内、灰白N6/	竹管文	
483	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(11.0) ②3.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:砂粒少量1mm石英少量 B:不良 C:外、灰白5Y8/2 内、灰白5Y8/2	穿孔、内外面磨減	
484	須恵器	杯蓋	2号灰原	②(3.1) ⑤1/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後一部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm石英多量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄褐10YR6/2	ヘラ記号、穿孔	
485	須恵器	杯蓋	2号灰原	①8.6 ②2.3 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、オリブ灰2.5GY5/1 内、オリブ灰2.5GY5/1	ヘラ記号	
486	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(7.6) ②3.0 ⑤1/4 受部径(9.8) 幅み径1.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	外面降灰	
487	須恵器	杯蓋	2号灰原	①8.8 ②3.2 ⑤1/2 受部径11.0 幅み径1.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm角閃石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、暗青灰5B4/1		
488	須恵器	杯蓋	2号灰原	①9.0 ②3.1 ⑤3/4 受部径10.6 幅み径1.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、暗灰N3/	外面降灰	
489	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(9.5) ②(2.3) ⑤3/4 受部径11.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰10Y6/1 内、灰10Y6/1	幅み部欠損	
490	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(10.0) ②1.8 ⑤1/2 受部径(11.6) 幅み径2.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰10Y5/1	外面降灰、歪み	
491	須恵器	杯蓋	2号灰原	①(12.6) ②(2.9) ⑤1/2 受部径(15.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰10Y5/1	幅み部欠損、幅み部貼付	
492	須恵器	杯蓋	2号灰原	①15.0 ②2.5 ⑤2/3 受部径15.4 幅み径3.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子多量3~5mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰赤10R5/2 内、灰5Y5/1 ~灰赤10R5/2	外面黒色化	
493	須恵器	杯身	2号灰原	①(9.4) ②2.4 ⑤1/3 受部径(11.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、オリブ灰2.5GY6/1 内、青灰10B6/1	ヘラ記号、外面降灰	
494	須恵器	杯身	2号灰原	①(9.2) ②2.9 ⑤3/4 受部径(11.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰白5Y7/2	ヘラ記号	
495	須恵器	杯身	2号灰原	①9.7 ②3.8 ⑤3/4 受部径12.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、灰白7.5Y7/2 内、灰白7.5Y7/2	ヘラ記号	
496	須恵器	杯身	2号灰原	①(9.6) ②3.5 ⑤1/2 受部径(11.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、オリブ灰2.5GY6/1	ヘラ記号	
497	須恵器	杯身	2号灰原	①(10.8) ②4.1 ⑤1/2 受部径(12.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰白5Y7/1 内、灰N4/	ヘラ記号、外面降灰	
498	須恵器	杯身	2号灰原	①10.2 ②3.4 ⑤完形 受部径12.2	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子少量黒色粒子多量2~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号	
499	須恵器	杯身	2号灰原	①(10.4) ②3.4 ⑤2/3 受部径(12.4)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子やや多量2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y4/1 内、灰N5/	ヘラ記号、溶着物、外面降灰	
500	須恵器	杯身	2号灰原	①(10.6) ②3.5 ⑤3/4 受部径(12.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英多量1mm長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰N4/	ヘラ記号、外面降灰、別個体溶着	
501	須恵器	杯身	2号灰原	①10.6 ②4.0 ⑤ほぼ完形 受部径12.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子2mm白色粒子少量1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号	
502	須恵器	杯身	2号灰原	①(9.8) ②3.2 ⑤1/3 受部径(12.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、青灰5B6/1	ヘラ記号	
503	須恵器	杯身	2号灰原	①(10.8) ②(3.7) ⑤1/3 受部径(13.0)	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5B6/1 内、青灰5B6/1	ヘラ記号、外面降灰	
504	須恵器	杯身	2号灰原	①11.2 ②3.6 ⑤ほぼ完形 受部径13.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 黒色粒子2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、オリブ黒10Y3/1	ヘラ記号、歪み	
505	須恵器	杯身	2号灰原	①(11.0) ②(3.3) ⑤1/4 受部径(13.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y6/1	竹管文	
506	須恵器	杯身	2号灰原	①(10.4) ②(3.4) ⑤1/4 受部径(12.4)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子多量黒色粒子2~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、暗灰N3/	ヘラ記号、焼成前穿孔	
507	須恵器	杯身	2号灰原	①(10.6) ②2.8 ⑤1/6 受部径(12.2)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、暗灰N3/	ヘラ記号、焼成前穿孔	
508	須恵器	杯身	2号灰原	②(3.6) ⑤1/5 受部径(12.4)	外面:磨減の為調整不明 内面:回転ナデ	A:精良 白色粒子少量赤色粒子多量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰白2.5Y8/2	外面磨減、焼成前穿孔	
509	須恵器	杯身	2号灰原	②(2.3) ⑤底部破片	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰褐7.5YR5/2 内、にぶい褐7.5YR5/3	ヘラ記号、焼成前穿孔	
510	須恵器	杯身	2号灰原	②(1.8) ⑤底部破片	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~10mm白色粒子多量 B:良好 C:外、にぶい橙7.5YR7/3 内、褐灰10YR4/1	焼成前穿孔、ヘラ記号	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径④最大径⑤残存 ※(復元) (残存)			
511	須恵器	杯身	2号灰原	①(9.9) ②4.2 ③1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰白5Y7/1~灰7.5Y4/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号
512	須恵器	杯身	2号灰原	①(9.8) ②4.1 ③3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰オリブ7.5Y5/2 内、灰オリブ7.5Y5/2	ヘラ記号
513	須恵器	杯身	2号灰原	①10.4 ②3.9 ③1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 1mm長石角閃石微量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y5/1	
514	須恵器	杯身	2号灰原	①10.6 ②3.8 ③3/4	外面:回転ナデ後カキメ、底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y5/1	
515	須恵器	杯身	2号灰原	①(11.0) ②4.1 ③1/3	外面:回転ナデ、口縁部カキメ、底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm石英少量 B:良好 C:外、青黒5B62/1 内、青黒5B62/1	ヘラ記号
516	須恵器	杯身	2号灰原	①(11.0) ②4.4 ③1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰5Y4/1~灰褐7.5YR4/2 内、灰N4/	ヘラ記号、外面降灰
517	須恵器	杯身	2号灰原	①(11.4) ②4.2 ③1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英多量 B:良好 C:外、暗オリブ灰2.5G4/1 内、暗オリブ灰2.5G4/1	ヘラ記号
518	須恵器	椀	2号灰原	①(11.0) ②5.2 ③破片	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰黄褐10YR6/2 内、にぶい黄橙10YR7/2	ヘラ記号
519	須恵器	椀	2号灰原	①(12.1) ②(7.4) ③1/3口縁部	外面:回転ナデ後カキメ、底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰5Y6/1	
520	須恵器	椀	2号灰原	①(14.0) ②5.1 ③口縁破片	外面:回転ナデ後カキメ、底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、暗灰N3/~灰N6/ 内、灰白5Y7/1	ヘラ記号
521	須恵器	椀	2号灰原	②(4.9) ③口縁破片	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	突帯貼付
522	須恵器	椀	2号灰原	②(4.4) ③破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	
523	須恵器	高杯蓋	2号灰原	①9.4 ②4.0 ③4/5 ④受部径11.7 ⑤拵み径2.1	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~10mm白色粒子黒色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰10Y5/1	ヘラ記号、内外面降灰
524	須恵器	高杯(杯部)	2号灰原	①(9.2) ②(3.8) ③1/4	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰10B66/1 内、灰7.5Y6/1	内外面降灰
525	須恵器	高杯(杯部)	2号灰原	①(10.2) ②4.1 ③3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	
526	須恵器	高杯	2号灰原	①(16.5) ②(5.8) ③1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰オリブ7.5Y6/2 内、灰N6/	重焼痕、外面降灰、別個体溶着
527	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(6.3) ③脚部ほぼ完形 脚幅径8.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細~1mm石英長石微量 B:良好 C:外、灰N5/~黒N1.5/ 内、灰7.5Y5/1~灰黄2.5Y7/2	内面ヘラ記号、外面シボり痕、一部降灰、内面磨滅
528	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(5.6) ③脚部完形 脚幅径7.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	内面ヘラ記号、内外面シボり痕
529	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(5.3) ③脚部ほぼ完形 脚幅径7.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	内面ヘラ記号、外面降灰、内外面シボり痕
530	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(6.1) ③脚部完形 脚幅径8.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N4/	内面ヘラ記号、内外面シボり痕
531	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(5.1) ③1/2 脚幅径6.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y6/2	内面ヘラ記号、内面シボり痕
532	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(5.9) ③脚部1/2 脚幅径(6.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:やや不良 C:外、灰褐7.5YR5/2 内、灰褐7.5YR6/2	
533	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(5.2) ③脚部1/4 脚幅径(6.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細石英長石微量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y4/1~浅黄2.5Y7/3 内、黄灰2.5Y4/1	方形穿孔、内外面降灰、内面シボり痕
534	須恵器	高杯(脚部)	2号灰原	②(7.6) ③脚部完形 脚幅径10.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、青灰5B5/1	4方向に方形穿孔、外面降灰、内面シボり痕
535	須恵器	杯身 高杯(脚部)	2号灰原	①(11.2) ②3.6 ③1/4杯身 外面に高杯(脚部)溶着	外面:降灰の調整不明 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:やや不良 C:外、灰10Y4/1 内、灰7.5Y6/1	杯身と高杯(脚部)溶着、高杯(脚部)シボり痕、外面降灰
536	須恵器	サリ鉢	2号灰原	①(12.4) ②6.6 ③(7.0) ④1/2	外面:回転ナデ、底部ナデ 内面:回転ナデ	A:1~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、暗灰N3/	ヘラ記号、外面降灰
537	須恵器	サリ鉢	2号灰原	①(14.8) ②8.6 ③8.5 ④1/2	外面:回転ナデ後カキメ、底部ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰白N7/	ヘラ記号2ヶ所、底部貼付
538	須恵器	壺(口頸)	2号灰原	①(8.5) ②(6.2) ③1/5口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰褐7.5YR5/2 内、褐灰7.5YR5/1	内外面シボり痕
539	須恵器	壺(口頸)	2号灰原	①9.8 ②(9.3) ③1/4口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、褐灰7.5YR4/1 内、褐灰7.5YR4/1	外面シボり痕
540	須恵器	壺(体部)	2号灰原	②(6.0) ③胴部破片	外面:回転ナデ後体部下回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1 内、灰白5Y7/1	ヘラ記号、内面シボり痕
541	須恵器	壺(体部)	2号灰原	②(6.3) ③胴部破片	外面:回転ナデ、底部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、褐灰7.5YR6/1 内、灰褐7.5YR5/2	ヘラ記号、内面シボり痕
542	須恵器	壺(体部)	2号灰原	②(6.5) ③胴部破片	外面:回転ナデ後底部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	刺突文
543	須恵器	壺	2号灰原	①(5.0) ②(6.1) ③1/4口縁部	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰N6/	内外面降灰、溶着物、内面シボり痕
544	須恵器	壺	2号灰原	①(8.2) ②(7.8) ③1/4口縁~胴部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	
545	須恵器	壺	2号灰原	②(5.3) ③胴部破片	外面:調整不明瞭、下半部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:1~3mm石英多量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/3 内、にぶい黄橙10YR7/3	外面調整不明瞭
546	須恵器	瓶	2号灰原	②(12.9) ③1/4胴部~底部 胴部径(18.4)	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	外面降灰
547	須恵器	平瓶	2号灰原	①6.1 ②12.2 ③完形	外面:回転ナデ後カキメ、底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	側面、底部ヘラ記号
548	須恵器	平瓶	2号灰原	①(9.8) ②(5.8) ③1/3口縁~肩部	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ、閉塞痕	A:精良 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	
549	須恵器	平瓶	2号灰原	⑤頸部~肩部破片 頸部径(5.7)	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ、閉塞痕	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白N8/ 内、灰N5/	外面降灰
550	須恵器	横瓶(体部)	2号灰原	②(21.9) ③体部破片	外面:平行タタキ後回転ナデ 内面:回転ナデ、一部同心円状の当具痕、閉塞痕	A:精良 1mm白色粒子黒色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
551	須恵器	瓶	2号灰原	②(9.3) ⑤1/4 胴部径(12.6)	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰10Y5/1	
552	須恵器	瓶	2号灰原	②(10.4) ⑤4/5 胴部径(19.8)	外面:回転ナデ後カキメ、底部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	内面シボり痕
553	須恵器	甕	2号灰原	①(14.0) ②(13.8) ⑤1/4口縁部	外面:回転ナデ後一部カキメ 内面:回転ナデ、下半部に当具痕あり	A:精良 1~2mm石英少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、暗灰N3/	ヘラ記号、外面磨滅
554	須恵器	甕	2号灰原	①(14.6) ②(13.6) ⑤口縁~胴部破片	外面:口縁部回転ナデ、体部上半部回転ナデ下半 縦格子タタキ後カキメ 内面:回転ナデ、体部下半に孤状の当具痕	A:1~5mm石英1mm長石多量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、暗灰N3/	内外面降灰
555	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原	①12.4 ②(5.4) ⑤9/10口縁部	外面:口縁部回転ナデ 体部平行タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部孤状の当具痕	A:精良 1~2mm石英や多量微細長石少量 B: やや不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰黄2.5Y6/2	溶着物多量、頸部接合痕
556	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原	①18.1 ②(7.4) ⑤1/2口縁部	外面:口縁部回転ナデ 体部平行タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1~3mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰、 頸部接合痕
557	須恵器	甕	2号灰原	①16.0 ②(7.6) ⑤1/2口縁~胴部	外面:口縁部回転ナデ 体部回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号、内面降灰
558	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原	①(23.0) ②(5.3) ⑤1/3口縁部	外面:口縁部回転ナデ、体部平行タタキ後カキメ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰 N5/~灰黄2.5Y6/2 内、灰N5/~灰黄2.5Y6/2	内外面降灰
559	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原	①(21.0) ②(7.9) ⑤1/3口縁部	外面:口縁部回転ナデ 体部縦格子タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部孤状の当具痕	A:精良 1~3mm石英多量微細長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号、頸部接合痕
560	須恵器	甕 (口頸)	2号灰原	①(22.0) ②(7.4) ⑤1/2口縁部	外面:口縁部回転ナデ(平行タタキ面残る)、体部 平行タタキ後カキメ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	内外面降灰
561	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原	①(34.0) ②(15.1) ⑤1/4口縁部	外面:口縁部回転ナデ 体部平行タタキ 内面:回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm長石角閃石少量 B:良好 C:外、褐灰7.5YR4/1 内、褐灰7.5YR4/1	波状文、外面降灰
562	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原	①(35.4) ②(13.9) ⑤1/5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 指オサエ	A:精良 1~3mm石英多量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2	波状文
563	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原	①37.0 ②(15.5) ⑤2/3	外面:回転ナデ 工具痕 線刻あり 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 白色粒子1~5mm石英多量 B:不良 C:外、褐7.5YR7/6 内、褐7.5YR7/6	波状文
564	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原	①(36.0) ②(13.6) ⑤1/4口縁部	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ、一部カキメあり、接合部剥離	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰10Y5/1	斜線文、接合部剥離
565	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原	①(50.0) ②(14.0) ⑤1/3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1~4mm石英1mm長石多量 B:良好 C: 外、オリブ灰2.5G6/1、黒N2/ 内、暗灰N3/	斜線文、自然釉
566	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原	①(52.2) ②(17.8) ⑤1/4口縁~頸部	外面:口縁部回転ナデ後カキメ 体部平行タタキ 指オサエ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 B:良好 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰黄2.5Y6/2	斜線文
567	須恵器	大甕 (口頸)	2号灰原	②(16.5) ⑥口縁部破片	外面:口縁部回転ナデ、体部平行タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C: 外、灰5Y6/1~浅黄2.5Y7/3~黒N1.5/ 内、暗明 褐10R3/2~黄灰2.5Y5/1	斜線文、内外面降灰
568	須恵器	甕 (体部)	2号灰原	②(9.2) ⑧胴部破片	外面:平行タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 1mm白色粒子微量 B:不良 C:外、灰 黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2~黄灰2.5Y6/1	焼成前穿孔、外面降灰
569	須恵器	甕 (体部)	2号灰原	②(7.3) ⑧胴部破片	外面:平行タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、黒N1.5/ 内、灰N4/	焼成前穿孔、外面降灰
570	須恵器	把手 瓶/鍋	2号灰原	長8.6 幅3.5	外面:ナデ、一部指オサエ、先端部ケズリ 内面:ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、に ぶい黄橙10YR7/3~灰10YR8/2~にぶい赤褐5YR5/3 内、灰5Y5/1	
571	須恵器	切削物	2号灰原	長9.0 幅1.9 厚1.3	ケズリ、指オサエ、同心円当具痕、平行タタキ目	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰5Y4/ 内、灰N4/	
572	瓦	平瓦	2号灰原	長(14.5) 幅(17.5) 厚2.6 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:ナデ 凸面:タタキ後ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰7.5Y5/1	横骨痕
573	瓦	平瓦	2号灰原	長(11.9) 幅(12.6) 厚1.4 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:平行タタキ後ナデ、端部面取り	A:精良 1~5mm石英少量 B:良好 C:凹、暗オリブ灰5G4/1 凸、暗オリブ灰 5G4/1	布目痕、横骨痕
574	瓦	平瓦	2号灰原	長(15.6) 幅(12.6) 厚1.5 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:ナデ 端部面取り 凸面:タタキ後ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量2mm白色粒子 少量 B:良好 C:凹、暗灰N3/ 凸、灰N5/	布目痕、横骨痕、糸切 り痕
575	瓦	平瓦	2号灰原	長(10.9) 幅(10.4) 厚1.2 ⑤破片 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:タタキ後ナデ	A:精良 2~3mm石英少量 B:良好 C:凹、オリ ブ灰2.5G5/1 凸、オリブ灰2.5G5/1	布目痕、横骨痕、紐の 痕跡
576	瓦	平瓦	2号灰原	長(14.9) 幅(10.8) 厚1.8 ⑤破片 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:平行タタキ後ナデ、端部面取り	A:精良 1~5mm石英多量 B:良好 C:凹、暗 オリブ灰2.5G4/1 凸、暗オリブ灰2.5G4/1	布目痕、横骨痕
577	瓦	平瓦	2号灰原	長(14.6) 幅(10.0) 厚1.9 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:タタキ後ナデ、端部面取り	A:精良 B:良好 C:凹、灰N5/ 凸、灰白5Y8/1~灰N5/	布目痕、横骨痕
578	瓦	平瓦	2号灰原	長(11.4) 幅(11.3) 厚1.3 ⑤破片 側縁部	凹面:ナデ 凸面:ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:凹、灰N6/ 凸、灰N6/	横骨痕 凹面降灰 置 台片溶着
579	瓦	平瓦	2号灰原	長(5.0) 幅(9.0) 厚1.0 ⑤破片 側縁部、狭端部	凹面:一部ナデ 凸面:ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:良 好 C:凹、灰N5/ 凸、灰N5/	布目痕、横骨痕
580	瓦	平瓦	2号灰原	長(7.6) 幅(8.3) 厚1.3 ⑤破片 側縁部	凹面:ナデ 線刻あり 凸面:ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:凹、灰N5/ 凸、灰N5/	布目痕、横骨痕、凹面 降灰
581	瓦	平瓦	2号灰原	長(12.3) 幅(8.2) 厚1.5 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1~5mm石英多量 B:不良 C:凹、黄橙10YR8/6 凸、浅黄橙10YR8/4	横骨痕、焼成前穿孔、 凹凸面磨滅
582	瓦	平瓦	2号灰原	長(10.8) 幅(8.5) 厚1.3 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:ナデ、端部面取り	A:精良 1mm石英少量 B:不良 C:凹、浅黄橙10YR8/4 凸、浅黄橙10YR8/4	布目痕、横骨痕、凹凸 面磨滅
583	瓦	平瓦	2号灰原	長(6.9) 幅(7.2) 厚1.1 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:一部ナデ 凸面:ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:不 良 C:凹、灰黄2.5Y7/2 凸、灰黄2.5Y6/2	布目痕、横骨痕
584	瓦	平瓦	2号灰原	長(9.4) 幅(7.3) 厚1.3 ⑤破片	凹面: 凸面:ナデ	A:精良 B:やや不良 C:凹、灰オリブ5Y6/2 凸、灰オリブ5Y6/2	布目痕、横骨痕、紐の 痕跡
585	瓦	平瓦	2号灰原	長(13.1) 幅(4.9) 厚1.2 ⑤破片 広端部	凹面: 凸面:ナデ	A:精良 1~3mm石英少量 B:良好 C:凹、灰N6/ 凸、灰N6/	布目痕、横骨痕、二次 被熱
586	瓦	平瓦	2号灰原	長(10.5) 幅(9.6) 厚1.1 ⑤破片	凹面:一部ナデ 凸面:ナデ	A:精良 4mm石少量 B:良好 C:凹、暗オ リーブ灰2.5G4/1 凸、暗オリブ灰2.5G4/1	布目痕、横骨痕、糸切 り痕
587	瓦	丸瓦	2号灰原	長(8.9) 幅(7.5) 厚1.3 ⑤破片	凹面: 凸面:ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:不 良 C:凹、黄灰2.5Y6/1 凸、褐灰10YR6/1	布目痕、横骨痕、同一 個体破片2つ
588	瓦	丸瓦	2号灰原	長(12.4) 幅(5.2) 厚1.1 ⑤破片	凹面: 凸面:ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:不 良 C:凹、黄灰2.5Y6/1 凸、褐灰10YR6/1	布目痕、横骨痕、紐の 痕跡、同一個体破片2つ
589	瓦	丸瓦	2号灰原	長(6.2) 幅(6.9) 厚0.7 ⑤破片 側縁部	凹面: 凸面:ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:不 良 C:凹、灰黄2.5Y7/2 凸、黄灰2.5Y5/1	布目痕、横骨痕
590	瓦	聚斗瓦	2号灰原	長(11.6) 幅11.5 厚1.6 ⑤1/3 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:平行タタキ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:良 好 C:凹、灰10Y5/1 凸、灰10Y5/1	布目痕、横骨痕

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径④最大径⑤残存 ※(復元) (残存)				
591	須恵器	杯蓋	2号	①12.2 ②3.9 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子やや多量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2、黒N1.5/ 内、灰白2.5Y7/1	ヘラ記号、外面降灰	
592	須恵器	杯蓋	2号	①12.0 ②3.9 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ 指オサエ	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、灰N4/	ヘラ記号、外面降灰	
593	須恵器	杯蓋	2号	①12.2 ②4.6 ⑤完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量1~2mm石英やや多量 B: やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号	
594	須恵器	杯蓋	2号	①(11.4) ②3.2 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号	
595	須恵器	杯蓋	2号	①(12.6) ②4.2 ⑤2/5口縁部	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、指頭痕 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号、外面降灰	
596	須恵器	杯蓋	2号	①11.6 ②3.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号、外面降灰	
597	須恵器	杯蓋	2号	①12.0 ②3.1 ⑤3/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石1~2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	ヘラ記号	
598	須恵器	杯蓋	2号	①(12.2) ②3.7 ⑤3/4	外面:回転ナデ、天井部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英 B:不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰白2.5Y7/1	ヘラ記号	
599	須恵器	杯蓋	2号	①(11.8) ②3.3 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	ヘラ記号	
600	須恵器	杯蓋	2号	①(11.8) ②3.7 ⑤1/3口縁部	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N4/	外面降灰	
601	須恵器	杯蓋	2号	①12.6 ②3.6 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量1mm石英多量 B:不良 C:外、灰白10YR8/2 内、灰褐7.5YR6/2	ヘラ記号、焼成前穿孔	
602	須恵器	杯蓋	2号	①8.9 ②2.5 ⑤1/2 受部径10.7	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、暗青灰5B4/1	ヘラ記号、重焼痕	
603	須恵器	杯蓋	2号	①10.1 ②1.1 ⑤ほぼ完形 受部径11.8 横み径1.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、青 灰5B5/1、暗赤灰7.5R3/1 内、暗赤灰7.5R4/1~ 赤灰7.5R4/2	ヘラ記号、重焼痕、内 外面降灰、歪み	
604	須恵器	杯身	2号	①10.3 ②3.4 ⑤完形 受部径12.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリか 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~10mm白色粒子1mm黒色粒子少量 B: 不良 C:外、灰白N5/ 内、赤黒2.5YR2/1	ヘラ記号、二次焼成、 溶着物	
605	須恵器	杯身	2号	①10.8 ②3.3 ⑤ほぼ完形 受部径13.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子やや多量 B:やや不良 C:外、灰5Y6/1 内、灰N5/、黒N2/	ヘラ記号、重焼痕、外 面降灰	
606	須恵器	杯身	2号	①10.5 ②3.5 ⑤3/4 受部径12.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~4mm白色粒子多量 B:良好 C:外、暗赤褐7.5R3/2~灰7.5Y4/1 内、灰N4/	ヘラ記号、重焼痕、外 面降灰、溶着物	
607	須恵器	杯身	2号	①10.5 ②3.7 ⑤2/3 受部径12.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号	
608	須恵器	杯身	2号	①11.0 ②3.8 ⑤ほぼ完形 受部径13.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/1 内、灰白5Y8/1	ヘラ記号	
609	須恵器	杯身	2号	①(9.1) ②3.5 ⑤2/3 受部径12.0	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号	
610	須恵器	杯身	2号	①10.4 ②3.6 ⑤2/3 受部径12.9	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/1 内、灰白5Y8/1	ヘラ記号	
611	須恵器	杯身	2号	①10.4 ②3.5 ⑤ほぼ完形 受部径12.8	外面:回転ナデ、底部ヘラ切り後手持ちヘラケズ リ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y7/1 内、淡黄2.5Y8/3	ヘラ記号	
612	須恵器	杯身	2号	①(10.6) ②3.5 ⑤2/3 受部径(12.2)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰N5/	ヘラ記号、一部歪み	
613	須恵器	杯身	2号	①9.8 ②3.6 ⑤ほぼ完形 受部径12.1	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰白N7/ 内、灰N4/	ヘラ記号、外面降灰、 溶着物	
614	須恵器	杯身	2号	①11.8 ②3.1 ⑤ほぼ完形 受部径13.2	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/3 内、淡黄2.5Y8/2	ヘラ記号か	
615	須恵器	杯身	2号	①11.6 ②3.8 ⑤ほぼ完形 受部径13.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、にぶい黄橙10YR7/3 内、灰白10YR8/1	ヘラ記号、焼成前穿孔	
616	須恵器	杯身	2号	①10.8 ②3.9 ⑤ほぼ完形 受部径12.8	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰黄2.5Y6/2	ヘラ記号、焼成前穿孔	
617	須恵器	杯身	2号	①11.1 ②(4.3) ⑤ほぼ完形 受部径13.6	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、浅黄橙10YR8/3 内、にぶい橙7.5YR7/3	ヘラ記号、焼成後穿孔	
618	須恵器	杯身	2号	①10.6 ②3.9 ⑤ほぼ完形 受部径12.9	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、淡黄5Y8/3 内、灰白5Y7/1	ヘラ記号、焼成前穿孔	
619	須恵器	杯身	2号	①(11.3) ②4.0 ⑤1/3 受部径(13.2)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y8/1 内、灰白5Y8/1	ヘラ記号、焼成前穿 孔、焼成後底部割れ	
620	須恵器	鉢	2号	①(20.0) ②(4.3) ⑤破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 白色粒子赤色粒子多量 B:不良 C:外、暗灰黄2.5Y5/2 内、暗灰黄2.5Y5/2	突帯貼付	
621	須恵器	甕 (口縁)	2号	①(16.0) ②(5.9) ⑤1/4口縁部	外面:回転ナデ後一部カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2		
622	須恵器	甕 (口頭)	2号	①(22.4) ②(5.7) ⑤1/12口縁部	外面:回転ナデ、体部平行タタキ 内面:回転ナデ、体部弧状の当具痕	A:精良 1mm石英長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰2.5N6/1 内、灰2.5N6/1	内面降灰	
623	須恵器	甕 (口縁)	2号	②(8.1) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後一部カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	斜線文	
624	須恵器	大甕 (口縁)	2号	②(12.1) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後一部カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	斜線文、接合部で剥離	
625	須恵器	甕 (口縁)	2号	②(11.8) ⑤1/8口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白2.5Y7/1 内、灰白2.5Y7/1		
626	須恵器	大甕 (口縁)	2号	①(48.6) ②(12.1) ⑤1/3口縁部	外面:回転ナデ後一部カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、褐灰10YR5/1 内、灰N6/	斜線文、接合部で剥離	
627	須恵器	大甕 (体部)	2号	長(13.3) 幅(16.4) 厚1.3 ⑤胴部破片	外面:平行タタキ 内面:同心円当具痕	A:精良 2mm白色粒子多量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	破断面・表裏面に被熱 あり、焼き台か	
628	須恵器	甕 (体部)	2号	②(5.0) ⑤破片	外面:平行タタキ後一部カキメ 内面:弧状の当具痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、にぶい黄橙10YR6/4 内、灰黄2.5Y6/2	窯道具、焼成前穿孔	
629	瓦	平瓦	2号	長(14.0) 幅(11.3) 厚1.9 ⑤破片 側縁部	外面:タタキ後ナデ	A:精良 1~5mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、暗赤褐2.5YR3/2 内、暗赤褐2.5YR3/2~ 灰5Y5/1	布目痕、横骨痕	
630	瓦	平瓦	2号	長(12.0) 幅(11.8) 厚1.5 ⑤破片 側縁部、広端部	外面:端部面取り 凸面:ナデ	A:精良 3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリーブ灰5Y6/1 内、オリーブ灰 2.5Y6/1	布目痕、横骨痕、紐の 痕跡	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
631	瓦	平瓦	2号	長(8.2) 幅(12.7) 厚2.2 ⑤破片	凹面: 凸面:平行タキ後ナデ	A:砂粒1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、橙5YR7/6 内、橙5YR6/6	布目痕、模骨痕
632	瓦	平瓦	2号	長(9.5) 幅(8.2) 厚2.2 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:タタキ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:不良 C:外、橙7.5YR 内、橙7.5YR	布目痕、模骨痕、紐の痕跡
633	瓦	平瓦	2号	長(13.3) 幅(7.1) 厚1.6 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:端部面取り、線刻あり 凸面:ナデ、端部ケズリ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰白5Y7/1	布目痕、模骨痕
634	瓦	丸瓦	2号	長(8.1) 幅(12.2) 厚1.2 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、浅黄橙7.5YR8/4 内、浅黄橙7.5YR8/4	模骨痕、凹面磨滅
635	土製品	紡錘車	2号	①3.4 ②1.7 ③(4.0) ⑤ほぼ完形	降灰の調整不明。側面はケズリか	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:良好 C:灰白10Y8/1	外面降灰、二次焼成か
大谷窯跡群 3号窯跡							
636	須恵器	杯蓋	3号燃焼部	②(1.5) ⑤1/2 幅径2.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰 N5/～灰7.5Y5/1 内、灰N5/、赤7.5R4/8	転用説か
637	須恵器	杯身	3号燃焼部	①(9.1) ②3.0 ③(5.1) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナ デ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1～2mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	
638	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(10.4) ②3.3 ⑤1/4	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y6/2	
639	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(11.2) ②3.9 ⑤2/3	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、ヘラ切り 後回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 赤色粒子多量4mm石英少量1mm長石多量 B:不良 C:外、橙7.5YR7/6 内、橙7.5YR7/6	
640	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(11.2) ②3.4 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリブ灰2.5GY5/1 内、灰7.5Y4/1	ヘラ記号
641	須恵器	杯蓋	3号灰原	①11.9 ②2.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細長石1mm角閃石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、黄灰2.5Y5/1	ヘラ記号、外面降灰
642	須恵器	杯蓋	3号灰原	①9.2 ②2.9 ⑤ほぼ完形 受部径11.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 微細白色粒子やや多量 B:やや不良 C:外、灰褐7.5YR5/2 内、にぶい褐7.5YR5/3	ヘラ記号、塵状圧痕
643	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(8.2) ②(1.7) ⑤1/4 受部径(11.0)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:やや不 良 C:外、暗灰N3/ 内、灰N4/	
644	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(11.8) ②2.7 ⑤3/4 受部径(14.2) 幅径2.1	外面:回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘ ラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、黄灰2.5Y4/1	ヘラ記号
645	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(12.3) ②3.8 ⑤1/4 受部径(14.8) 幅径2.7	外面:ヘラ切り後回転ナデ、回転ナデ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰10Y5/1	幅み部分貼付、別個体溶 着、歪み
646	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(12.6) ②2.3 ⑤1/3 受部径(15.2) 幅径2.3	外面:回転ナデ後ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細～3mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、暗緑灰7.5GY3/1	
647	須恵器	杯蓋	3号灰原	①13.6 ②2.1 ⑤2/3 受部径15.8 幅径2.8	外面:回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量3mm白色粒子多量 B:や や不良 C:外、褐灰10YR4/1 内、褐灰10YR4/1	
648	須恵器	杯蓋	3号灰原	①14.4 ②3.1 ⑤9/10 受部径16.6 幅径2.6	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、ヘラ切り後回 転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	杯身一部溶着
649	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(14.6) ②2.9 ⑤1/4 受部径(16.8)	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り後ヘラケズリ、ナ デ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰10Y6/1 内、灰10Y6/1	
650	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(14.6) ②3.7 ⑤1/4 受部径(17.0) 幅径2.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナ デ、ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細石英長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、暗青灰5BG4/1	歪み
651	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(15.1) ②(1.7) ⑤1/3 受部径(17.2) 幅径2.7	外面:回転ナデ切り、回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、青灰10B65/1	幅み部分欠損、外面降 灰
652	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(15.0) ②3.2 ⑤1/8 受部径(17.6)	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1～3mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、青黒10B2/1 内、暗緑灰9G4/1	幅み部分陥没
653	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(15.2) ②3.0 ⑤1/3 受部径(17.6)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1～3mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰オリブ7.5Y6/2	歪み
654	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(14.7) ②(2.5) ⑤1/4 受部径(17.2)	外面:回転ナデ切り、回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5B65/1 内、青灰10B65/1	幅み部分欠損
655	須恵器	杯蓋	3号灰原	①11.6 ②2.0 ⑤完形 受部径13.6	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、ヘラ切り後回 転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1～5mm白色粒子多量 B:良好 C: 外、オリブ黒7.5Y3/1 内、暗赤灰2.5YR3/1	ヘラ記号、歪み
656	須恵器	杯蓋	3号灰原	①13.8 ②1.9 ⑤2/3 受部径11.4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘ ラ切り後一部ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰褐7.5Y5/2	
657	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(10.2) ②1.3 ⑤1/4 幅径1.8	外面:回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子多量3mm白色粒子少量 B:や や不良 C:外、褐灰7.5YR5/1 内、暗灰N3/	
658	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(10.7) ②(1.0) ⑤1/3	外面:回転ヘラ切り、回転ナデ、 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、褐灰5YR5/1 内、赤灰2.5YR4/1	幅み部分欠損
659	須恵器	杯蓋	3号灰原	①11.4 ②(3.2) ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰N4/	溶着物、歪み
660	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(15.2) ②(1.9) ⑤2/3 幅径2.7	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1～2mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	内外面降灰
661	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(16.0) ②1.4 ⑤1/3 幅径2.7	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1～2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗青灰10B64/1 内、暗緑灰10G3/1	歪み
662	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(16.0) ②1.7 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰5Y4/1	
663	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(16.6) ②1.9 ⑤1/8 幅径2.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰10Y5/1	
664	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(17.0) ②2.3 ⑤1/6 幅径(2.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:やや不良 C:外、にぶい褐7.5YR6/3 内、灰オリブ5Y6/2	
665	須恵器	杯蓋	3号灰原	①(17.6) ②1.9 ⑤1/3	外面:回転ヘラ切り、回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰5B65/1 内、青灰10B65/1	幅み部分欠損、外面降 灰、歪み
666	須恵器	杯身	3号灰原	①(9.6) ②2.0 ⑤1/4	外面:回転ナデ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:や や不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、暗灰N3/	ヘラ記号
667	須恵器	杯身	3号灰原	①(10.3) ②(3.1) ⑤1/3 受部径(12.6)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y6/1	
668	須恵器	杯身	3号灰原	①(11.2) ②4.0 ⑤1/4 受部径(13.0)	外面:回転ナデ、ヘラ切り、底部手持ちヘラケ ズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子少量黒色粒子多量 B:やや不 良 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径④最大径⑤残存 ※(復元) (残存)				
669	須恵器	杯身	3号灰原	①(10.0) ②3.5 ⑤1/4		外面:回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm白色粒子微量白色粒子黒色粒子少量 B:不良 C:外、灰5Y6/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号
670	須恵器	杯身	3号灰原	①(10.6) ②3.3 ③5.9 ⑤2/3		外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英1mm白色粒子微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号
671	須恵器	杯身	3号灰原	①(11.8) ②(3.8) ⑤1/5		外面:回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 2mm石英微細長石少量 B:やや不良 C:外、灰10Y5/1 内、灰10Y5/1	
672	須恵器	杯身	3号灰原	①(12.0) ②3.5 ③(8.8) ⑤2/3		外面:回転ナデ、ヘラ切り後一部ナデ 内面:回転ナデ、磨滅により調整不明瞭	A:精良 微細~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、褐灰10YR6/1	内面磨滅
673	須恵器	杯身	3号	①(12.0) ②2.9 ③(7.8) ⑤1/3		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量1~2mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰10Y5/1	ヘラ記号
674	須恵器	杯身	3号	①(12.8) ②2.8 ③(8.8) ⑤1/4		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm石英微細長石少量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/2	
675	須恵器	杯身	3号灰原	①(16.0) ②3.7 ③(8.8) ⑤1/4		外面:回転ナデ後ヘラズリ、ヘラ切り後一部ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、青灰5PB6/1 内、オリブ灰2.5Y6/1	外面降灰
676	須恵器	杯身	3号灰原	①(13.0) ②4.5 ③8.2 ⑤1/3		外面:回転ナデ後ヘラズリ、磨滅により調整不明瞭 内面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、淡黄2.5Y8/4 内、淡黄2.5Y8/3	ヘラ記号、内外面磨滅
677	須恵器	杯身	3号灰原	①13.2 ②4.5 ③8.5 ⑤1/2		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ、底部回転ヘラ 切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/4 内、淡黄2.5Y7/4	ヘラ記号
678	須恵器	杯身	3号灰原	①(13.4) ②5.2 ③(9.0) ⑤1/4		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ、底部回転ヘラ 切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子赤色粒子3mm白色粒子少量 B:不良 C:外、橙5YR7/6 内、にぶい橙5YR6/4	ヘラ記号
679	須恵器	杯身	3号灰原	①(15.8) ②4.4 ③(10.6) ⑤1/3		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ、回転ヘラズ リ後ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰10B65/1 内、青灰10B65/1	
680	須恵器	高杯 (杯部)	3号灰原	①(15.4) ②(3.6) ③(10.6) ⑤1/4		外面:回転ナデ、降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:や や不良 C:外、黒7.5Y2/1 内、暗灰N3/	外面降灰、歪み
681	須恵器	高杯	3号灰原	②(4.7) ③(10.8) ④4/5		外面:杯部回転ナデ、工具痕、脚部回転ナデ 内面:杯部回転ナデ後ナデ、脚部回転ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:不良 C:外、灰褐5YR4/2 内、にぶい赤褐5YR5/4	
682	須恵器	椀	3号灰原	①(14.7) ②(6.5) ⑤1/6		外面:回転ナデ後ナデ、回転ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、暗灰N3/	
683	須恵器	椀	3号灰原	①(14.2) ②6.8 ③(8.2) ⑤1/4		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ、回転ヘラ切 り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰白2.5Y7/1 内、黄灰2.5Y6/1	ヘラ記号、外面降灰
684	須恵器	台付皿	3号灰原	①(22.0) ②3.0 ③(18.4) ⑤1/8		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ、ナデ	A:精良 1~4mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗青灰5PB3/1 内、青灰5PB5/1	高台貼付
685	須恵器	長頸壺	3号灰原	②(9.0) ⑤胴部破片 胴部最大径(19.0)		外面:回転ナデ後下部回転ヘラズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰赤2.5Y4/2 内、赤灰10R5/1	外面降灰
686	須恵器	長頸壺	3号灰原	②(5.9) ③(13.8) ⑤1/8		外面:回転ナデ後ナデ、回転ナデ、回転ヘラズ リ 内面:回転ナデ、当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/2 内、灰白5Y7/2	別個体片溶着
687	須恵器	大甕 (口頸)	3号	①(61.0) ②(5.8) ⑤破片		外面:回転ナデ後工具の凹線、ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~5mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/~灰N5/ 内、灰N6/~暗青灰5B6G3/1	波状文
688	須恵器	甕 (体部)	3号灰原	②(9.8) ⑤破片		外面:擬椀タタキ 内面:当具痕	A:精良 1mm白色粒子黒色粒子赤色粒子多量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N4/	別個体片溶着
689	須恵器	甕 (体部)	3号灰原	②(10.7) ⑤破片		外面:擬椀タタキ 内面:当具痕	A:精良 1mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰褐7.5YR6/2 内、褐灰7.5YR6/1	
690	須恵器	甕 (口縁)	3号灰原	②(4.3) ⑤破片		外面:回転ナデ 内面:ナデ、降灰の調整不明瞭	A:精良 3mm白色粒子微量黒色粒子多量 B:良 好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	列点文、波状文、内面 降灰
691	須恵器	不明	3号灰原	②(1.6) ⑤破片		外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量赤色粒子少量 B:や や不良 C:外、灰黄褐10YR5/2 内、灰褐 7.5YR5/2	穿孔
大谷窯跡群 4号窯跡								
692	須恵器	杯蓋	4号焼成部	①12.6 ②2.1 ⑤ほぼ完形 受部径15.2		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量2mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰赤10R5/ 内、にぶい赤橙10R6/4	
693	須恵器	杯蓋	4号灰原	①10.2 ②3.4 ⑤2/3		外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:良 好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号
694	須恵器	杯蓋	4号灰原	①(10.4) ②3.2 ⑤2/3		外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 微細角閃石微量1mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、黄灰2.5Y5/1 内、灰5Y5/1	ヘラ記号
695	須恵器	杯蓋	4号灰原	①10.4 ②3.3 ⑤4/5		外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:や や不良 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰白7.5Y7/2	
696	須恵器	杯蓋	4号灰原	①10.4 ②3.7 ⑤2/3		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子多量3mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	ヘラ記号
697	須恵器	杯蓋	4号灰原	①(10.6) ②3.1 ⑤ほぼ完形		外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1~3mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/~黒N2/ 内、灰N6/	ヘラ記号、外面降灰
698	須恵器	杯蓋	4号灰原	①10.6 ②3.5 ⑤ほぼ完形		外面:回転ナデ、降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	ヘラ記号、歪み、内外 面降灰、磨滅
699	須恵器	杯蓋	4号灰原	①7.8 ②(3.5) ⑤1/2 受部径10.0 擴み径1.2		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:やや不 良 C:外、黄灰2.5Y4/1 内、灰5Y6/1	別個体溶着、外面降 灰、天井部焼き跡
700	須恵器	杯蓋	4号灰原	①(7.7) ②3.7 ⑤1/4 受部径(10.6) 擴み径1.1		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y1/1 内、灰N6/	外面降灰
701	須恵器	杯蓋	4号灰原	①8.5 ②3.8 ⑤2/3 受部径10.4 擴み径1.4		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰N4/	別個体溶着、外面降 灰、天井部焼き跡
702	須恵器	杯蓋	4号灰原	①8.6 ②3.3 ⑤4/5 受部径10.6 擴み径1.4		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 白色粒子黒色粒子多量2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y1/1 内、灰N5/	外面降灰、別個体溶着
703	須恵器	杯蓋	4号灰原	①8.1 ②2.4 ⑤3/4 受部径10.5		外面:回転ナデ、降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y5/3 内、灰N4/	ヘラ記号、外面降灰、 別個体溶着
704	須恵器	杯蓋	4号灰原	①(10.9) ②2.1 ⑤1/2 受部径(13.3)		外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、褐灰10YR6/1 内、灰黄褐10YR6/2	外面麻状圧痕
705	須恵器	杯蓋	4号灰原	①12.5 ②2.6 ⑤2/3 受部径14.6 擴み径2.8		外面:回転ナデ後回転ヘラズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5B65/1 内、青灰5B65/1	歪み

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
706	須恵器	杯蓋	4号灰原	①(12.8) ②3.1 ③1/2 受部径(15.4) 幅み径2.8	外面: 回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1~2mm石英微細長石1~2mm白色粒子多量 B: やや不良 C: 外、褐灰7.5YR4/1 内、灰褐7.5YR4/2	ヘラ記号
707	須恵器	杯蓋	4号灰原	①13.4 ②3.2 ③完形 受部径15.7 幅み径2.5	外面: 回転ナデ後回転ヘラケズ 内面: 回転ナデ後ナデ、指頭痕	A: 精良 1mm石英長石少量 B: やや不良 C: 外、赤灰10R5/1 内、灰赤10R5/2	歪み
708	須恵器	杯身	4号灰原	①(8.2) ②2.5 ③5.1 ④2/3 受部径(10.4)	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、灰5Y5/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号、焼き膨れ、外面降灰
709	須恵器	杯身	4号灰原	①9.0 ②3.0 ③5.5 ④ほぼ完形 受部径11.0	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ、指頭痕	A: 精良 1mm白色粒子微量 B: 良好 C: 外、オリーブ灰2.5GY5/1 内、灰N4/	ヘラ記号
710	須恵器	杯身	4号灰原	①9.7 ②3.2 ③7.3 ④完形 受部径11.4	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ、指頭痕	A: 精良 微細長石少量 B: やや不良 C: 外、灰赤2.5YR5/2 内、にぶい赤褐2.5YR5/4	ヘラ記号
711	須恵器	杯身	4号灰原	①(11.0) ②2.9 ③(7.0) ④2/3 受部径(13.2)	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ、指オサエ	A: 精良 微細長石1mm角閃石白色粒子少量 B: 良好 C: 外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号
712	須恵器	杯身	4号灰原	①8.8 ②3.1 ③3.5 ④3/4 受部径11.8	外面: 回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、灰N6/ 内、暗灰N3/~灰N6/	ヘラ記号
713	須恵器	杯身	4号灰原	①9.9 ②3.6 ③6.7 ④2/3	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ、指オサエ	A: 精良 1mm石英長石少量 B: やや不良 C: 外、灰褐5YR5/2 内、灰褐5YR5/2	ヘラ記号
714	須恵器	杯身	4号灰原	①(8.6) ②3.2 ③2/3	外面: 回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1~2mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、黄灰2.5Y4/1 内、褐灰7.5Y4/1	ヘラ記号
715	須恵器	杯身	4号灰原	①9.0 ②3.7 ③ほぼ完形	外面: 回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ、指頭痕	A: 精良 1~2mm白色粒子少量 B: 良好 C: 外、褐灰5YR4/1~黒褐7.5YR3/1 内、灰N4/	ヘラ記号
716	須恵器	杯身	4号灰原	①(10.2) ②3.4 ③(6.6) ④1/3	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1mm石英長石少量 B: やや不良 C: 外、にぶい赤褐5YR5/4 内、にぶい赤褐5YR5/3	ヘラ記号
717	須恵器	杯身	4号灰原	①(10.6) ②3.4 ③(7.2) ④1/2	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ、指頭痕	A: 精良 微細長石1mm角閃石白色粒子少量 B: 良好 C: 外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号
718	須恵器	杯身	4号灰原	①11.0 ②2.8 ③(6.6) ④1/4	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、灰N4/ 内、灰N3/	ヘラ記号
719	須恵器	杯身	4号灰原	①10.2 ②3.6 ③5.9 ④2/3	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ	A: 精良 1mm長石少量 B: 良好 C: 外、灰10Y6/1 内、青灰10B6/1	
720	須恵器	杯身	4号灰原	①(10.0) ②3.3 ④1/2	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1mm白色粒子少量 B: やや不良 C: 外、褐灰7.5YR4/1 内、黄灰2.5Y5/1	
721	須恵器	杯身	4号灰原	①(12.0) ②3.8 ④1/3	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、指頭痕 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、灰N5/ 内、灰N5/	
722	須恵器	杯身	4号灰原	①(12.2) ②4.1 ③(8.0) ④1/4	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ、指頭痕	A: 精良 1mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、暗オリーブ灰2.5GY3/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号
723	須恵器	杯身	4号灰原	①12.5 ②4.5 ③9.0 ④4/5	外面: 回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ一部回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ後ナデ、指頭痕	A: 精良 1mm石英長石少量 B: 良好 C: 外、緑灰10G5/1 内、暗緑灰10Y4/1	ヘラ記号
724	須恵器	杯身	4号灰原	①12.5 ②4.3 ③7.0 ④9/10	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ、指頭痕	A: 精良 微細長石少量 B: 良好 C: 外、オリーブ灰2.5GY6/1 内、オリーブ灰2.5GY6/1	
725	須恵器	杯身	4号灰原	①(12.8) ②3.6 ③(8.8) ④1/4	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ	A: 精良 微細長石1mm角閃石少量 B: 良好 C: 外、オリーブ灰2.5GY5/1 内、灰N5/	
726	須恵器	杯身	4号灰原	①(12.8) ②4.1 ③(8.6) ④1/4	外面: 回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、暗オリーブ5Y4/2 内、灰7.5Y4/1	ヘラ記号
727	須恵器	杯身	4号灰原	②(5.7) ③3/4 高台径(7.9)	外面: 回転ナデ後底部回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 微細長石1mm角閃石白色粒子少量 B: やや不良 C: 外、黄灰2.5Y6/2 内、灰N4/	ヘラ記号、高台貼付、著しい歪み
728	須恵器	杯身	4号灰原	②(2.6) ④1/2 高台径8.4	外面: 回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ	A: 精良 1mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、暗灰N3/ 内、灰N5/	
729	須恵器	高台付皿	4号灰原	②(1.4) ③高台径12.6 ④底部破片	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 微細長石1mm白色粒子少量 B: 良好 C: 外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	高台貼付
730	須恵器	高杯蓋	4号灰原	①(7.4) ②3.1 ④1/2 受部径(9.5) 幅み径1.0	外面: 回転ナデ後カキメ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 微細長石少量 B: 良好 C: 外、黄灰2.5Y6/1 内、暗灰N3/	歪み、外面降灰
731	須恵器	高杯(杯部)	4号灰原	①(15.0) ②(3.2) ④1/4	外面: 回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ後ナデ、指オサエ	A: 精良 微細長石少量 B: 不良 C: 外、にぶい褐7.5YR5/3 内、にぶい褐7.5YR5/4	
732	須恵器	高杯	4号灰原	①(12.2) ②8.5 ③8.8 ④1/2	外面: 回転ナデ、杯部下半カキメ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 赤色粒子少量1mm白色粒子多量 B: 不良 C: 外、明赤褐5Y5/6 内、明赤褐5Y5/6	内面シボり痕
733	須恵器	高杯(脚部)	4号灰原	②(4.7) ④1/3	外面: 回転ナデ後杯部下半回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 赤色粒子多量1mm白色粒子多量 B: 不良 C: 外、明赤褐5Y5/6 内、明赤褐5Y5/6	
734	須恵器	高杯(脚部)	4号灰原	②(4.7) ④1/2	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	A: 精良 白色粒子多量 B: 不良 C: 外、暗褐10YR3/3 内、にぶい褐7.5YR5/4	内面シボり痕、歪み
735	須恵器	鉢	4号灰原	①(16.5) ②5.6 ③(8.9) ④1/4	外面: 回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 微細長石1mm白色粒子少量 B: やや不良 C: 外、灰N4/ 内、灰10Y5/1	ヘラ記号、内外面降灰、外面シボり痕
736	須恵器	皿	4号灰原	①(23.2) ②2.6 ③(20.6) ④1/5	外面: 回転ナデ、底部手持ちヘラケズリ工具ナデ 内面: 回転ナデ後ナデ	A: 精良 1~3mm白色粒子やや多量 B: 良好 C: 外、灰N5/~黒N1.5/ 内、灰7.5Y4/1	内面降灰
737	須恵器	皿	4号灰原	①(27.8) ②3.7 ③(24.2) ④1/4	外面: 回転ナデ、底部手持ちヘラケズリ 内面: 回転ナデ	A: 精良 微細長石1mm白色粒子少量 B: 良好 C: 外、黄灰2.5Y5/1 内、灰10Y5/1	
738	須恵器	壺	4号灰原	②(10.2) ③(9.4) ④頸部~底部破片	外面: 回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面: 回転ナデ	A: 1mm長石白色粒子少量 B: 不良 C: 外、橙5YR7/6 内、橙5YR7/6	ヘラ記号
739	須恵器	横瓶	4号灰原	①11.0 ②(15.5) ④2/3	外面: 口縁部回転ナデ、体部縦格子タタキ後一部ナデ 内面: 口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕、一部ナデ、内外面ヘラ記号	A: 精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B: やや不良 C: 外、にぶい黄橙10YR7/2 内、にぶい黄橙10YR6/3	内外面ヘラ記号
740	須恵器	甕(口縁)	4号灰原	①(21.2) ②(5.2) ④1/4口縁部	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	A: 精良 1~2mm石英微細長石1mm白色粒子少量 B: 不良 C: 外、橙7.5YR7/6 内、橙7.5YR7/6	
741	須恵器	甕(口頸)	4号灰原	①(21.1) ②(7.1) ④1/4口縁~頸部片	外面: 口縁部回転ナデ、体部平行タタキ後カキメ 内面: 口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A: 精良 1~5mm石英1mm長石少量 B: 不良 C: 外、にぶい赤褐5YR5/3 内、橙5YR6/6	
742	須恵器	甕(口頸)	4号灰原	①(22.8) ②(6.0) ④1/5口縁部	外面: 口縁部回転ナデ、体部縦格子タタキ後カキメ 内面: 回転ナデ、体部孤状の当具痕	A: 精良 1~2mm白色粒子多量 B: 良好 C: 外、灰N5/~褐灰10YR4/1 内、褐灰10YR5/1~4/1	ヘラ記号
743	須恵器	甕(口頸)	4号灰原	①(24.6) ②(7.7) ④1/8口縁部	外面: 口縁部回転ナデ、体部格子目タタキ 内面: 口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A: 精良 1mm石英長石白色粒子少量 B: 不良 C: 外、にぶい赤褐5YR5/4 内、橙5YR6/6	
744	須恵器	大甕(口頸)	4号灰原	①(38.4) ②(11.5) ④1/5口縁部	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	A: 精良 1~2mm白色粒子少量 B: 良好 C: 外、にぶい黄橙10YR6/3 内、褐灰10YR4/1	波状文、内外面降灰、接合部剥離
745	須恵器	大甕(口縁)	4号灰原	①(46.0) ②(9.5) ④1/8口縁部	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	A: 精良 1mm石英長石白色粒子少量 B: 良好 C: 外、暗灰N3/ 内、灰9Y5/1	波状文、内外面降灰

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
746	須恵器	大甕 (口縁)	4号灰原	①(40.0) ②(5.7) ⑤1/8口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 2mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、暗灰黄2.5Y5/2 内、黄灰2.5Y5/1	波状文、内外面降灰
747	須恵器	大甕 (口縁)	4号灰原	①(41.2) ②(10.3) ⑤1/4口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 2~3mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、青黒5PB2/1 内、灰黄2.5Y6/2	波状文、接合部で剥離
748	須恵器	大甕 (口縁)	4号灰原	①(39.0) ②(12.0) ⑤1/3口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、体部弧状の当具痕	A:精良 2~3mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、浅黄2.5Y7/4 内、灰黄2.5Y6/2	波状文、接合部で剥離、外面降灰、自然釉
749	須恵器	大甕 (口縁)	4号灰原	②(7.4) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	波状文
750	須恵器	大甕 (口縁)	4号灰原	②(8.3) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄褐10YR6/2 内、黄灰2.5Y4/1	波状文、内外面降灰
751	須恵器	大甕 (口頭)	4号灰原	②(16.4) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後カキメ、体部平行タタキ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕、頸部 付け根に指頭痕	A:精良 1~4mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、褐灰10YR4/1	歪み、内外面降灰
752	須恵器	大甕 (口頭)	4号灰原	①(48.6) ②(10.8) ⑤1/8口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 2~3mm石英1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰赤2.5YR5/2 内、褐灰5YR5/1	斜線文、接合部で剥離
753	須恵器	大甕 (口頭)	4号灰原	①(49.0) ②(10.1) ⑤1/8口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~5mm石英1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰褐5YR5/2 内、灰褐7.5YR6/2	斜線文、接合部で剥離
754	須恵器	大甕 (口頭)	4号灰原	①(38.4) ②(13.7) ⑤1/3口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黄褐10YR5/6 内、灰黄褐10YR4/2	歪み、内外面降灰
大谷窯跡群 トレンチ							
755	須恵器	甕 (体部)	0トレ	②(6.0) ⑤体部破片	外面:回転ナデ後下半部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、黒N1.5/ 内、灰白N7/	ヘラ記号、刺突文、別 個体溶着
756	須恵器	杯蓋	1トレ	①12.2 ②3.5 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、頂部切り離し 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細石英長石微量 B:やや不良 C: 外、黄灰2.5Y7/2、青黒5BG2/1 内、黄灰2.5Y6/2	ヘラ記号、溶着物、外 面降灰
757	須恵器	杯蓋	1トレ	①(12.0) ②3.6 ⑤3/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~2mm石英長石少量 B:良好 C: 外、黄灰2.5Y5/1~黄褐2.5Y5/3 内、黄灰 2.5Y4/1	ヘラ記号、自然釉
758	須恵器	瓶 (口縁)	1トレ	①8.0 ②(5.0) ⑤1/2口縁部	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号
759	須恵器	瓶/蓋 (胴部)	1トレ	②(13.3) ③(10.6) ⑤胴部~底部破片	外面:上半部カキメ、ヘラケズリ後ナデ、下半部 回転ヘラケズリ、底部ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰黄2.5Y7/2	
760	須恵器	杯蓋	2トレ	①12.0 ②4.1 ⑤完形	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 微細~2mm石英長石やや多量 B:やや 不良 C:外、暗青灰5BG3/1~灰黄2.5Y6/2、内、 暗青灰10BG4/1	ヘラ記号、外面粘土補 充、外面降灰、歪み、 溶着物
761	須恵器	杯蓋	2トレ	①(11.0) ②(3.3) ⑤1/4	外面:回転ナデ後、ヘラ切り後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 石英少量黒色粒子1mm白色粒子3mm白色 粒子多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰 7.5Y5/1	ヘラ記号、外面降灰
762	須恵器	杯蓋	2トレ	①(11.4) ②3.5 ⑤1/2	外面:ヘラ切り後ヘラケズリ、ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm白色粒子多量 B:良好 C:外、青灰10BG5/1 内、青灰10BG5/1	ヘラ記号
763	須恵器	杯蓋	2トレ	②(11.6) ②(3.2) ⑤1/6	外面:回転ナデ後ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号
764	須恵器	杯蓋	2トレ	①11.6 ②3.5 ⑤1/2	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石1mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号
765	須恵器	杯身	2トレ	①10.9 ②4.2 ③3.8 ⑤1/2 受部径13.2	外面:ナデ、回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~1mm石英長石少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y7/1~灰黄2.5Y7/2 内、灰黄 2.5Y7/2	ヘラ記号
766	須恵器	杯身	2トレ	①(11.4) ②4.0 ③(4.0) ⑤1/4 受部径(13.4)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~2mm白色粒子微量 B:やや不良 C:外、灰オリーブ5Y6/2~灰5Y6/1 内、灰オ リーブ5Y6/2	ヘラ記号
767	須恵器	杯身	2トレ	①(10.8) ②3.6 ⑤1/2 受部径(13.0)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、指オサエ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:やや不 良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y6/1	ヘラ記号
768	須恵器	高杯 (杯部)	2トレ	①(10.0) ②(5.2) ⑤1/3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:白色粒子多量3mm白色粒子微量 B:やや不良 C:外、褐灰7.5YR5/1 内、灰黄褐10YR4/2	
769	須恵器	壺 (口頭)	2トレ	①(9.7) ②(8.1) ⑤1/4口縁部	外面:口縁部回転ナデ、体部板状工具回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、指オサエ、体部回転ナデ 後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/~黄灰2.5Y6/1	内面降灰
770	須恵器	壺	3トレ	①6.1 ②4.1 ③4.4 ⑤3/4	外面:口縁部回転ナデ、体部下半部ヘラ状工具ナ デ、底部ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y6/2 内、灰黄2.5Y6/2	内外面シボリ痕
771	須恵器	瓶/蓋 (胴部)	3トレ	②(7.8) ⑤胴部破片	外面:回転ナデ、ハケ状工具回転ナデ 内面:頸部ナデ、体部回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、暗灰N3/	内面シボリ痕、外面降 灰
772	須恵器	瓶/蓋 (肩部)	3トレ	⑤肩部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、灰N7/ 内、灰N5/	刺突文、歪み
773	須恵器	杯蓋	4トレ	①12.4 ②2.8 ⑤2/3	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰5B4/1 内、暗青灰5B4/1	ヘラ記号、外面降灰
774	須恵器	杯蓋	4トレ	①12.4 ②3.9 ⑤2/3	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	ヘラ記号
775	須恵器	杯蓋	4トレ	①13.6 ②3.9 ⑤1/4	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り、頂部一部未調整 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5BG5/1 内、青灰5BG5/1	ヘラ記号
776	須恵器	杯身	4トレ	①11.0 ②3.5 ⑤1/2 受部径13.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラ切 り 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰 オリーブ7.5Y6/2 内、灰オリーブ7.5Y6/2	ヘラ記号
777	須恵器	壺	4トレ	①(8.0) ②(6.8) ⑤1/4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y4/1 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰
778	須恵器	杯蓋	5トレ	①12.2 ②3.4 ⑤3/4	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 5mm白色粒子微量3mm白色粒子1mm白色粒 子多量黒色粒子少量 B:やや不良 C:外、暗灰 黄2.5Y4/2 内、暗灰黄2.5Y4/2	ヘラ記号
779	須恵器	杯蓋	5トレ	①11.4 ②3.3 ⑤3/4	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 3mm白色粒子少量黒色粒子1mm白色粒子 多量 B:良好 C:外、褐灰5YR5/1 内、灰N6/	ヘラ記号、塵状圧痕
780	須恵器	杯蓋	5トレ	①(11.6) ②3.3 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 1mm石英微細長石1mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	竹管文
781	須恵器	杯蓋	5トレ	②(3.1) ⑤破片	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細角閃石微細~2mm白色粒子微量 B:良好 C:外、青灰10BG5/1~青黒10BG2/1 内、灰N6/	外面降灰、竹管文、歪 み
782	須恵器	杯蓋	5トレ	①(9.0) ②2.7 ⑤1/2 受部径(10.8) 揃み径1.7	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C: 外、灰5Y4/1~灰5Y5/1 内、灰5Y5/1~灰5Y5/2	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径④最大径⑤残存 ※(復元) (残存)				
783	須恵器	杯身	5トレ	①10.2 ②3.6 ⑤完形 受部径12.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ 指オサエ	A:精良 黒色粒子少量3mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	外面降灰、歪み	
784	須恵器	杯身	5トレ	①9.9 ②3.1 ⑤完形 受部径12.0	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、中央部未調整 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰10Y4/1 内、灰7.5Y5/1		
785	須恵器	杯身	5トレ	①(12.4) ②3.8 ⑤1/5 受部径(14.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:1~3mm石英やや多量1mm長石少量 B:不良 C:外、橙7.5YR7/6 内、橙7.5YR7/6	焼成前穿孔、窯道具、一部磨滅	
786	須恵器	杯身	5トレ	①10.1 ②3.7 ⑤5/6 受部径12.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、青灰5B6/1 内、青灰5B6/1	ヘラ記号、外面降灰	
787	須恵器	杯身	5トレ	①10.2 ②3.6 ⑤2/3 受部径12.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り 後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 黒色粒子3mm白色粒子少量1mm白色粒子 多量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号	
788	須恵器	杯身	5トレ	①10.7 ②3.9 ⑤3/4 受部径12.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り 後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/2 内、灰白5Y7/2	ヘラ記号	
789	須恵器	杯身	5トレ	①10.4 ②3.1 ⑤3/4 受部径12.7	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 微細長石1mm角閃石少量 B:やや不良 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y6/1	竹管文、別個体溶着	
790	須恵器	杯身	5トレ	①(10.6) ②3.6 ⑤1/3 受部径(12.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ 後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰白5Y7/1	竹管文	
791	須恵器	椀	5トレ	①(9.6) ②4.4 ③5.0 ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 1mm長石少量1~2mm白色粒子少量 B: 良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰	
792	須恵器	椀	5トレ	①10.0 ②4.7 ⑤ほぼ完形	外面:回転ナデ後ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~2mm石英微細長石1~2mm白色粒子少 量 B:やや不良 C:外、灰褐7.5YR6/2 内、灰 褐7.5YR5/2	ヘラ記号	
793	須恵器	高杯蓋	5トレ	①(11.4) ②3.3 ⑤3/4 幅径2.3	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~5mm白色粒子多量 B:良好 C: 外、青黒5B6/21~暗青灰5B6/41 内、暗青灰 5B6/41	ヘラ記号	
794	須恵器	甕 (口頸)	5トレ	①(10.0) ②(5.5) ⑤1/8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 4mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰10B6/1 内、暗青灰10B6/1	内外面シボリ痕、外面 降灰	
795	須恵器	甕 (体部)	5トレ	②(5.7) ③2.2 ⑤体部破片 最大胴部径9.4	外面:上半部回転ナデ後カキメ、下半部回転ヘラ ケズリ 内面:	A:精良 1~5mm白色粒子やや多量 B:やや不良 C:外、灰褐5YR5/2 内、灰褐5YR5/2	ヘラ記号、欄目文、刺 突文	
796	須恵器	平瓶	5トレ	①5.3 ②(11.1) ⑤1/3	外面:回転ナデ後上半部棒状工具ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰白5Y7/2 内、青灰10B6/1	底部内蓋貼付、接合部 で剥離、外面降灰	
大谷窯跡群 出土地その他、不明								
797	須恵器	杯蓋	1・2号灰原	①(12.0) ②3.7 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~1mm石英長石微量微細角閃石微量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	ヘラ記号	
798	須恵器	杯身	1・2号灰原	①10.6 ②3.7 ⑤ほぼ完形 受部径12.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~5mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	ヘラ記号、一部外面降 灰、歪み	
799	須恵器	杯	1・2号灰原	①(12.0) ②3.0 ③(8.6) ⑤1/3	外面:回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 赤色粒子少量1mm白色粒子多量 B:不 良 C:外、橙7.5YR6/6 内、橙7.5YR6/6	外面一部磨滅	
800	須恵器	椀	1・2号灰原	①(11.4) ②5.6 ⑤1/3	外面:上半部カキメ、下半部回転ヘラケズリ後ナ デ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子ごく少量 B:やや不良 C:外、灰10Y5/1 内、灰7.5Y6/1		
801	須恵器	椀	1・2号灰原	②(5.1) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、青 黒5P2/1、暗赤灰5R3/1 内、暗赤灰5R3/1	突帯	
802	瓦	平瓦	1・2号灰原	長(7.3) 幅(8.7) 厚1.5 ⑤破片 側縁部、広端部	外面:端部面取り 内面:凸面	A:精良 赤色粒子少量1mm白色粒子多量 B:不 良 C:外、明黄褐10YR7/6 凸、明黄褐10YR7/6	布目痕、模骨痕	
803	須恵器	杯蓋	3区灰原	①10.4 ②2.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子赤色粒子多量3mm白色粒子微量 B:不良 C:外、褐灰10YR6/1 内、灰黄2.5Y7/2		
804	須恵器	杯蓋	3区灰原	①10.9 ②3.3 ⑤3/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り 後工具ナデ、板状圧痕 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、橙7.5YR6/6 内、橙7.5YR6/6		
805	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(11.2) ②3.4 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~3mm白色粒子多量 B:良好 C:外、暗赤褐10R3/2 内、褐灰5YR4/1	ヘラ記号、重焼痕	
806	須恵器	杯蓋	3区灰原	①12.0 ②3.8 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰10Y6/1 内、灰褐5YR4/2	ヘラ記号	
807	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(12.8) ②4.0 ⑤1/2	外面:回転ナデ後頂部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1~4mm白色粒子やや多量 B:良好 C:外、暗青灰5B3/1 内、灰N5/	ヘラ記号、外面降灰	
808	須恵器	杯蓋	3区灰原	①8.3 ②3.8 ⑤2/3 受部径10.0 幅径1.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量微細角閃石微量 B:良好 C:外、暗オリーブ灰N4/1~浅黄2.5Y7/4 内、暗 灰N3/	焼き膨れ、外面降灰、 歪み	
809	須恵器	杯蓋	3区灰原	①7.8 ②(2.6) ⑤ほぼ完形 受部径9.8	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 微細石英長石少量 B:良好 C:外、橙5YR6/6~明赤褐5YR5/6 内、橙5YR6/6		
810	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(8.0) ②1.9 ⑤2/3 受部径(10.0)	外面:回転ナデ後一部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、にぶい赤褐2.5YR4/3 内、明赤褐 2.5YR5/6	ヘラ記号、外面降灰	
811	須恵器	杯蓋	3区灰原	①9.4 ②2.8 ⑤完形 受部径11.3	外面:回転ナデ後、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	歪み、外面降灰	
812	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(7.0) ②2.1 ⑤1/3 受部径(10.0)	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、褐灰10YR5/1 内、褐灰7.5YR5/1	ヘラ記号	
813	須恵器	杯蓋	3区灰原	①9.0 ②2.7 ⑤完形 受部径11.2	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:不良 C:外、橙7.5YR6/6 内、橙7.5YR6/6	ヘラ記号	
814	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(11.0) ②2.2 ⑤1/2 受部径(12.8) 幅径2.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子微量1mm白色粒子多量3mm白色 粒子微量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰 7.5Y5/1	歪み	
815	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(11.6) ②3.0 ⑤1/2 受部径(14.0) 幅径2.9	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/		
816	須恵器	杯蓋	3区灰原	①12.2 ②2.6 ⑤2/3 受部径14.0 幅径2.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量2mm白色 粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/		
817	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(13.7) ②2.7 ⑤1/2 受部径(16.0) 幅径2.6	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~4mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリーブ黄5Y6/3 内、灰オリーブ5Y4/2	外面降灰	
818	須恵器	杯蓋	3区灰原	①11.6 ②2.5 ⑤ほぼ完形 受部径14.0 幅径2.1	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子多量1mm白色粒子少量 B:良 好 C:外、灰7.5Y4/1 内、オリーブ黒7.5Y3/1	焼き膨れ、内外面降 灰、歪み	
819	須恵器	杯蓋	3区灰原	①12.6 ②2.4 ⑤ほぼ完形 受部径15.0 幅径2.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量3mm白色粒子微量 B: 良好 C:外、褐灰10YR5/1 内、褐灰10YR5/2	歪み	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
820	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(11.6) ②2.0 ⑤4/5 受部径(13.3)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰10Y4/1	ヘラ記号、別個体浴着、内外面降灰、歪み
821	須恵器	杯蓋	3区灰原	①11.6 ②(2.0) ⑤2/3 受部径14.0	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、オリーブ灰2.5G15/1 内、オリーブ灰2.5G16/1	縮み部欠損
822	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(12.6) ②2.6 ⑤1/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:やや不良 C:外、灰7.5YR5/2 内、橙5YR6/6	ヘラ記号
823	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(11.3) ②1.7 ⑤1/3 受部径(13.4)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~1mm白色粒子 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、10Y5/1	
824	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(12.2) ②1.7 ③(10.2) ⑤1/2 受部径(14.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細石英長石微量 B:やや不良 C:灰7.5YR5/2 内、暗灰黄2.5Y5/2	歪み
825	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(12.8) ②(2.2) ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:外、にぶい赤褐5YR5/4 内、にぶい赤褐5YR5/4	ヘラ記号、外面別個体浴着
826	須恵器	杯蓋	3区灰原	①16.0 ②2.5 ⑤3/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子微量1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリーブ黒10Y3/1 内、灰10Y5/1	別個体浴着、外面降灰、歪み
827	須恵器	杯蓋	3区灰原	①(15.8) ②2.2 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰6/1 内、オリーブ灰2.5Y6/1	ヘラ記号
828	須恵器	杯蓋	3区灰原	②(1.2) ⑤縮み部破片 縮み径3.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	別個体浴着
829	須恵器	杯身	3区灰原	①(11.0) ②4.0 ⑤1/2 受部径(13.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1~4mm石英多量1mm長石少量 B:やや不良 C:外、にぶい橙2.5YR6/3 内、にぶい赤橙2.5YR5/4	ヘラ記号
830	須恵器	杯身	3区灰原	①9.3 ②3.5 ③5.8 ⑤成形	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量1~2mm白色粒子少量 B:不良 C:外、褐灰10YR4/1 内、にぶい褐7.5YR5/3	外面塵状圧痕
831	須恵器	杯身	3区灰原	①9.0 ②3.7 ③7.3 ⑤成形	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰白2.5Y8/2	ヘラ記号、内外面磨滅
832	須恵器	杯身	3区灰原	①(9.8) ②3.2 ⑤2/3	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子黒色粒子多量 B:良好 C:外、黒2/ 内、灰N4/	ヘラ記号、塵状圧痕
833	須恵器	杯身	3区灰原	①(10.0) ②3.7 ⑤2/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後一部ケズリ 内面:回転ナデ、指頭痕	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰オリーブ5Y5/2	ヘラ記号、歪み、外面降灰
834	須恵器	杯身	3区灰原	①(10.4) ②3.0 ⑤3/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:やや不良 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	ヘラ記号
835	須恵器	杯身	3区灰原	①10.4 ②3.5 ⑤4/5	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、オリーブ灰2.5G15/1 内、オリーブ灰2.5G15/1	ヘラ記号
836	須恵器	杯身	3区灰原	①(11.4) ②3.2 ⑤1/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 白色粒子黒色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N6/	ヘラ記号、内外面降灰
837	須恵器	杯身	3区灰原	①(10.8) ②3.1 ③(6.4) ⑤1/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 白色粒子黒色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰白N7/ 内、灰白N7/	ヘラ記号
838	須恵器	杯身	3区灰原	①(10.8) ②3.2 ⑤1/2	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後一部ナデ	A:精良 微細白色粒子微量 B:やや不良 C:外、灰10Y5/1 内、灰7.5Y4/1	ヘラ記号
839	須恵器	杯身	3区灰原	①(12.4) ②(3.4) ⑤1/3	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量赤色粒子少量 B:やや不良 C:外、灰2.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	ヘラ記号、高台貼付
840	須恵器	杯身	3区灰原	①(13.0) ②3.5 ③(8.6) ⑤1/2	外面:回転ナデ後ヘラ切り後ナデ 内面:	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号、高台貼付
841	須恵器	杯身	3区灰原	①(13.2) ②4.5 ③9.6 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英白色粒子微細長石少量 B:やや不良 C:外、にぶい赤褐2.5YR5/3 内、にぶい赤褐2.5YR5/4	ヘラ記号、高台貼付
842	須恵器	杯身	3区灰原	①(14.0) ②4.6 ③(8.6) ⑤1/5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、にぶい黄褐10YR5/3 内、暗灰黄2.5Y4/2	高台貼付
843	須恵器	杯身	3区灰原	②(4.3) ③(6.8) ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰7.5Y4/1	高台貼付、内外面降灰
844	須恵器	杯身	3区灰原	①(13.0) ②(3.2) ⑤1/4	外面:回転ナデ、ヘラ切り 内面:回転ナデ	A:精良 3mm白色粒子微量白色粒子黒色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y4/1 内、灰7.5Y4/1	
845	須恵器	皿/盤	3区灰原	①(19.0) ②3.4 ③(16.4) ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、褐灰7.5Y5/1	
846	須恵器	皿/盤	3区灰原	①(20.0) ②4.9 ③(12.8) ⑤2/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:やや不良 C:外、にぶい橙5YR6/4 内、にぶい橙5YR6/4	
847	須恵器	壺	3区灰原	②(5.3) ③(9.8) ⑤1/4	外面:回転ナデ後ハケ状工具ナデ、ヘラケズリ、 底部回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 赤色粒子1mm白色粒子多量 B:不良 C:外、黄褐10YR8/6 内、褐灰10YR5/1	
848	須恵器	サリ鉢	3区灰原	②(1.7) ③8.8 ⑤1/2	外面:回転ナデ 内面:ナデ	A:精良 白色粒子黒色粒子多量 B:やや不良 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	底部刺突痕
849	須恵器	瓶(口縁)	3区灰原	①(7.0) ②(4.6) ⑤口縁破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	
850	須恵器	甕(口頸)	3区灰原	①(12.0) ②(4.9) ⑤1/8口縁部	外面:回転ナデ、磨滅により調整不明瞭 内面:回転ナデ、磨滅により調整不明瞭	A:1mm長石白色粒子少量 B:やや不良 C:外、にぶい橙7.5Y6/4 内、にぶい橙7.5Y6/4	内外面磨滅
851	須恵器	甕(口縁)	3区灰原	②(6.7) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、暗灰N3/	波状文、刺突文
852	須恵器	大甕(口縁)	3区灰原	②(11.0) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N5/	波状文、接合部で剥離
853	須恵器	獣脚碗	3区灰原	②(3.6) ⑤1/6 緑台径(17.0)	上面:回転ナデ、突堤剥落 下面:ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:不良 C:上、にぶい赤褐5YR4/3 下、暗赤褐5YR3/4	側面ケズリ、爪型スタンピング、線刻
854	須恵器	獣脚碗	3区灰原	②(4.2) ⑤1/5 緑台径(17.6)	上面:回転ナデ、指オサエ、突堤剥落、海部剥落 下面:ナデ、工具ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:不良 C:上、にぶい褐7.5YR5/4 下、褐7.5YR4/3	側面ケズリ、爪型スタンピング
855	須恵器	獣脚碗	3区灰原	②(4.1) ⑤脚部破片	上面:器面剥離の調整不明瞭 下面:ナデ	A:精良 微細白色粒子 B:良好 C:褐灰10YR4/1	側面ケズリ、爪型スタンピング、二次焼成か
856	須恵器	杯蓋	3区道路断面	①(12.0) ②3.6 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~1.5mm石英1mm長石少量 B:不良 C:外、橙7.5YR7/6 内、橙7.5YR7/6	歪み
857	須恵器	杯蓋	3区道路断面	①7.5 ②(3.4) ⑤1/4 受部径9.8 縮み径1.4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、暗青灰10BG3/1 内、青灰10BG5/1	ヘラ記号、外面降灰
858	須恵器	杯蓋	3区道路断面	①8.3 ②2.3 ③5.4 ⑤4/5 受部径10.0	外面:回転ナデ、磨滅により調整不明瞭 内面:回転ナデ、磨滅により調整不明瞭	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰白2.5Y8/2	ヘラ記号、内外面磨滅

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
859	須恵器	杯蓋	3区道路断面	①11.1 ②2.4 ⑤ほぼ完形 受部径12.9 幅み径2.0	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ、指オサエ	A:1mm石英長石少量 B:良好 C:外、暗青灰10BG3/1 内、青灰10BG5/1	
860	須恵器	杯蓋	3区道路断面	①9.9 ②3.2 ⑤完形 受部径12.8 幅み径2.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、暗緑灰5BG4/1 内、暗緑灰5BG4/1	ヘラ記号
861	須恵器	杯身	3区道路断面	①9.0 ②2.9 ⑤2/3 受部径10.7	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5V6/1 内、黄灰2.5V6/1	ヘラ記号、溶着物
862	須恵器	杯身	3区道路断面	①(11.0) ②4.0 ③5.8 ⑤3/4	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:不良 C:外、橙51R6/8 内、橙51R6/8	ヘラ記号
863	須恵器	鉢	3区道路断面	①(15.5) ②6.2 ③(8.0) ⑤1/3	外面:回転ナデ、底部磨減により調整不明瞭 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:不良 C:外、明赤褐5YR5/6 内、明赤褐5YR5/6	
864	須恵器	蓋	3区道路断面	①(17.4) ②5.4 ⑤1/8 受部径(20.6) 幅み径2.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1mm長石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰10Y6/1	外面降灰
865	須恵器	大甕 (口頸)	3区道路断面	①(21.6) ②(5.8) ⑤1/4口縁部	外面:口縁部回転ナデ、体部擬格子タタキ後カキ メ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕、内面 ヘラ記号	A:精良 1~2mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰赤7.5R4/2 内、暗灰黄2.5Y5/2	ヘラ記号
866	須恵器	大甕 (口頸)	3区道路断面	①(40.0) ②(13.2) ⑤1/8口縁部	外面:回転ナデ、体部平行タタキ 内面:回転ナデ、体部同心円当具痕、頸部付け根 に指頭痕	A:精良 1~5mm白色粒子多量 B:良好 C:外、暗灰N3/~灰10Y5/1 内、灰N5/	波状文
867	須恵器	杯蓋	3区	①(13.8) ②1.9 ⑤完形 受部径(16.0) 幅み径(2.2)	外面:回転ヘラ切り、回転ヘラケズリ、降灰の為 調整不明瞭 内面:ナデ、降灰の調整不明瞭	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、明青灰5B5/1	歪み、外面降灰
868	須恵器	杯蓋	3区	①(15.6) ②(2.9) ⑤1/5	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:やや不良 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	幅み部分欠損、内外面 降灰
869	須恵器	杯身	3区	①(11.2) ②(2.8) ⑤1/4 受部径(13.0)	外面:回転ナデ、降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ、降灰の調整不明瞭	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰N4/	別個体溶着、外面降灰
870	須恵器	杯身	3区	①(16.0) ②4.7 ③(10.0) ⑤1/8	外面:回転ナデ、高台部回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm石英微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	高台貼付、内外面降灰
871	須恵器	杯蓋	不明	①(10.6) ②3.2 ⑤1/3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ中心部未調整 内面:回転ナデ、ナデ、指頭痕	A:精良 白色粒子黒色粒子多量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N6/	
872	須恵器	杯蓋	不明	①(11.6) ②3.8 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラケズリ後 ナデ、頂部工具による調整 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色微粒子黒色微粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR6/1 内、灰N4/	ヘラ記号、内外面降灰
873	須恵器	杯蓋	不明	①12.6 ②3.8 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ一部手持ちヘラ ケズリ一部ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、青灰5PB6/1	ヘラ記号、外面降灰、 内面焼き跡
874	須恵器	杯蓋	不明	①(12.8) ②3.9 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N4/ 内、灰N4/	ヘラ記号、重焼痕、焼 成時の気泡、降灰
875	須恵器	杯蓋	不明	①11.8 ②3.4 ⑤2/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、黄灰2.5Y4/1	ヘラ記号、外面降灰、 自然釉、内外面降灰
876	須恵器	杯蓋	不明	①(11.6) ②(3.6) ⑤1/3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、頂部工具による 調整 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子黒色微粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y4/1 内、灰5Y6/1	ヘラ記号、内面降灰
877	須恵器	杯蓋	不明	①(12.4) ②3.2 ⑤4/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子黒色微粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、黒褐5YR2/1	ヘラ記号、焼き跡、 自然釉、内外面降灰
878	須恵器	杯蓋	不明	①(12.6) ②3.0 ⑤1/2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	竹管文、別個体溶着、 外面降灰
879	須恵器	杯蓋	不明	①(12.0) ②2.5 ⑤3/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	竹管文、外面降灰、別 個体溶着
880	須恵器	杯蓋	不明	①(11.4) ②3.1 ⑤1/4	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	竹管文
881	須恵器	杯蓋	不明	①(13.4) ②6.2 ⑤3/5	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、当具後ナデ	A:精良 石英少量黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、オリープ黒5Y3/1 内、灰オ リーブ5Y5/2	ヘラ記号
882	須恵器	杯蓋	不明	②(1.6) ⑤破片	外面:回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ 同心円当具痕	A:精良 1~2mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰7.5Y6/1	
883	須恵器	杯蓋	不明	①(9.5) ②2.5 ⑤1/2 受部径(11.6)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、ヘラ切り 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、灰7.5Y6/1 内、黄灰2.5Y5/1	ヘラ記号、歪み
884	須恵器	杯蓋	不明	①(8.6) ②2.9 ⑤1/3 受部径(10.2) 幅み径1.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ、指オサエ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N6/	ヘラ記号、外面降灰
885	須恵器	杯蓋	不明	①9.8 ②1.1 ⑤2/3 受部径11.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、黄灰2.5Y6/1	内外面降灰
886	須恵器	杯蓋	不明	①10.8 ②2.3 ⑤2/3 受部径12.5 幅み径2.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:外、灰黄褐10YR6/2 内、灰黄褐10YR6/2	歪み、自然釉、別個体 融着
887	須恵器	杯蓋	不明	①12.6 ②2.3 ⑤3/4 受部径15.7 幅み径1.6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、にぶい黄橙10YR7/2 内、にぶい黄橙 10YR7/2	自然釉
888	須恵器	杯蓋	不明	①(13.3) ②3.1 ⑤3/4 受部径15.7 幅み径2.3	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、指頭痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、灰黄2.5Y7/2 内、灰黄2.5Y7/2	
889	須恵器	杯蓋	不明	①(11.6) ②2.1 ⑤1/5 受部径(14.0)	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰5Y5/1	ヘラ記号、歪み
890	須恵器	杯蓋	不明	①(11.2) ②(1.4) ⑤1/4 受部径(13.6)	外面:回転ヘラ切り、回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:やや不良 C:外、灰褐7.5YR6/2 内、にぶい褐7.5YR6/3	
891	須恵器	杯蓋	不明	①(18.0) ②0.9 ⑤1/3口縁部	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰10Y5/1	
892	須恵器	杯蓋	不明	②1.9 ⑤1/8	外面: 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量 B:良好 C:外、灰 白10YR7/1~褐灰10YR5/~黒N1.5/ 内、にぶい黄 橙10YR7/4~褐灰10YR6/1	内外面降灰、二次焼 成、焼成時膨張
893	須恵器	杯身	不明	①9.1 ②2.8 ⑤1/2 受部径11.2	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子1mm黒色粒子少量 B: 良好 C:外、にぶい黄橙10YR6/3 内、にぶい黄 橙10YR6/4	ヘラ記号
894	須恵器	杯身	不明	①10.0 ②3.9 ⑤1/2 受部径12.0	外面:降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色微粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、黒褐2.5Y3/1	ヘラ記号、外面降灰、 溶着片
895	須恵器	杯身	不明	①9.9 ②4.3 ⑤完形 受部径12.1	外面:回転ヘラケズリ 回転ナデ ナデ 内面:回転ナデ ナデ 指オサエ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、にぶい黄橙10YR6/3 内、褐灰10YR5/1	ヘラ記号、外面降灰、 溶着物

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) ①口径②器高③底径④最大径 ⑤残存 ※(復元) (残存)	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
896	須恵器	杯身	不明	①10.0 ②3.5 ⑤ほぼ完成 受部径12.3	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:外、淡黄5Y8/3 内、淡黄5Y8/4	ヘラ記号
897	須恵器	杯身	不明	①9.5 ②3.1 ⑤ほぼ完成 受部径11.8	外面:回転ナデ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、にぶい褐7.5YR5/4 内、灰黄2.5Y7/2	ヘラ記号
898	須恵器	杯身	不明	①(10.4) ②(3.3) ⑤1/2 受部径12.4	外面:回転ナデ、底部手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子多量細粒黒色粒子少量 B:良好 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰黄2.5Y6/2	ヘラ記号、溶着物
899	須恵器	杯身	不明	①(9.7) ②4.3 ⑤1/2 受部径(11.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm石英微細長石少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N5/	竹管文、外面降灰
900	須恵器	杯身	不明	②(3.1) ⑤1/6	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子1~2mm黒色粒子少量 B: 良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰N6/	竹管文
901	須恵器	杯身	不明	①(12.2) ②(3.7) ③(6.8) ⑤2/5 受部径(13.8)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白7.5Y7/1 内、灰N6/	ヘラ記号、内面降灰、 焼成前穿孔
902	須恵器	杯身	不明	①(13.5) ②3.7 ③(8.7) ⑤1/3 受部径(16.0)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ヘラケズ リ後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~3mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、灰褐5YR5/2 内、褐灰5YR5/1	ヘラ記号、一部降灰
903	須恵器	杯身	不明	②(2.0) ⑤破片	外面:磨滅により調整不明瞭 内面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 微細石英長石微量 B:不良 C:外、明黄褐10YR7/6 内、明黄褐10YR7/6	ヘラ記号か、焼成前穿 孔、内外面磨滅
904	須恵器	杯身	不明	①10.7 ②3.9 ⑤完成 受部径12.8	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 B:良好 C:外、黒褐2.5Y3/1 内、黒10YR2/1	ヘラ記号、内外面降 灰、砂粒溶着物、焼き 跡
905	須恵器	杯身	不明	①(9.2) ②(3.3) ⑤1/4 受部径(11.4)	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ、回転ナデ後ナ デ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、赤灰2.5YR4/1 内、褐灰5YR5/1	
906	須恵器	杯身	不明	①10.3 ②3.9 ⑤完成 受部径12.6	外面:降灰の為調整不明瞭 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 微細~1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰黄褐10YR5/2 内、オリブ黒5Y3/1	外面降灰
907	須恵器	杯身	不明	①(9.0) ②(3.4) ⑤1/6 受部径(11.4)	外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰10YR4/1 内、赤灰2.5YR4/1	ヘラ記号、内外面降灰
908	須恵器	杯身	不明	①9.0 ②2.8 ⑤1/2 受部径11.4	外面:回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ、ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰10Y5/1 内、灰10Y5/1	
909	須恵器	杯蓋 杯身	不明	杯蓋a ①12.6②3.4 杯身b ②3.2受部径12.5 杯蓋c ①12.5②3.5 ⑤abc 全て完成	杯蓋a 回転ナデ後回転ヘラケズリ、ナデ 杯身b 回転ナデ後回転ヘラケズリ 杯蓋c 外面:回転ナデ後手持ちヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:1~4mm白色粒子1mm黒色粒子多量 B:良好 C:杯蓋a、灰7.5Y5/1 杯身b、灰N4/ 杯蓋c、外、暗灰N3/ 内、褐灰7.5YR4/1	3点溶着、3点ヘラ記 号、焼き跡
910	須恵器	杯身	不明	①10.5 ②4.4 ③5.3 ⑤完成	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ、工具ナデ	A:精良 4mm石英多量1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰10B6/1 内、青灰10B6/1	外面降灰
911	須恵器	杯身	不明	①14.0 ②3.7 ⑤1/2 高台径8.3	外面:回転ナデ 底部側面回転ヘラケズリ 底部 ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、灰N4/	ヘラ記号 高台貼付 歪み
912	須恵器	杯身	不明	②(2.9) ③(8.4) ⑤高台部破片	外面:高台部回転ナデ 体部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 白色粒子黒色粒子多量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	
913	須恵器	長頸壺 (底部)	不明	②(1.4) ③(12.4) ⑤1/2高台部	外面:高台部回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰白7.5Y8/1 内、灰白7.5Y8/1	
914	須恵器	椀	不明	①(10.7) ②(4.8) ⑤1/5	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英長石角閃石少量 B:良好 C:外、灰白2.5Y7/1、黒5Y2/1 内、灰白2.5Y7/1	外面降灰、自然軸、内 面磨滅
915	須恵器	杯	不明	①(16.0) ②5.1 ⑤1/2	外面:回転ナデ後カキメ 底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:やや不良 C:外、灰白5Y7/1~暗灰N3/ 内、灰白5Y7/1	ヘラ記号、溶着物
916	須恵器	高杯 (杯部)	不明	②(4.9) ⑤杯部破片	外面:回転ナデ後回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰10Y6/1 内、灰N4/	内面シボリ痕
917	須恵器	高杯 (脚部)	不明	②(6.7) ⑤完成 脚径7.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、褐灰7.5YR5/ 内、灰赤10R4/2	内面ヘラ記号、自然 軸、内外面シボリ痕
918	須恵器	高杯 (脚部)	不明	②(3.8) ⑤1/2脚部 脚径(7.2)	外面:回転ナデ 内面:ナデ 回転ナデ、内面ヘラ記号	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、褐灰7.5YR5/1~にぶい橙7.5YR6/4 内、 灰褐7.5YR6/2~にぶい橙7.5YR6/4	内面ヘラ記号、内面シ ボリ痕
919	須恵器	高杯 (脚部)	不明	②(5.0) ⑤脚部ほぼ完成 脚径7.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子微量微細金雲母微量 B: 良好 C:外、暗青灰5B4/1~褐灰10YR5/1 内、 暗青灰5B4/1	内面ヘラ記号、降灰、 内外面シボリ痕
920	須恵器	甕 (口頸)	不明	①11.1 ②(7.0) ⑤口縁~頸部破片	外面:回転ナデ、ハケ状工具回転ナデ、カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:良好 C:外、褐灰10YR5/1 内、暗灰黄2.5Y5/2	内面降灰、内面シボリ 痕
921	須恵器	甕 (体部)	不明	②(7.6) ③3.5 ⑤体部破片 最大胴部径9.4	外面:頸部カキメ、体部上半部回転ナデ、下半部 手持ちヘラケズリ、底部ケズリ後ナデ 内面:	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰5Y5/1 内、灰5Y5/1	内面シボリ痕
922	須恵器	甕 (体部)	不明	②(6.4) ⑤1/3	外面:回転ナデ後上半部カキメ下半部手持ちヘラ ケズリ 内面:回転ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:良 好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	内面シボリ痕
923	須恵器	瓶/壺 (脚部)	不明	②(12.2) ⑤1/4脚部	外面:回転ナデ後上半部カキメ下半部回転ヘラケ ズリ 内面:回転ナデ、上半部指頭痕あり、指頭痕	A:精良 1mm石英少量 B:良好 C:外、灰5Y6/1 内、灰5Y6/1	
924	須恵器	瓶/壺 (脚部)	不明	②(13.0) ③(13.2) ⑤1/2	外面:上半部カキメ、下半部カキメ後回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、暗 オリブ灰5G4/1~褐灰5YR4/1 内、暗青灰 5B4/1~3/1	歪み
925	須恵器	把手	不明	断面径(2.1) 把手幅4.2 把手高(2.4) ⑤片方1/2	ナデ、接合時のオサエ、平行タキ	A:精良 微細白色粒子少量 B:良好 C:褐灰7.5YR5/	降灰
926	須恵器	甕 (口縁)	不明	①(8.8) ②(2.0) ⑤口縁破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 黒色粒子少量1mm白色粒子多量 B:良 好 C:外、灰7.5Y5/1 内、灰7.5Y5/1	内外面シボリ痕
927	須恵器	甕 (口頸)	不明	①(22.2) ②(6.8) ⑤1/3口縁部	外面:口縁部回転ナデ、体部平行タキ後カキメ 内面:口縁部回転ナデ、体部同心円当具痕	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:外、オリブ黒7.5Y3/1 内、オリブ黒 7.5Y3/1	ヘラ記号、口縁部貼 付、内外面降灰
928	須恵器	大甕 (口縁)	不明	②(2.2) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰5Y5/1	波状文
929	須恵器	大甕 (口縁)	不明	②(7.2) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、黄褐2.5Y5/3 内、黄灰2.5Y5/1	波状文、外面降灰、歪 み
930	須恵器	大甕 (口縁)	不明	②(5.1) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm石英微細長石少量 B:不良 C:外、灰白2.5Y8/2 内、灰黄2.5Y7/2~灰5Y6/1	波状文

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g)		形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径④最大径⑤残存 ※(復元) (残存)				
931	須恵器	大甕(口縁)	不明	②(6.2) ⑤破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 長石微細1~2mm白色粒子少量 B:やや不良 C:外、黒褐10YR3/1 内、褐灰10YR6/1	波状文	
932	須恵器	大甕(頸部)	不明	②(6.2) ⑤破片	外面:回転ナデ後カキメ 内面:ナデ、指圧痕	A:精良 1mm長石少量1~2mm白色粒子 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	波状文	
933	須恵器	大甕(口縁)	不明	②(13.5) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好(二次比熱) C:外、橙7.5YR6/8 内、橙7.5.YR6/8	波状文	
934	須恵器	大甕(口縁)	不明	②(8.9) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 黒色粒子多量3mm白色粒子少量1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/	波状文 内面意図的な器面剥離	
935	須恵器	大甕(口縁)	不明	①(59.0) ②(13.0) ⑤1/10口縁部	外面:回転ナデ、施文後ナデ一部沈線 内面:回転ナデ	A:精良 微細~1mm白色粒子やや多量 B:不良 C:外、にぶい黄橙10YR7/3 内、浅黄橙10YR8/3	波状文	
936	須恵器	大甕(口縁)	不明	①(39.6) ②(8.6) ⑤1/5口縁部	外面:回転ナデ、降灰の調整不明瞭 内面:回転ナデ、降灰の調整不明瞭	A:精良 1~3mm石英1mm長石少量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰G4/1	ヘラ記号、内外面降灰	
937	須恵器	大甕(口縁)	不明	②(12.4) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 黒色粒子多量1mm白色粒子少量 B:良好 C:外、黒N2/ 内、黒N2/	粘土継ぎ目痕	
938	須恵器	大甕(口縁)	不明	②(11.1) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 1~5mm白色粒子多量 B:やや不良 C:外、にぶい赤褐2.5YR5/4 内、明褐7.5YR5/6		
939	須恵器	大甕(頸部)	不明	②(11.4) ⑤頸部破片	外面:頸部ハケ状工具回転ナデ、体部平行タキ 内面:頸部ナデ、指オサエ、体部同心円当具痕	A:精良 4mm石英多量1mm長石少量 B:良好 C:外、青灰10B65/1 内、青灰10B65/1	ヘラ記号	
940	須恵器	大甕(口縁)	不明	②(9.2) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ後カキメ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、オリーブ黒S3/1 内、灰G4/1	斜線文	
941	須恵器	大甕(口縁)	不明	②(6.5) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:精良 微細長石少量 B:不良 C:外、黄灰2.5Y6/1 内、灰N6/	沈線文、斜線文、内面降灰	
942	須恵器	大甕(口頸)	不明	②(14.6) ⑤口縁部破片	外面:回転ナデ 内面:体部同心円当具痕、頸部付け根に指オサエ	A:精良 1~2mm白色粒子少量 B:良好 C:外、暗青灰5PB3/1~青黒SPB1.7/1 内、暗灰N3/	斜線文、内外面降灰	
943	須恵器	大甕(頸部)	不明	②(7.3) ⑤破片	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	A:1mm長石やや多量 B:やや不良 C:外、にぶい橙5YR6/4 内、にぶい橙5YR6/4	接合部で剥離	
944	須恵器	大甕(体部)	不明	②(39.3) ④(40.6) ⑤破片	外面:擬格タキ後カキメ 内面:同心円当具痕	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、灰7.5Y4/1 内、灰N5/	外面輪だれ	
945	瓦	平瓦	不明	長(13.1) 幅(8.0) 厚1.7 ⑤破片 側縁部、狭端部	凹面:端部面取り 凸面:平行タキ後ナデ	A:1mm長石少量 B:やや不良 C:凹、黄灰2.5Y4/1 凸、黄灰2.5Y4/1	布目痕	
946	瓦	平瓦	不明	長(15.0) 幅(8.9) 厚1.5 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:端部面取り、ナデ 凸面:ナデ	A:精良 3mm白色粒子少量1mm白色粒子多量 B:不良 C:凹、黒褐2.5Y3/1 凸、褐灰10YR4/1	布目痕、模骨痕、粘土溶着	
947	瓦	平瓦	不明	長(10.7) 幅(9.6) 厚1.4 ⑤破片 側縁部	凹面:ナデ 凸面:端部面取り、ナデ	A:精良 1mm石英長石少量 B:良好 C:凹、青灰5B66/1 凸、青灰5B66/1	布目痕、模骨痕	
948	瓦	平瓦	不明	長(8.9) 幅(11.3) 厚0.9~1.3 ⑤1/10 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:端部面取り、平行タキ後ナデ、工具痕	A:1~3mm白色粒子赤色粒子ごく少量 B:不良 C:凹、灰黄2.5Y6/2 凸、黄灰2.5Y5/1	布目痕、模骨痕、糸切り痕、紐の痕跡	
949	瓦	平瓦	不明	長(12.2) 幅(8.0) 厚1.9 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:タキ後ナデ	A:石英少量 B:良好 C:凹、褐灰7.5YR5/1 凸、灰褐5YR5/2	布目痕、模骨痕、糸切り痕	
950	瓦	平瓦	不明	長(9.2) 幅(7.3) 厚(1.8) ⑤破片 側縁部	凹面: 凸面:ハケ状工具ナデ	A:精良 1mm長石少量 B:良好 C:凸、暗青灰5B64/1	凹面剥離の調整、色調不明	
951	瓦	平瓦	不明	長(8.1) 幅(8.9) 厚1.5 ⑤1/20 狭端部、側縁部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 B:やや不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/6 凸、浅黄橙7.5YR8/4	布目痕、模骨痕、紐の痕跡	
952	瓦	平瓦	不明	長(10.8) 幅(9.8) 厚1.8 ⑤破片 側縁部、広端部	凹面:端部面取り 凸面:平行タキ後ナデ	A:1~2mm石英1mm長石少量 B:やや不良 C:凹、灰黄2.5Y6/2 凸、灰7.5Y5/1	布目痕、模骨痕	
953	瓦	平瓦	不明	長(8.8) 幅(5.8) 厚1.1 ⑤破片 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:ナデ	A:精良 1mm石英少量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/6 凸、浅黄橙7.5YR8/6	布目痕、模骨痕	
954	瓦	平瓦	不明	長(5.0) 幅(8.4) 厚1.7 ⑤破片	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1mm白色粒子やや多量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/6 凸、浅黄橙7.5YR8/6	布目痕 凹凸面磨滅	
955	瓦	平瓦	不明	長(5.8) 幅(6.1) 厚1.6 ⑤破片 側縁部	凹面:端部面取り 凸面:平行タキ後ナデ	A:精良 1mm白色粒子少量 B:良好 C:凹、灰N5/ 凸、灰N6/	布目痕、模骨痕	
956	瓦	平瓦	不明	長(6.9) 幅(6.2) 厚1.7 ⑤破片 側縁部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/4 凸、浅黄橙7.5YR8/4	凹凸面磨滅	
957	瓦	平瓦	不明	長(10.5) 幅(9.5) 厚0.6~2.0 ⑤1/12 側縁部	凹面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:1~3mm石英1mm赤色粒子白色粒子少量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/4 凸、橙5YR6/8	布目痕、模骨痕	
958	瓦	平瓦	不明	長(12.3) 幅(8.5) 厚1.6~2.0 ⑤1/10	凹面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭 凸面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭	A:精良 微細雲母ごく少量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/3 凸、橙5YR7/6	模骨痕、磨滅	
959	瓦	平瓦	不明	長(7.0) 幅(13.2) 厚1.3 ⑤破片 広端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1mm石英少量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/4 凸、浅黄橙7.5YR8/4	布目痕、凹凸面磨滅	
960	瓦	平瓦	不明	長(6.8) 幅(5.2) 厚1.4 ⑤破片 狭端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:精良 1mm長石少量 B:不良 C:凹、橙5YR7/6 凸、橙5YR7/6	布目痕、模骨痕、凹凸面磨滅	
961	瓦	平瓦	不明	長(4.8) 幅(6.9) 厚2.1 ⑤破片	凹面: 凸面:ナデ、端部ケズリ	A:微細~3mm石英微細長石少量 B:やや不良 C:凹、にぶい黄橙10YR7/3 凸、灰白10YR8/2	布目痕	
962	瓦	平瓦	不明	長(6.2) 幅(7.7) 厚1.6 ⑤1/30 側縁部 広端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭	A:精良 1mm白色粒子少量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/4 凸、浅黄橙7.5YR8/4	模骨痕、磨滅	
963	瓦	平瓦	不明	長(8.9) 幅(9.8) 厚2.0 ⑤1/18 狭端部	凹面:磨滅により調整不明瞭 凸面:ナデ	A:1~2mm白色粒子少量 B:不良 C:凹、浅黄橙7.5YR8/3 凸、浅黄橙7.5YR8/3	布目痕、模骨痕	
964	瓦	平瓦	不明	長(9.1) 幅(5.8) 厚1.8 ⑤1/15	凹面:端部面取り、磨滅により調整不明瞭 凸面:磨滅により調整不明瞭	A:1mm白色粒黒色砂粒赤色砂粒少量 B:不良 C:凹、浅黄橙5YR8/3 凸、淡橙5YR8/4	布目痕、模骨痕	
965	瓦	丸瓦	不明	長(8.0) 幅(10.8) 厚1.0 ⑤破片 広端部	凹面:弧状の当具痕、一部ナデ 凸面:平行タキ後カキ目状のナデ	A:白色粒子微細~5mm石英少量 B:良好 C:外、灰N6/ 内、灰N6/		
966	瓦	丸瓦	不明	長(18.7) 幅(5.8) 厚1.7 ⑤破片 側縁部、狭端部	凹面:一部ナデ 凸面:ナデ	A:精良 B:不良 C:凹、浅黄橙10YR8/4 凸、浅黄橙10YR8/4	布目痕、模骨痕、凹面磨滅	
967	埴	無文埴	不明	長(17.3) 幅10.8 厚(11.7)	工具ナデ	A:精良 B:良好 C:灰10Y5/1	被熱による剥離	
968	須恵器	焼き台	不明	長(11.0) 幅(9.9) 厚1.8 ⑤胴部破片	外面:平行タキ 内面:同心円当具痕	A:精良 黒色粒子1mm白色粒子多量 B:良好 C:外、暗灰N3/ 内、灰N5/	破断面・表裏面に被熱あり、溶着物	
969	焼き台	焼き台	不明	長8.9 幅9.7 厚5.2 ⑤完形	指オサエ	A:1mm石英長石少量 B:良好 C:暗青灰5B4/1、橙7.5YR6/6、褐灰10YR6/1		
970	須恵器	切削物	不明	長5.3 幅2.6 厚1.0 ⑤完形	棒状粘土を刀削によって平坦にした面が残る	A:精良 白色微細黒色微細長石ごく少量 B:良好 C:外、灰N5/ 内、灰N5/	外面降灰	
971	黒色土器	杯/皿	不明	②(1.7) ⑤底部破片	外面:底部糸切り 内面:ミガキ	A:精良 微細石英長石微量 B:良好 C:外、にぶい黄橙10YR7/3 内、黒10YR1.7/1	内面黒色を呈する	
972	須恵器	杯身	月ノ浦窯跡 捨場	②(3.3) ③9.4 ⑤高台部破片	外面:回転ナデ後ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ後ナデ	A:精良 黒色粒子多量1mm白色粒子多量 B:不良 C:外、灰7.5Y6/1 内、灰白7.5Y7/1	ヘラ記号	